

合志市「こども計画」策定に係る アンケート調査結果報告書

令和6年9月

合志市役所 こども未来課

目 次

第1章 調査の概要.....	1
1.調査の趣旨・目的.....	2
2.調査の実施方法.....	2
3.報告書の見方.....	3
4.相関図の分析方法.....	4
第2章 調査結果【就学前児童保護者】.....	5
1.住まいの地域について.....	6
2.こどもと家族の状況について.....	7
3.こどもの育ちをめぐる環境について.....	9
4.合志市で実施している子育て支援に関する事業について.....	11
5.保護者の就労状況について.....	13
6.平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について.....	19
7.地域の子育て支援事業の利用状況について.....	27
8.土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について.....	29
9.病気の際の対応について.....	32
10.不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	38
11.小学校就学後の放課後の過ごし方について.....	48
12.育児休業や短時間勤務制度等職場の両立支援制度について.....	57
13.合志市の子育て全般に関することについて.....	61
第3章 調査結果【小学生保護者】.....	66
1.住まいの地域について.....	67
2.こどもと家族の状況について.....	68
3.合志市で実施している子育て支援に関する事業について.....	73
4.保護者の就労状況について.....	75
5.放課後や土曜・休日や長期休暇中の過ごし方について.....	79
6.病気の際の対応について.....	85
7.不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	91
8.育児休業や短時間勤務制度等職場の両立支援制度について.....	98
9.合志市の子育て全般に関することについて.....	102
第4章 調査結果【中学生・高校生世代】.....	107
1.回答者について.....	108
2.学校生活や友人関係について.....	114
3.日常生活について.....	116
4.自己認識や将来について.....	120
5.合志市について.....	124

第5章 調査結果【若者世代】.....	128
1.回答者について.....	129
2.生活について.....	133
3.将来について.....	137
4.合志市について	145
第6章 調査結果【関係事業者・団体】	149

第 1 章 調査の概要

1. 調査の趣旨・目的

子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)に基づく第3期計画の策定のために必要な基礎データ及び教育・保育、地域子ども・子育て支援事業に関する利用希望等の把握・分析並びに分析結果に基づく需要量の推計を行う際の基礎データを得ることを目的に実施した。

2. 調査の実施方法

1. 実施方法

抽出世帯に対し調査票を郵送し、返信用封筒で回収するとともに、WEB(専用のホームページを立ち上げパソコンやスマートフォンから直接回答してもらう方式)による回答を実施

2. 調査の対象

子ども・子育て支援制度に係る教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業等の主な対象である就学前児童及び小学生を養育する保護者、中学生・高校生世代(12～18歳)、若者世代(18～39歳)、関係事業者・団体を対象とし、それぞれの調査票を作成。住民基本台帳から以下の標本数を無作為に抽出

・就学前児童保護者	2,659 人
・小学生保護者	1,500 人
・中学生・高校生世代(12～18歳)	1,500 人
・若者世代(18～39歳)	1,500 人
・関係事業者・団体	96事業所・団体

3. 調査期間

令和6年(2024年)6月20日(木)～7月19日(金)

4. 回収率向上の取組

- 礼状兼督促状
- 調査票に回収専用ホームページのQRコードとURLを記載し、WEBによる回答を実施

5. 有効回収数と回収率

対象者	標本数(人)	回収方法	R6年調査		H30年調査			H25年調査		
			有効回収数 (件)	有効回収率 (%)	標本数 (人)	有効回収数 (件)	有効回収率 (%)	標本数 (人)	有効回収数 (件)	有効回収率 (%)
就学前児童保護者	2,659	返信用封筒(a)	997	37.5	3,000	1,515	50.5	2,000	1,176	58.8
		WEB(b)	460	17.3		295	9.8	-	-	-
		1. 計(a)+(b)	1,457	54.8		1,810	60.3	2,000	1,176	58.8
小学生保護者	1,500	返信用封筒(a)	469	31.3	1,500	699	46.6	1,000	595	59.5
		WEB(b)	275	18.3		125	8.3	-	-	-
		2. 計(a)+(b)	744	49.6		824	54.9	1,000	595	59.5
中学生・高校生世代 (12～18歳)	1,500	返信用封筒(a)	299	19.9	-	-	-	-	-	-
		WEB(b)	146	9.7	-	-	-	-	-	-
		3. 計(a)+(b)	445	29.7	-	-	-	-	-	-
若者世代 (18～39歳)	1,500	返信用封筒(a)	152	10.1	-	-	-	-	-	-
		WEB(b)	137	9.1	-	-	-	-	-	-
		4. 計(a)+(b)	289	19.3	-	-	-	-	-	-
関係事業者・団体	96	返信用封筒(a)	28	29.2	-	-	-	-	-	-
		WEB(b)	26	27.1	-	-	-	-	-	-
		5. 計(a)+(b)	54	56.3	-	-	-	-	-	-
合計	7,255	合計(1.+2.+3.+4.+5.)	2,989	41.2	4,500	2,634	58.5	3,000	1,771	59.0

3. 報告書の見方

- 単数回答の集計については、設問ごとに無回答の項目を設けて、これを含めた全体の基数(標本数)を100%としている。なお、回答率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、数表、図表に示す回答率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の集計については、項目別に、基数(標本数)に対するその項目を選んだ回答者の割合としている。従って、数表、図表に示す各項目の回答率の合計は100%を超える場合がある。
- 数表、図表、文中に示すn(number of case)は、回答率算出上の基数(標本数)である。ちなみにNの表記は抽出された標本ではなく調査対象者全員(母集団)を示している。
- 数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合がある。
- 2つ以上の選択肢を合計して表している比率については、各選択肢の基数(標本数)の合計をもとに算出しているため、選択肢個々の回答率の合計とは、必ずしも同じにならない場合がある。
- 属性別の分析において、サンプル数(標本数)が少ないものについては、分析コメントを割愛する場合がある。
- 文中で「複数回答」と特に断りがない場合は、単数回答である。

4. 相関図の分析方法

●満足度と重要度の相関図について

相関図は、各施策等についての満足度と重要度のZスコアを下記の手順で算出し、各数値をプロットして表すことで施策間の差を分かりやすく示すために作成した図です。

- ① 以下のように各項目の回答を「満足度：0～4点、重要度：1～4点」で点数化し、平均値を求める。

●満足度

満足	4 点
まあ満足	3 点
まあ不満	2 点
不満	1 点
わからない	0 点

●重要度

重要	4 点
まあ重要	3 点
まあ重要でない	2 点
重要でない	1 点

※無回答は満足度・重要度とも除外

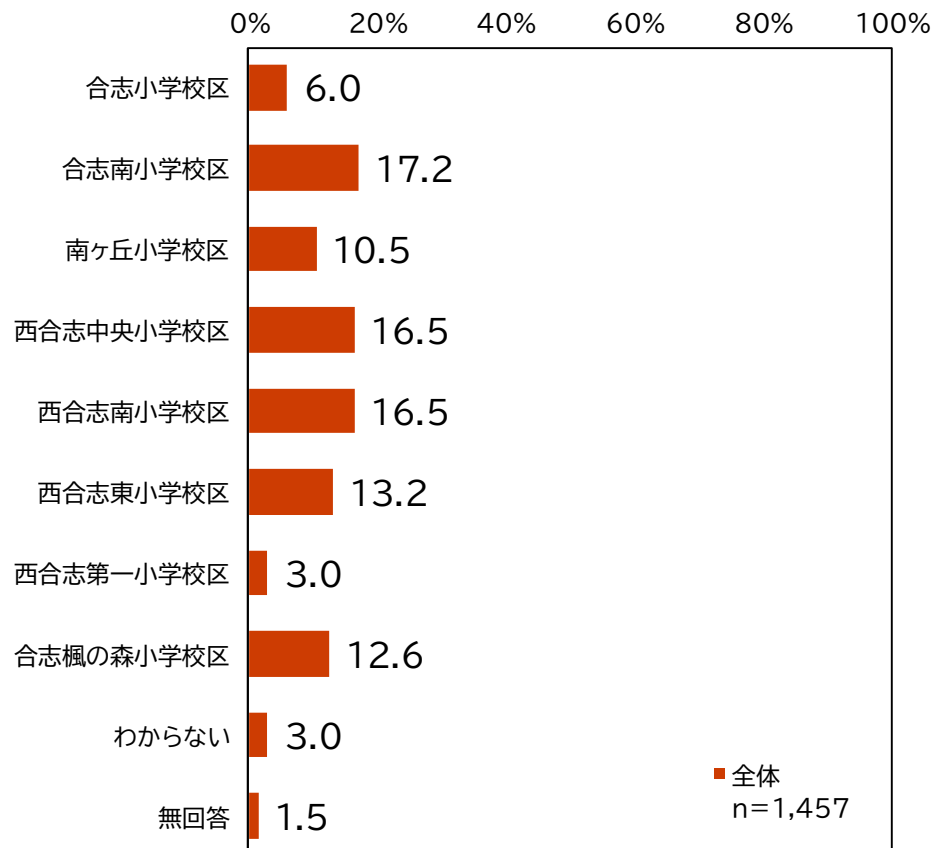
- ② 全項目の平均値、標準偏差を求める。
- ③ 平均が0、分散が1の正規分布になるよう値を正規化。

$$\text{Zスコア} = \frac{\text{値} - \text{平均値}}{\text{標準偏差}}$$

第 2 章 調査結果【就学前児童保護者】

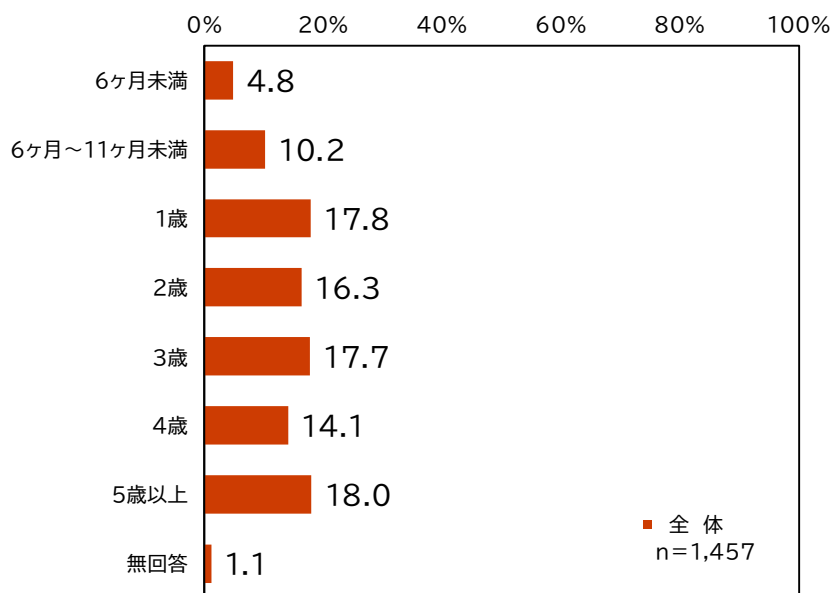
1. 住まいの地域について

問1 お住まいの小学校区はどこですか。(○は1つ)



2. こどもと家族の状況について

問2 宛名のお子さんの生年月をご記入ください。(()内に数字でご記入ください。)



問3 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)

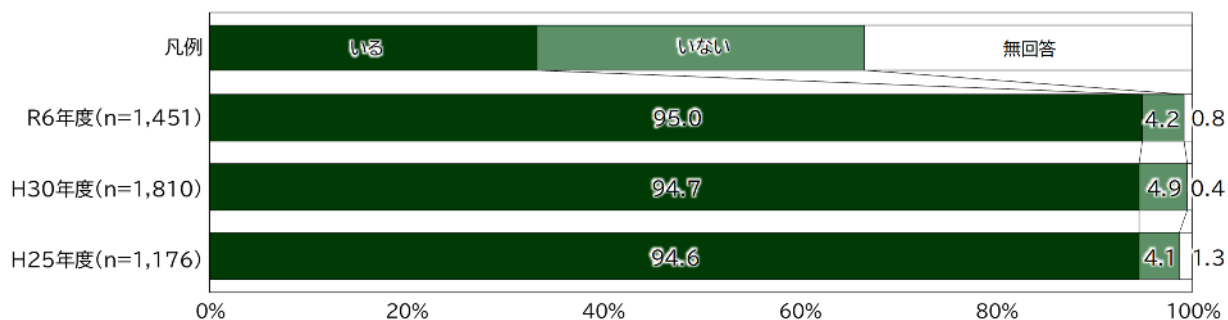
アンケート票への回答者をみると、「母親」が最も高く、全体の86.6%を占めている。



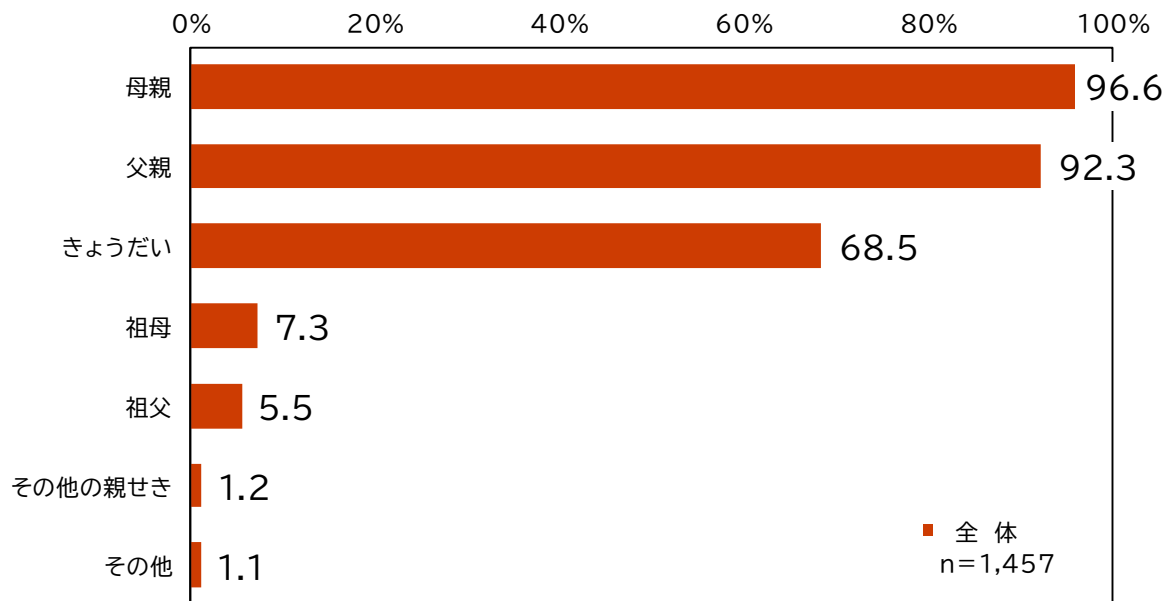
問3で「1. 母親」または「2. 父親」に○をつけた方にうかがいます。

問4 この調査票にご回答いただいている方には、夫または妻がいますか、それともいませんか。(○は1つ)

回答者の配偶者の有無をみると、「いる」が95.0%を占めている。この割合は平成30年度、平成25年度調査とほぼ同じ割合となっている。

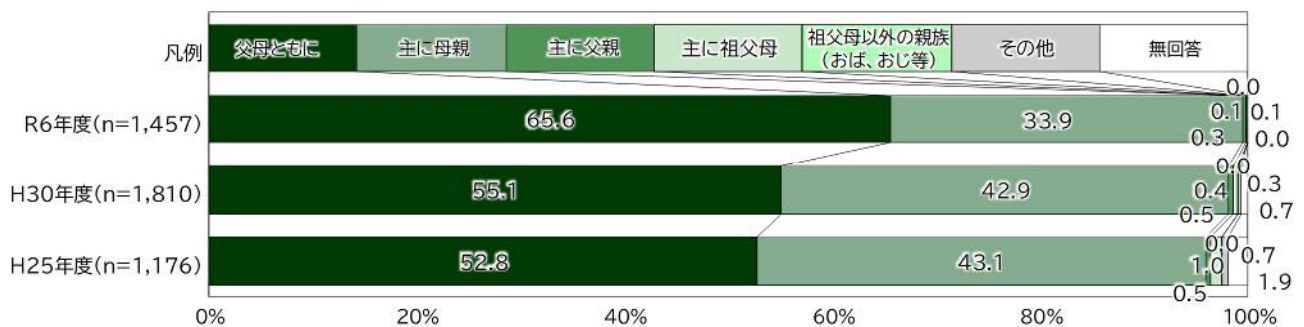


問5 宛名のお子さんと一緒に暮らしている家族の方をお答えください。(あてはまるものすべてに○)※お子さんからみた関係でお答えください。



問6 宛名のお子さんの子育て(教育を含む)を主に行っているのはどなたですか。(○は1つ)
※お子さんからみた関係でお答えください。

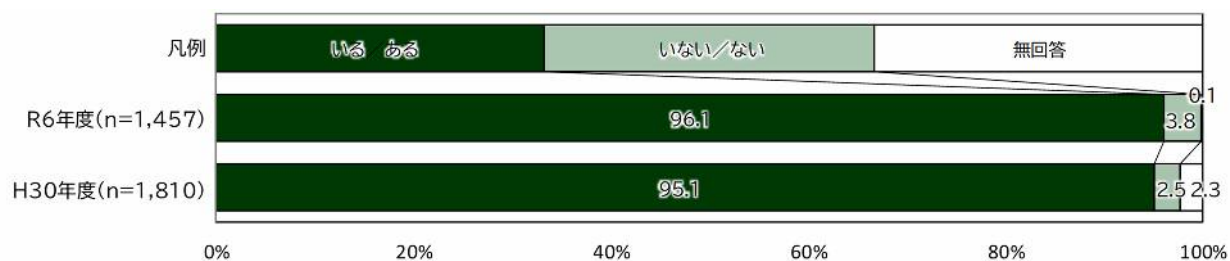
子育てを主に行っている人を見ると、「父母ともに」が65.6%で最も高く、次いで「主に母親」が33.9%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「父母ともに」は10.5ポイント増加し、「主に母親」は9ポイント減少している。



3. こどもの育ちをめぐる環境について

問7-1 宛名のお子さんの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。(○は1つ)

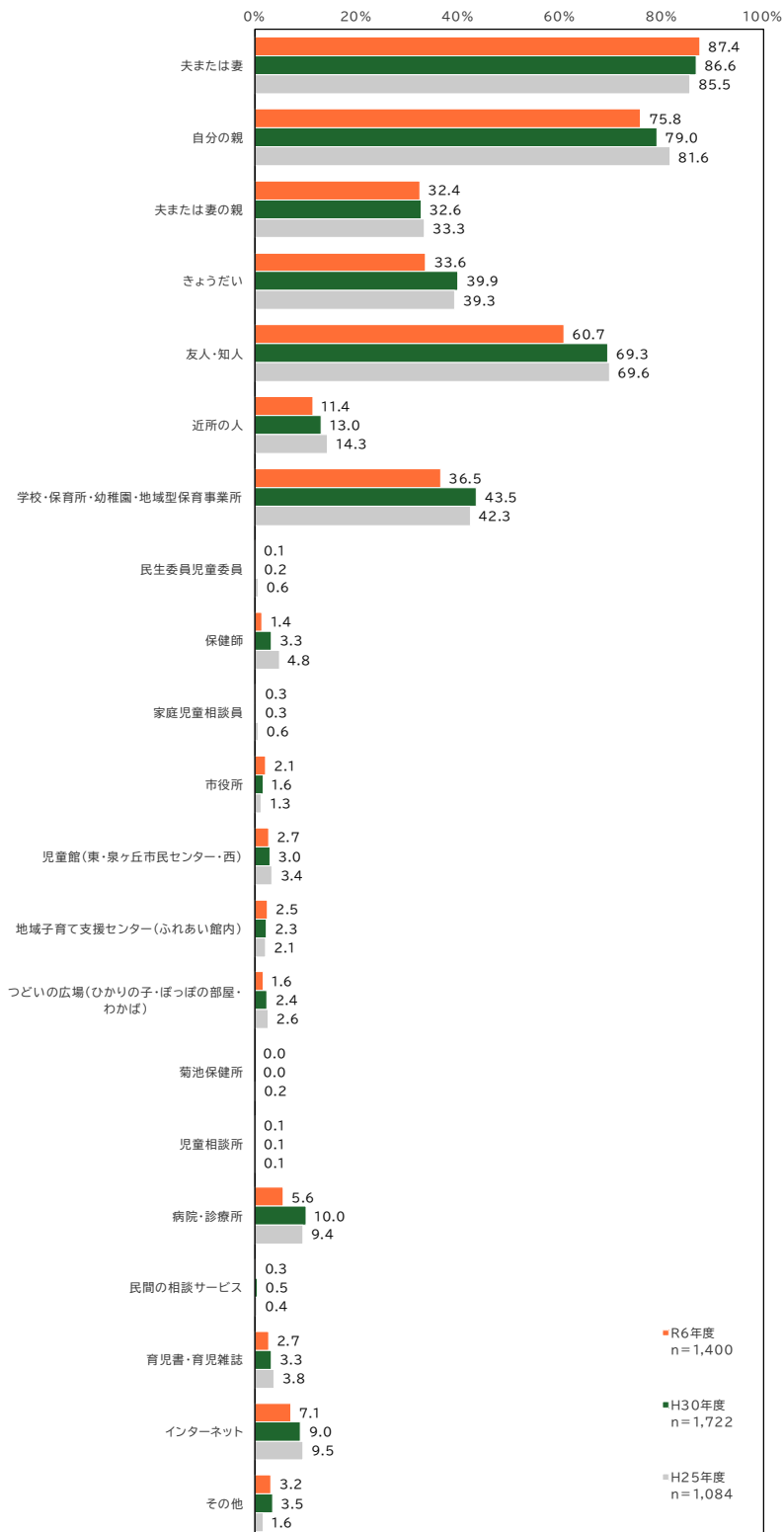
子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人、できる場所の有無をみると、「いる/ある」が96.1%を占めている。



問7-1で「1. いる／ある」に○をつけた方にうかがいます。

問7-2 お子さんの子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。(あてはまるものすべてに○)

子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先をみると、「夫または妻」が87.4%で最も高く、次いで「自分の親」の75.8%、「友人・知人」の60.7%となっている。

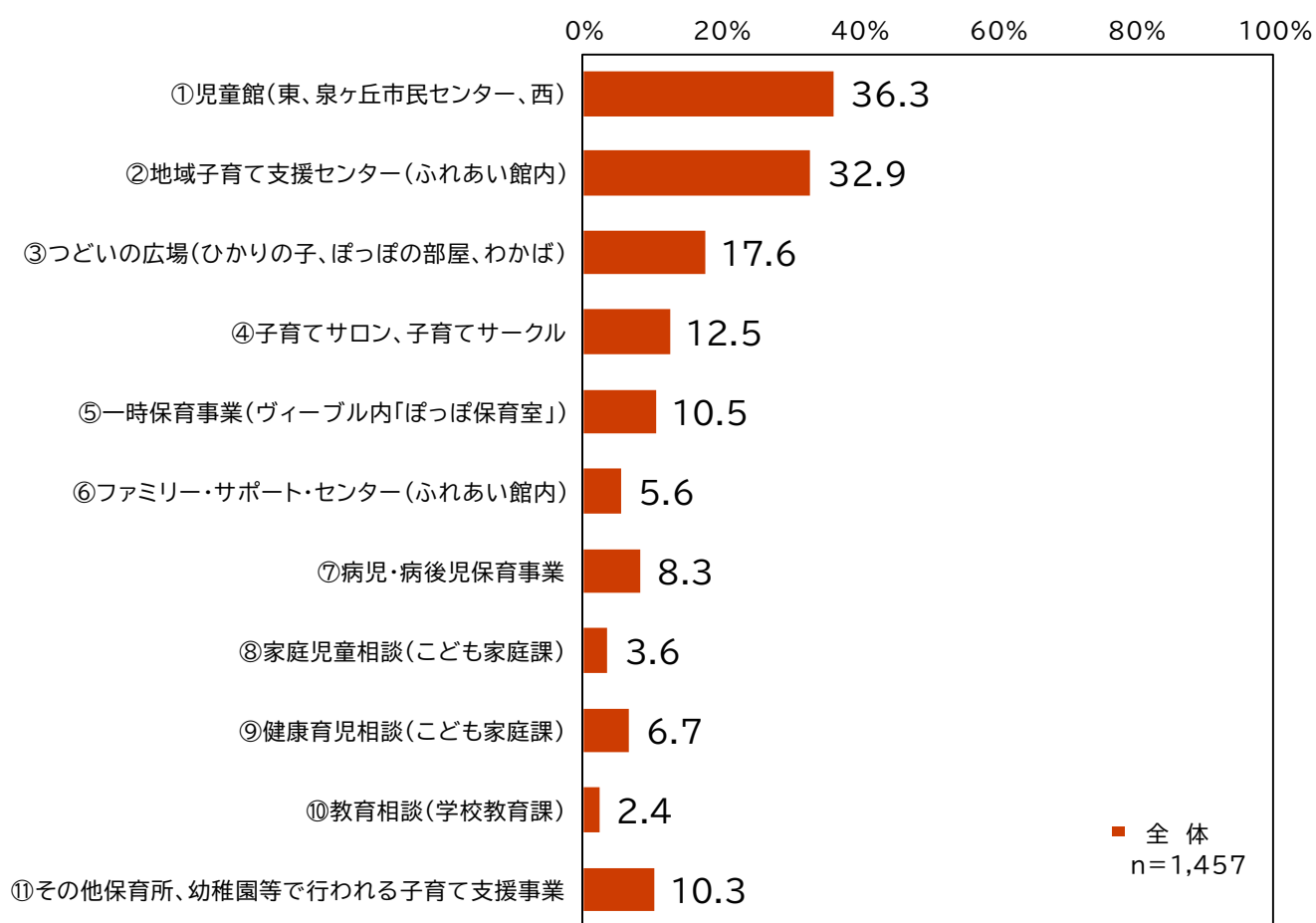


4. 合志市で実施している子育て支援に関する事業について

問8 下記の合志市の事業の利用状況をお答えください。また、A(利用状況)で「はい」に○をつけた事業については、B(利用した事業の満足度)のそれぞれについて、あてはまる満足度の数字に○をつけてください。

●A(利用状況)

これまで利用したことがある事業をみると、「①児童館(東、泉ヶ丘市民センター、西)」が36.3%で最も高く、次いで「②地域子育て支援センター(ふれあい館内)」の32.9%、「③つどいの広場(ひかりの子、ぽっぽの部屋、わかば)」の17.6%となっている。

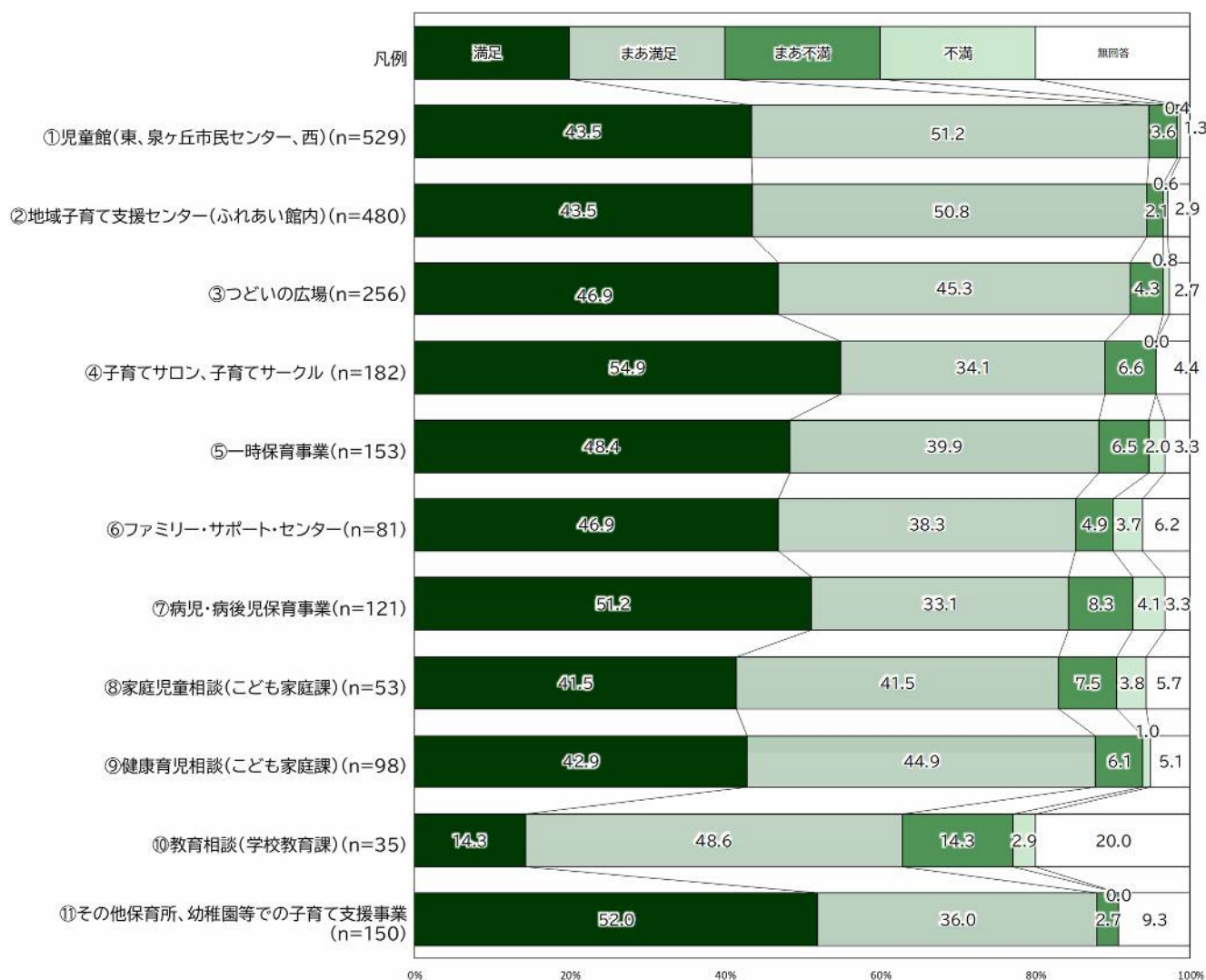


●B(利用した事業の満足度)

利用したことがある事業の満足度をみると、「満足」、「まあ満足」を合わせた割合が最も高いのは「①児童館(東、泉ヶ丘市民センター、西)」の94.7%で、次いで「②地域子育て支援センター(ふれあい館内)」の94.3%、「③つどいの広場(ひかりの子、ぽっぽの部屋、わかば)」の92.2%、「④子育てサロン、子育てサークル」の89.0%となっている。

また明確な評価である「満足」の割合が最も高いのは、「④子育てサロン、子育てサークル」の54.9%で、次いで「⑪その他保育所、幼稚園等で行われる子育て支援事業」の52.0%、「⑦病児・病後児保育事業」の51.2%、「⑤一時保育事業(ヴィーブル内「ぽっぽ保育室」)」の48.4%となっている。

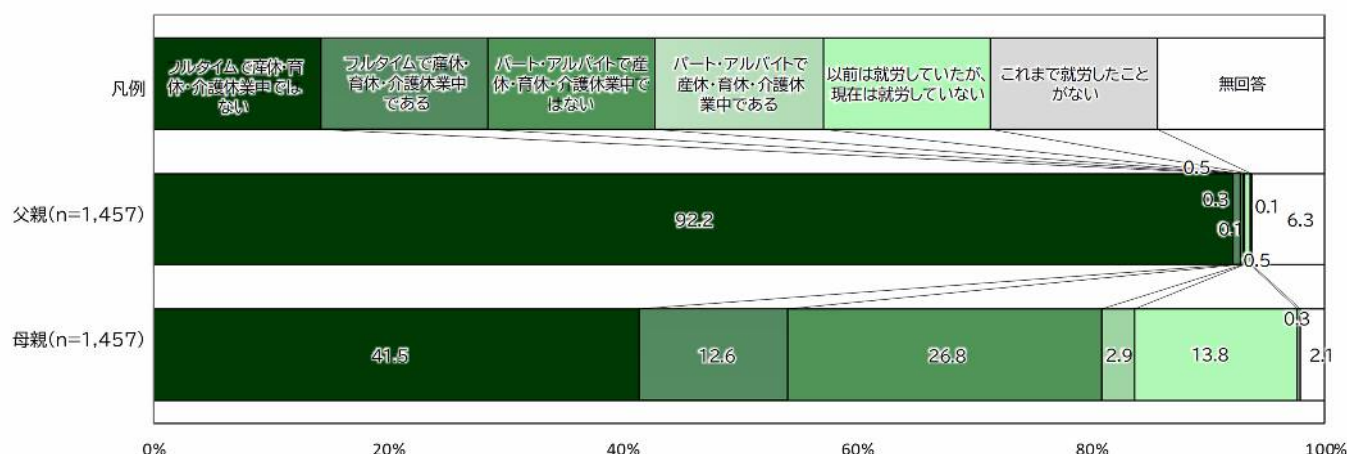
一方、「不満」、「まあ不満」を合わせた割合が最も高いのは、「⑩教育相談(学校教育課)」の17.2%で、次いで「⑦病児・病後児保育事業」の12.4%、「⑧家庭児童相談(こども家庭課)」の11.3%となっている。



5. 保護者の就労状況について

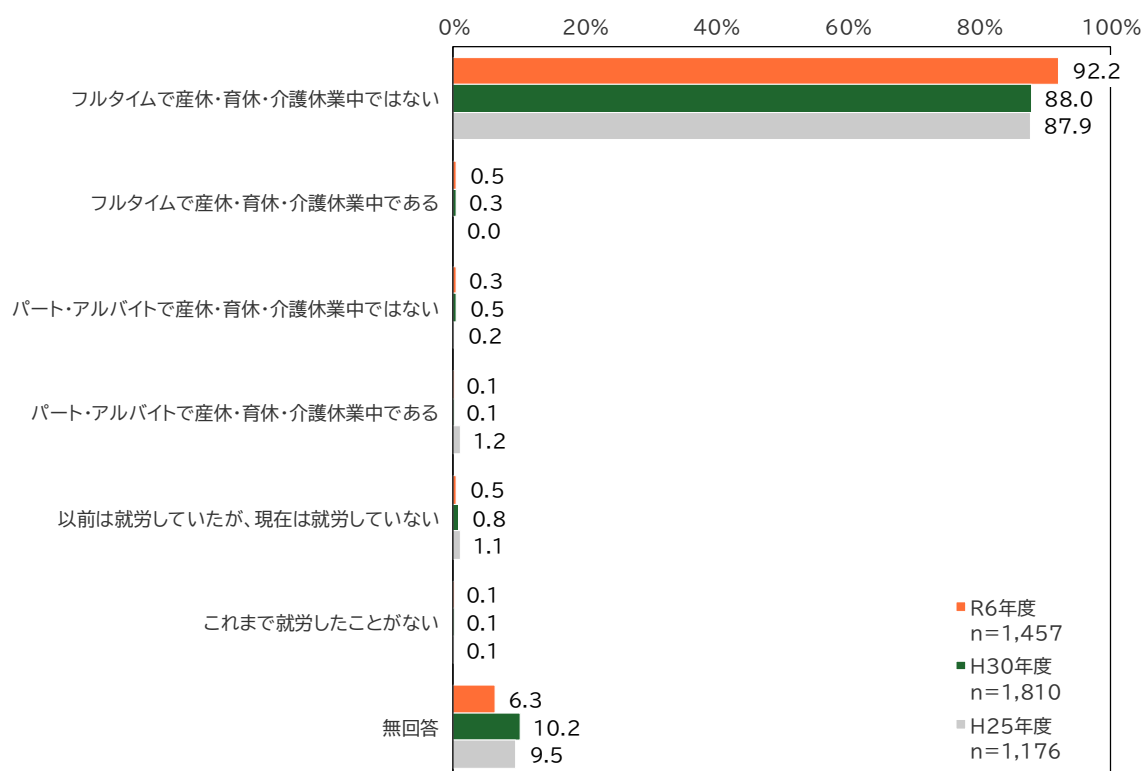
問9-1 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)をうかがいます。現在の就労状況は以下のどれにあたりますか。(それぞれ○は1つ)

保護者の現在の就労状況をみると、父親では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も高く、92.2%を占めている。また、母親も「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が41.5%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」の26.8%となっている。



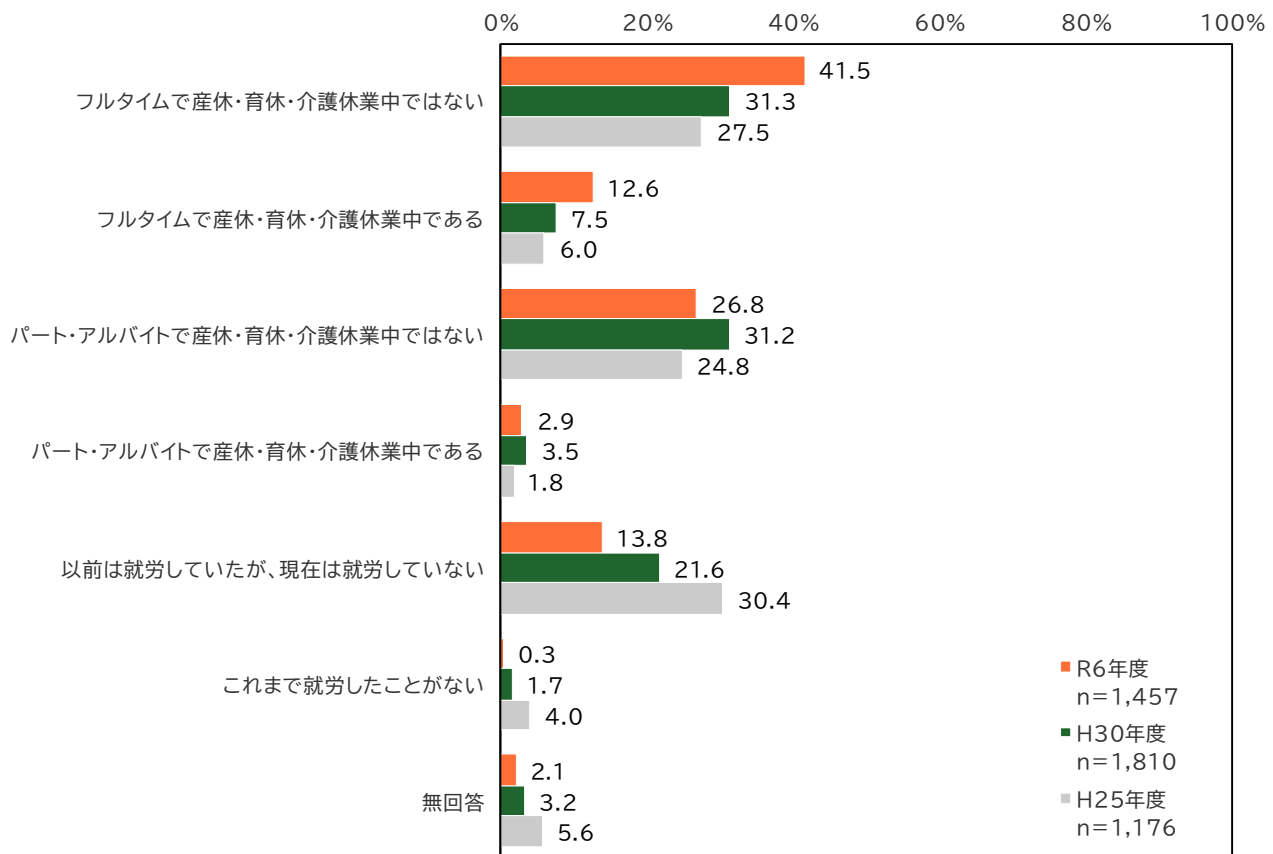
①父親(年度別比較)

父親の就労状況を年度別で比較すると、変化は認められず、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が大半を占めている。



②母親(年度別比較)

母親の就労状況を年度別で比較すると、今回の調査は平成30年度調査と比べ「フルタイムで就労しており産休・育休・介護休業中ではない」が10.2ポイント、「フルタイムで就労しており産休・育休・介護休業中である」が5.1ポイント増加し、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が7.8ポイント減少、「パート・アルバイト等で就労しており産休・育休・介護休業中ではない」が4.4ポイント減少している。



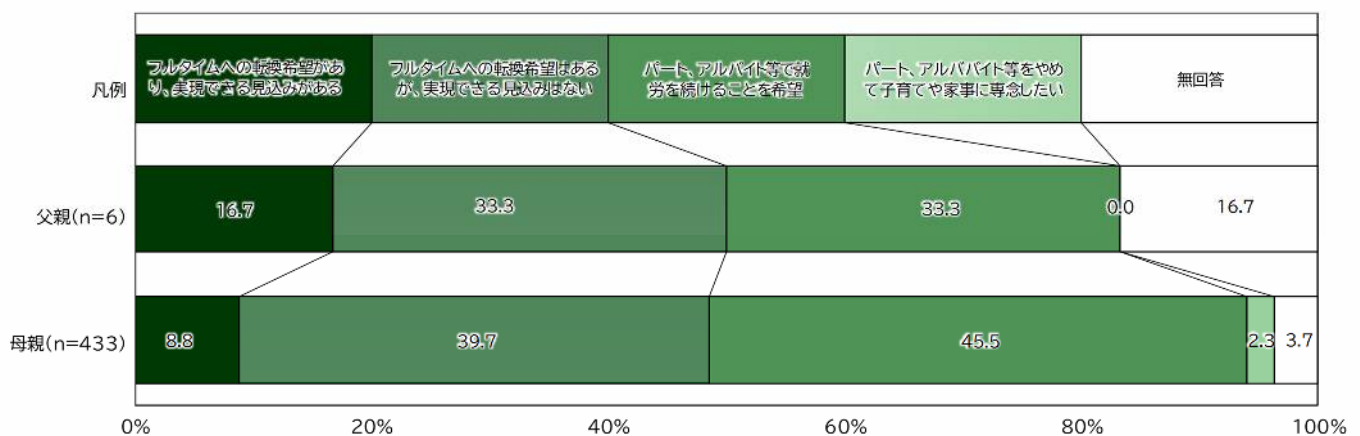
問9-1で「3」または「4」(パート・アルバイト等で就労している)に○をつけた方にうかがいます。

該当しない方は、問10-1へお進みください。

問9-2 フルタイムへの転換希望はありますか。(○は1つ)

パート・アルバイト等で就労している人のフルタイムへの転換希望をみると、父親(6人)は「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」と「パート、アルバイト等で就労を続けることを希望」が33.3%で最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」の16.7%となっている。

母親(433人)は「パート、アルバイト等で就労を続けることを希望」が45.5%で最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の39.7%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」は8.8%と父親と比べ低くなっている。



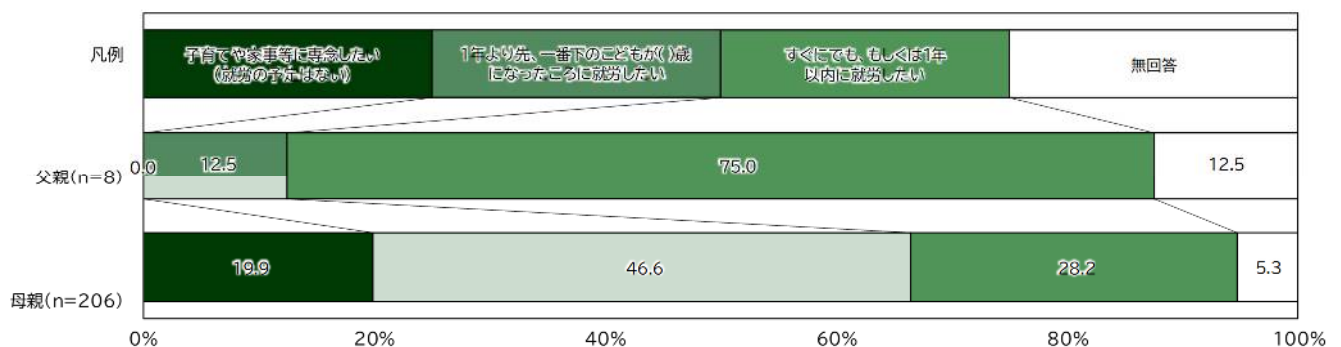
問9-1で「5」または「6」(就労していない)に○をつけた方にうかがいます。

該当しない方は、問10-1へお進みください。

問9-3 就労したいという希望はありますか。(○は1つ) また、該当する()内には数字をご記入ください。

就労していない人の就労希望をみると、父親(8人)は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が75.0%で最も高く、次いで「1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい」の12.5%となっている。

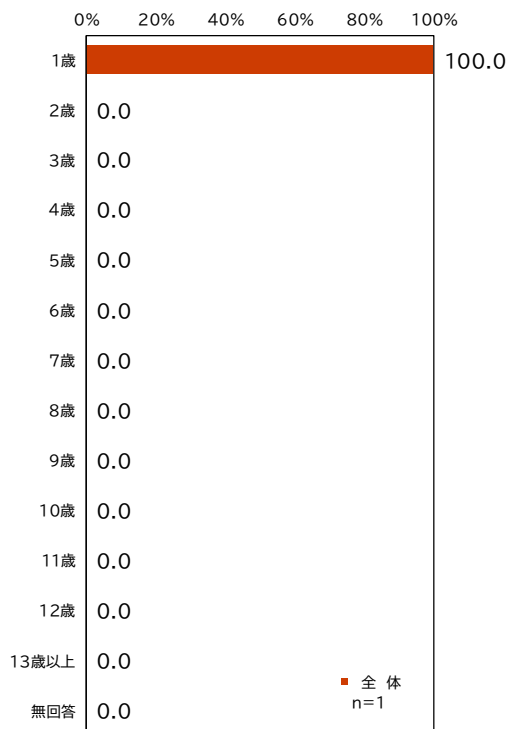
母親(206人)は「1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい」が46.6%で最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の28.2%、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」の19.9%となっている。



●「1 年より先、一番下のこどもが（ ）歳になったところに就労したい」という具体的な年齢

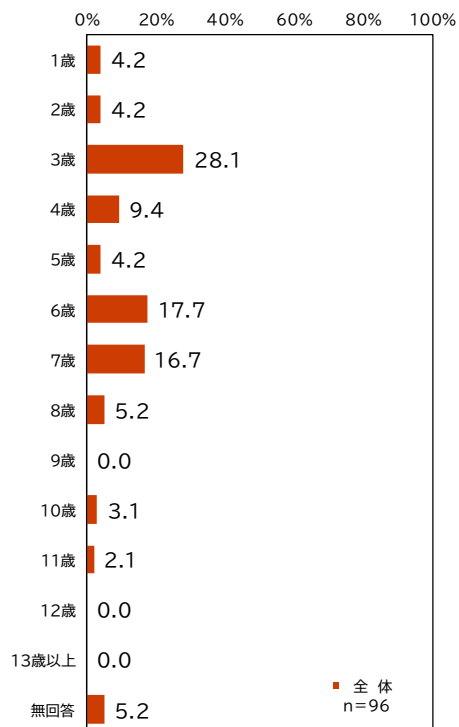
①父親

「1年より先、一番下のこどもが（ ）歳になったところに就労したい」と回答した人(父親1人)にその年齢を聞いたところ、「1 歳」となっている。



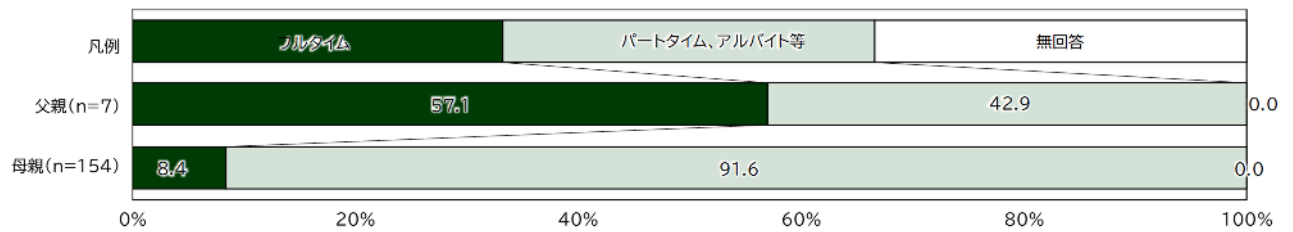
②母親

「1年より先、一番下のこどもが（ ）歳になったところに就労したい」と回答した人(母親96人)にその年齢を聞いたところ、「3歳」が28. 1%で最も高く、次いで「6歳」の17. 7%、「7歳」の16. 7%となっている。



●「1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい」または「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人が希望する就労形態

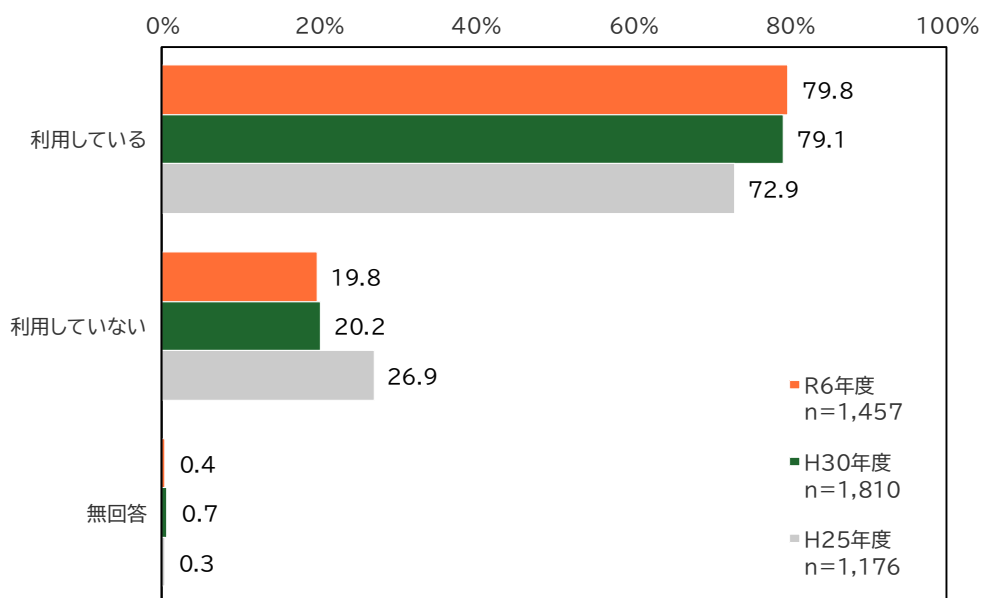
「1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい」または「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人に、希望する就労形態を聞いたところ、父親(7人)は「フルタイム」が57.1%で最も高く、次いで「パートタイム、アルバイト等」の42.9%となっている。母親(154人)では「パートタイム、アルバイト等」の91.6%が最も高く、次いで「フルタイム」の8.4%となっている。



6. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

問10-1 宛名のお子さんは現在、保育所や幼稚園等の「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。(○は1つ)

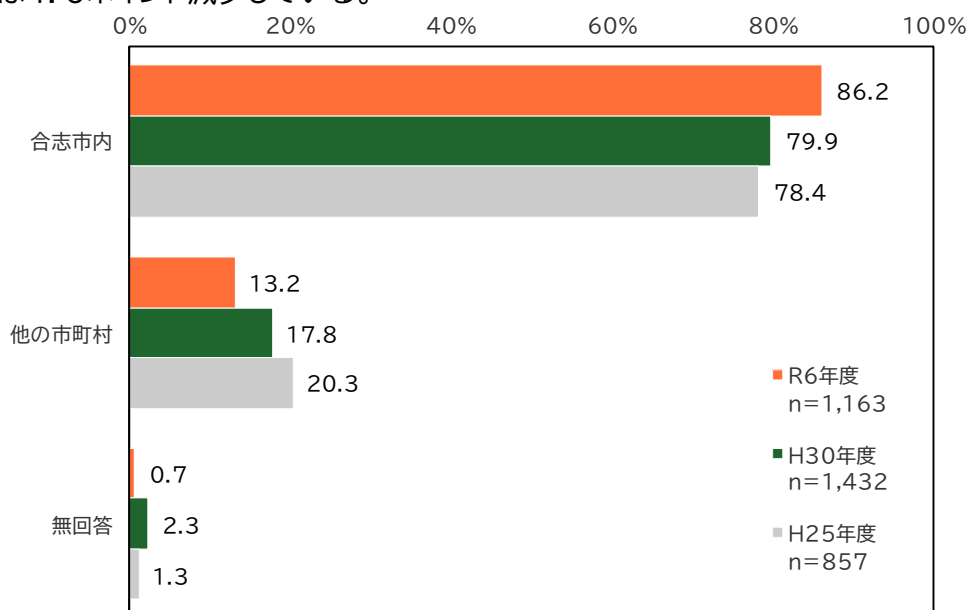
定期的な教育・保育の事業の利用状況をみると、「利用している」が79.8%で、「利用していない」が19.8%となっている。平成30年度調査の結果と比べて大きな変化は認められない。



問10-1で「1. 利用している」に○をつけた方にうかがいます。

問10-2 現在、利用している教育・保育事業の実施場所についてうかがいます。(○は1つ)

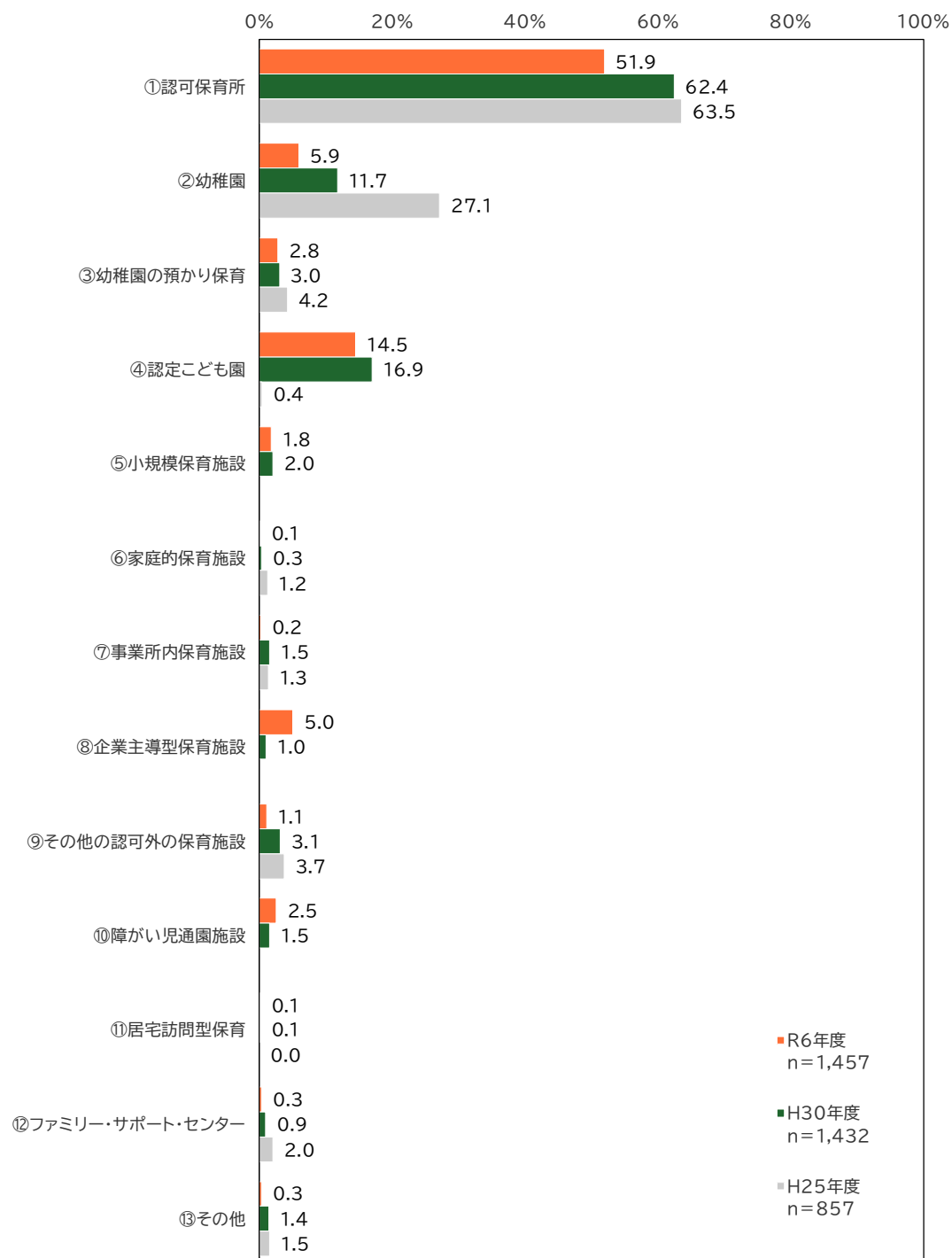
定期的な教育・保育事業を利用している人の利用場所をみると、「合志市内」が86.2%で、「他の市町村」が13.2%となっている。平成30年度調査の結果と比較して「合志市内」が6.3ポイント増加し、「他の市町村」は4.6ポイント減少している。



問10-3 宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。下記の事業で、これまで年間を通じて「定期的に」利用している事業の利用状況をお答えください。また、A(利用状況)で「はい」に○をつけた事業については、B(満足度)のそれぞれについて、あてはまる満足度の数字に○をつけてください。以下の施設一覧をご参照ください。

●A(利用状況)

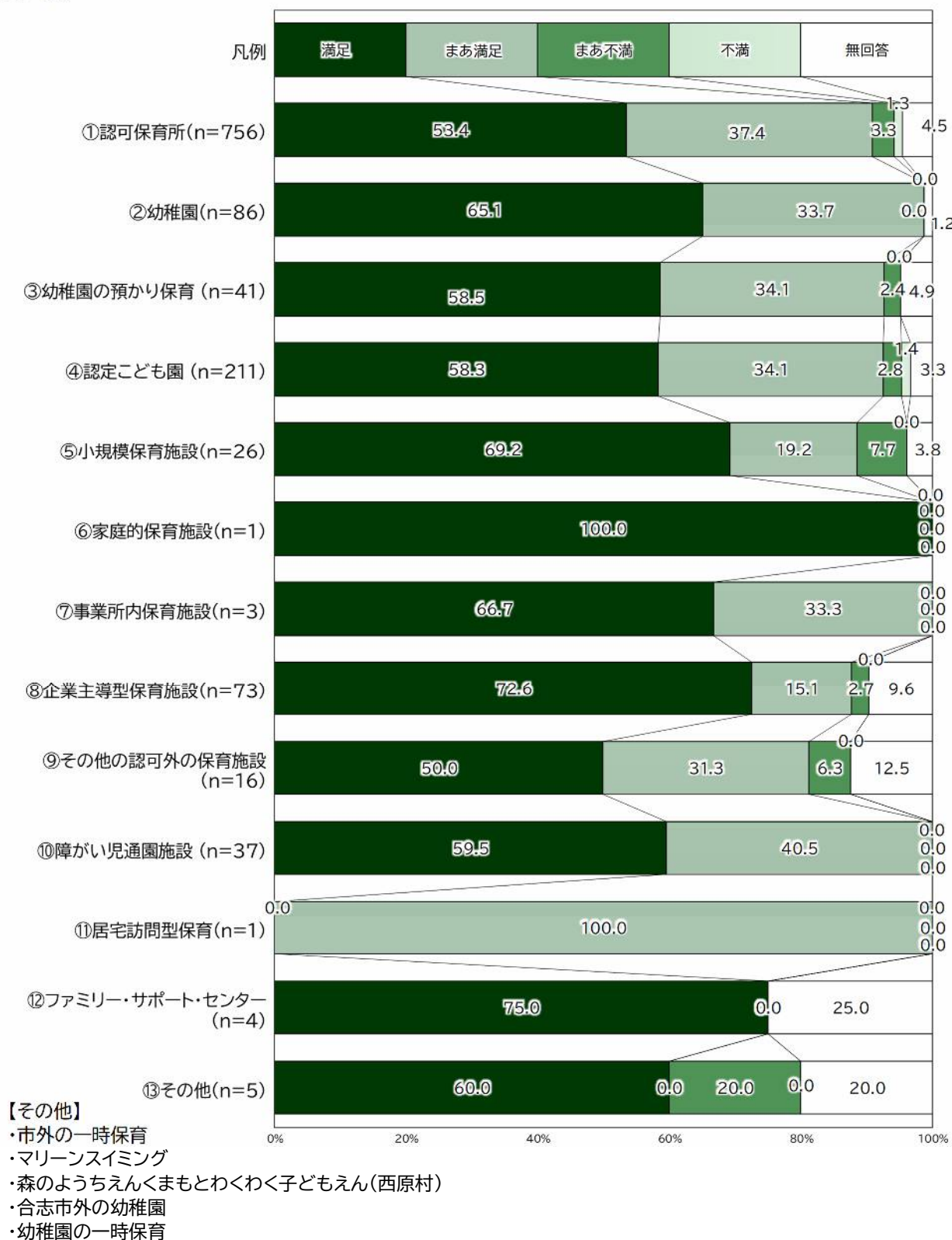
平日の教育・保育の事業の利用状況をみると、「①認可保育所」が51.9%で最も高く、次いで「④認定こども園」の14.5%、「②幼稚園」の5.9%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「⑧企業主導型保育施設」は4ポイント増加し、「①認可保育所」は10.5ポイント減少、「②幼稚園」は5.8ポイント減少している。



●B(満足度)

事業についての満足度をみると、「満足」、「まあ満足」を合わせた割合が最も高いのは、「⑥家庭的保育施設」、「⑦事業所内保育施設」、「⑩障がい児通園施設」、「⑪居宅訪問型保育」で、回答者数は少ないが100.0%となっている。

一方、「まあ不満」、「不満」を合わせた割合が最も高いのは、「⑬その他」の20.0%で、次いで「⑤小規模保育施設」の7.7%、「⑨その他の認可外の保育施設」の6.3%、「①認可保育所」の4.6%となっている。

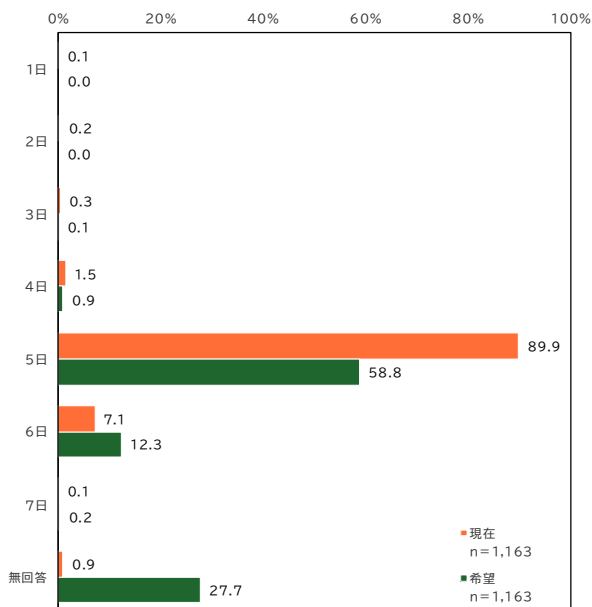


問10-1で「1. 利用している」に○をつけた方にうかがいます。

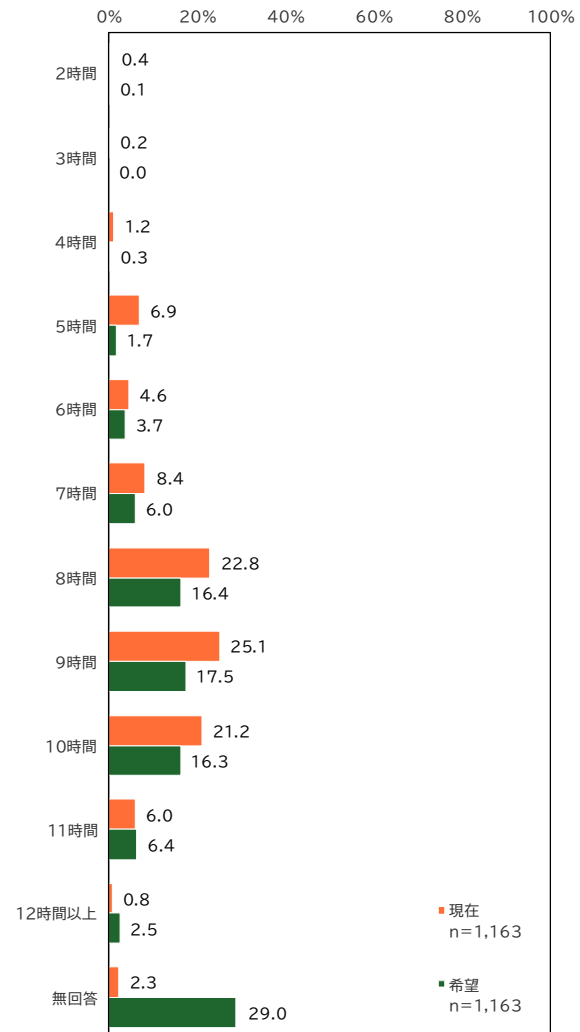
問10-4 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。1週当たり何日、1日当たり何時間(何時から何時まで)かを、()内に具体的な数字でご記入(問10-3で複数選択している方は合計を記入)ください。時間は、必ず(例:09時～18時のように)24時間制でご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

平日に利用している教育・保育事業の現在の利用状況と今後の利用希望をみると、1週当たりの利用日数では、現在の状況、利用希望のどちらも「5日」が最も高く、それぞれ89.9%、58.8%となっている。また、1日当たりの利用時間では、現在の状況、利用希望のどちらも「9時間」が最も高く、それぞれ25.1%、17.5%となっている。希望については無回答が多くなっていることから、「5日」と「9時間」の割合が低くなっているが、割合の高い順ではほぼ同じ傾向となっている。

●1週当たりの日数

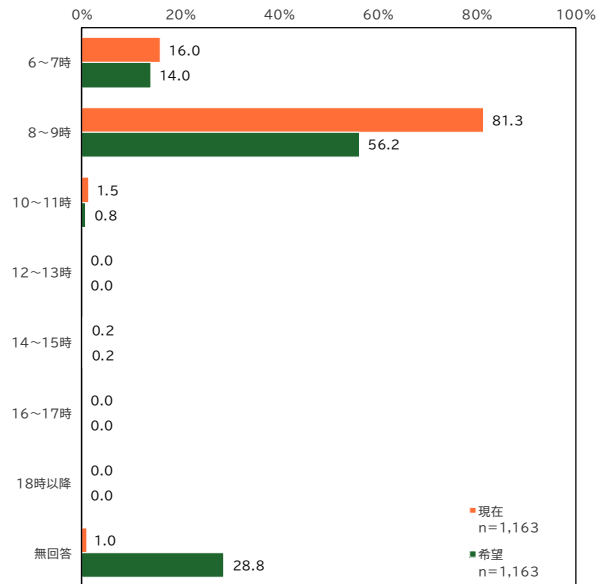


●1日当たりの時間

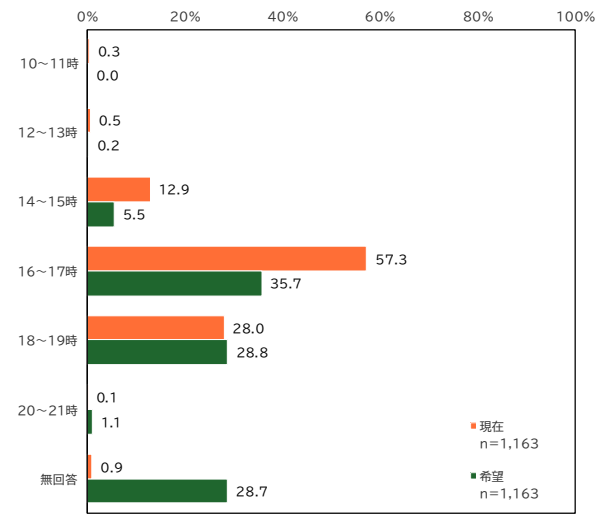


利用開始時間では、現在の状況、利用希望のどちらも「8～9時」が最も高く、それぞれ81.3%、56.2%となっている。また、終了時間では、現在の状況、利用希望のどちらも「16～17時」が最も高く、それぞれ57.3%、35.7%となっている。

●利用開始時間



●終了時間



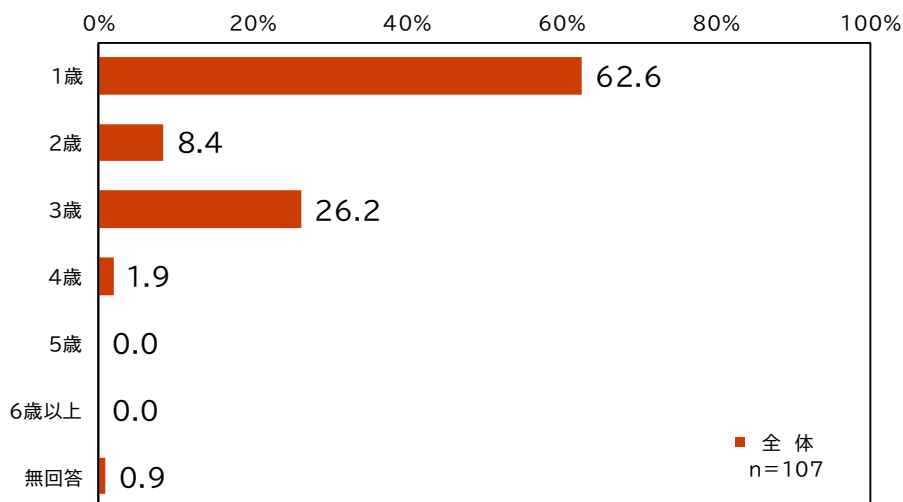
問10-1で「2. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

問10-5 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

保育・教育事業を利用していない人(288人)にその理由を聞いたところ、「こどもの母親か父親がみている」が最も高く74.3%を占めている。次いで「こどもが小さいため()歳くらいになったら利用しようと考えている」の37.2%、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」の12.2%となっている。

●「こどもがまだ小さいため()歳くらいになったら利用しようと考えている」という具体的な年齢

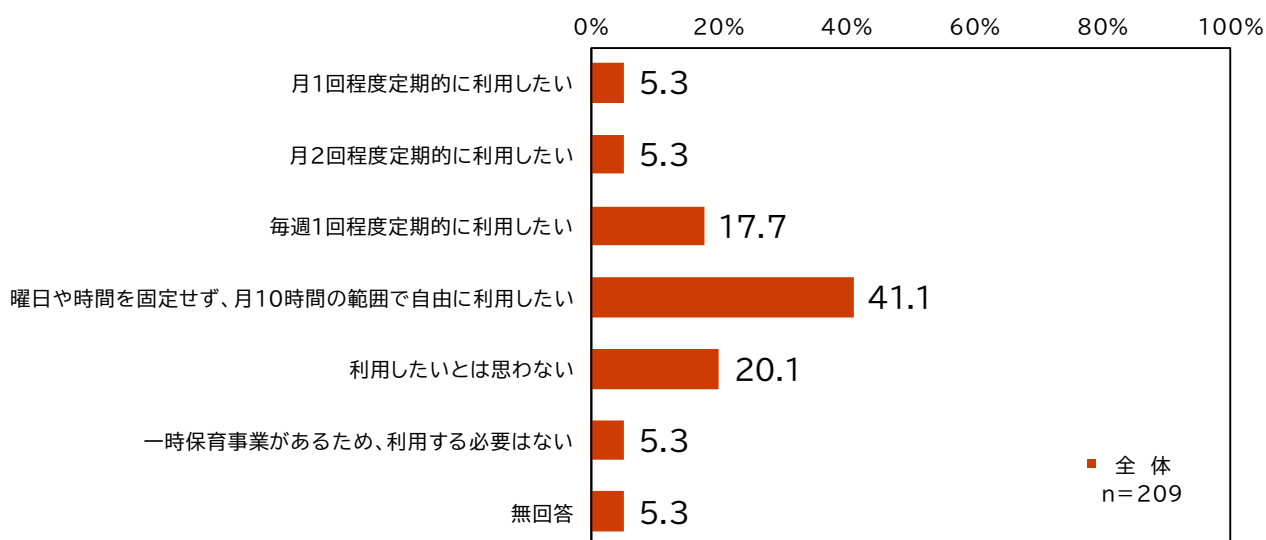
「こどもがまだ小さいため()歳くらいになったら利用しようと考えている」と回答した人(107人)にその年齢を聞いたところ、「1歳」が62.6%で最も高く、次いで「3歳」の26.2%、「2歳」の8.4%となっている。



問10-1で「2. 利用していない」に○をつけた方のうち、宛名のお子さんが6カ月～2歳の方にうかがいます。

問10-6 国が検討している「こども誰でも通園制度(仮称)」が創設された場合、仮に月10時間まで定期的に利用が可能だとしたら、利用したいと思いますか。(○は1つ)

「こども誰でも通園制度(仮称)」の利用希望をみると、「曜日や時間を固定せず、月10時間の範囲で自由に利用したい」が41.1%で最も高く、次いで、「利用したいとは思わない」の20.1%、「毎週1回程度定期的に利用したい」の17.7%となっている。

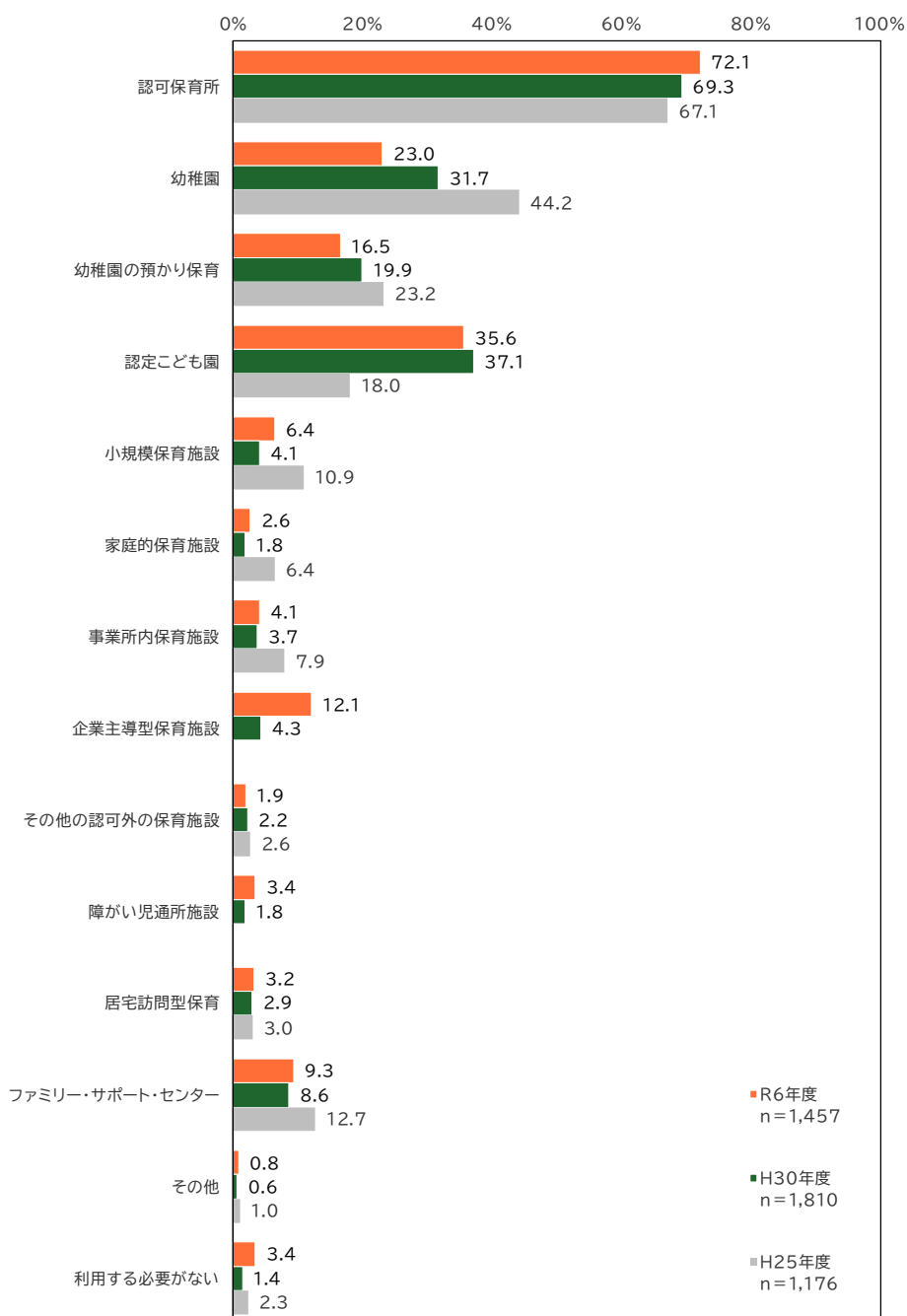


すべての方にうかがいます。

問11-1 現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。保育所の場合、世帯収入に応じた利用料が設定されています。しかし、幼稚園、保育所、認定こども園等を利用する3歳から5歳児クラスのこどもたち、住民税非課税世帯の0歳から2歳児クラスまでのこどもたちの利用料が無料になります。以下の施設一覧をご参照ください。

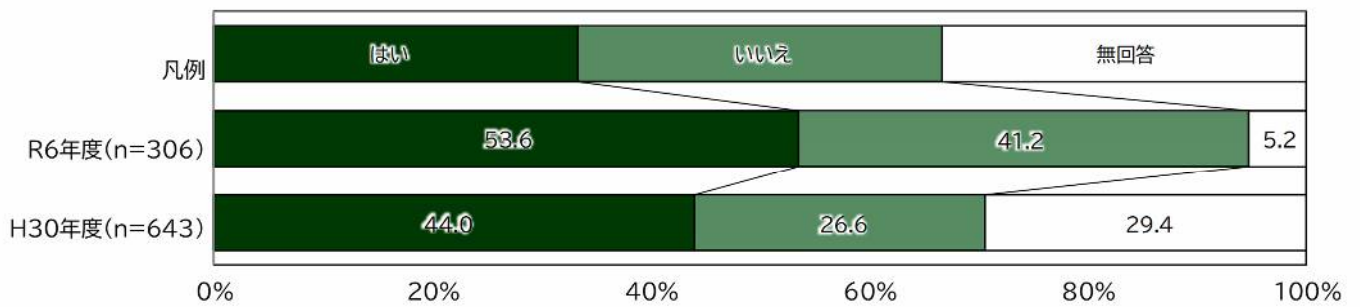
平日の教育・保育事業の定期的な利用意向をみると、「認可保育所」が最も高く72.1%を占めている。次いで「認定こども園」の35.6%、「幼稚園」の23.0%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「企業主導型保育施設」は7.8ポイント増加し、「幼稚園」は8.7ポイント減少している。



問11-1で「2. 幼稚園(通常の就園時間の利用)」または「3. 幼稚園の預かり保育」に○をつけ、かつそれ以外にも○をつけた方にうかがいます。

問11-2 特に幼稚園(幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む)の利用を強く希望しますか。(○は1つ)

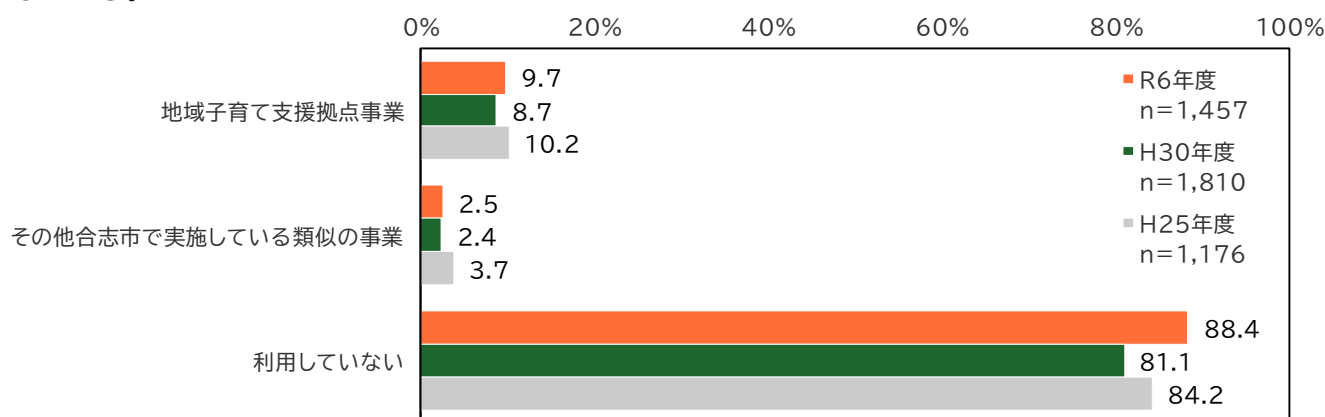
「幼稚園(通常の就園時間の利用)」または「幼稚園の預かり保育」を選択した人(306人)に、再度、利用を強く希望するか聞いたところ、「はい」が53.6%、「いいえ」が41.2%となっている。



7. 地域の子育て支援事業の利用状況について

問12 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業(親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「地域子育て支援センター(ふれあい館内)」「つどいの広場(ひかりの子・ぽっぽの部屋・わかば)」等と呼ばれています)を利用していますか。(あてはまるものすべてに○) また、おおよその利用回数(頻度)を()内に数字でご記入ください。

地域子育て支援拠点事業の利用状況をみると、「利用していない」が最も高く88.4%を占めている。「地域子育て支援拠点事業」を利用している人が9.7%、「その他合志市で実施している類似の事業」が2.5%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用していない」は7.3ポイント増加している。

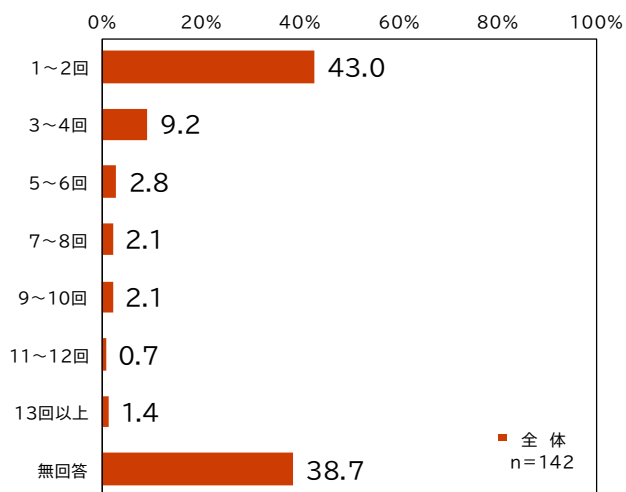


●地域子育て支援拠点事業の利用頻度

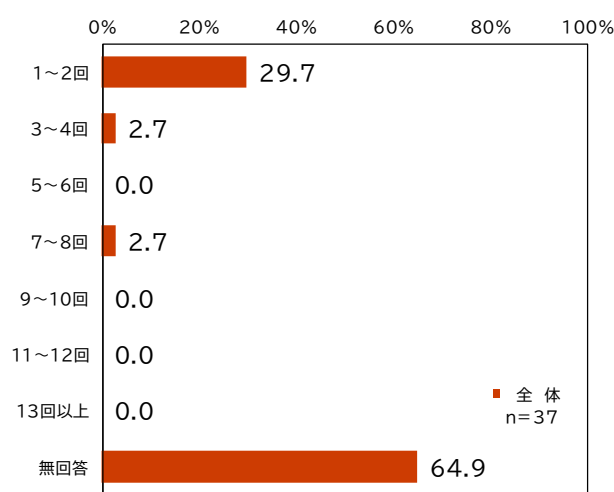
実際に利用している人の利用回数をみると、「地域子育て支援拠点事業」では「1～2回」が43.0%で最も高く、次いで「3～4回」の9.2%となっている。

「その他合志市で実施している類似の事業」については、「1～2回」の29.7%が最も高く、次いで「3～4回」、「7～8回」の2.7%となっている。

「地域子育て支援拠点事業(親子が集まって過ごしたり、相談をする場)」を利用していると回答した人の利用回数/月

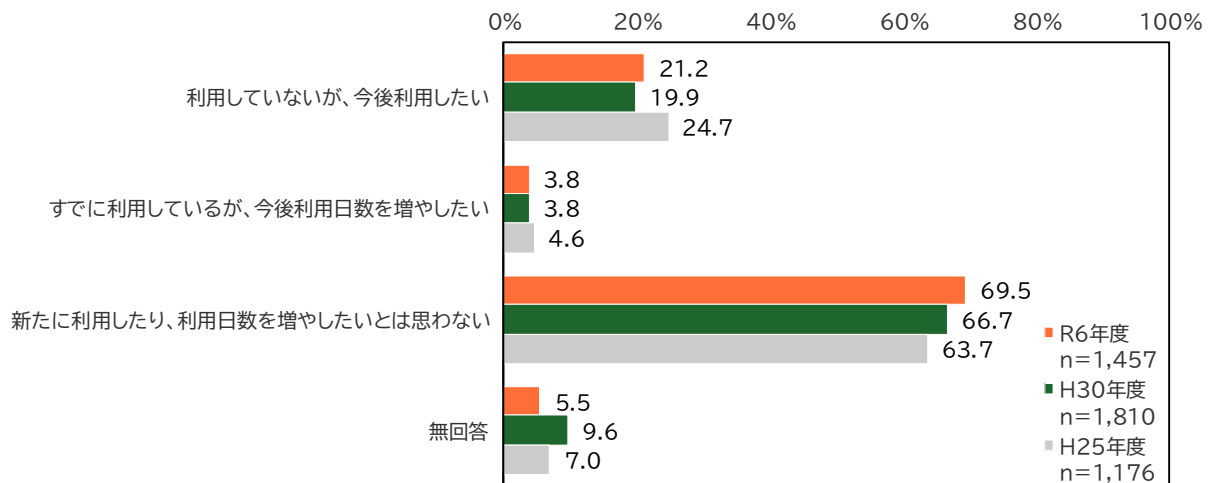


「その他合志市で実施している類似の事業」を利用していると回答した人の利用回数/月



問13 問12のような地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。(〇は1つ)
また、おおよその利用回数(頻度)を()内に数字でご記入ください。

地域子育て支援拠点事業の利用意向をみると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が69.5%で最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」の21.2%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」は2.8ポイント増加している。

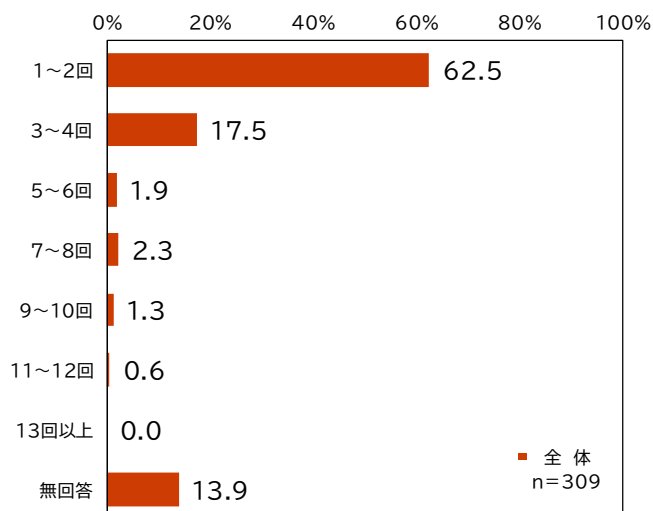


●地域子育て支援拠点事業の利用意向(頻度)

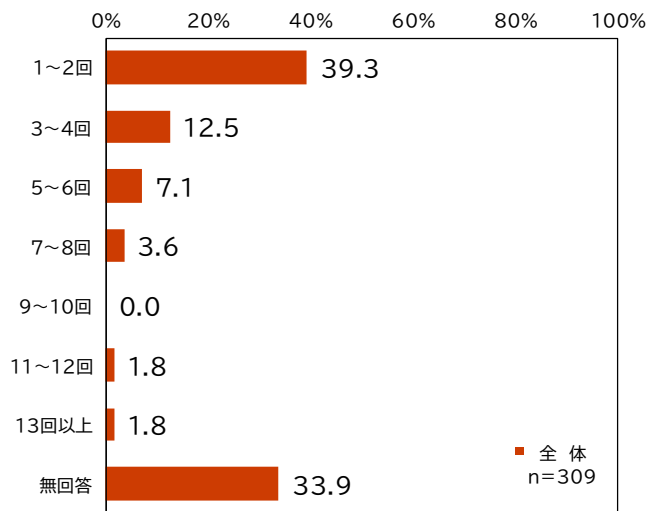
利用意向のある人に聞いた利用希望回数をみると、「利用していないが、今後利用したい」では1ヶ月当たり「1～2回」が62.5%で最も高く、次いで「3～4回」の17.5%となっている。

「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」については、1ヶ月当たり「1～2回」が39.3%で最も高く、次いで「3～4回」の12.5%となっている。

■「利用していないが、今後利用したい」と回答した人の利用回数／月



■「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と回答した人の利用回数／月



8. 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

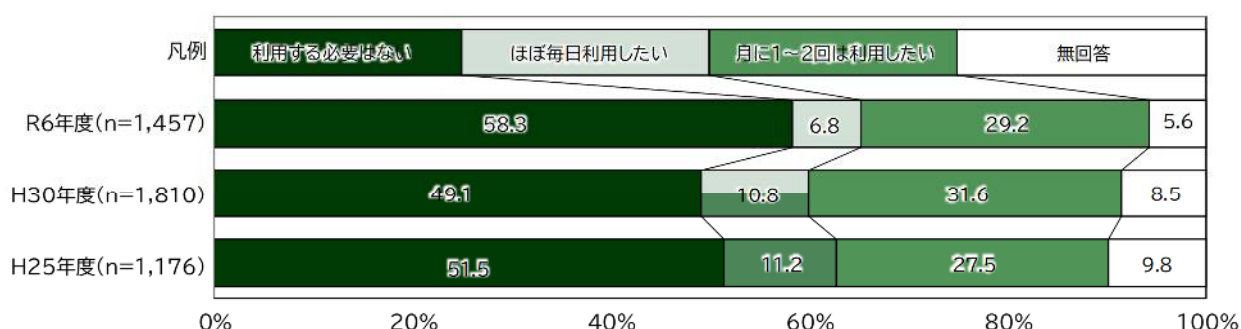
問14 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか(一時的な利用は除きます)。希望がある場合は、利用したい時間帯を(例:09時～18時のように)24時間制でご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

※保育・教育事業とは、幼稚園、保育所、認可外保育施設等の事業を指しますが、親族・知人による預かりは含みません。

①土曜日

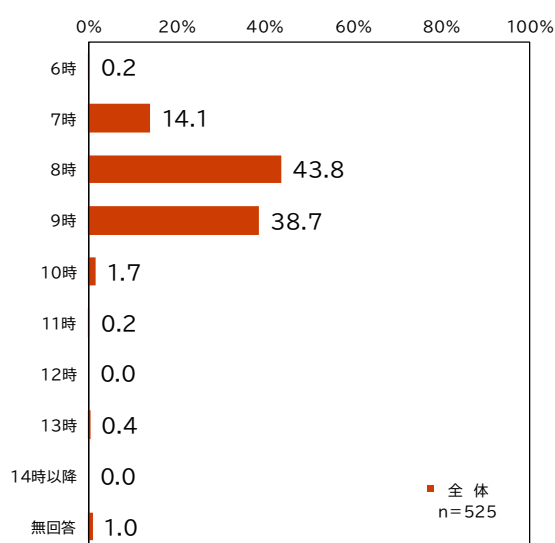
土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が58.3%で最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」の29.2%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用する必要はない」は9.2ポイント増加している。

利用意向のある人の利用希望開始時間をみると、「8時」が43.8%で最も高く、次いで「9時」の38.7%となっている。同じく終了時間をみると、「16～17時」が49.1%で最も高く、次いで「18～19時」の32.8%となっている。

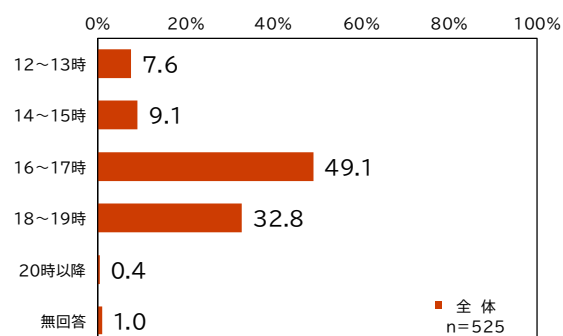


●「ほぼ毎日利用したい」または「月に1～2回は利用したい」と回答した人の利用したい時間帯

開始時間



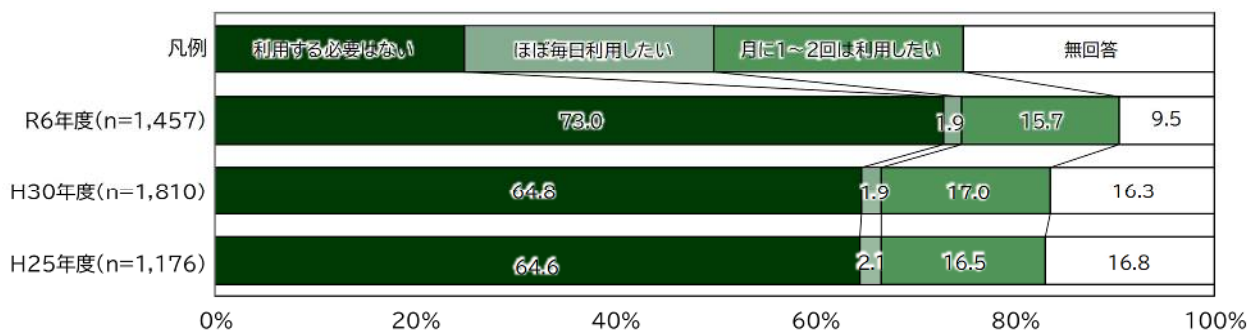
終了時間



②日曜日

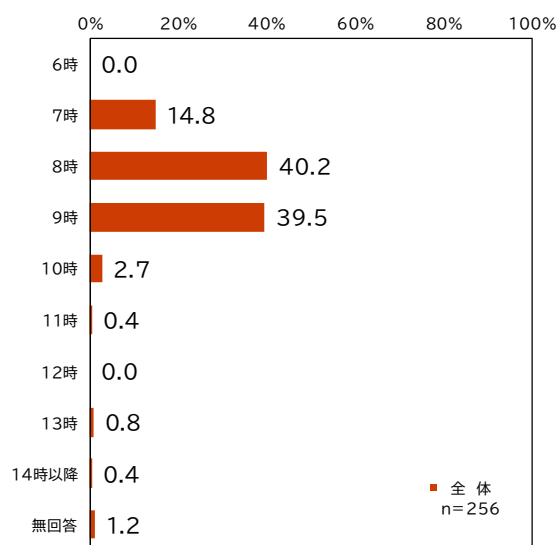
日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望をみると、「利用する必要はない」が73.0%で最も高く、次いで「月に1～2回は利用したい」の15.7%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用する必要はない」は8.2ポイント増加している。

利用意向のある人の利用希望開始時間をみると、「8時」が40.2%で最も高く、次いで「9時」の39.5%となっている。同じく終了時間をみると、「16～17時」が47.3%で最も高く、次いで「18～19時」の37.5%となっている。

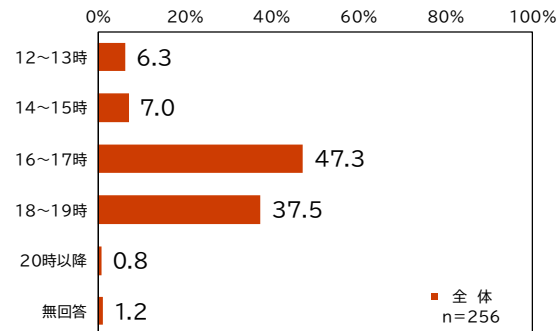


●「ほぼ毎日利用したい」または「月に1～2回は利用したい」と回答した人の利用したい時間帯

開始時間



終了時間

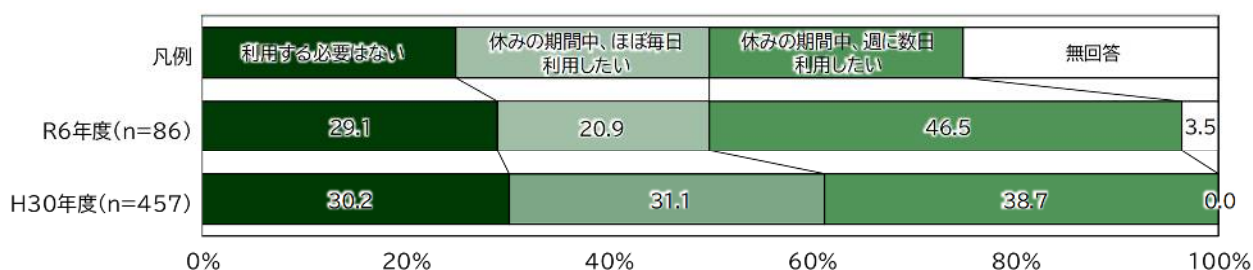


「幼稚園」を利用されている方にうかがいます。

問15 宛名のお子さんについて、夏休み・冬休み等長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯を、(例:09時～18時のように)24時間制でご記入ください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

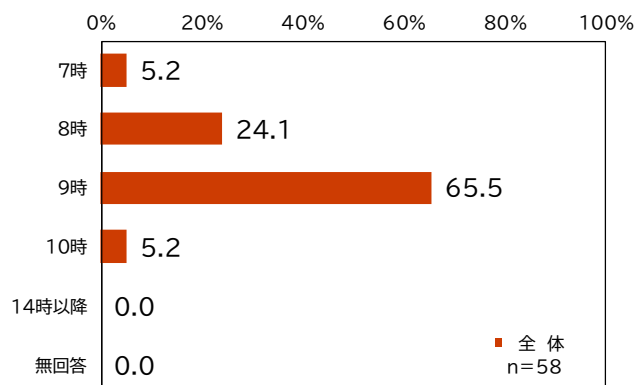
幼稚園利用者による夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用希望をみると、「休みの期間中、週に数日利用したい」が46.5%で最も高く、次いで「利用する必要はない」の29.1%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」の20.9%となっている。

利用意向のある人の利用希望開始時間をみると、「9時」が65.5%で最も高く、次いで「8時」の24.1%となっている。同じく終了時間をみると、「14～15時」が51.7%で最も高く、次いで「16～17時」の31.0%、「18～19時」の15.5%となっている。

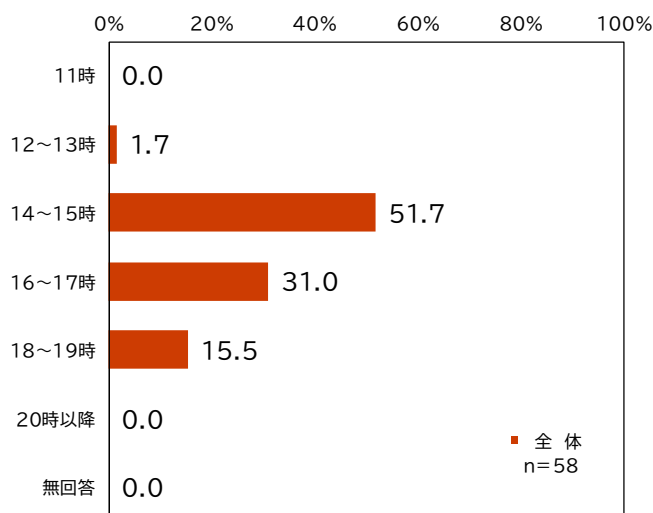


●「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」または「休みの期間中、週に数回は利用したい」と回答した人の利用したい時間帯

開始時間



終了時間

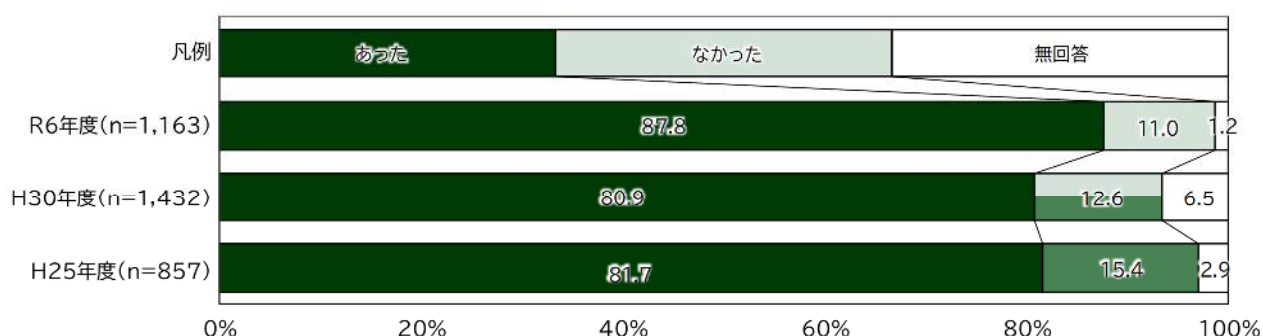


9. 病気の際の対応について

問10-1 で「1. 利用している」に○をつけた方(平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方)にうかがいます。利用していらない方は、問17-1にお進みください。

問16-1 この1年間に、宛名のお子さんが病気やけがで通常の事業が利用できなかったことはありますか。(○は1つ)

平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者(1,163人)に、こどもの病気やけがで通常の事業が利用できなかったかを聞いたところ、「あった」が87.8%、「なかった」が11.0%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「あった」は6.9ポイント増加している。

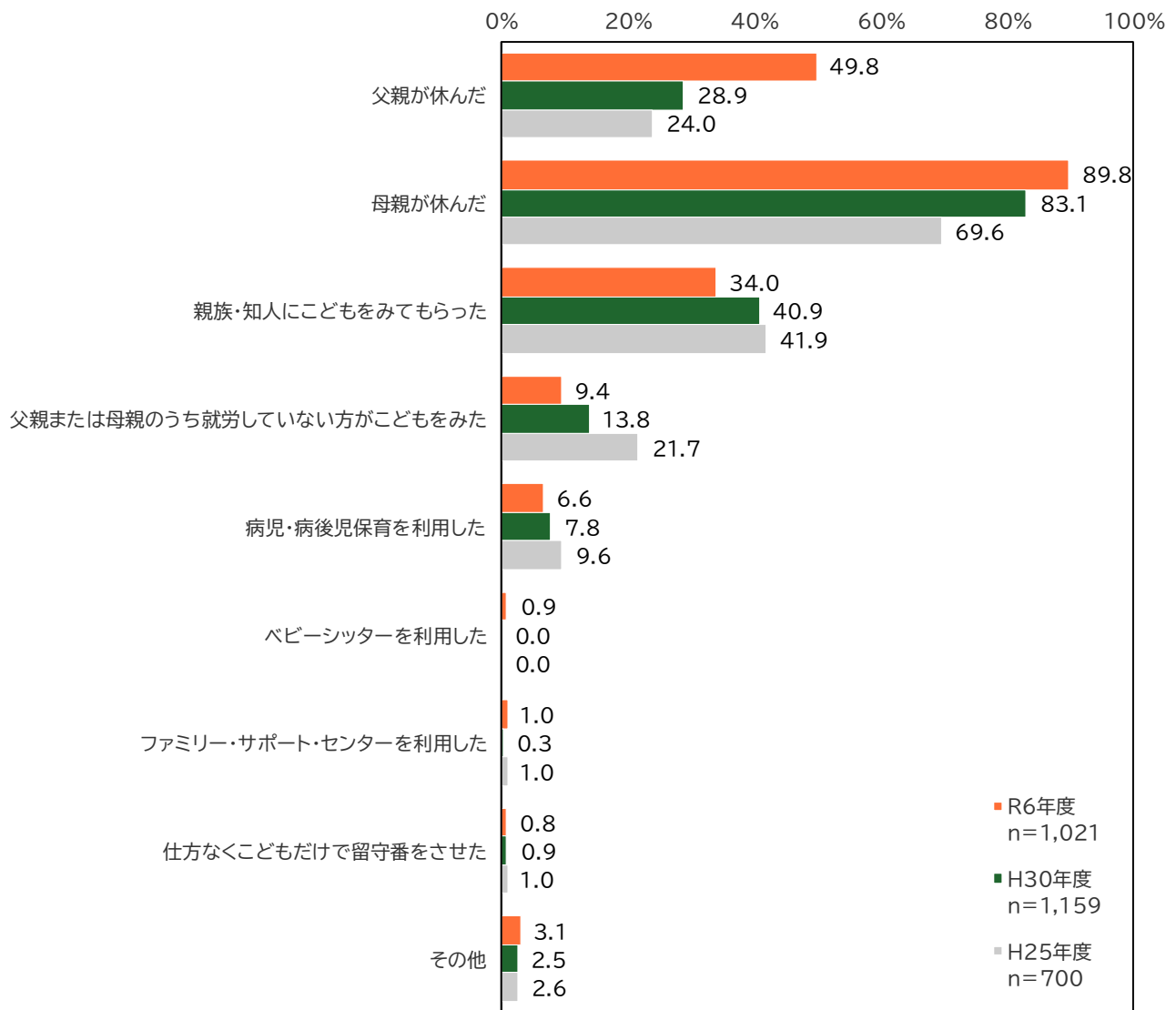


問16-1 で「1. あった」に○をつけた方にうかがいます。

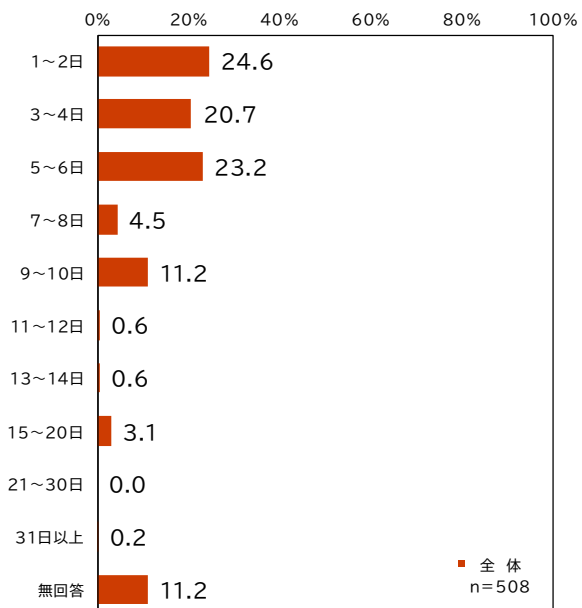
問16-2 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけ、それぞれの日数も()内に数字でご記入ください。(半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください。)

こどもが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合のこの1年間に行った対処方法をみると、「母親が休んだ」が89.8%で最も高く、次いで「父親が休んだ」49.8%、「(同居者を含む)親族・知人にこどもをみてもらった」の34.0%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「父親が休んだ」は20.9ポイント増加し、「(同居者を含む)親族・知人にこどもをみてもらった」は6.9ポイント減少している。

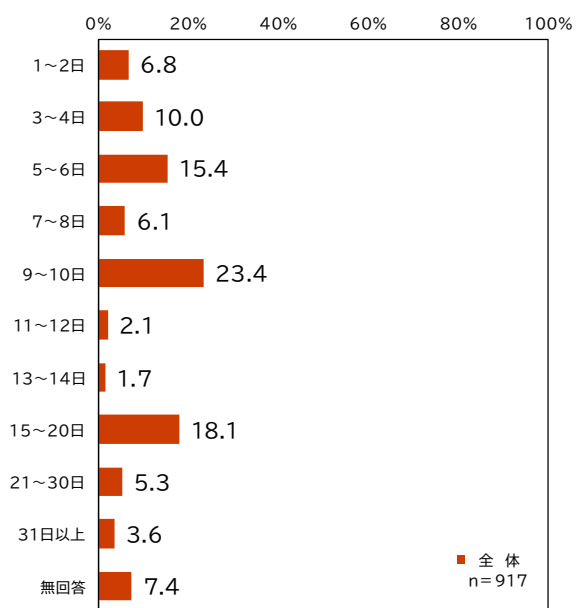
主な対処法別の最も多い日数をみると、「父親が休んだ」、「病児・病後児保育を利用した」、「ベビーシッターを利用した」では「1～2日」、「母親が休んだ」、「父親または母親のうち就労していない方がこどもをみた」では「9～10日」、「(同居者を含む)親族・知人にこどもをみてもらった」では「5～6日」、「ファミリー・サポート・センターを利用した」、「仕方なくこどもだけで留守番をさせた」では「3～4日」となっている。



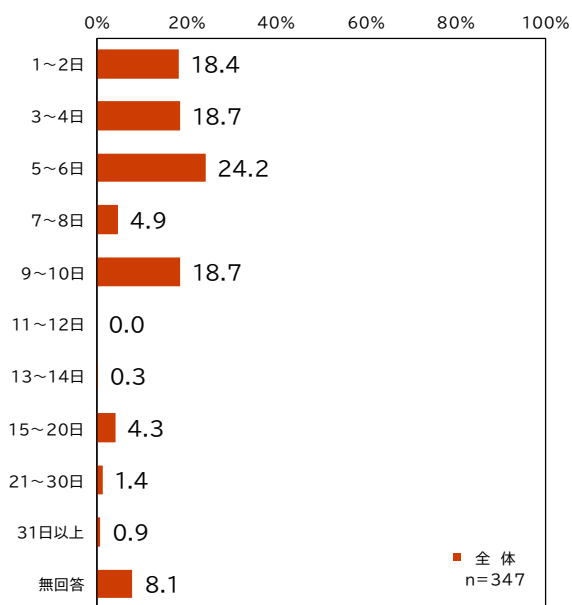
「父親が休んだ」と回答した人の日数



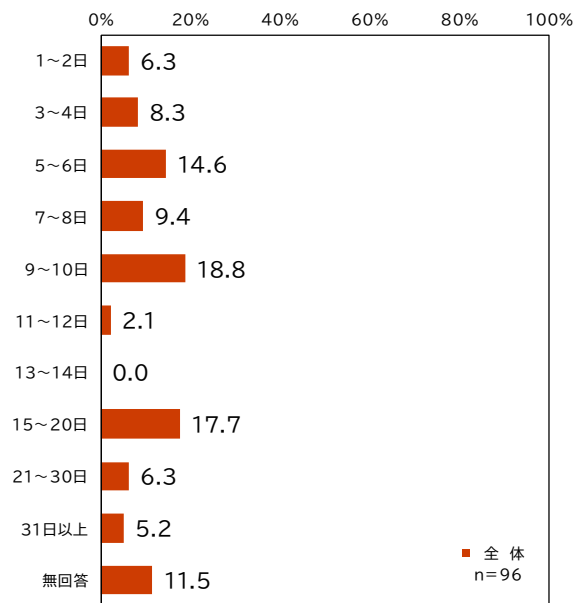
「母親が休んだ」と回答した人の日数



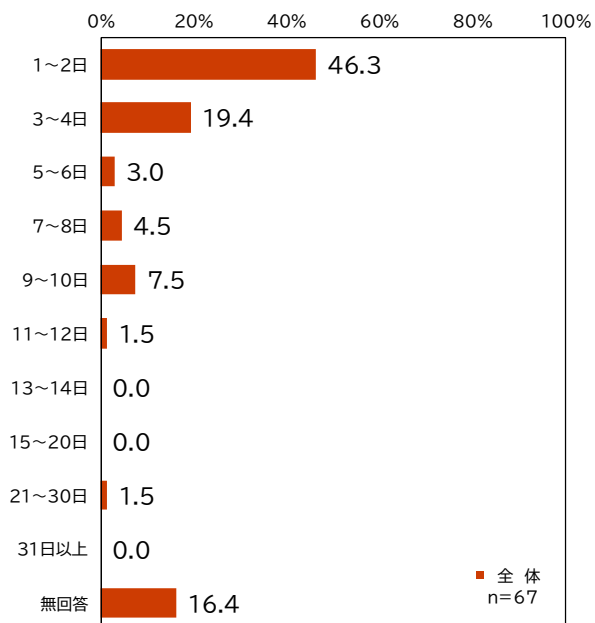
Ⅱ「(同居者を含む)親族・知人にこどもをみてもらった」と回答した人の日数



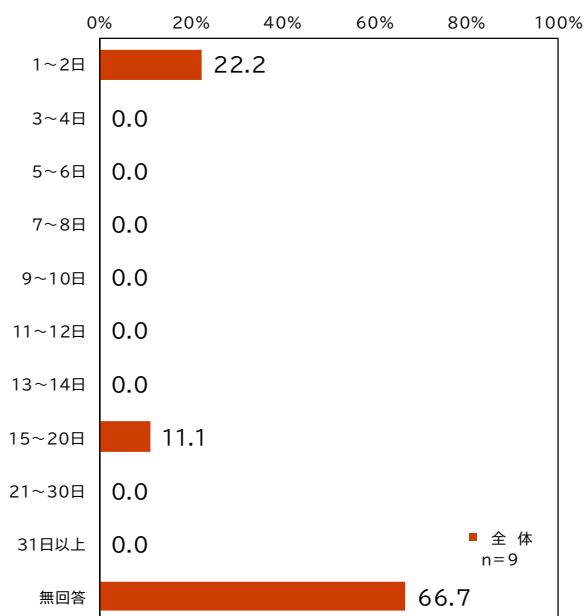
Ⅲ「父親または母親のうち就労していない方がこどもをみた」と回答した人の日数



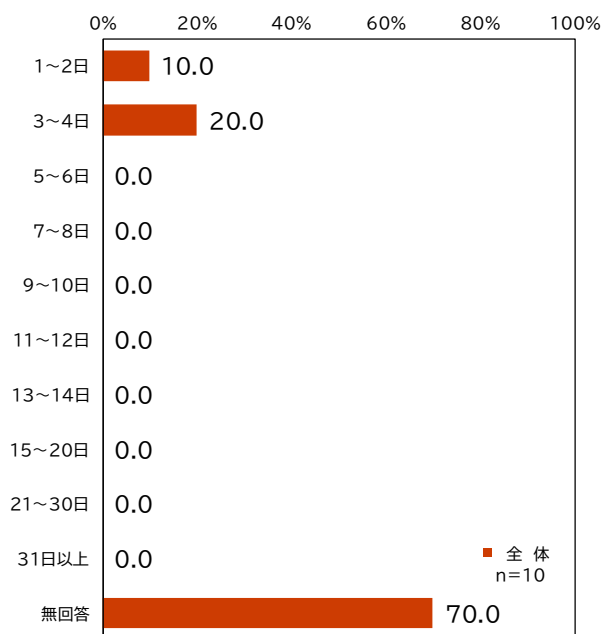
Ⅳ「病児・病後児保育を利用した」と回答した人の日数



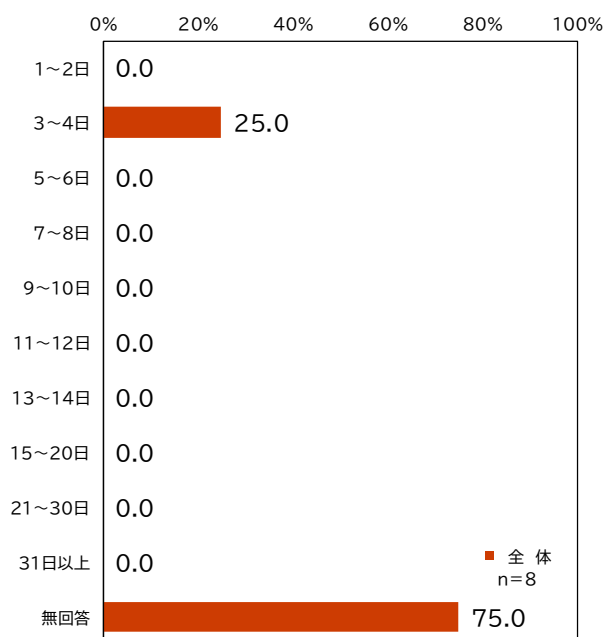
Ⅴ「ベビーシッターを利用した」と回答した人の日数



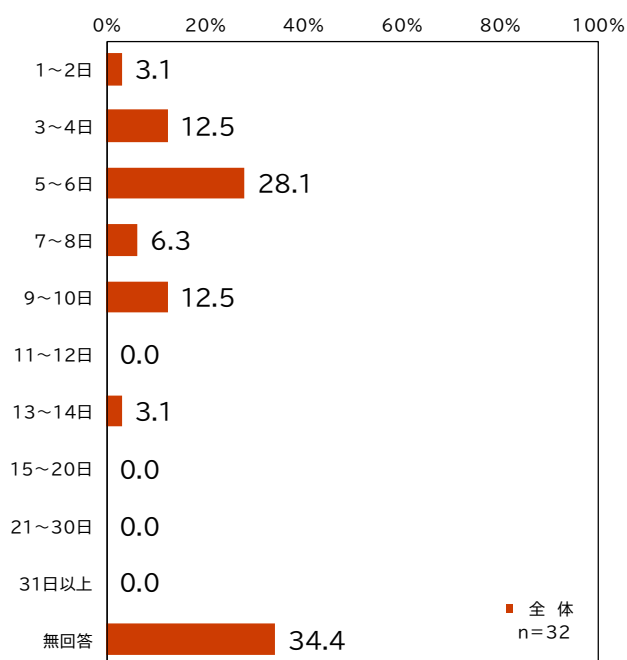
Ⅰ「ファミリー・サポート・センターを利用した」と回答した人の日数



Ⅱ「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」と回答した人の日数



Ⅲ「その他」と回答した人の日数



【その他】

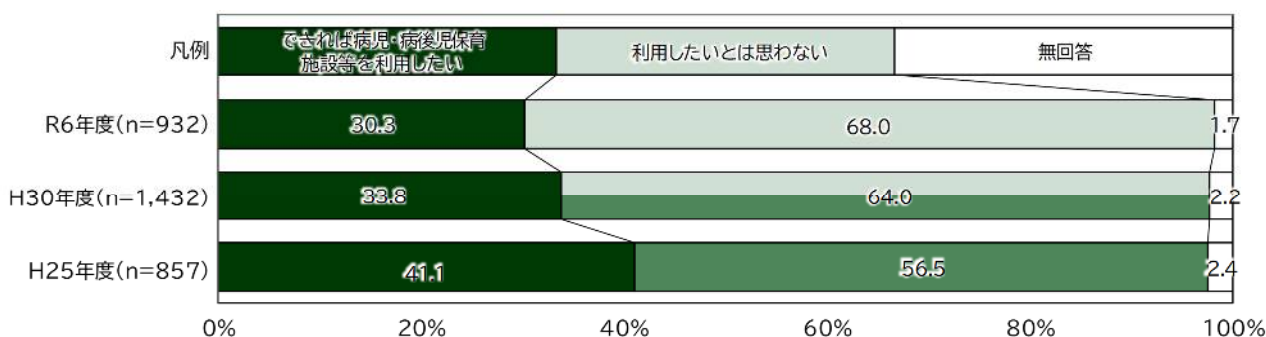
- ・施設にあずけた
- ・在宅勤務
- ・職場内併設病児保育を利用した
- ・熊本市の病児保育を利用した
- ・子連れで出勤した

問16-2で「①父親が休んだ」または「②母親が休んだ」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。

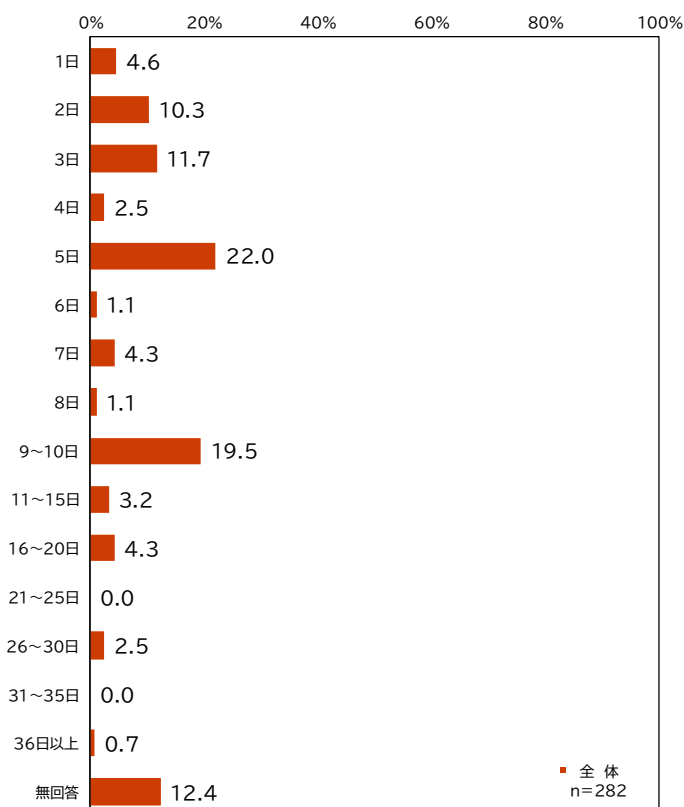
問16-3 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。(○は1つ)また、日数についても()内に数字でご記入ください。なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用者負担が発生し、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

こどもの病気やけがで通常の事業が利用できなかった経験を持つ父親または母親に聞いた病児・病後児保育施設の利用意向をみると、「利用したいと思わない」が68.0%で、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は30.3%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用したいと思わない」は4ポイント増加し、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は3.5ポイント減少している。

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の利用希望日数をみると、「5日」が22.0%で最も高く、次いで「9～10日」の19.5%、「3日」の11.7%となっている。



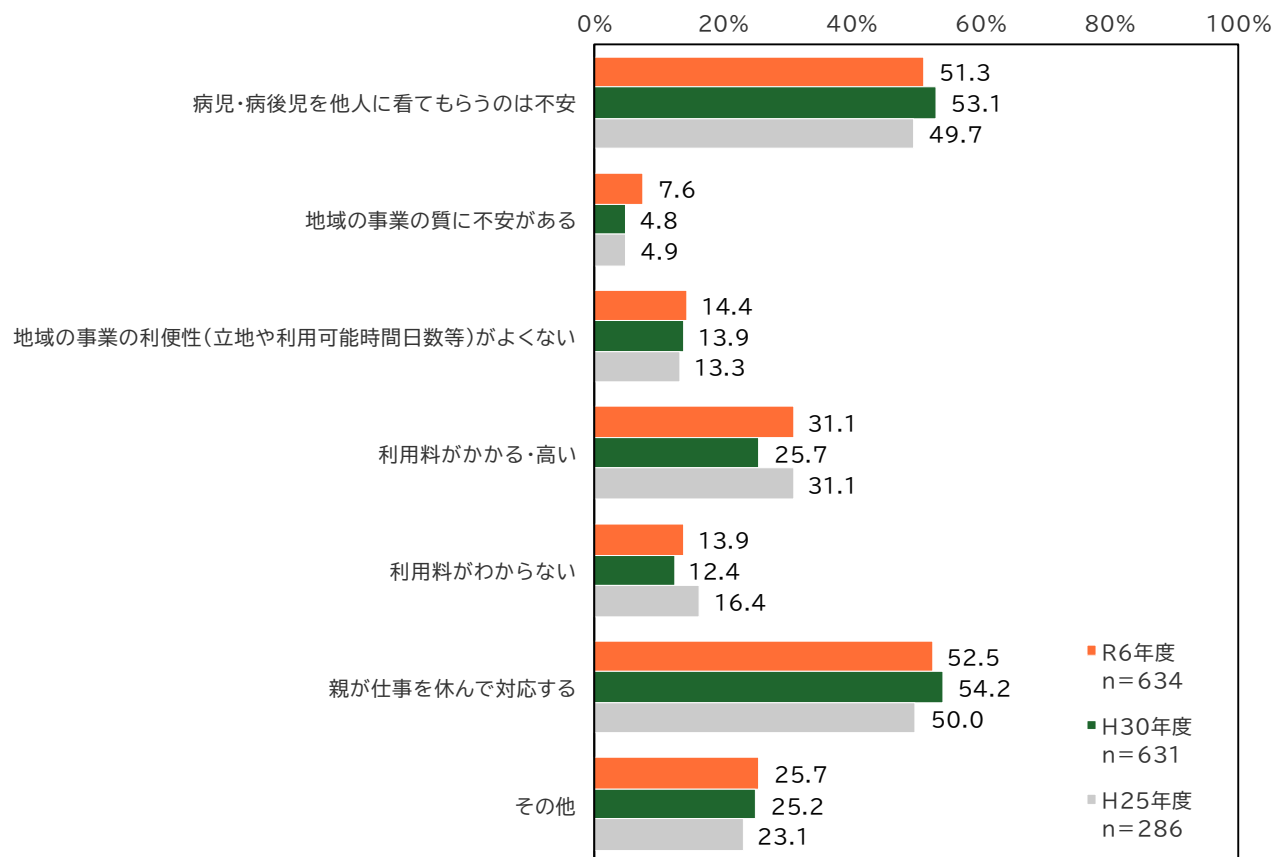
「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した人の日数



問16-3 で「2. 利用したいとは思わない」に○をつけた方にうかがいます。

問16-4 そう思われる理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

病児・病後児保育施設等を「利用したいとは思わない」と回答した人(634人)にそう思う理由を聞いたところ、「親が仕事を休んで対応する」が52.5%で最も高く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」の51.3%、「利用料がかかる・高い」の31.1%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用料がかかる・高い」は5.4ポイント、「地域の事業の質に不安がある」は2.8ポイント増加している。

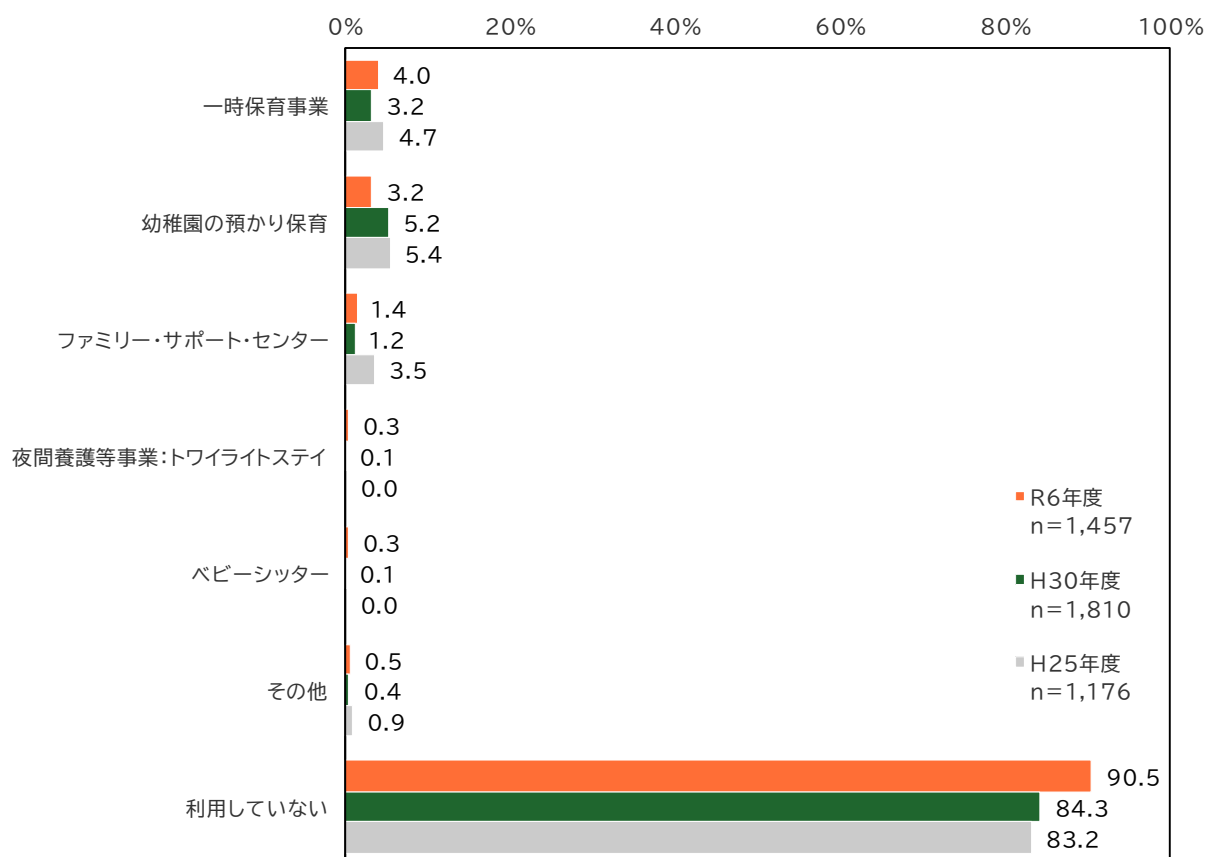


10. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

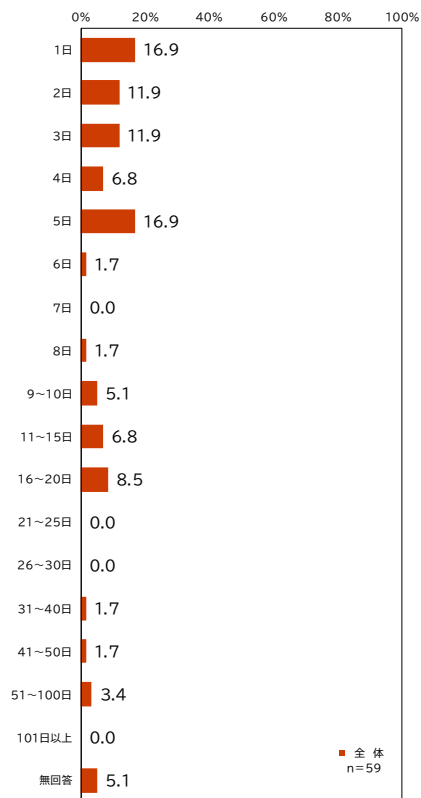
問17-1 宛名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期(宿泊を伴わない)に利用している事業はありますか。ある場合は、あてはまるものすべてに○をつけ、1年間の利用日数(おおよそ)も()内に数字でご記入ください。

日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期(宿泊を伴わない)に利用している事業をみると、「利用していない」が最も高く、90.5%を占めている。次いで、「一時保育事業」の4.0%、「幼稚園の預かり保育」の3.2%、「ファミリー・サポート・センター」の1.4%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「幼稚園の預かり保育」が2ポイント減少している。

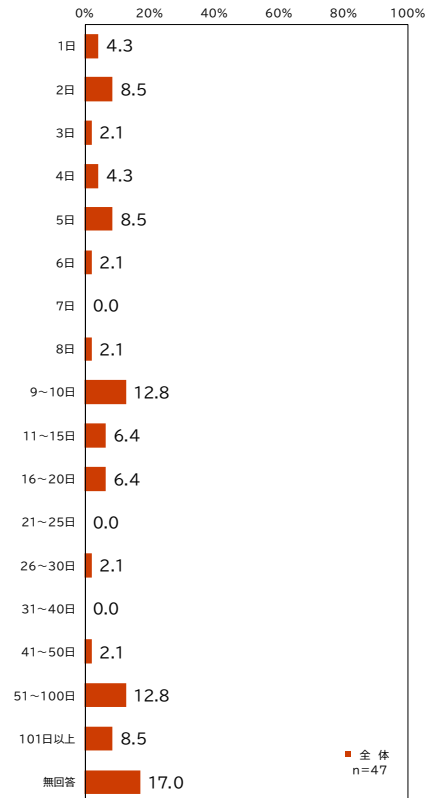
主な事業別に最も多い日数をみると、「一時保育事業」では「1日」と「5日」、「幼稚園の預かり保育」では「9～10日」と「51日～100日」、「ファミリー・サポート・センター」では「1日」、「夜間養護等事業：トワイライトステイ」では「1日」と「11日～15日」、「ベビーシッター」では「4日」と「31～40日」と「51～100日」となっている。



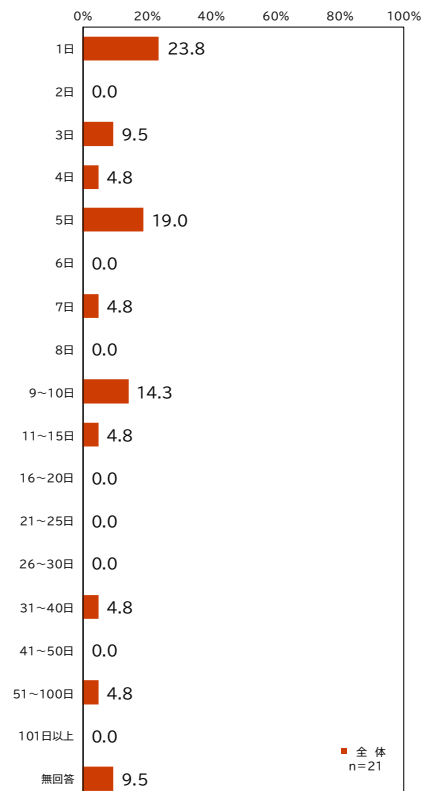
「一時保育事業」と回答した人の日数



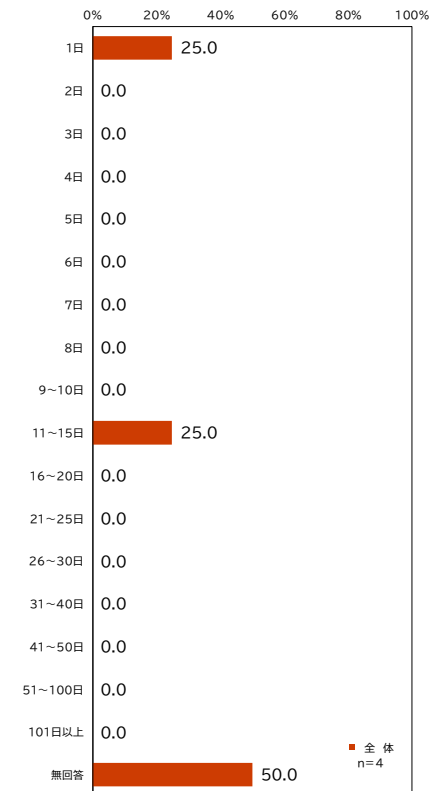
「幼稚園の預かり保育」と回答した人の日数



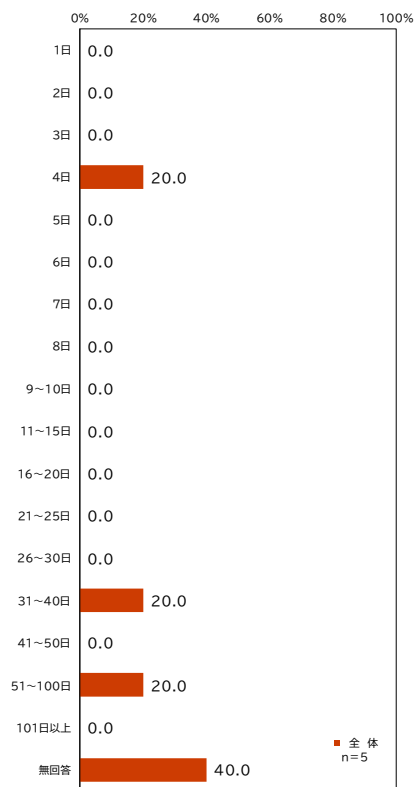
「ファミリー・サポート・センター」と回答した人の日数



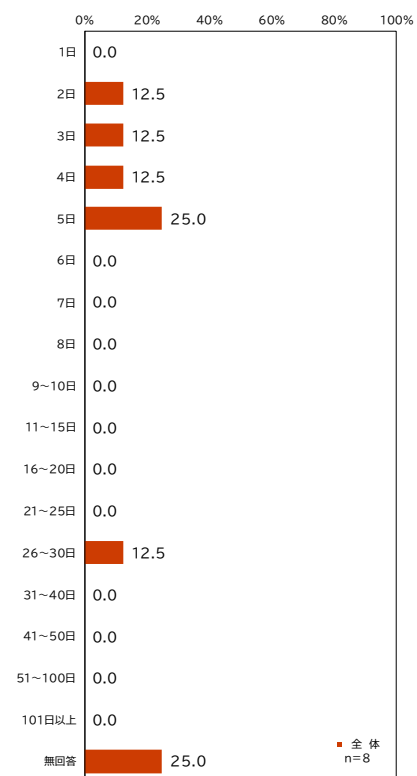
「夜間養護等事業:トワイライトステイ」と回答した人の日数



「ベビーシッター」と回答した人の日数



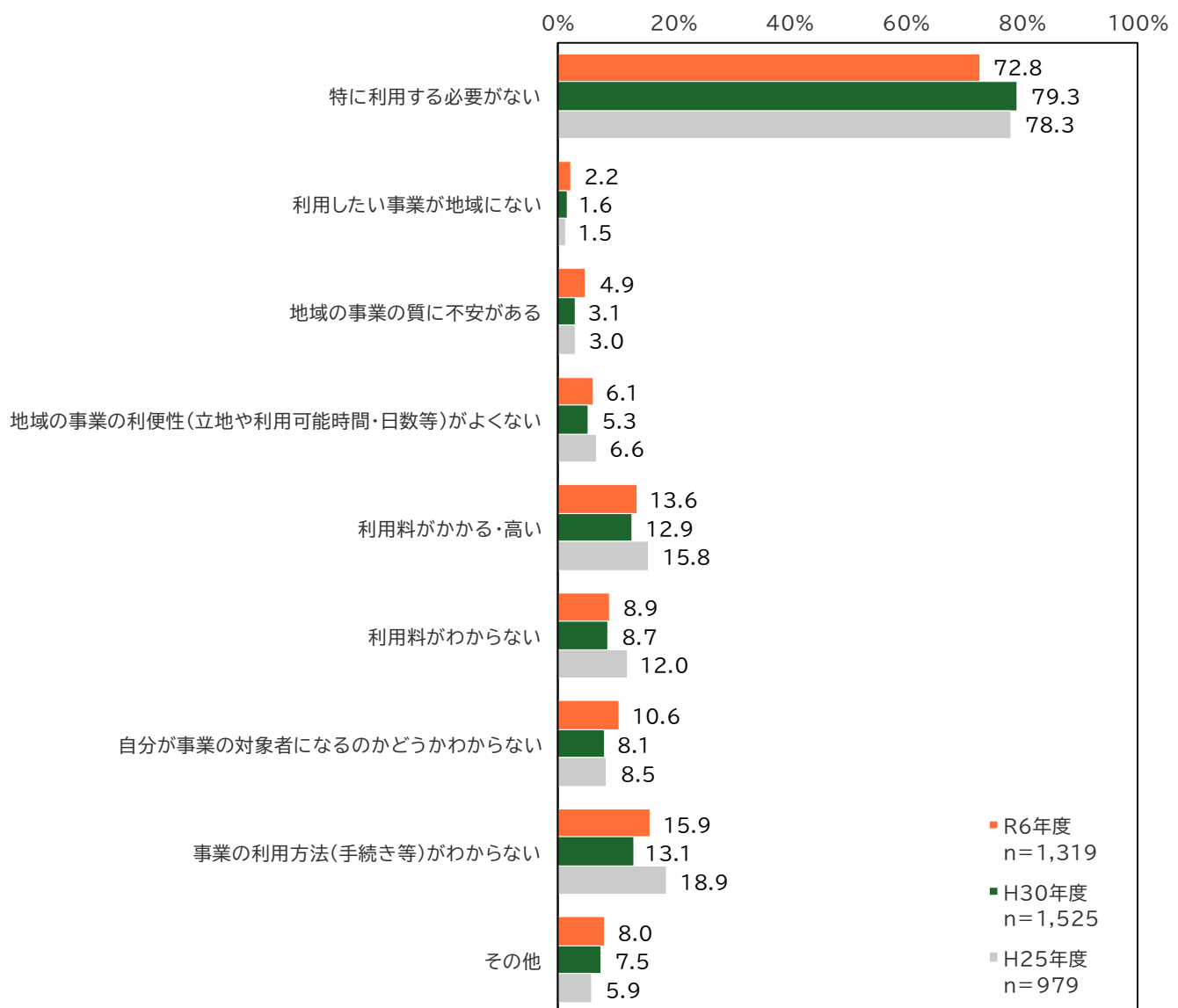
「その他」と回答した人の日数



問17-1 で「7. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

問17-2 現在利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

不定期的に利用している事業を「利用していない」と回答した人(1,319人)に現在利用していない理由を聞いたところ、「特に利用する必要がない」が最も高く72.8%を占めている。次いで「事業の利用方法(手続き等)がわからない」の15.9%、「利用料がかかる・高い」の13.6%、「自分が事業の対象者になるのかどうかかわからない」の10.6%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「特に利用する必要がない」は6.5ポイント減少し、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」は2.8ポイント、「自分が事業の対象者になるのかどうかかわからない」は2.5ポイントそれぞれ増加している。



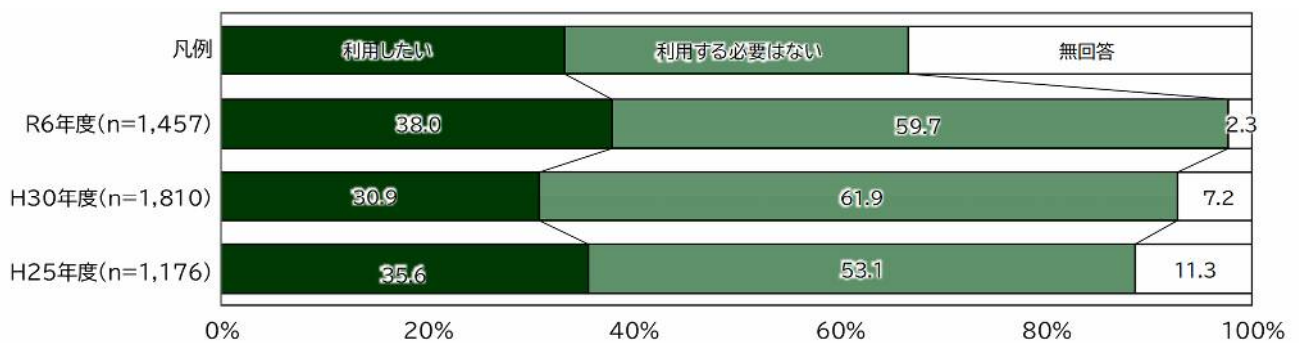
問18-1 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で、年間何日くらい一時保育事業等を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無についてあてはまるものすべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください。(利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を()内に数字でご記入ください。)

なお、事業の利用にあたっては、一定の利用者負担が発生します。

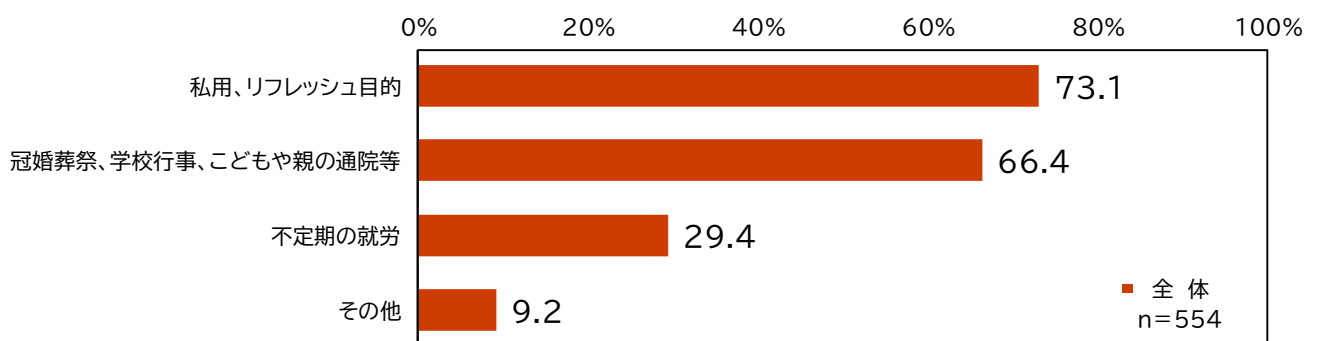
私用、親の通院、不特定の就労等の目的での一時保育事業等の利用意向をみると、「利用する必要がない」が59.7%で、「利用したい」は38.0%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用したい」は7.1ポイント増加している。

「利用したい」と回答した人の目的をみると、「私用(買物、こども(きょうだいを含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」が73.1%で最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、こども(きょうだいを含む)や親の通院等」の66.4%となっている。

利用目的別に最も高い利用希望日数をみると、「私用(買物、こども(きょうだいを含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」、「冠婚葬祭、学校行事、こども(きょうだいを含む)や親の通院等」、「不特定の就労」では「5～6日」が最も高くなっている。



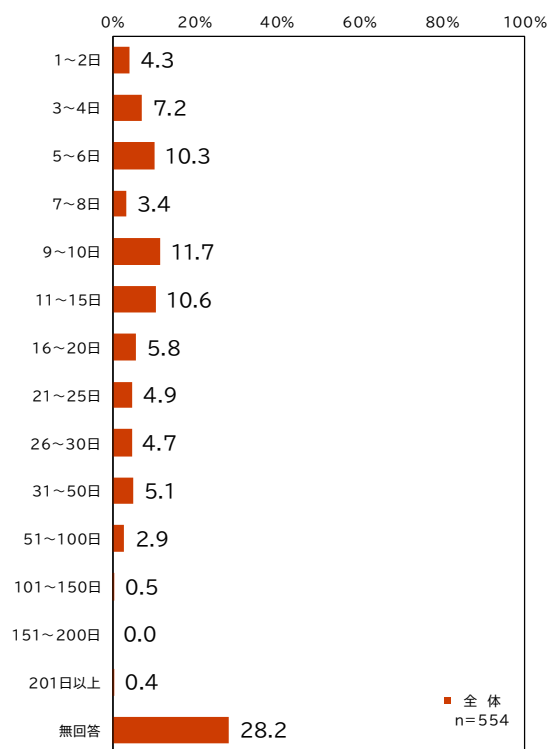
「利用したい」と回答した人の目的



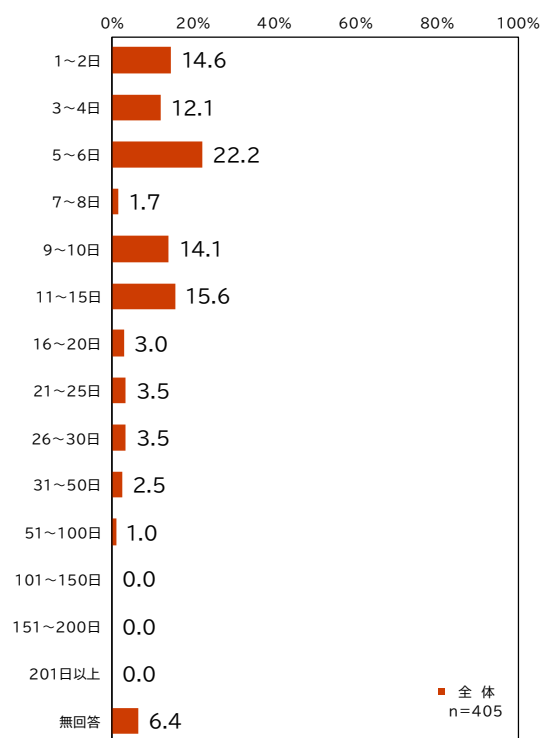
【その他】

- ・体調不良時
- ・就職活動、転職活動 など

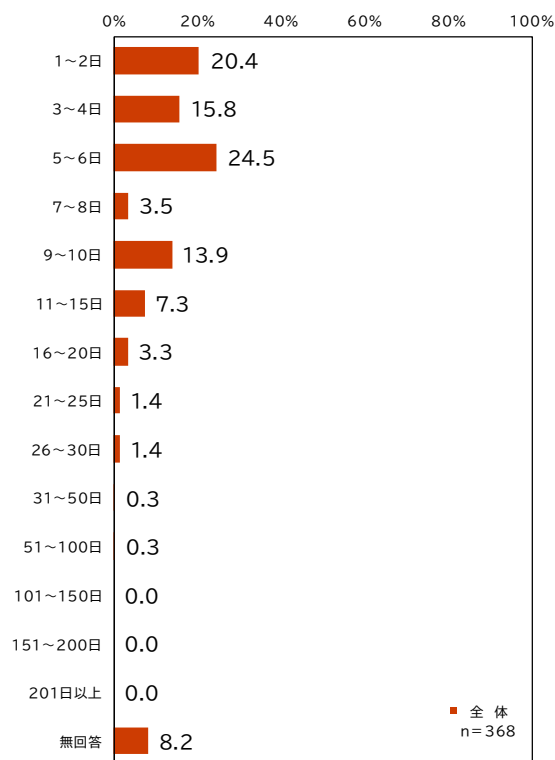
「利用したい」希望日数の合計



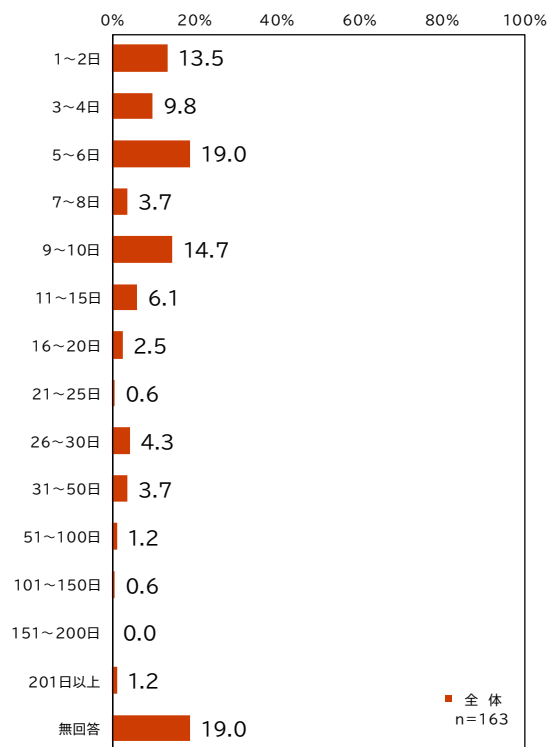
「私用(買物、こども(きょうだいを含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」の日数



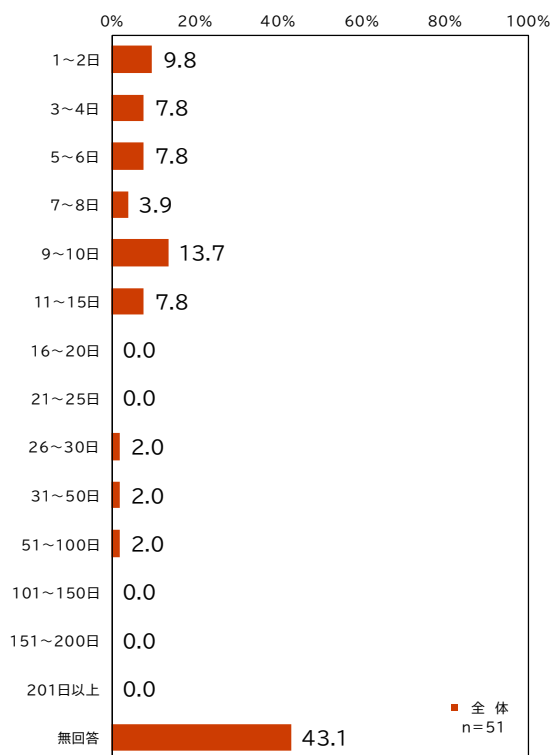
「冠婚葬祭、学校行事、こども(きょうだいを含む)や親の通院等」の日数



「不定期の就労」の日数



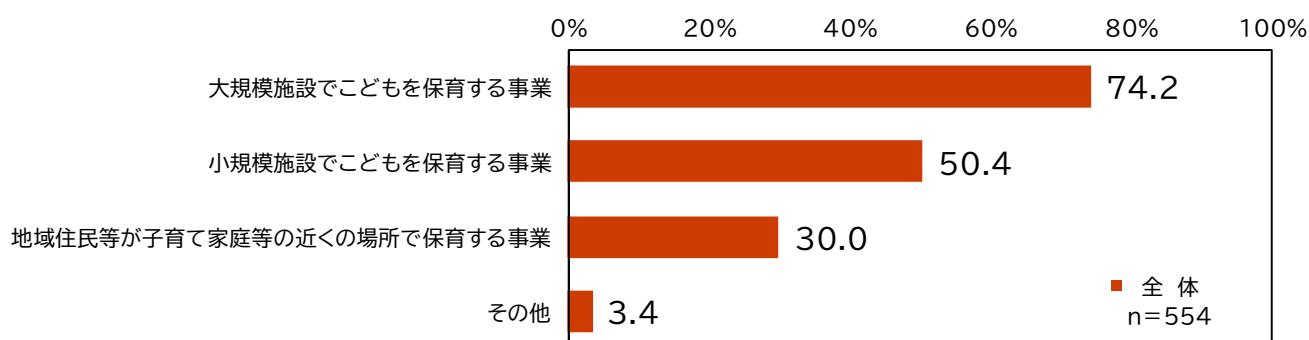
【「その他」の日数



問18-1 で「1. 利用したい」に○をつけた方にうかがいます。

問18-2 問18-1の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われる
 ですか。(あてはまるものすべてに○)

私用、親の通院、不定期の就労等の目的での一時保育事業等に対して望む事業形態をみると、「大規模施設でこどもを保育する事業」が74.2%で最も高く、次いで「小規模施設でこどもを保育する事業」の50.4%、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」の30.0%となっている。



問19 宛名のお子さんについて、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族(きょうだい含む)の育児疲れや育児不安、病気等)により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

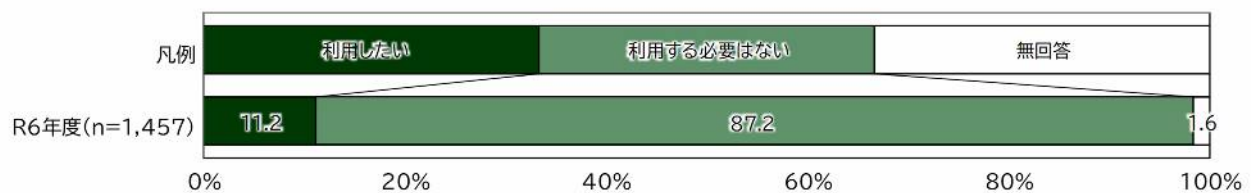
短期生活援助事業(ショートステイ)(児童養護施設等で一定期間、こどもを預かる事業)の利用希望の有無についてあてはまるものすべてに○をつけ、必要な泊数をご記入ください。(利用したい泊数の合計と、目的別の内訳の泊数を()内に数字でご記入ください。)

なお、事業の利用にあたっては、一定の利用者負担が発生します。

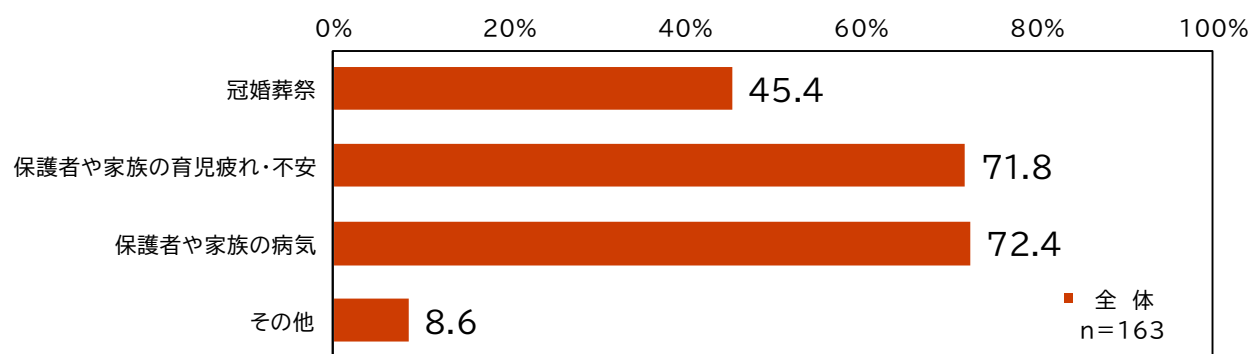
保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族(きょうだい含む)の育児疲れや育児不安、病気等)により、泊りがけで、短期生活援助事業(ショートステイ)(児童養護施設等で一定期間、こどもを預かる事業)の利用希望をみると、「利用する必要がない」が87.2%で、「利用したい」が11.2%となっている。

「利用したい」と回答した人の目的をみると、「保護者や家族の病気」が72.4%で最も高く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」の71.8%、「冠婚葬祭」の45.4%となっている。

利用目的別に最も高い利用希望日数をみると、「冠婚葬祭」では「1泊」、「保護者や家族の育児疲れ・不安」では「2泊」、「保護者や家族の病気」では「1泊」となっている。



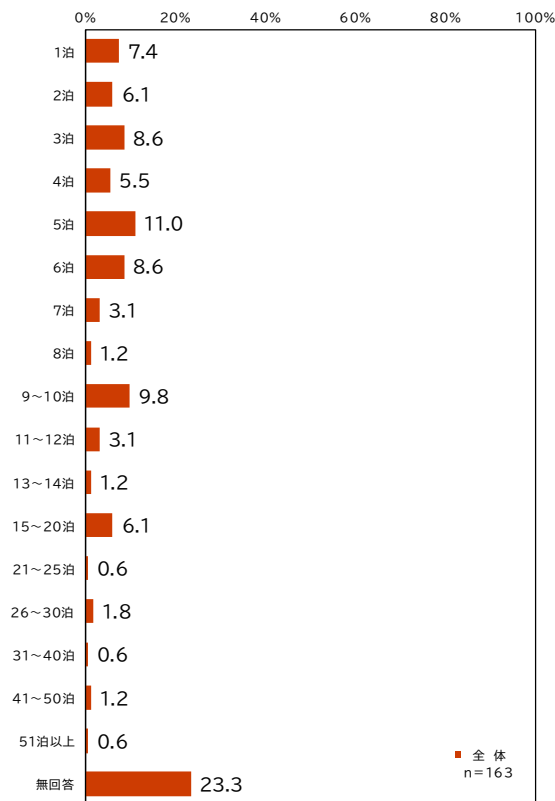
「利用したい」と回答した人の目的



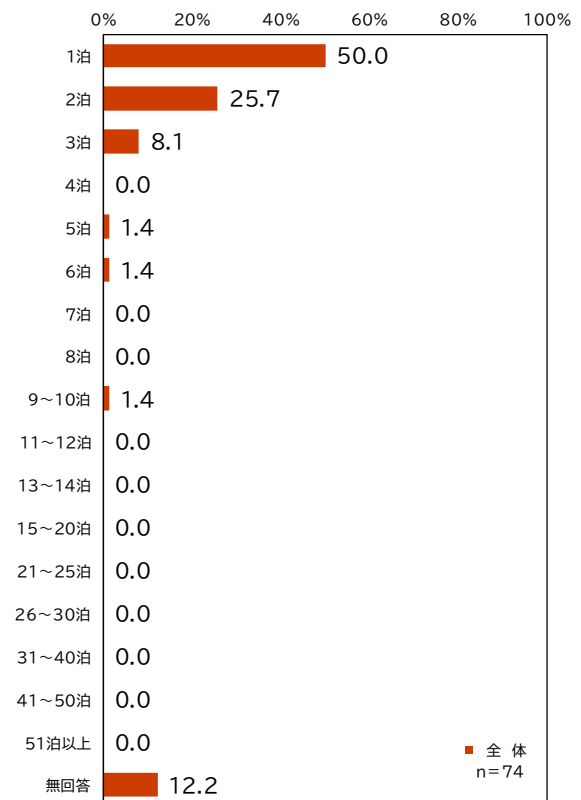
【その他】

- ・親の出張
- ・夜勤
- ・出産 など

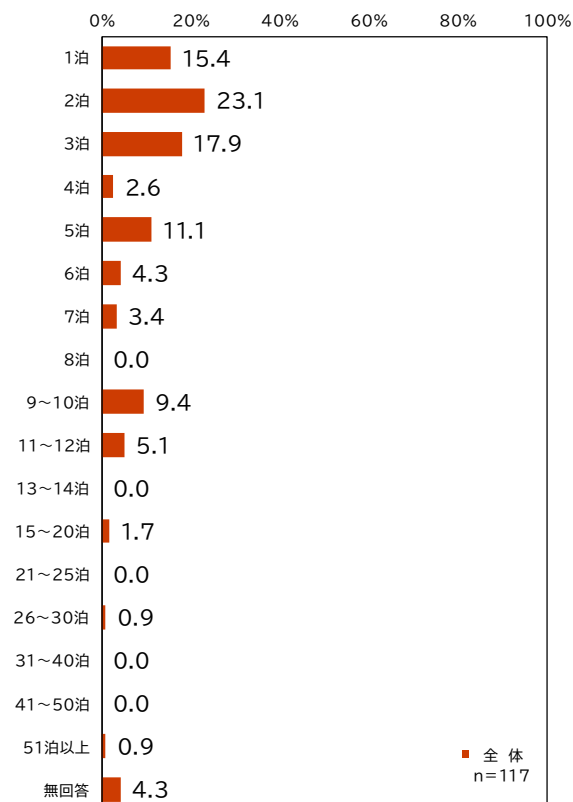
「利用したい」希望日数の合計



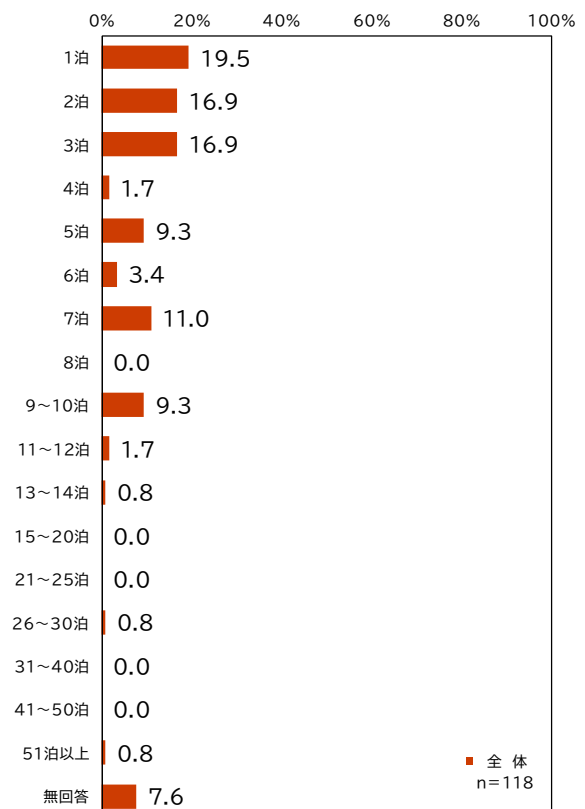
「冠婚葬祭」の日数



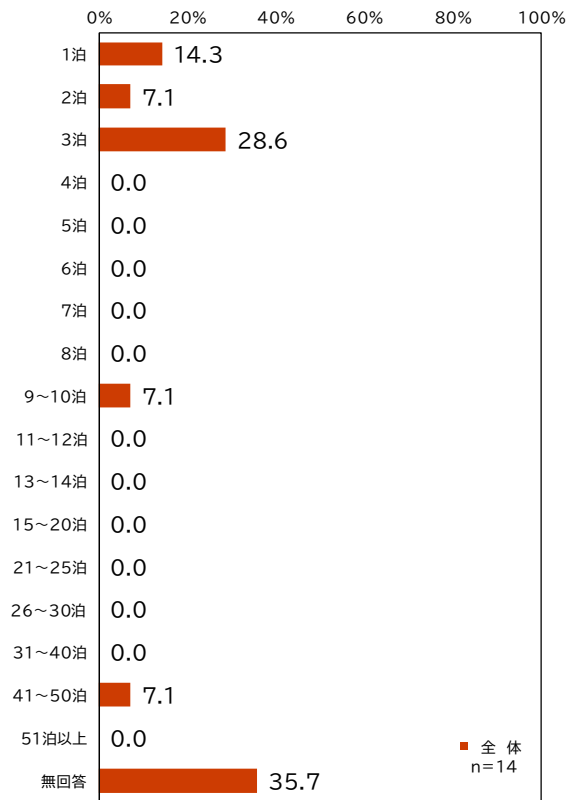
「保護者や家族の育児疲れ・不安」の日数



「保護者や家族の病気」の日数



「その他」の日数



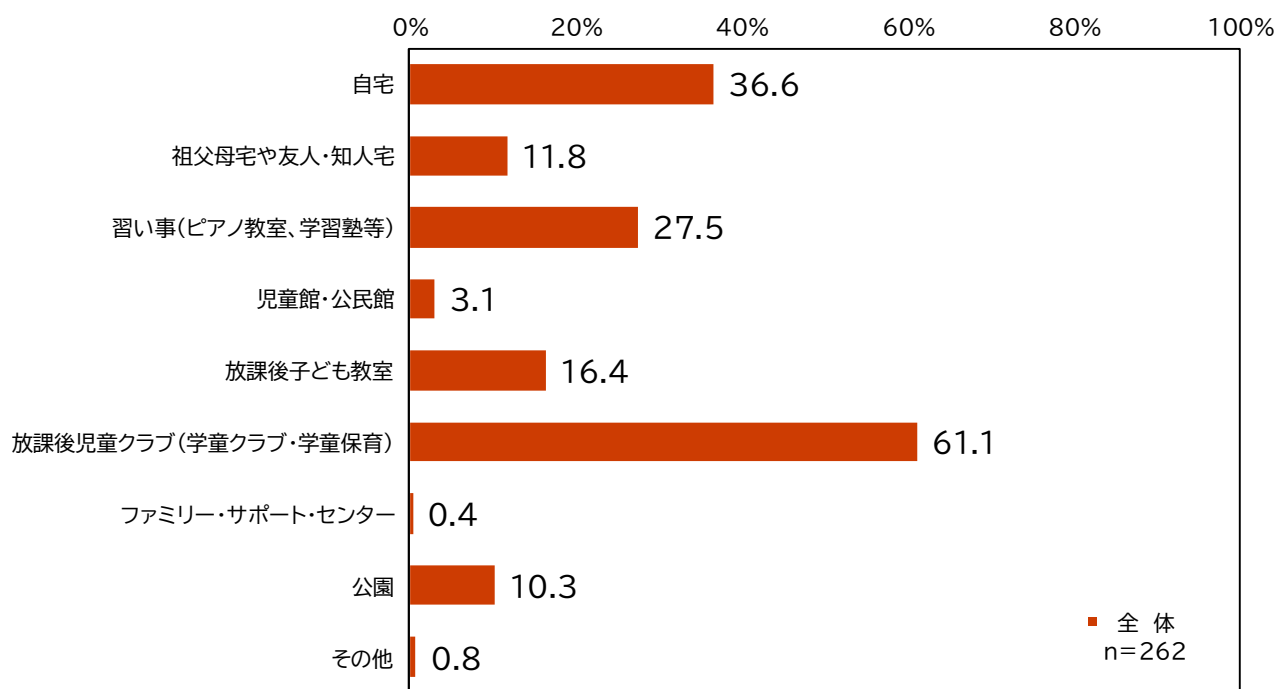
11. 小学校就学後の放課後の過ごし方について

問 20 宛名のお子さんについて、小学校低学年(1～3年生)のうちは、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけ、それぞれ希望する週当たり日数を数字でご記入ください。

また、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」の場合には、利用を希望する時間も()内に数字でご記入ください。時間は必ず(例:18時のように)24時間制でご記入ください。

こどもが小学校低学年になった際の過ごさせたい場所をみると、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」が61.1%で最も高く、次いで「自宅」の36.6%、「習い事(ピアノ教室、学習塾等)」の27.5%となっている。

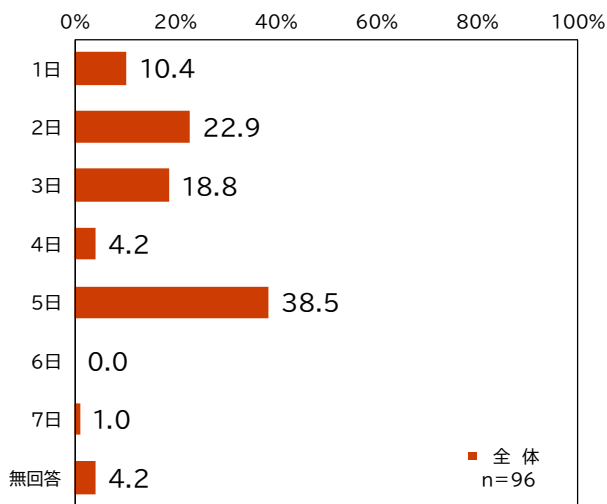
主な過ごさせたい場所別に最も多い希望日数をみると、「自宅」では「5日」、「祖父母宅や友人・知人宅」では「1日」、「習い事(ピアノ教室、学習塾等)」では「2日」、「児童館・公民館」では「1日」と「3日」、「放課後子ども教室」では「2日」、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」では「5日」、「ファミリー・サポート・センター」では「6日」、「公園」では「1日」と「3日」となっている。また、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」の下校時から何時までが希望かについては、「18時」が43.1%で最も高く、次いで「17時」の40.6%となっている。



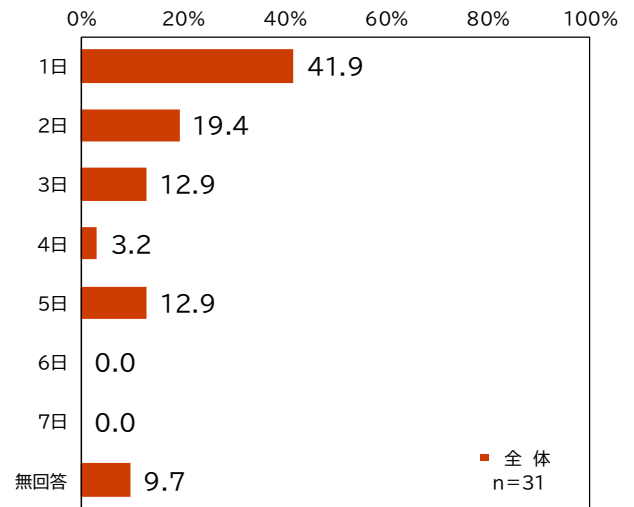
【その他】

・放課後デイサービス

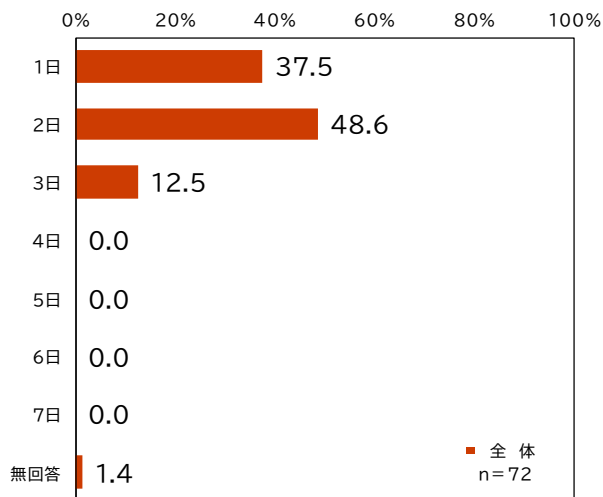
「自宅」と回答した人の日数



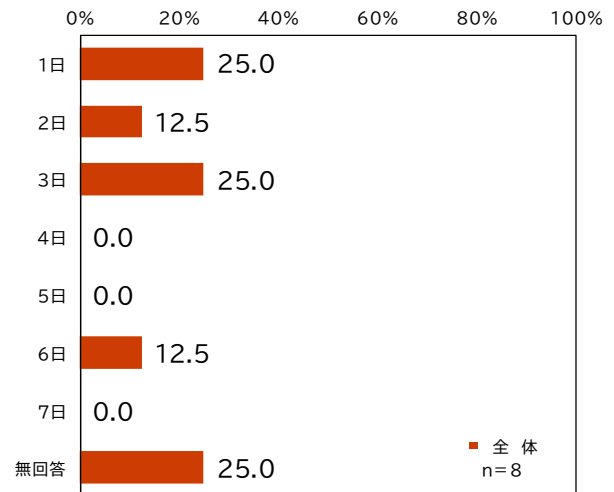
「祖父母宅や友人・知人宅」と回答した人の日数



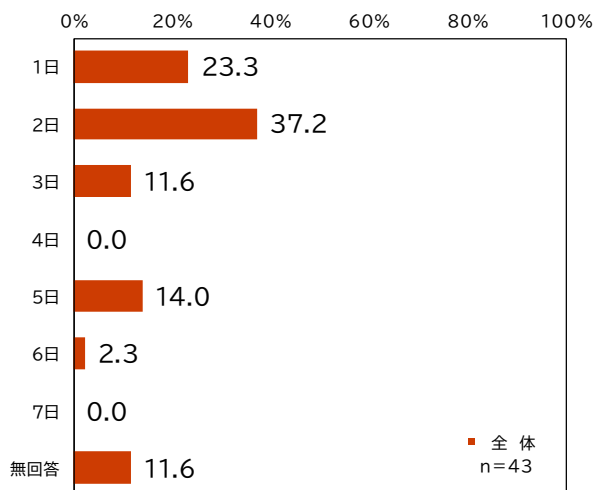
「習い事(ピアノ教室、学習塾等)」と回答した人の日数



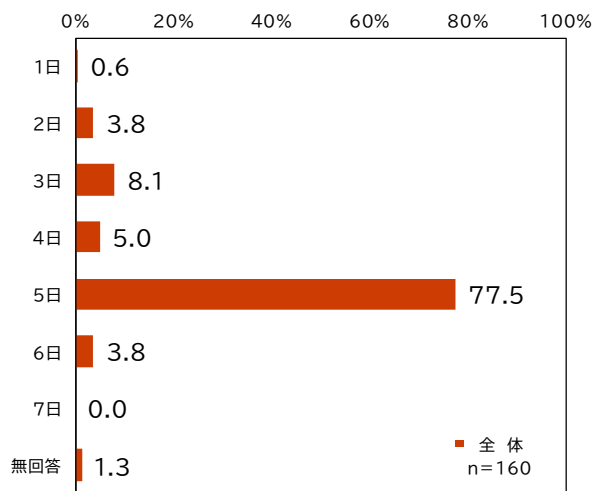
「児童館・公民館」と回答した人の日数



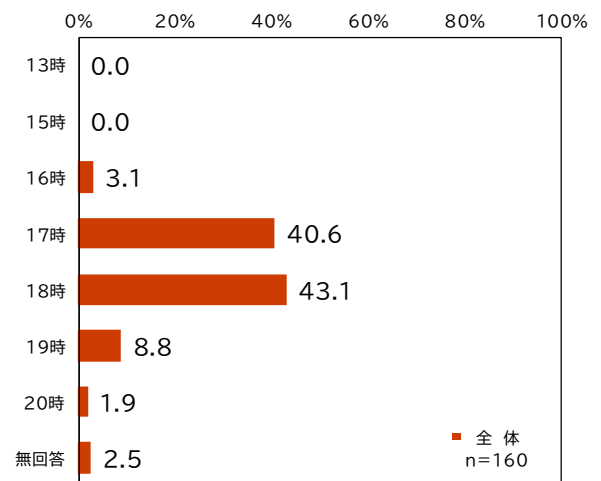
「放課後子ども教室」と回答した人の日数



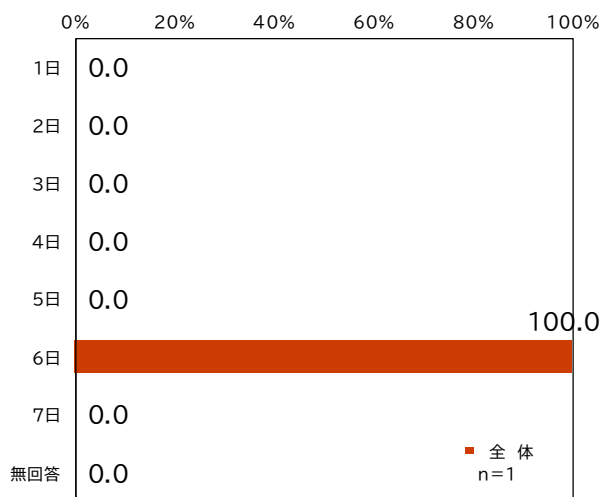
「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」と回答した人の日数



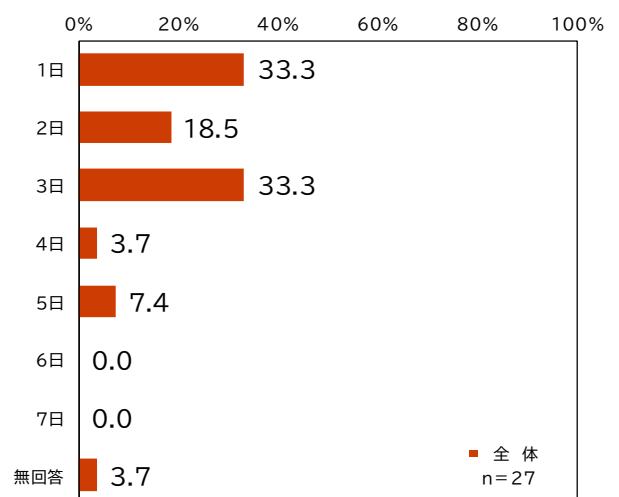
「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」と回答した人の下校時から何時まで



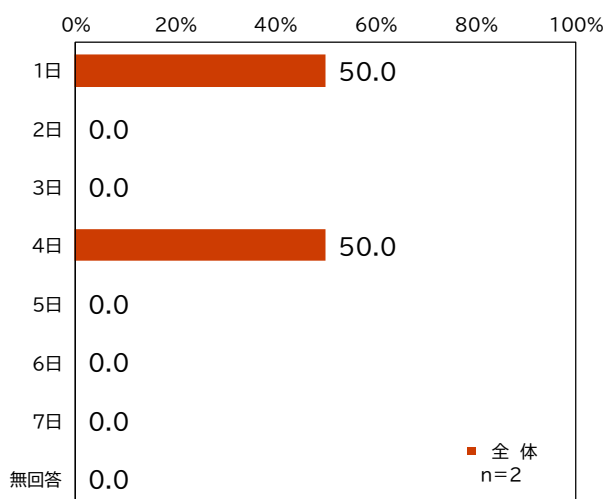
「ファミリー・サポート・センター」と回答した人の日数



「公園」と回答した人の日数



「その他」と回答した人の日数



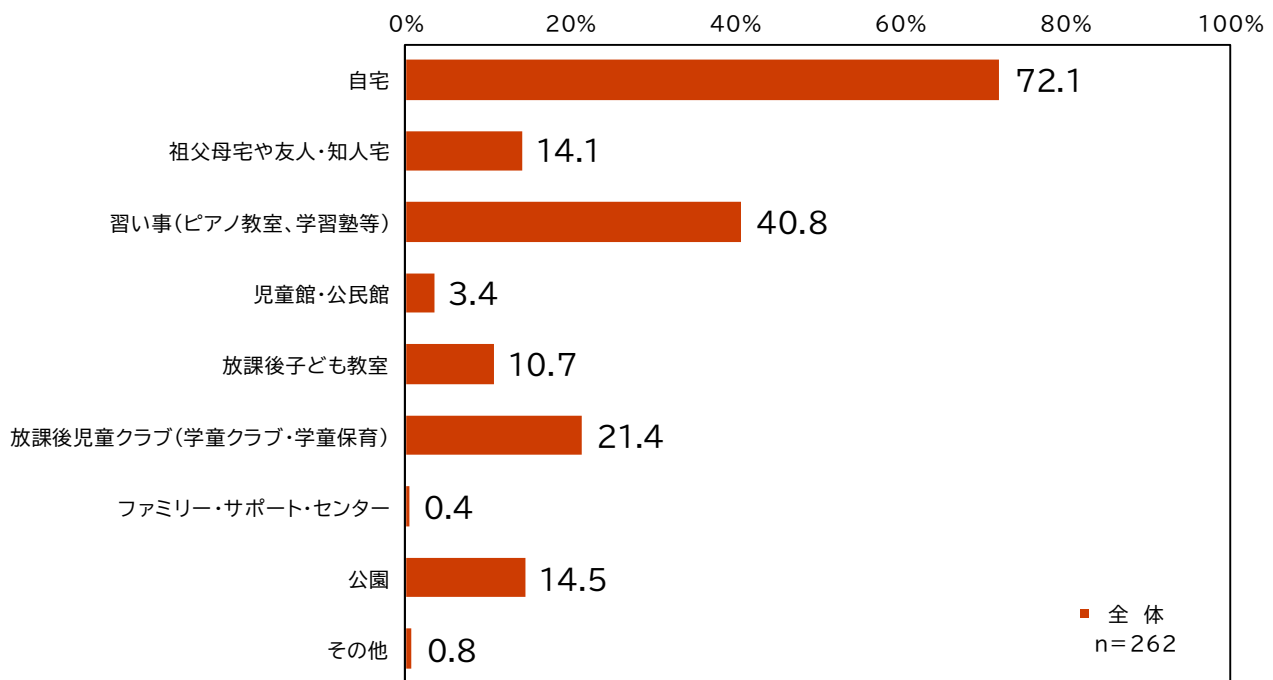
問21 宛名のお子さんについて、小学校高学年(4～6年生)になったら、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけ、それぞれ希望する週あたり日数を数字でご記入ください。

また、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」の場合には、利用を希望する時間も()内に数字でご記入ください。時間は、必ず(例:18時のように)24時間制でご記入ください。

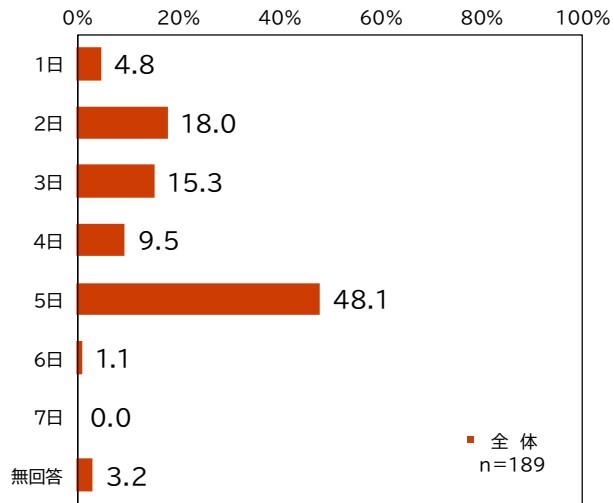
※だいたいのことになりますが、現在お持ちのイメージでお答えください。

こどもが小学校高学年になった際の過ごさせたい場所をみると、「自宅」が72.1%で最も高く、次いで「習い事(ピアノ教室、学習塾等)」の40.8%、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」の21.4%となっている。

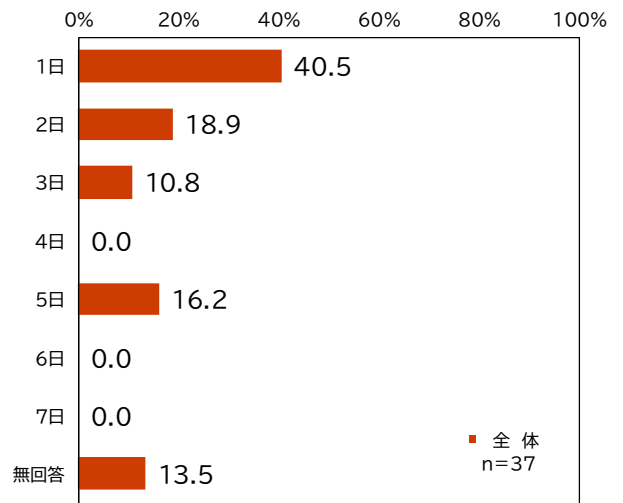
主な過ごさせたい場所別に最も多い希望日数をみると、「自宅」では「5日」、「祖父母宅や友人・知人宅」では「1日」、「習い事(ピアノ教室、学習塾等)」では「2日」、「児童館・公民館」では「1日」と「2日」、「放課後子ども教室」では「2日」、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」では「5日」、「ファミリー・サポート・センター」では「6日」、「公園」では「1日」となっている。また、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」の下校時から何時までが希望かについては、「18時」が50.0%で最も高く、次いで「17時」の23.2%となっている。



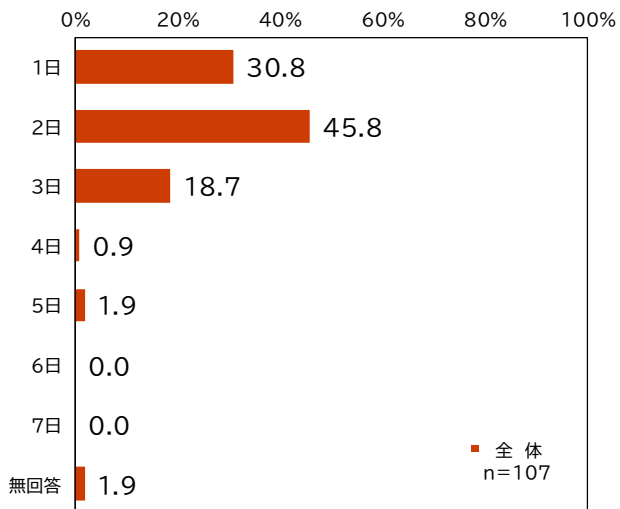
「自宅」と回答した人の日数



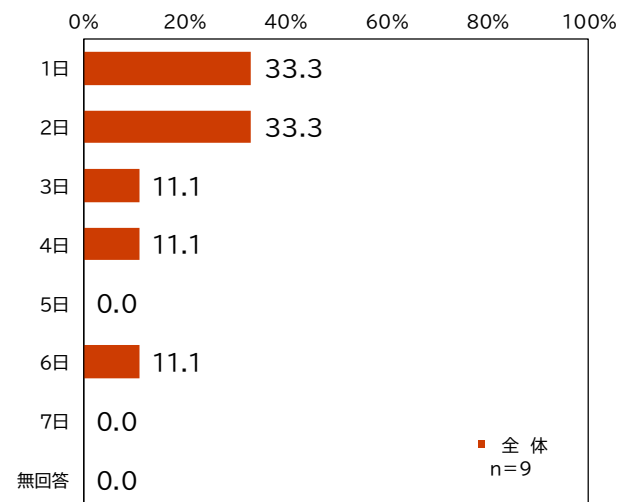
「祖父母宅や友人・知人宅」と回答した人の日数



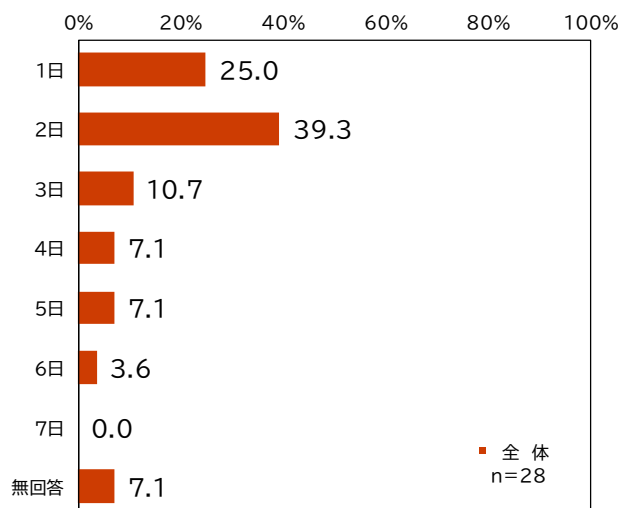
「習い事(ピアノ教室、学習塾等)」と回答した人の日数



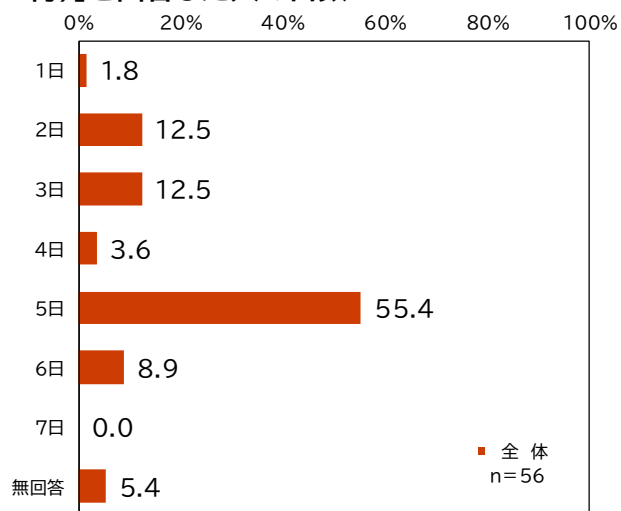
「児童館・公民館」と回答した人の日数



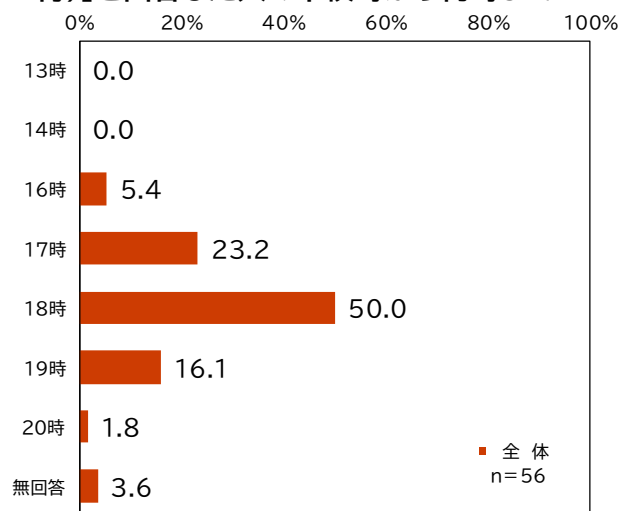
「放課後子ども教室」と回答した人の日数



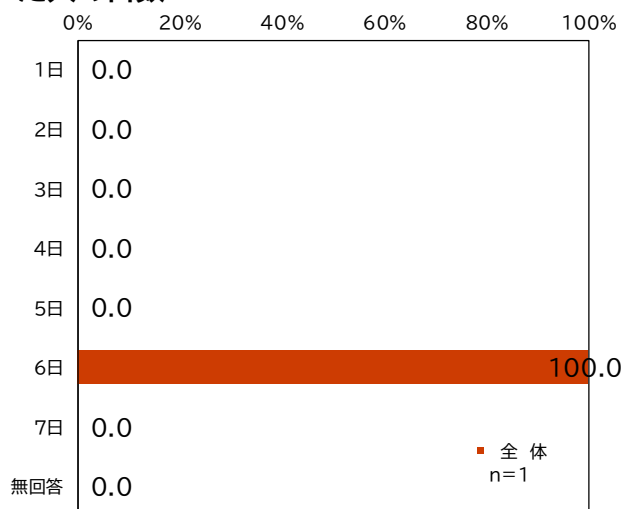
【「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」と回答した人の日数



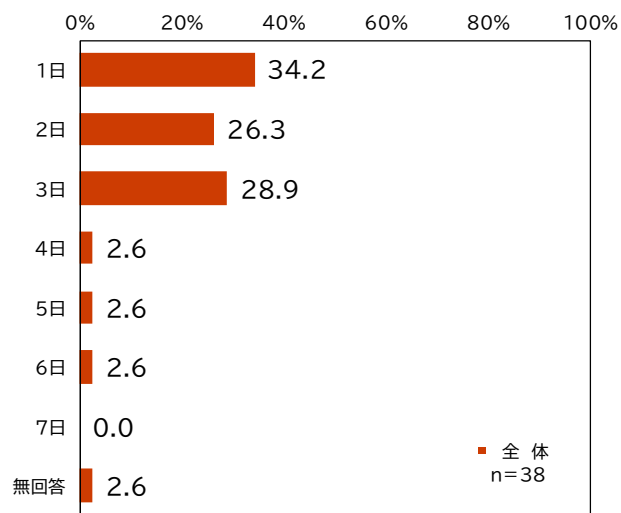
【「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」と回答した人の下校時から何時まで



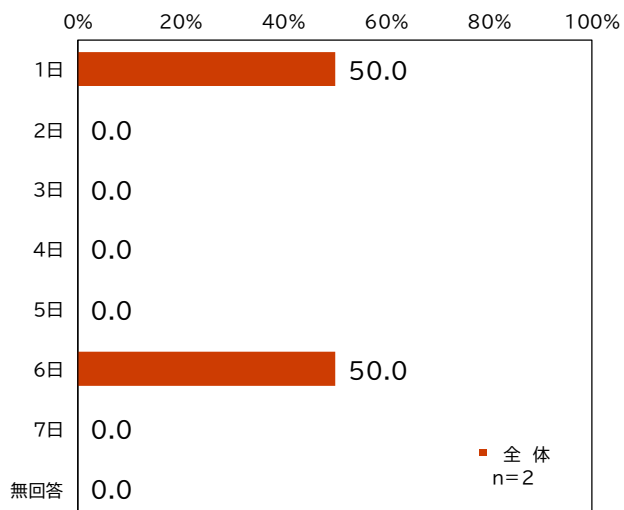
【「ファミリー・サポート・センター」と回答した人の日数



【「公園」と回答した人の日数



【「その他」と回答した人の日数

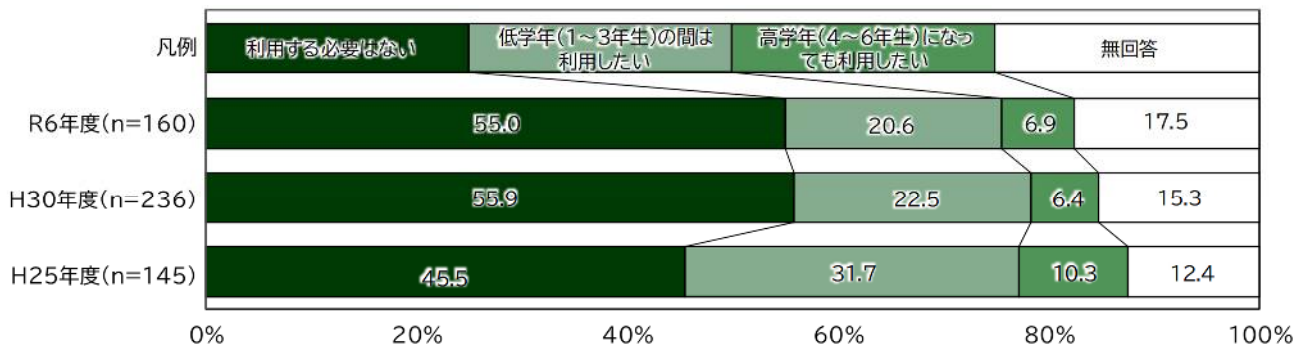


問20 または問21 で「6. 放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」に○をつけた方にうかがいます。
 問22 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)の利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。(①②それぞれ○は1つ)
 また利用したい時間帯を、()内に(例:09時～18時のように)24時間制でご記入ください。

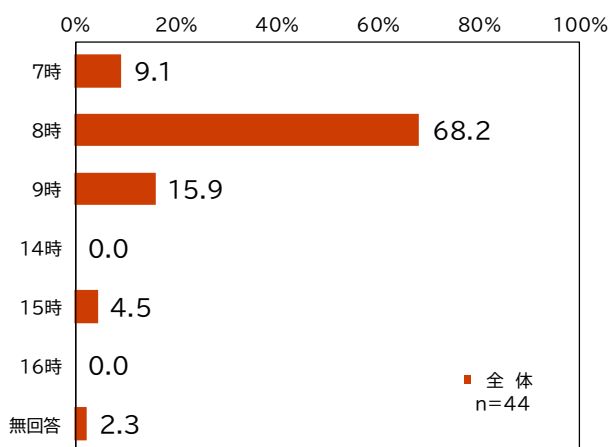
①土曜日

土曜日の放課後児童クラブの利用希望をみると、「利用する必要はない」が55.0%で最も高く、次いで「低学年(1～3年生)の間は利用したい」の20.6%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」の6.9%となっている。平成30年度調査の結果と比較しても大きな変化は認められない。

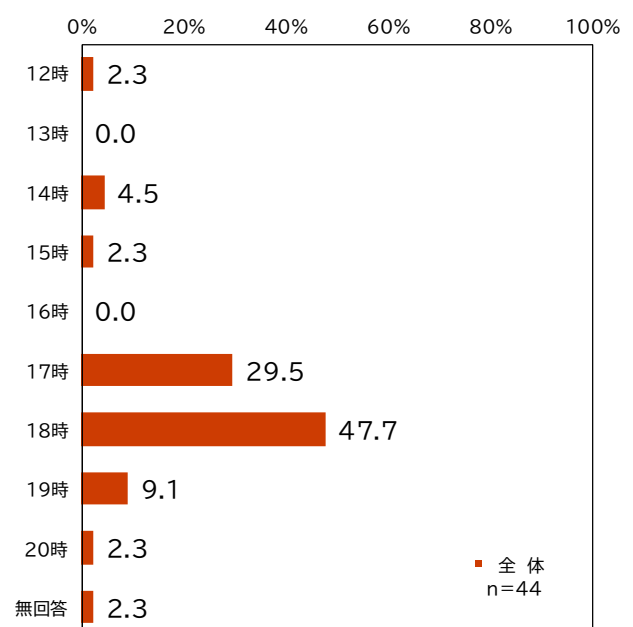
放課後児童クラブを利用したい時間帯で利用希望開始時間をみると、「8時」の68.2%が最も高く、次いで「9時」の15.9%となっている。同じく終了時間をみると、「18時」の47.7%が最も高く、次いで「17時」の29.5%、「19時」の9.1%となっている。



「放課後児童クラブ」の開始希望時間



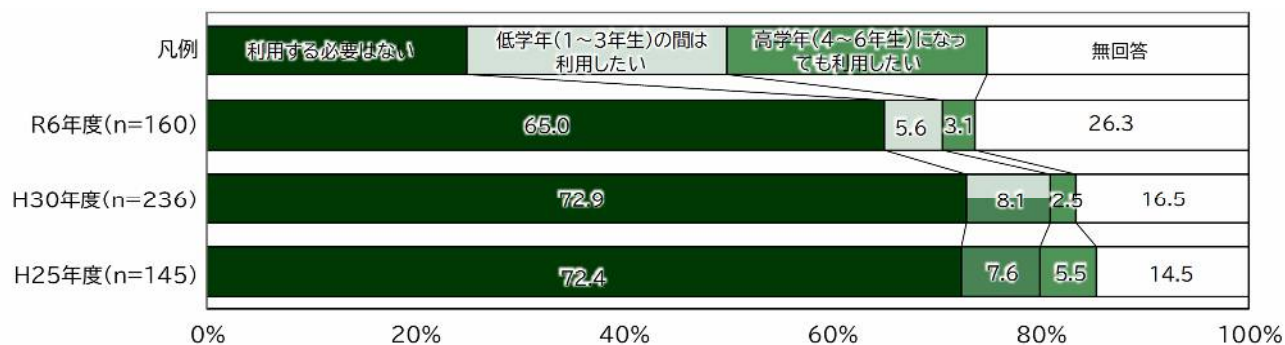
「放課後児童クラブ」の終了希望時間



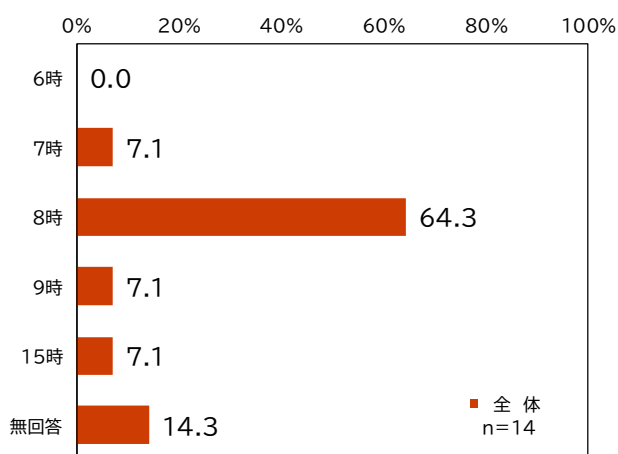
②日曜日・祝日

日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望をみると、「利用する必要はない」が65.0%で最も高く、次いで「低学年(1～3年生)の間は利用したい」の5.6%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」の3.1%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用する必要はない」は7.9ポイント、「低学年(1～3年生)になっても利用したい」は2.5ポイント減少している。

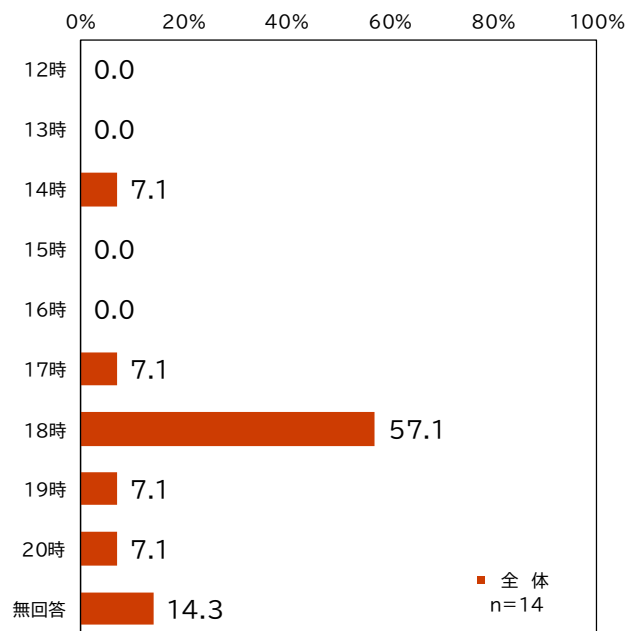
放課後児童クラブを利用したい時間帯で利用希望開始時間をみると、「8時」が64.3%で最も高く、次いで「7時」、「9時」、「15時」の7.1%となっている。同じく終了時間をみると、「18時」の57.1%が最も高く、次いで「14時」、「17時」、「19時」、「20時」の7.1%となっている。



「放課後児童クラブ」の開始希望時間



「放課後児童クラブ」の終了希望時間

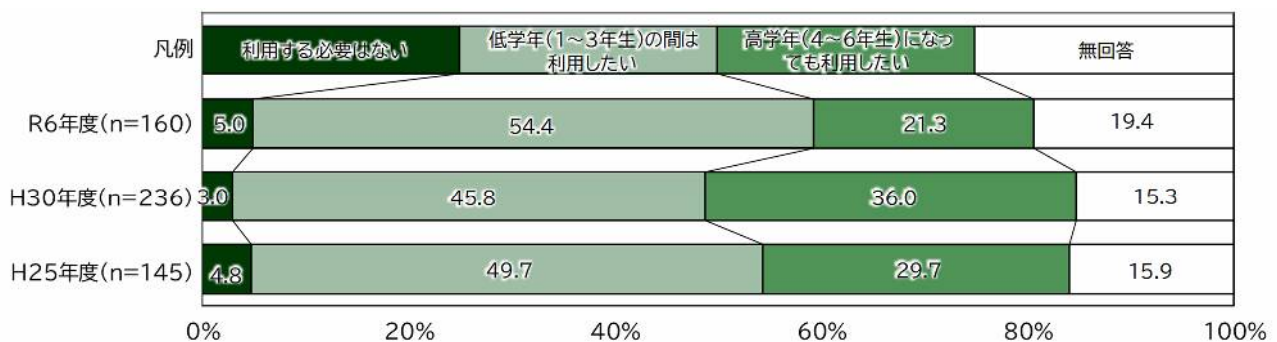


問23 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休み等の長期の休暇期間中の放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)の利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。(〇は1つ)

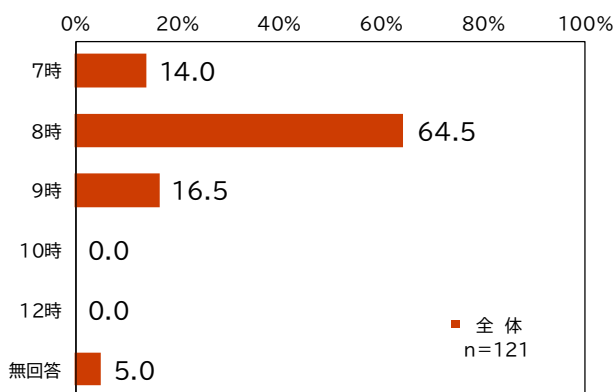
また利用したい時間帯を、()内に(例:09時～18時のように)24時間制でご記入ください。

長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望をみると、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が54.4%で最も高く、次いで「高学年(4～6年生)になっても利用したい」の21.3%、「利用する必要はない」の5.0%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が8.6ポイント増加し、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が14.7ポイント減少している。

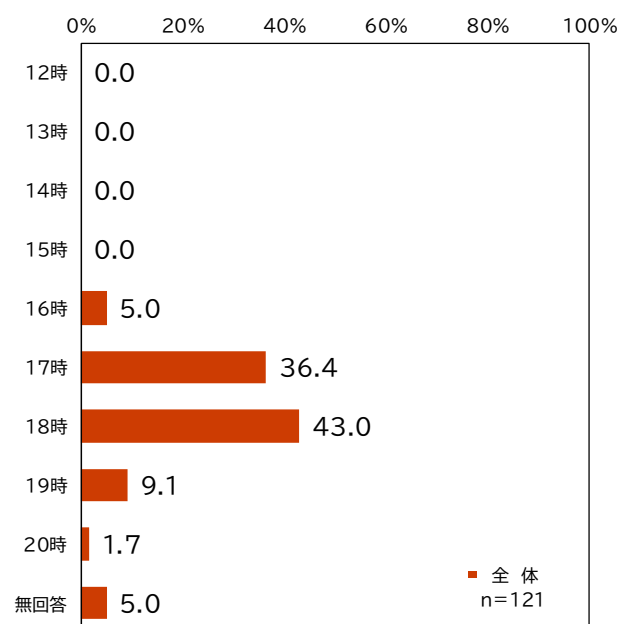
放課後児童クラブを利用したい時間帯で利用希望開始時間をみると、「8時」が64.5%で最も高く、次いで「9時」の16.5%、「7時」の14.0%となっている。同じく終了時間をみると、「18時」の43.0%が最も高く、次いで「17時」の36.4%、「19時」の9.1%となっている。



「放課後児童クラブ」の開始希望時間



「放課後児童クラブ」の終了希望時間

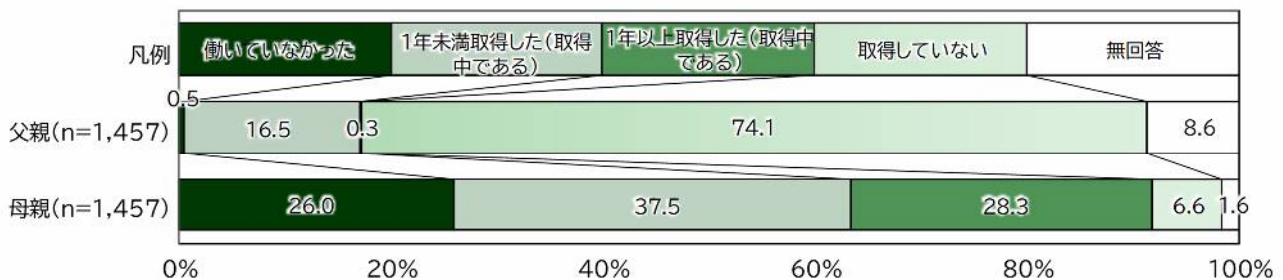


12. 育児休業や短時間勤務制度等職場の 両立支援制度について

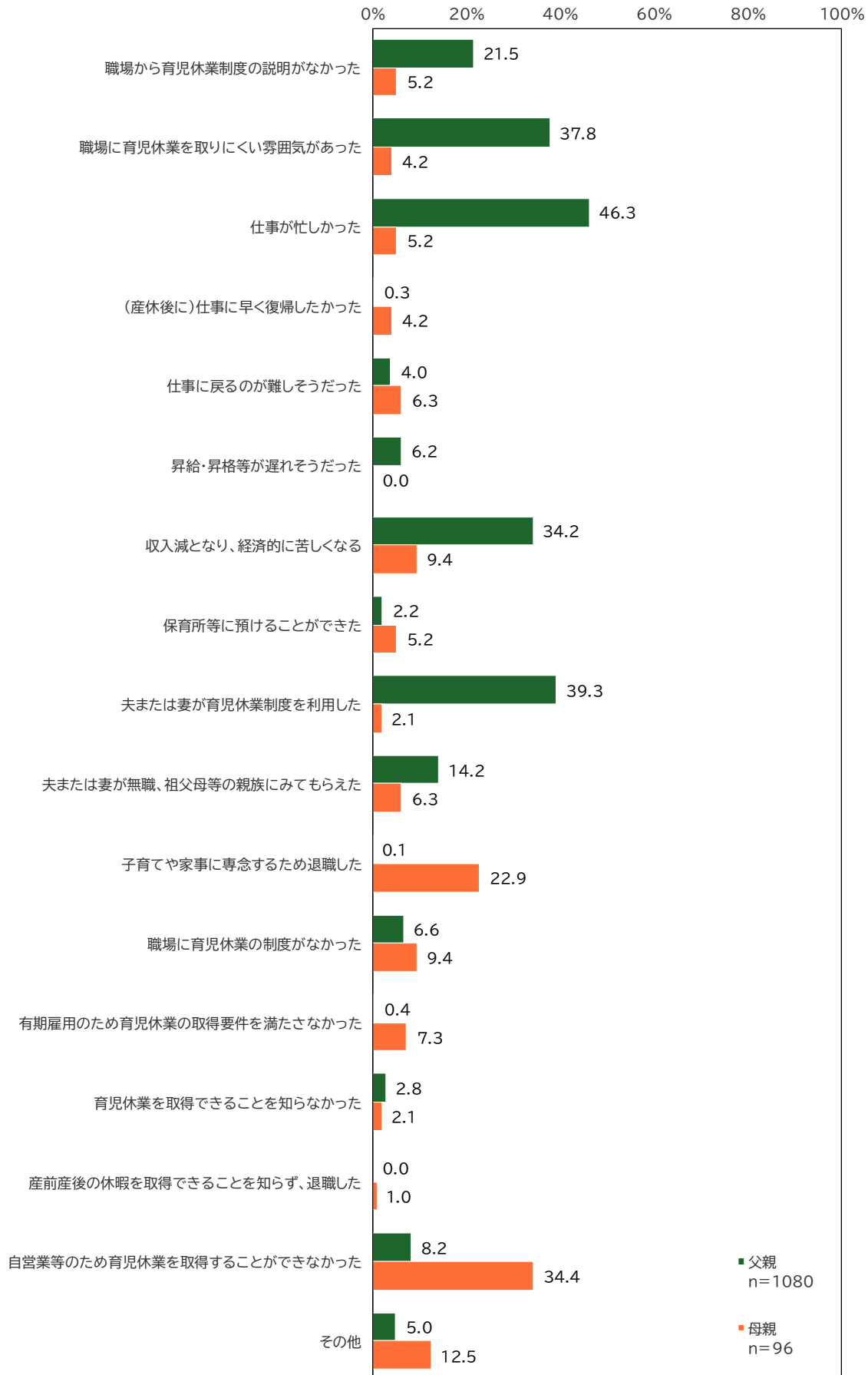
問24-1 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。
(それぞれ○は1つ)また、取得していない方はその理由をお答えください。

保護者の育児休業の取得状況をみると、父親では「取得していない」が最も高く74.1%を占め、次いで「1年未満取得した(取得中である)」の16.5%、「働いていなかった」の0.5%となっている。一方、母親では「1年未満取得した(取得中である)」が37.5%で最も高く、次いで「1年以上取得した(取得中である)」の28.3%、「働いていなかった」の26.0%となっており、「取得していない」は6.6%となっている。

取得していない理由(複数回答)をみると、父親は「仕事が忙しかった」が46.3%で最も高く、次いで「妻が育児休業制度を利用した」の39.3%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」の37.8%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」の34.2%となっている。一方、母親では「自営業等のため育児休業を取得することができなかった」が34.4%で最も高く、次いで「子育てや家事に専念するため退職した」の22.9%、「その他」の12.5%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」と「職場に育児休業の制度がなかった」の9.4%となっている。



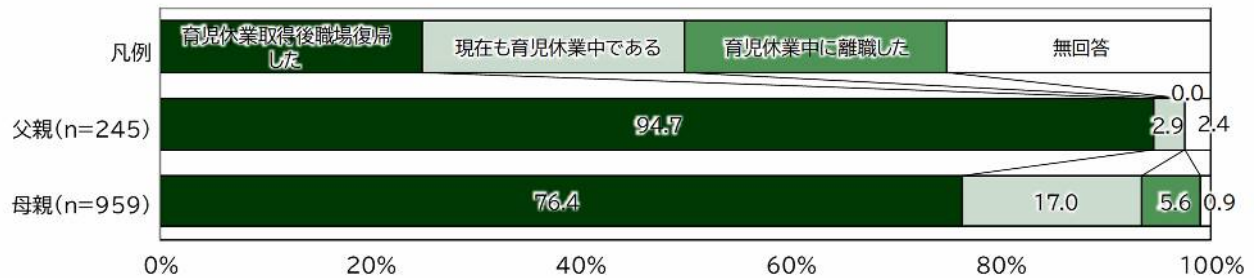
Ⅰ 育児休業を取得していない理由



問24-1 で「2. 1年未満取得した(取得中である)」「3. 1年以上取得した(取得中である)」に○をつけた方にうかがいます。

問24-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。(○は1つ)

育児休業取得後の職場への復帰状況をみると、父親では「育児休業取得後職場に復帰した」が最も高く94.7%を占めている。一方、母親でも「育児休業取得後職場に復帰した」が最も高く76.4%を占めている。次いで「現在も育児休業中である」の17.0%、「育児休業中に離職した」の5.6%となっている。

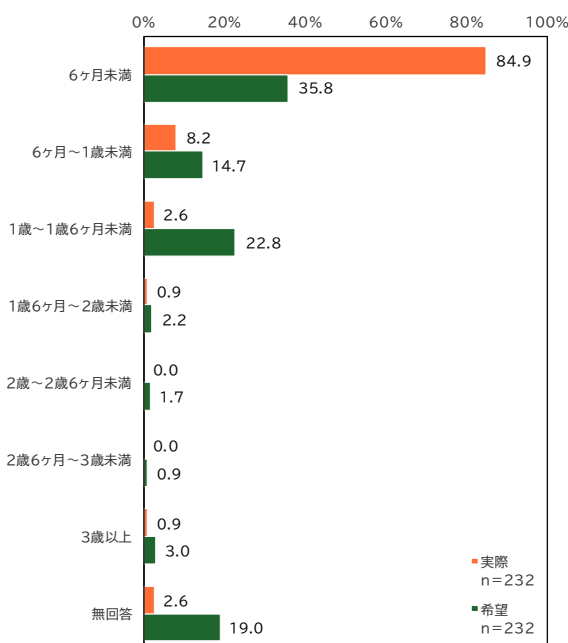


問24-2で「1. 育児休業取得後職場復帰した」に○をつけた方にうかがいます。

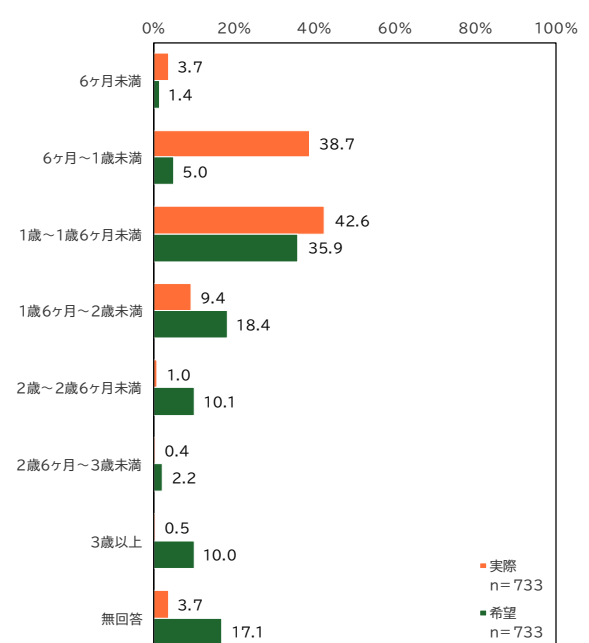
問24-3 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。()内に数字でご記入ください。

育児休業取得後の職場復帰の実際と希望をみると、父親では、実際の復帰が「6ヶ月未満」が84.9%で最も高く、希望でも「6ヶ月未満」が35.8%で最も高くなっている。一方、母親では、実際の復帰が「1歳～1歳6ヶ月未満」が42.6%で最も高く、希望でも「1歳～1歳6ヶ月未満」が35.9%で最も高くなっている。

職場復帰の実際と希望の月齢(父親)



職場復帰の実際と希望の月齢(母親)

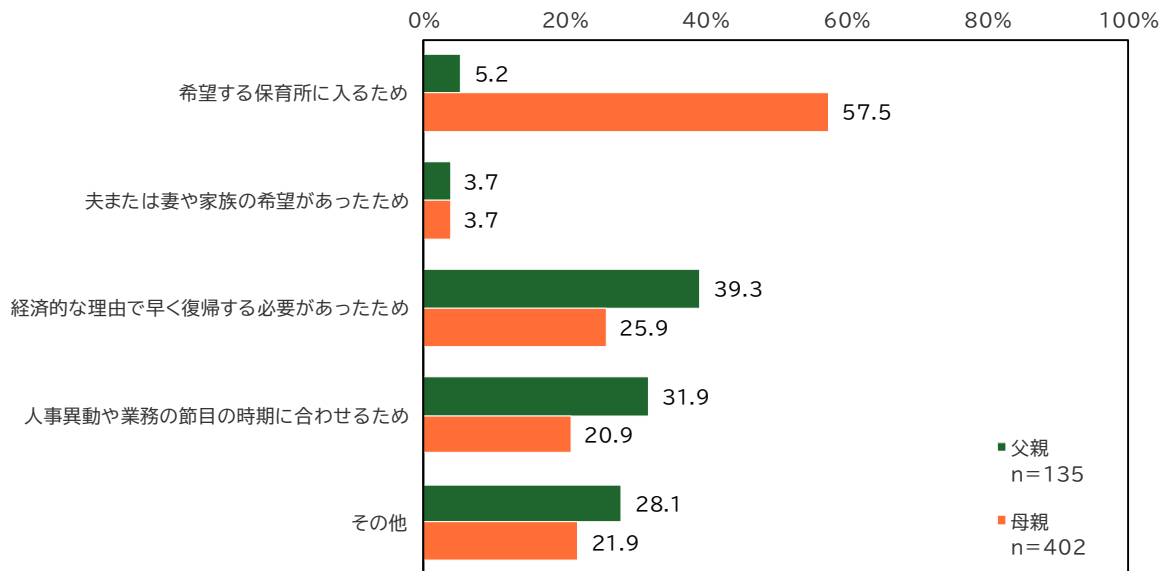


問24-3 で実際の復帰と希望が異なる方にうかがいます。

問24-4 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

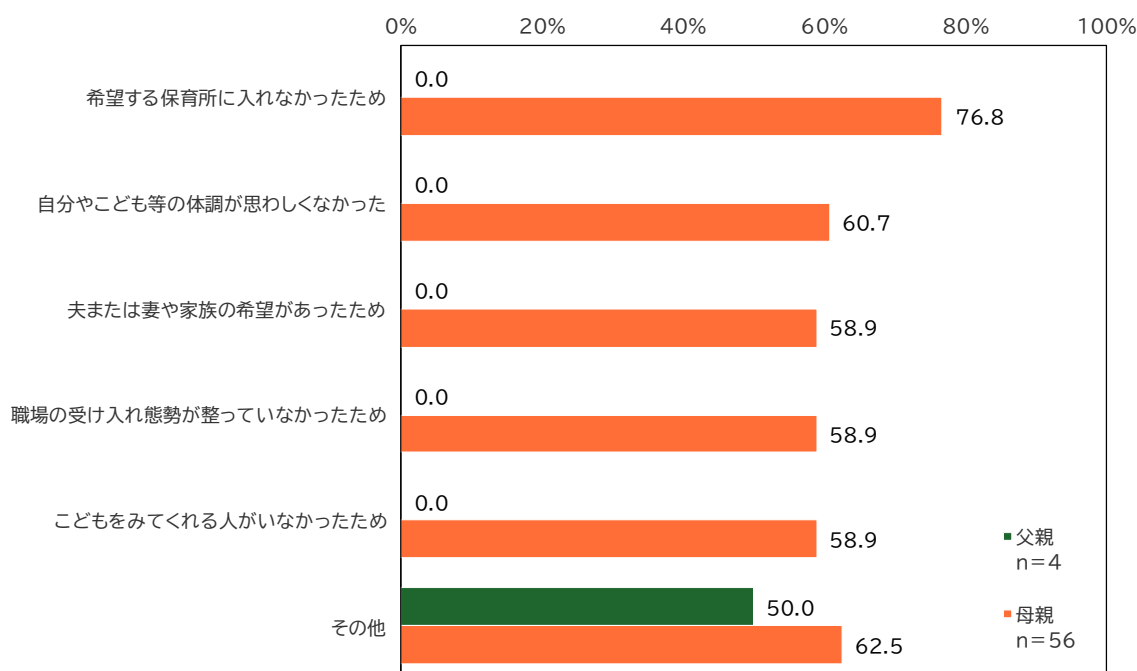
(1)「希望」より早く復帰した方 (あてはまるものすべてに○)

「希望」よりも早く復帰した理由をみると、父親では「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が39.3%で最も高くなっている。一方、母親では「希望する保育所に入るため」の57.5%が最も高く、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」の25.9%となっている。



(2)「希望」より遅く復帰した方 (あてはまるものすべてに○)

「希望」よりも遅く復帰した理由をみると、父親では「その他」が50.0%で最も高く、母親では「希望する保育所に入れなかったため」が76.8%で最も高く、次いで「その他」の62.5%、「自分や子ども等の体調が思わしくなかった」の60.7%となっている。



13. 合志市の子育て全般に関することについて

問25 合志市の子育ての環境や支援への満足度をお答えください。(〇は1つ)

合志市の子育ての環境や支援への満足度をみると、「まあ満足」が56.3%で最も高く、次いで「満足」の12.4%、「まあ不満」の11.2%、「わからない」の7.4%となっている。

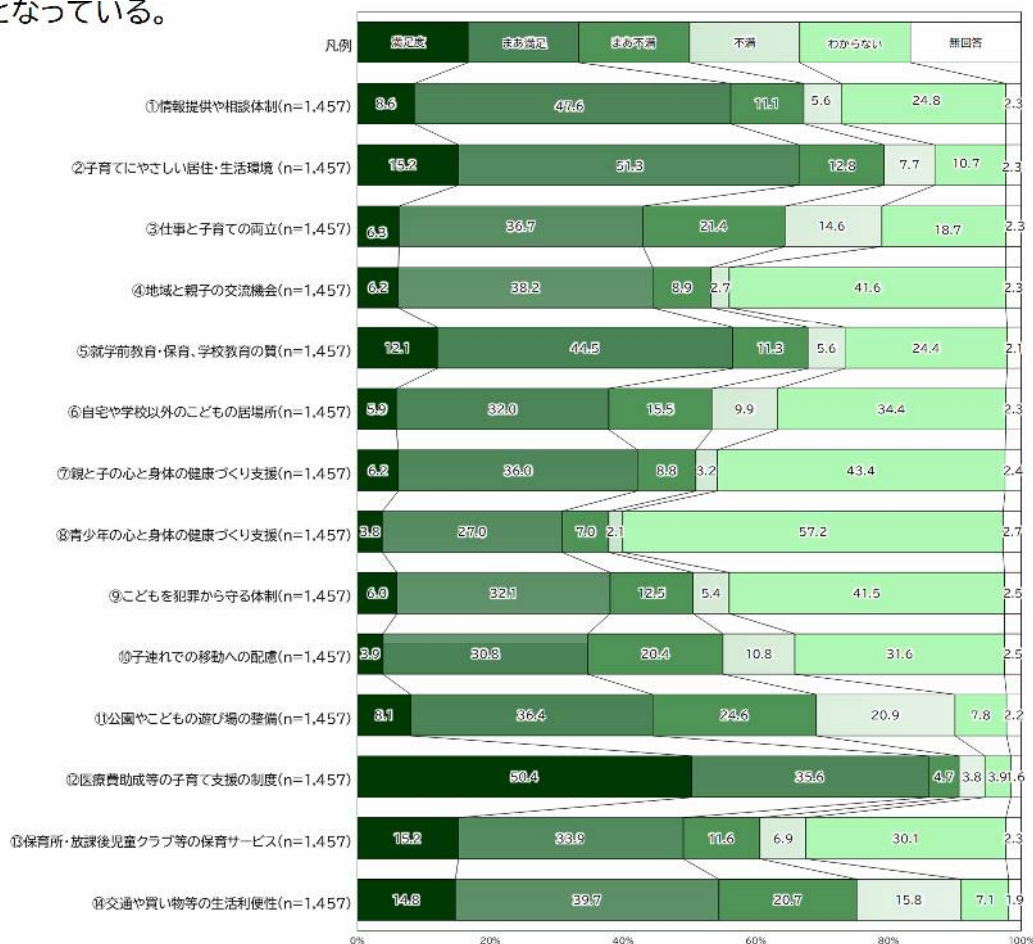


問26 合志市の以下の子育て支援や環境について、子育てをする上で、あなたは満足していますか。また、重要だと思う項目はどれですか。(満足度と重要度の①～⑭それぞれ〇は1つ)

●満足度

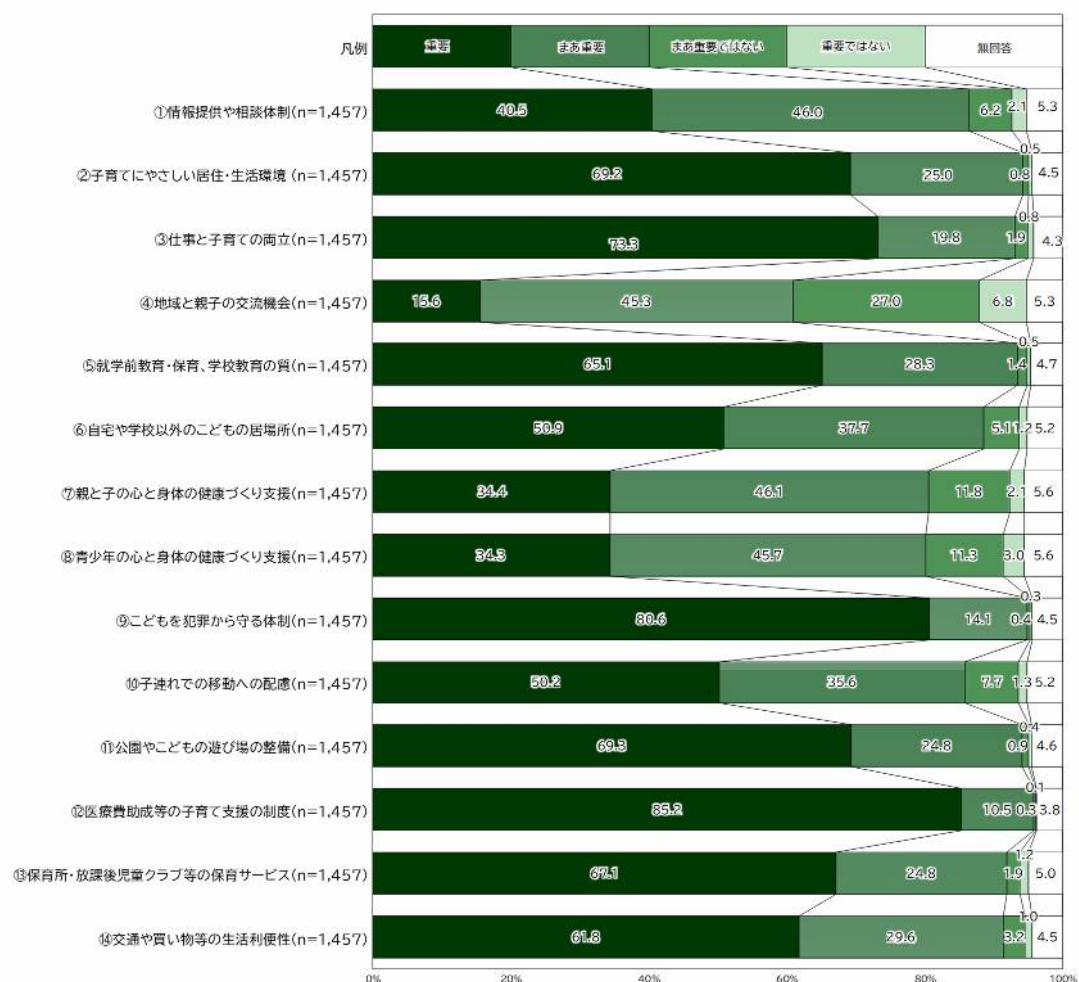
合志市の子育て支援や環境についての満足度をみると、「満足」、「まあ満足」を合わせた割合が最も高いのは、「⑫医療費助成等の子育て支援の制度」の86.0%で、次いで「②子育てにやさしい居住・生活環境」の66.5%、「⑤就学前教育・保育、学校教育の質」の56.6%となっている。

一方、「不満」、「まあ不満」を合わせた割合が最も高いのは、「⑪公園やこどもの遊び場の整備」の45.5%で、次いで「⑭交通や買い物等の生活利便性」の36.5%、「③仕事と子育ての両立」の36.0%となっている。



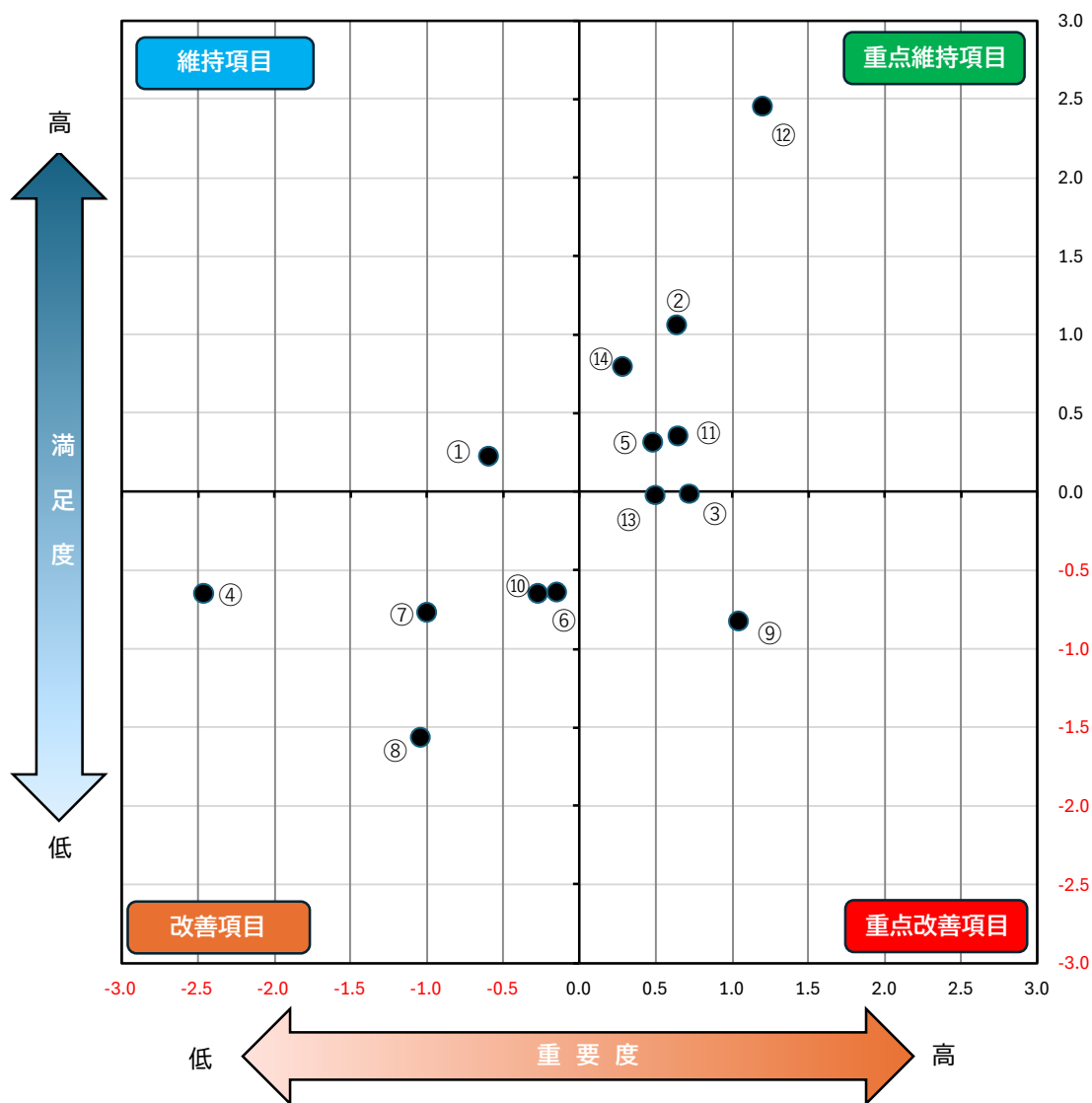
●重要度

合志市の子育て支援や環境についての重要度をみると、「重要」、「まあ重要」を合わせた割合が最も高いのは、「⑫医療費助成等の子育て支援の制度」の95.7%で、次いで「⑨子どもを犯罪から守る体制」の94.7%、「②子育てにやさしい居住・生活環境」の94.2%となっている。



重点改善項目(重要度が高いが、満足度が低い)としては、「③仕事と子育ての両立」、「⑨子どもを犯罪から守る体制」、「⑬保育所・放課後児童クラブ等の保育サービス」が挙げられる。

合志市の子育て支援や環境についての満足度及び重要度の相関図【就学前児童保護者】



項 目	平均値		Zスコア		象 限
	重要度	満足度	重要度	満足度	
①情報提供や相談体制	3.319	2.098	-0.596	0.219	維持項目
②子育てにやさしい居住・生活環境	3.705	2.539	0.638	1.057	重点維持項目
③仕事と子育ての両立	3.730	1.973	0.718	-0.019	重点改善項目
④地域と親子の交流機会	2.736	1.639	-2.459	-0.653	改善項目
⑤就学前教育・保育、学校教育の質	3.657	2.146	0.484	0.311	重点維持項目
⑥自宅や学校以外のこどもの居場所	3.458	1.643	-0.151	-0.645	改善項目
⑦親と子の心と身体の健康づくり支援	3.194	1.574	-0.994	-0.777	改善項目
⑧青少年の心と身体の健康づくり支援	3.180	1.158	-1.041	-1.567	改善項目
⑨こどもを犯罪から守る体制	3.833	1.546	1.044	-0.830	重点改善項目
⑩子連れでの移動への配慮	3.421	1.638	-0.269	-0.655	改善項目
⑪公園やこどもの遊び場の整備	3.708	2.166	0.646	0.349	重点維持項目
⑫医療費助成等の子育て支援の制度	3.881	3.269	1.198	2.444	重点維持項目
⑬保育所・放課後児童クラブ等の保育サービス	3.662	1.970	0.499	-0.025	重点改善項目
⑭交通や買い物等の生活利便性	3.594	2.400	0.283	0.792	重点維持項目

※数値は各項目の重要度、満足度それぞれの平均値を平均0、分散1となるように正規化

【維持項目】 満足度こそ高いものの、重要度は低い項目

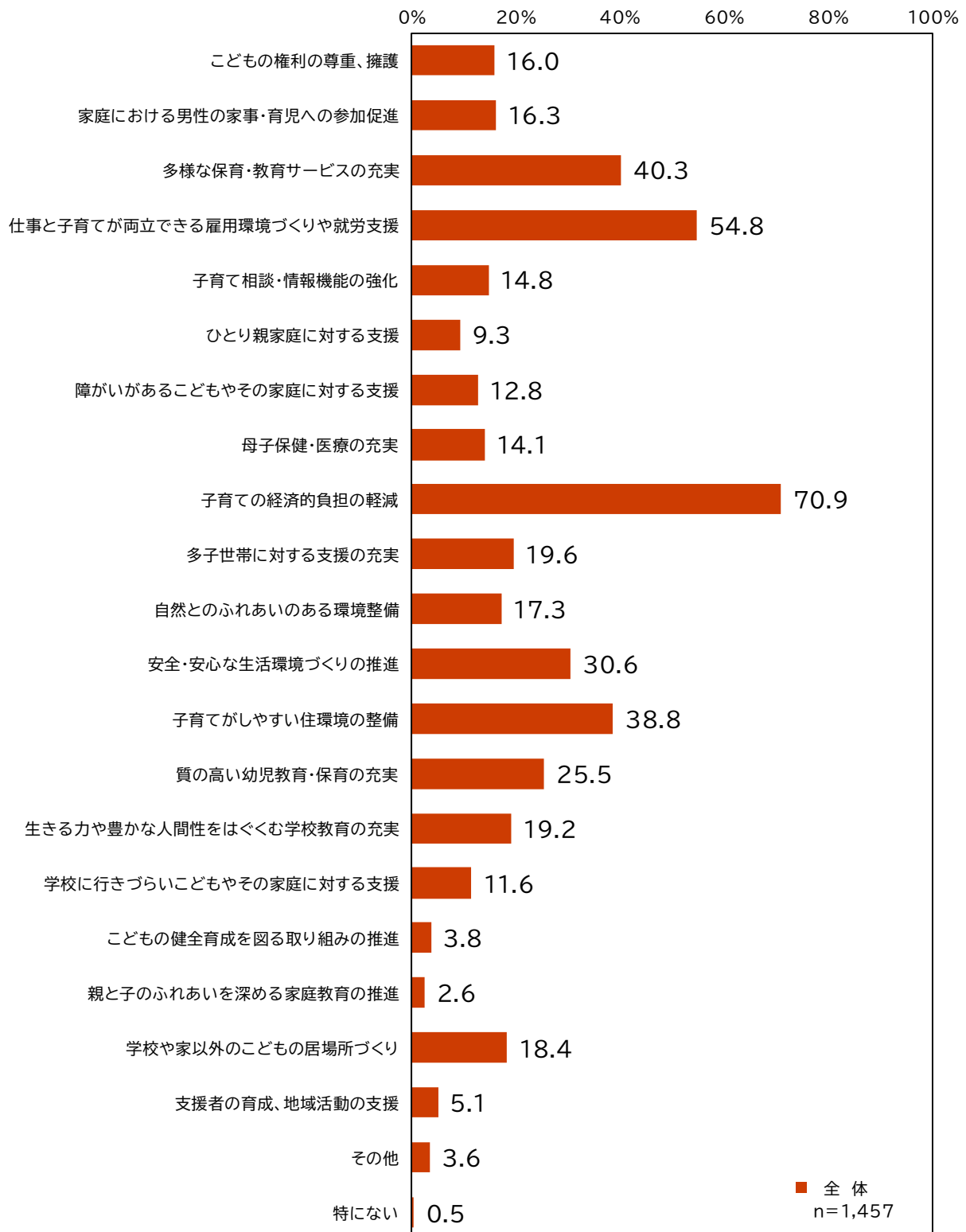
【改善項目】 満足度と重要度ともに低い項目

【重点維持項目】 重要度も満足度も高い項目

【重点改善項目】 重要度が高いにもかかわらず市民から満足されていない項目

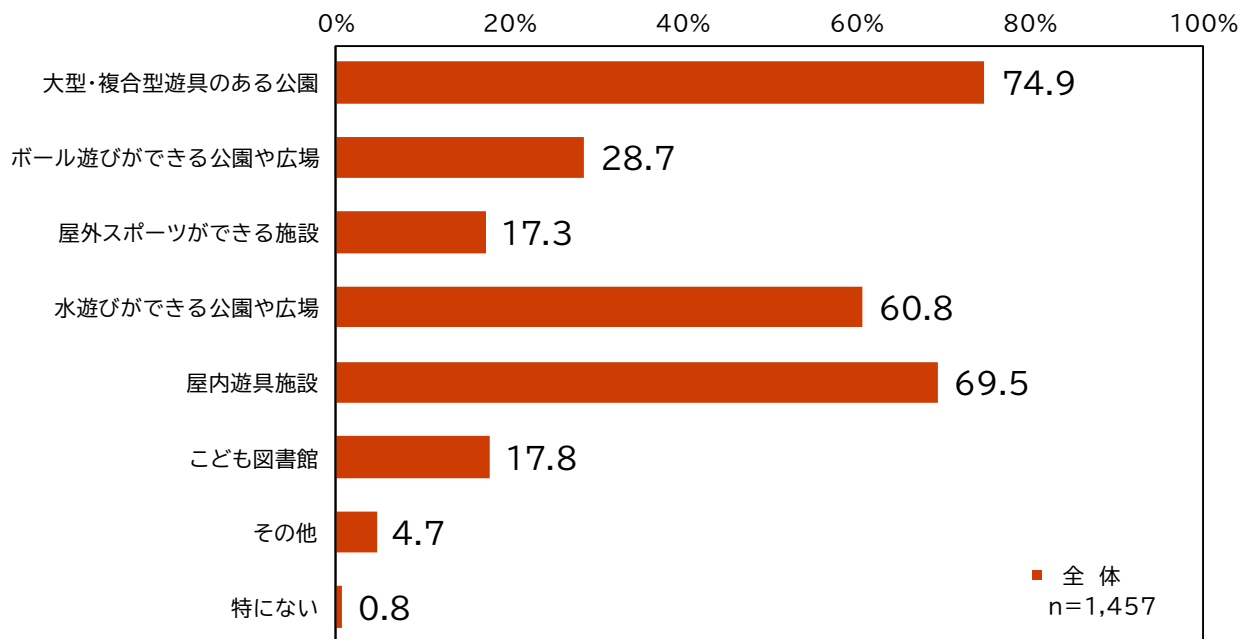
問27 こどもが健やかに生まれ育つ環境づくりをすすめていく上で、合志市としてはどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は5つまで)

合志市として必要なことをみると、「子育ての経済的負担の軽減」が70.9%で最も高く、次いで「仕事と子育てが両立できる雇用環境づくりや就労支援」の54.8%、「多様な保育・教育サービスの充実」の40.3%となっている。



問28 合志市内にあったら利用したいと思う施設はありますか。(〇は3つまで)

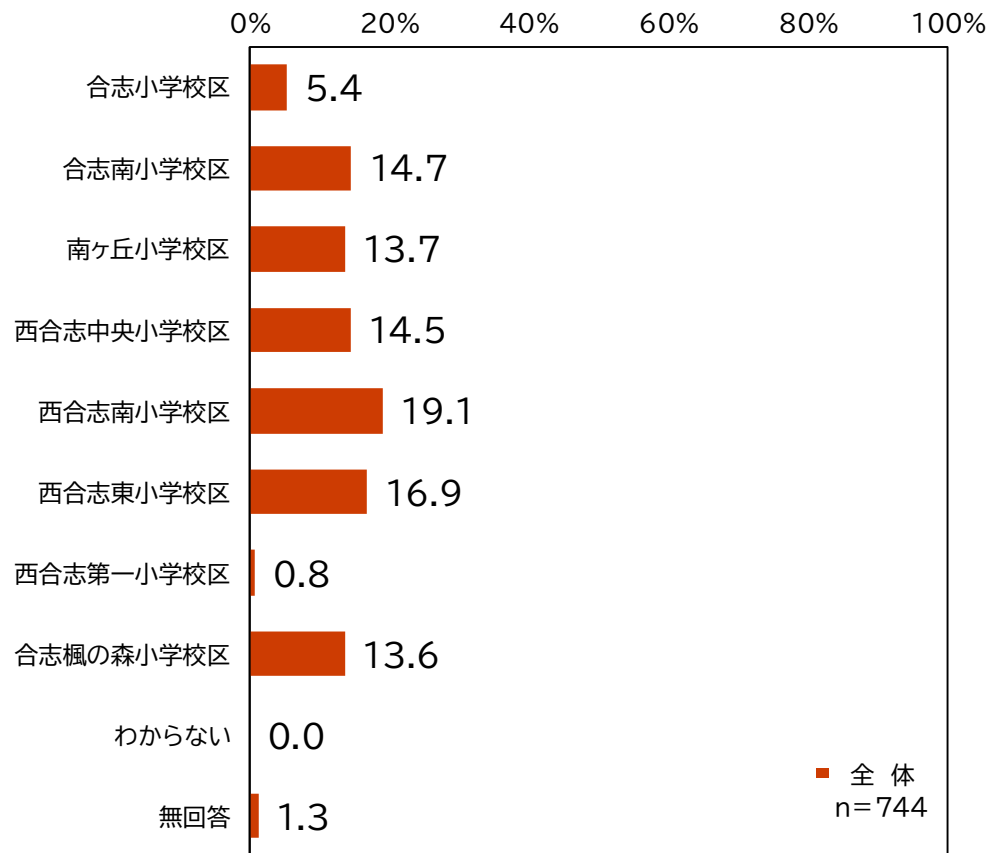
合志市内にあったら利用したい施設をみると、「大型・複合型遊具のある公園」が74.9%で最も高く、次いで「屋内遊具施設」の69.5%、「水遊びができる公園や広場」の60.8%となっている。



第 3 章 調査結果【小学生保護者】

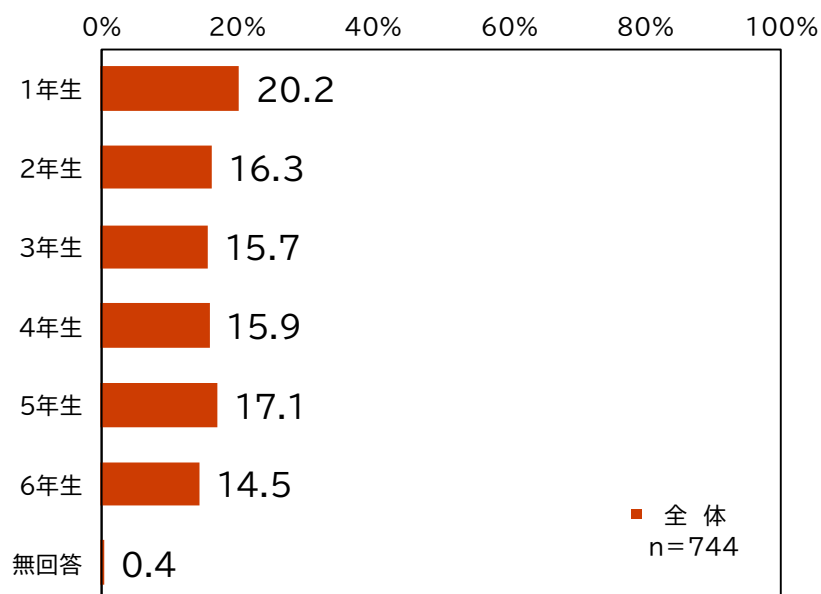
1. 住まいの地域について

問1 お住まいの小学校区はどこですか。(○は1つ)



2. こどもと家族の状況について

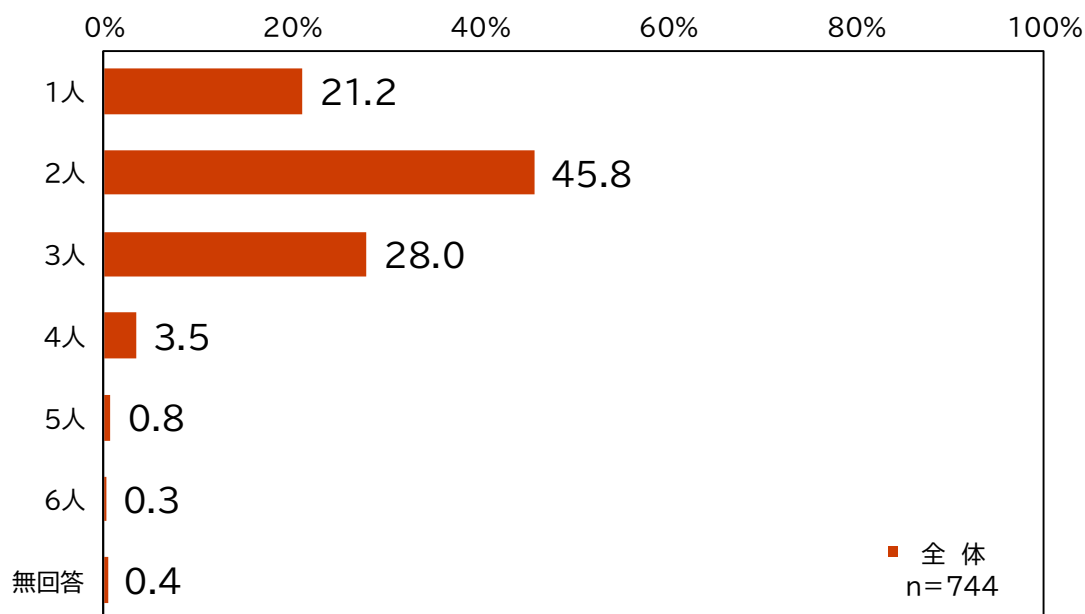
問2 宛名のお子さんの生年月と学年をご記入ください。()内に数字でご記入ください。



問3 お子さんは何人いらっしゃいますか。宛名のお子さんを含めた人数を()内に数字でご記入ください。

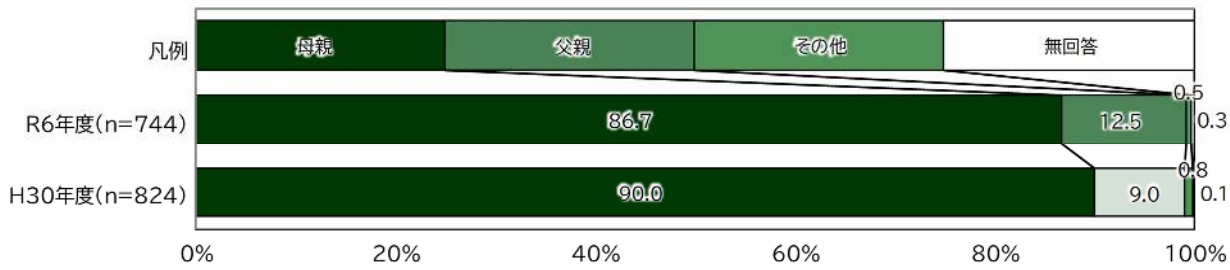
2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月月をご記入ください。

こどもの人数をみると、「2人」が45.8%で最も高く、次いで「3人」の28.0%、「1人」の21.2%となっている。



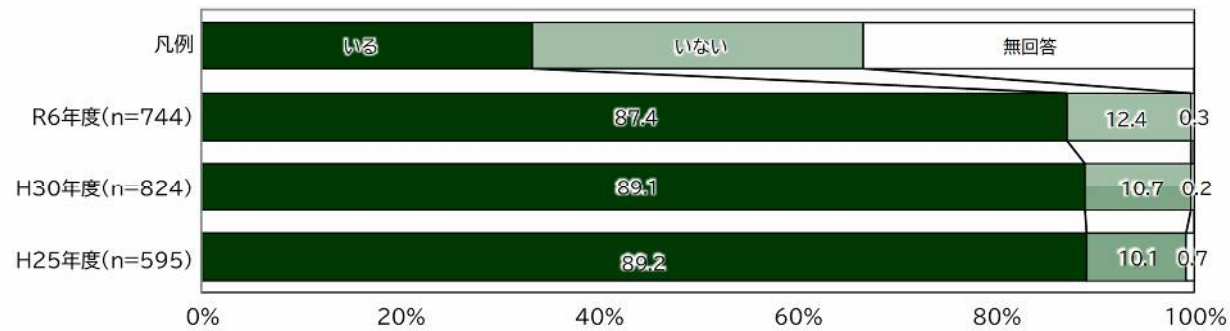
問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。(○は1つ)

アンケート票への回答者をみると、「母親」が最も高く86.7%を占めている。

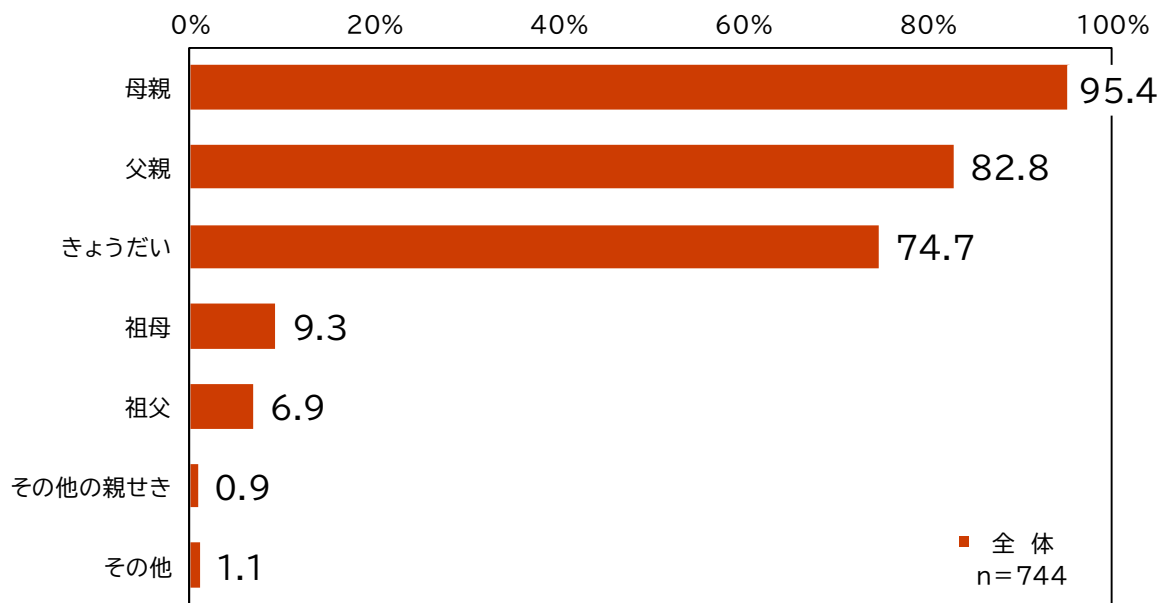


問5 この調査票にご回答いただいている方には、夫または妻がいますか、それともいませんか。(○は1つ)

回答者の配偶者の有無をみると、「いる」が87.4%を占めている。この割合は平成30年度調査とほぼ同じ割合となっているが、就学前児童の回答者と比べて7.6ポイント低く、ひとり親家庭が就学前児童の保護者よりも多いことがうかがえる。

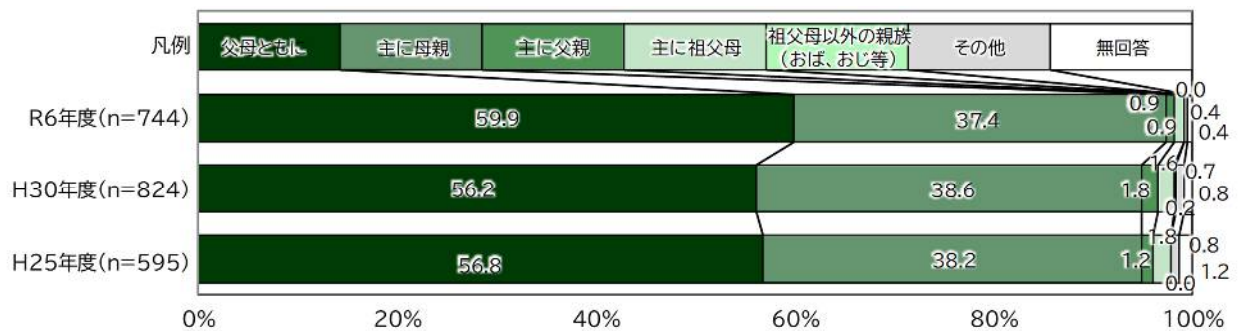


問6 宛名のお子さんと一緒に暮らしている家族の方をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



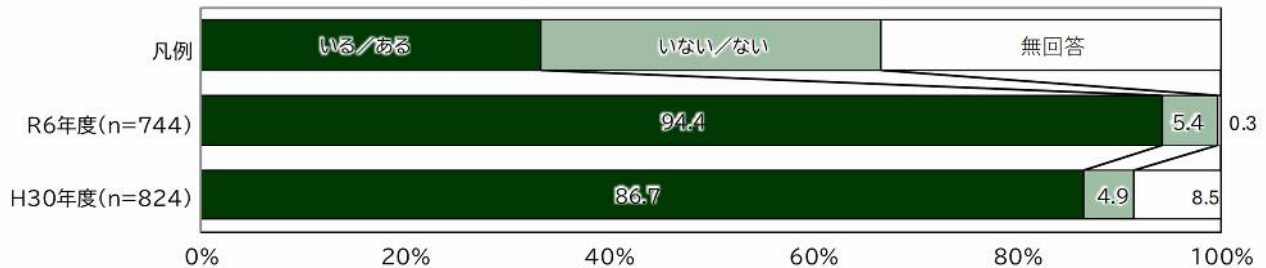
問7 宛名のお子さんの子育て(教育を含む)を主に行っているのはどなたですか。(○は1つ)
※お子さんからみた関係でお答えください。

子育てを主に行っている人を見ると、「父母ともに」が59.9%で最も高く、次いで「主に母親」が37.4%となっている。平成30年度調査と比較すると、「父母ともに」が3.7ポイント増加している。



問8-1 宛名のお子さんの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。(○は1つ)

子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人、できる場所の有無をみると、「いる/ある」が最も高く94.4%を占めている。平成30年度調査と比較すると、「いる/ある」が7.7ポイント増加している。

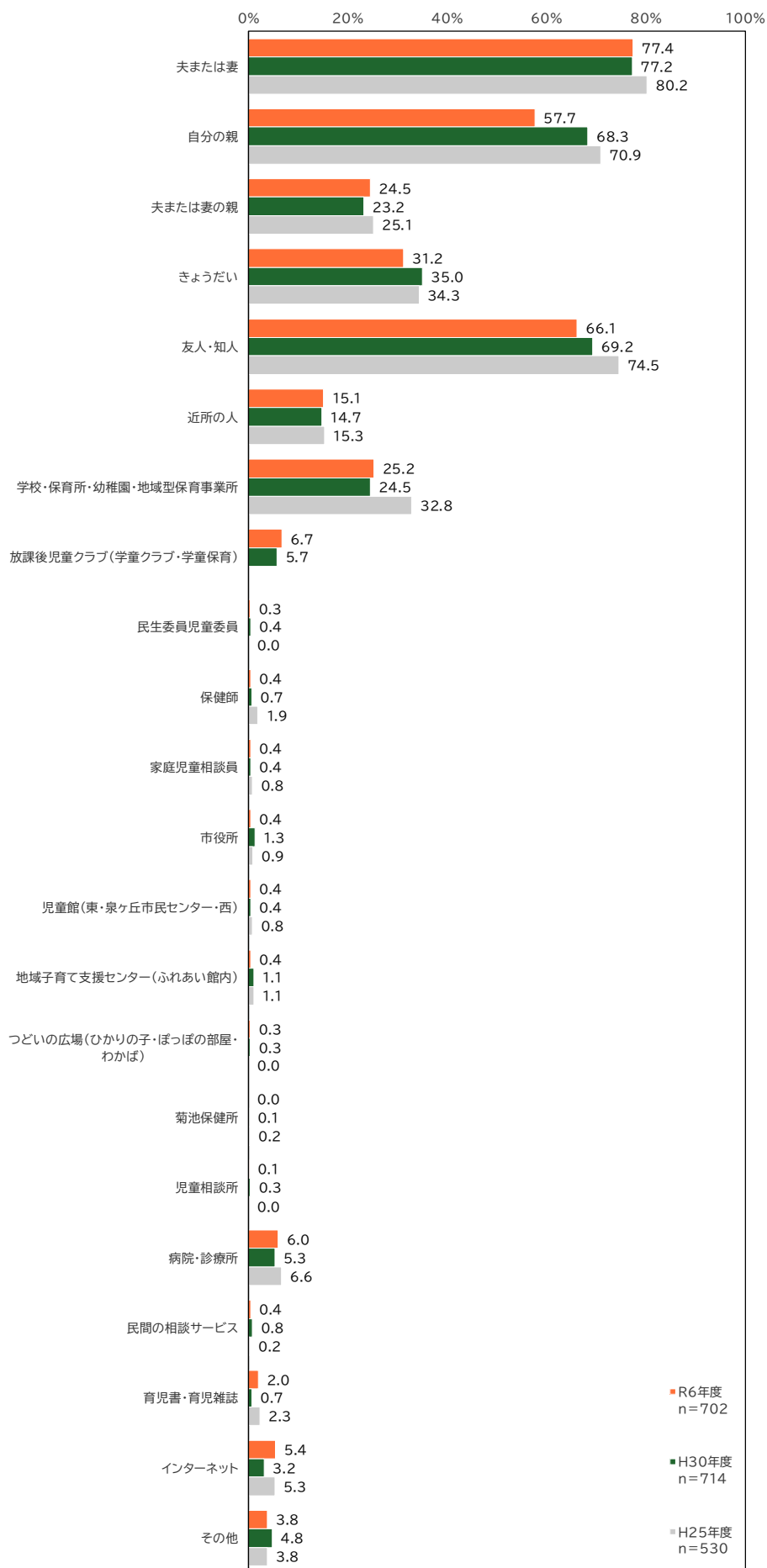


問8-1で「1. いる/ある」に○をつけた方にうかがいます。

問8-2 お子さんの子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。(あてはまるものすべてに○)

子育て(教育を含む)に関して、気軽に相談できる先をみると、「夫または妻」が77.4%で最も高く、次いで「友人・知人」の66.1%、「自分の親」の57.7%となっている。平成30年度調査と比較すると「自分の親」は10.6ポイント、「友人・知人」は3.1ポイント減少している。

就学前児童の結果と比べると、「夫または妻」が10ポイント、「自分の親」が18.1ポイント、「学校・保育園・幼稚園・地域型保育事業所」が11.3ポイントそれぞれ低くなっている。



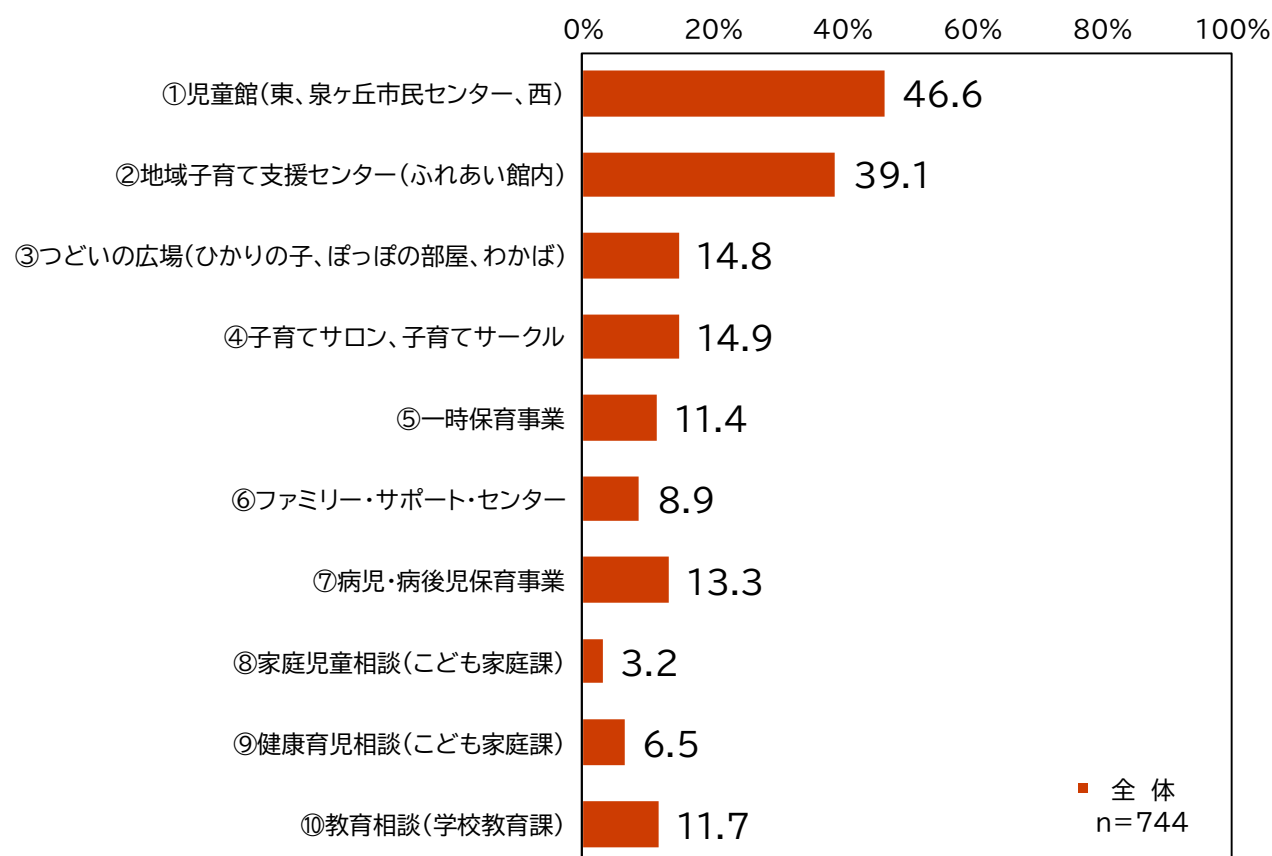
3. 合志市で実施している子育て支援に関する事業について

問9 下記の合志市の事業の利用状況をお答えください。また、Aで「はい」に○をつけた事業については、Bのそれぞれについて、あてはまる満足度の数字に○をつけてください。

●利用状況

これまで利用したことがある事業をみると、「①児童館(東、泉ヶ丘市民センター、西)」が46.6%で最も高く、次いで「②地域子育て支援センター(ふれあい館内)」の39.1%、「④子育てサロン、子育てサークル」の14.9%となっている。

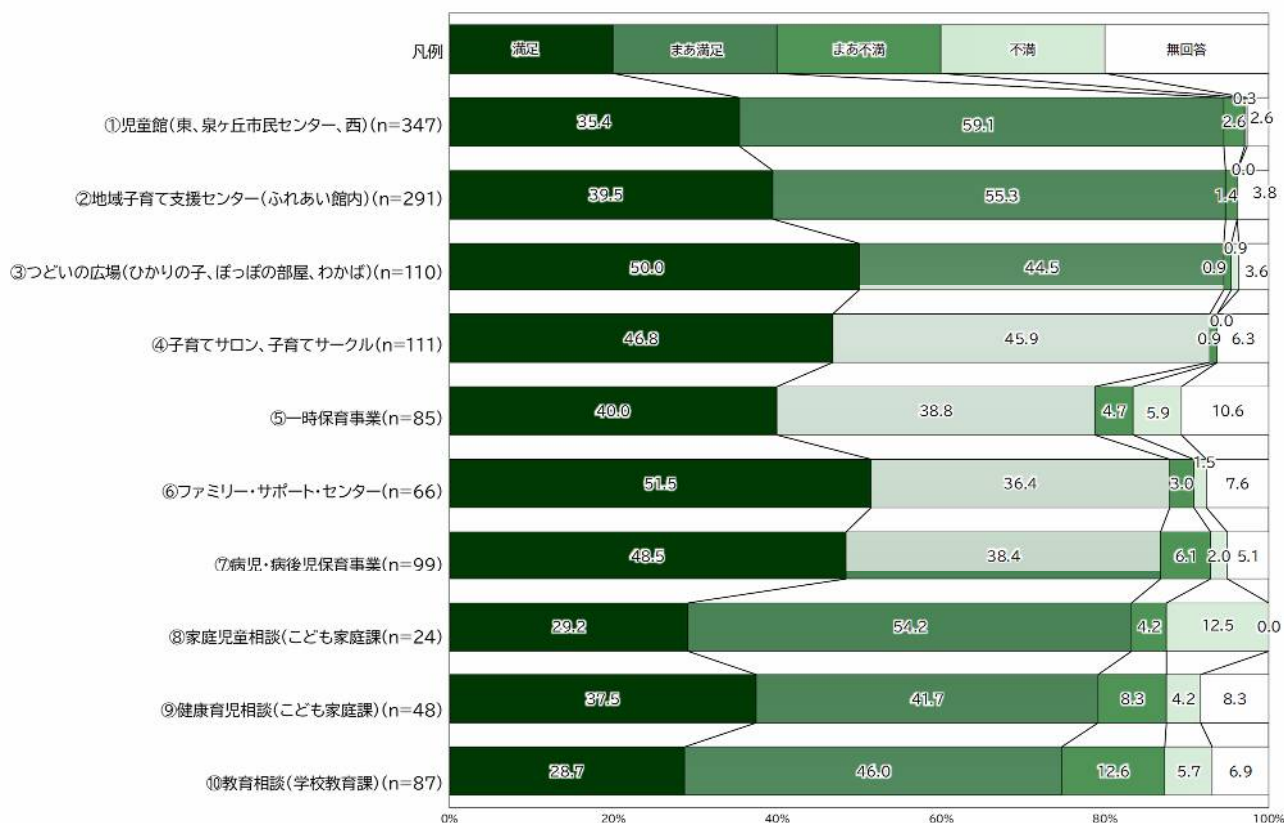
就学前児童の結果と比べると、「①児童館(東、泉ヶ丘市民センター、西)」が10.3ポイント、「⑩教育相談(学校教育)」が9.3ポイント、「②地域子育て支援センター(ふれあい館内)」が6.2ポイント高くなっている。



●利用した事業の満足度

利用したことがある事業の満足度をみると、「満足」、「まあ満足」を合わせた割合が最も高いのは「②地域子育て支援センター(ふれあい館内)」の94.8%で、次いで「①児童館(東、泉ヶ丘市民センター、西)」と「③つどいの広場(ひかりの子、ぽっぽの部屋、わかば)」の94.5%、「④子育てサロン、子育てサークル」の92.7%となっている。

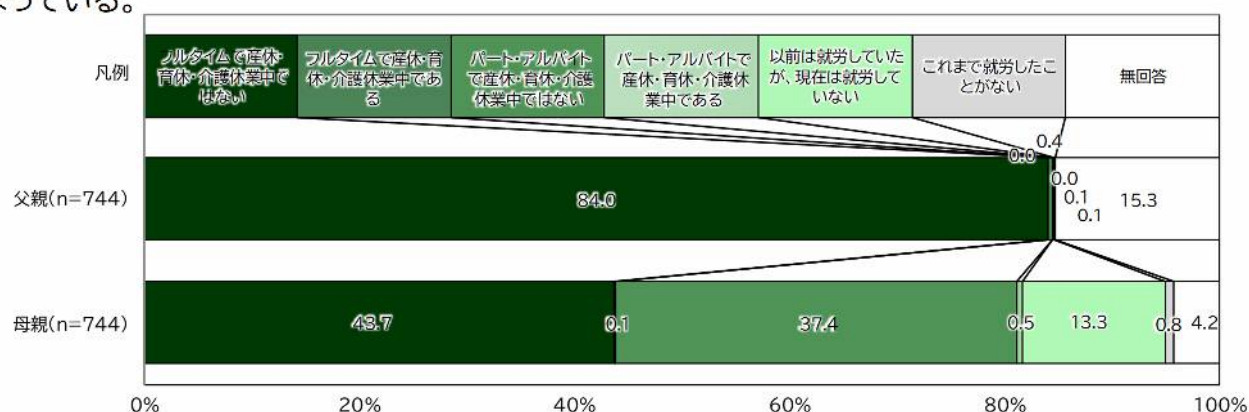
一方、「不満」、「まあ不満」を合わせた割合が最も高いのは、「⑩教育相談(学校教育課)」の18.3%が最も高く、次いで「⑧家庭児童相談(こども家庭課)」の16.7%、「⑨健康育児相談(こども家庭課)」の12.5%となっている。



4. 保護者の就労状況について

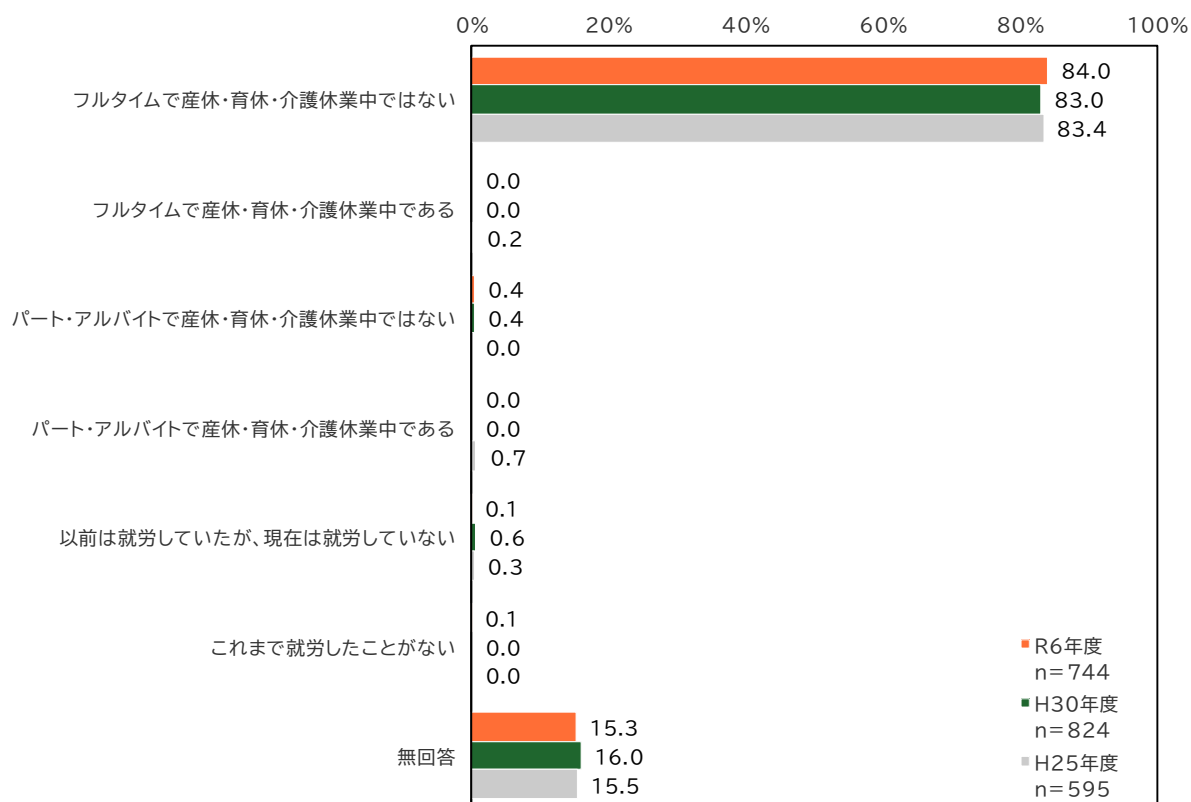
問10-1 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況(自営業、家族従事者含む)をうかがいます。現在の就労状況は以下のどれにあたりますか。(それぞれ○は1つ)

保護者の現在の就労状況をみると、父親では「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も高く全体の84.0%を占めている。また、母親でも「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が43.7%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており産休・育休・介護休業中ではない」の37.4%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の13.3%となっている。



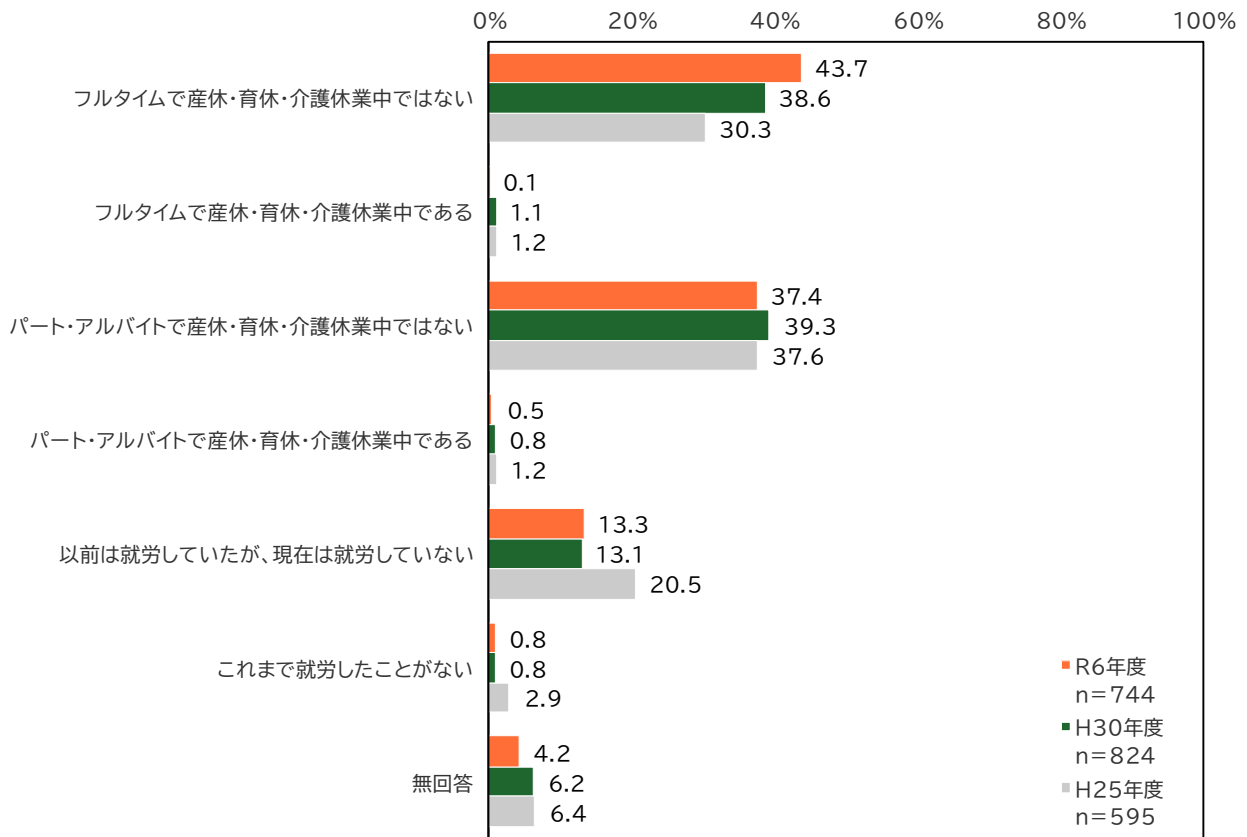
①父親(年度別比較)

父親の就労状況を平成25年度、平成30年度調査の結果と比較すると、ほとんど変化は認められず、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が大半を占めている。



①母親(年度別比較)

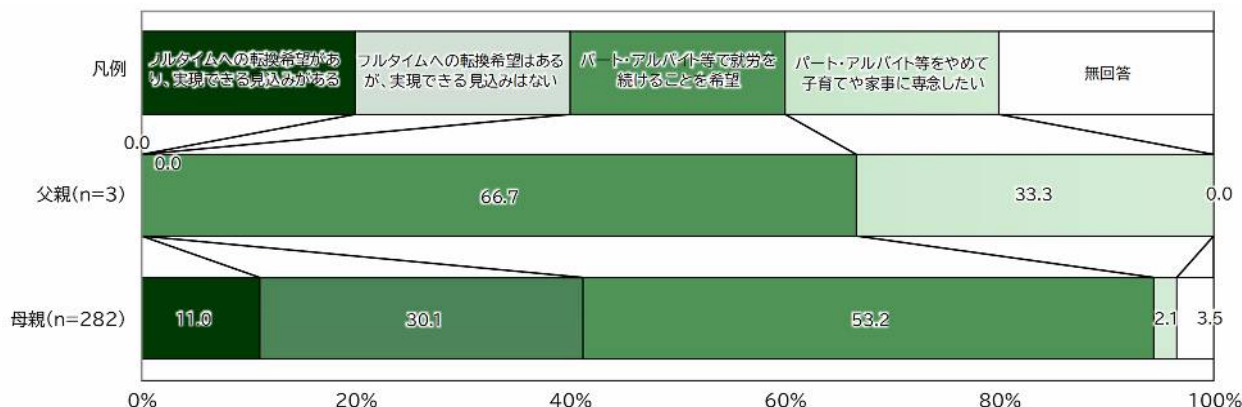
母親の就労状況を平成30年度調査の結果と比較すると、今回の調査は「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が5.1ポイント増加し、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が1.9ポイント減少している。



問10-1で「3」または「4」(パート・アルバイト等で就労している)に○をつけた方にうかがいます。

問10-2 フルタイムへの転換希望はありますか。(○は1つ)

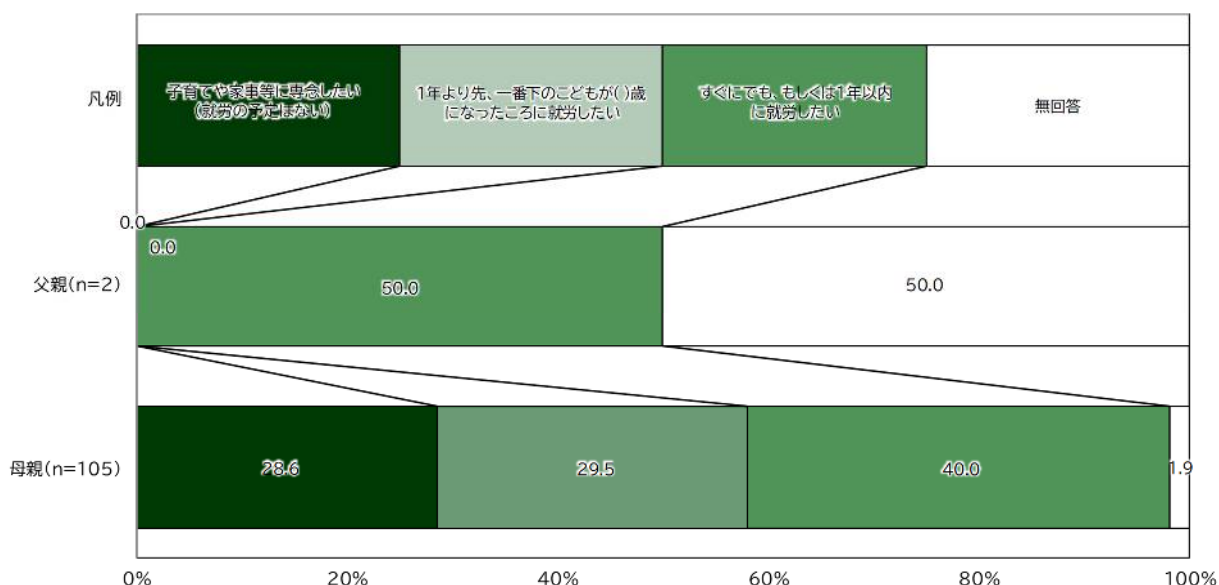
パート・アルバイト等で就労している人のフルタイムへの転換希望をみると、父親(3人)は「パート・アルバイト等で就労を続けることを希望」が66.7%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい」の33.3%となっている。母親(282人)は、「パート・アルバイト等で就労を続けることを希望」が53.2%で最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の30.1%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」の11.0%となっている。



問10-1で「5」または「6」(就労していない)に○をつけた方にうかがいます。

問10-3 就労したいという希望はありますか。(○は1つ) また、該当する()内には数字をご記入ください。

就労していない人の就労希望をみると、父親(2人)は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が50.0%で最も高くなっている。母親(105人)は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」の40.0%が最も高く、次いで「1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい」の29.5%、「子育てや家事等に専念したい(就労の予定はない)」の28.6%となっている。



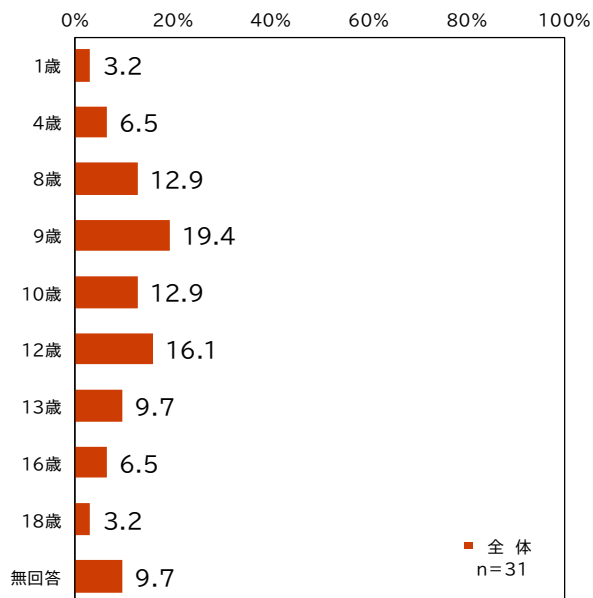
●「1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい」という具体的な年齢

「1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい」と回答した人(母親31人)にその年齢を聞いたところ、「9歳」が19.4%で最も高く、次いで「12歳」の16.1%、「8歳」、「10歳」の12.9%となっている。父親は該当者がいない。

①父親

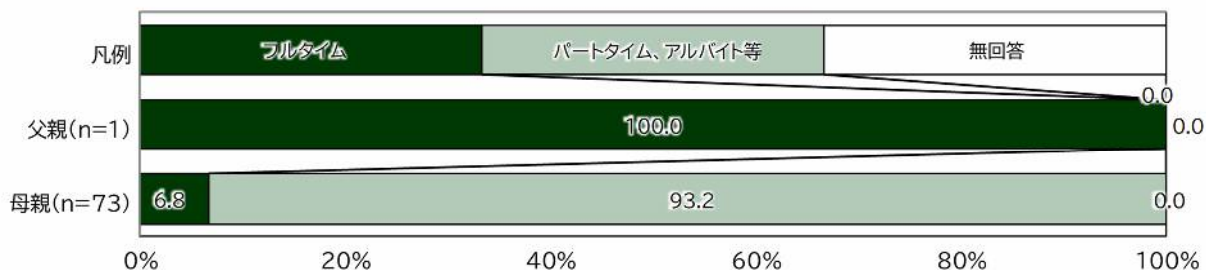
該当者なし

②母親



●「1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい」または「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人が希望する就労形態

「1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい」または「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した人に、希望する就労形態を聞いたところ、父親(1人)は「フルタイム」となっている。母親(73人)は「パートタイム、アルバイト等」が93.2%で最も高く、次いで「フルタイム」の6.8%となっている。



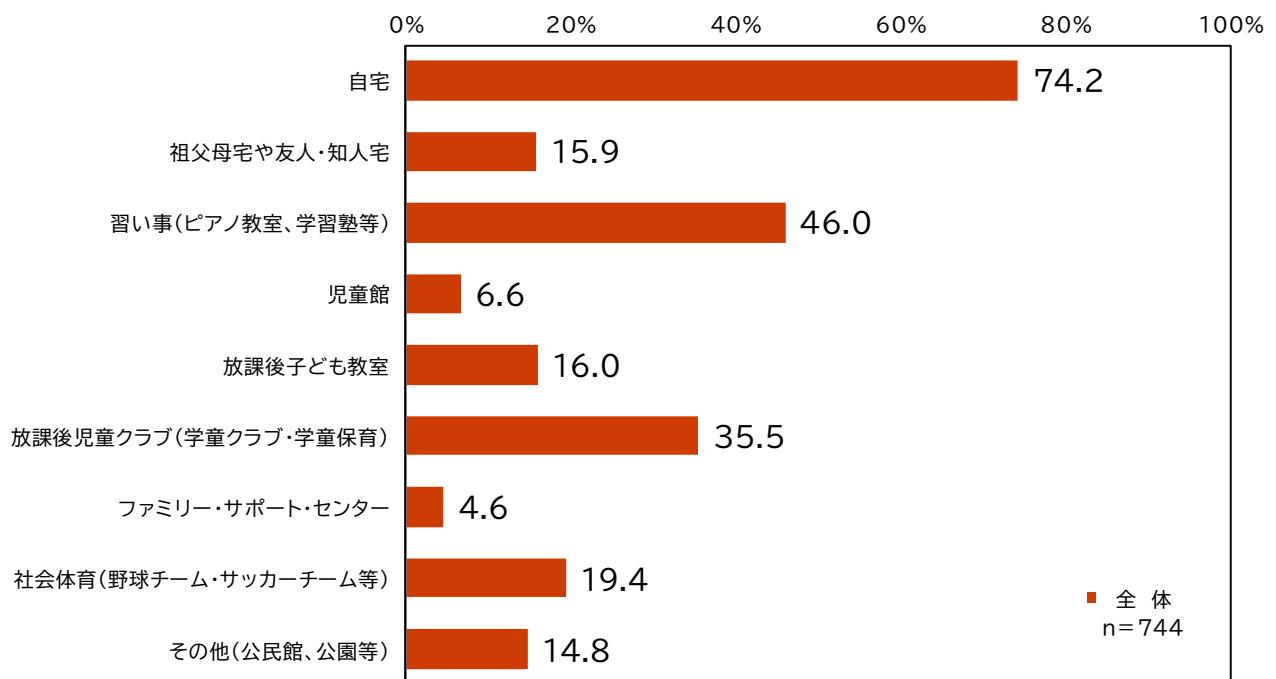
5. 放課後や土曜・休日や長期休暇中の過ごし方について

問11 宛名のお子さんについて、放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけ、それぞれ希望する週あたり日数を数字でご記入ください。

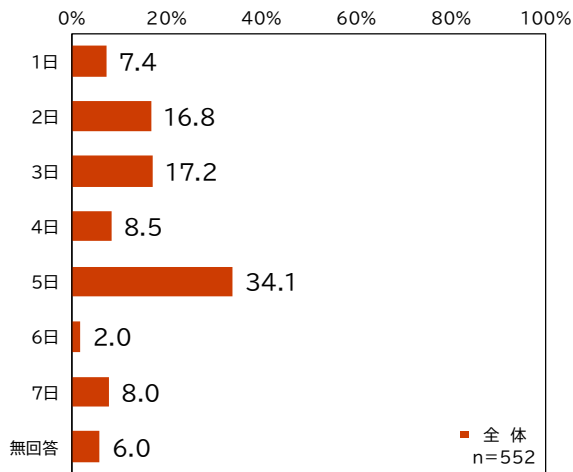
また、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」の場合には、利用を希望する時間も()内に数字でご記入ください。時間は必ず(例:18時のように)24時間制でご記入ください。

放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいかをみると、「自宅」が74.2%で最も高く、次いで「習い事(ピアノ教室、学習塾)」の46.0%、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」の35.5%となっている。

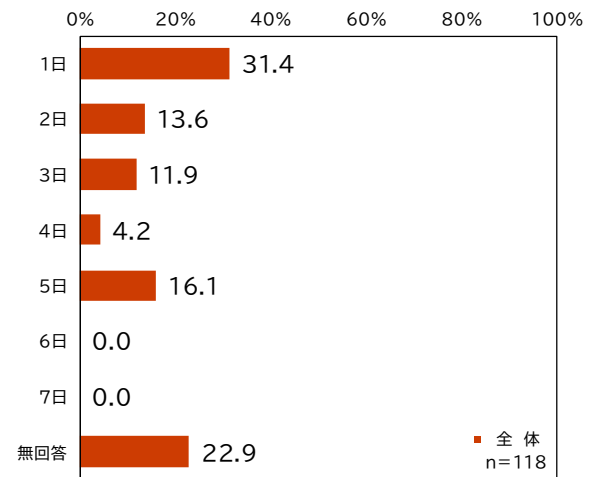
主な過ごさせたい場所別に最も多い希望日数をみると、「自宅」、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」では「5日」、「祖父母宅や友人・知人宅」、「児童館」、「放課後子ども教室」、「ファミリー・サポート・センター」では「1日」、「習い事(ピアノ教室、学習塾)」、「社会体育(野球チーム・サッカーチーム等)」、「その他(公民館、公園等)」では「2日」となっている。また、「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」の下校時から何時までが希望かについては、「17時」が31.1%で最も高く、次いで「18時」の22.7%となっている。



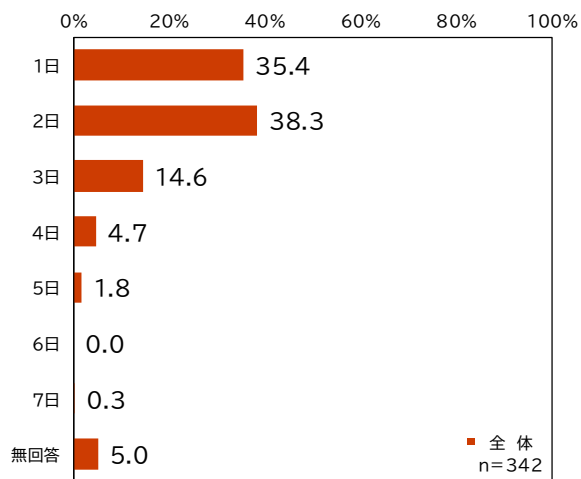
「自宅」と回答した人の日数



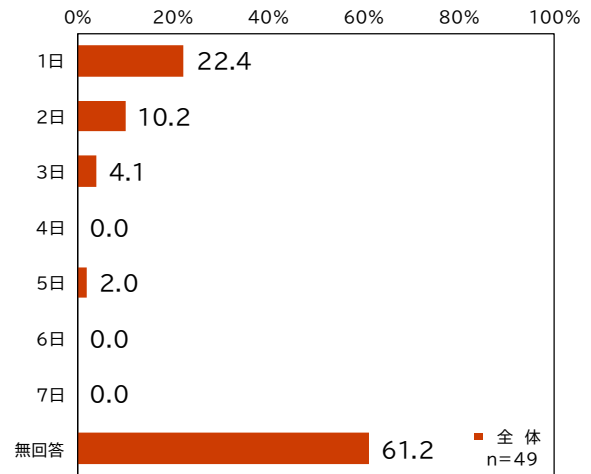
「祖父母宅や友人・知人宅」と回答した人の日数



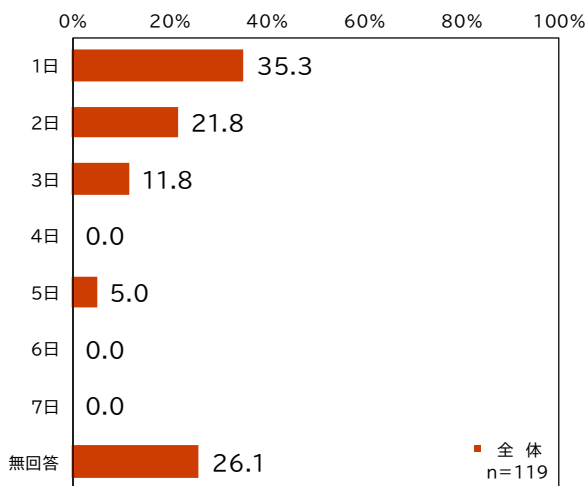
「習い事(ピアノ教室、学習塾)」と回答した人の日数



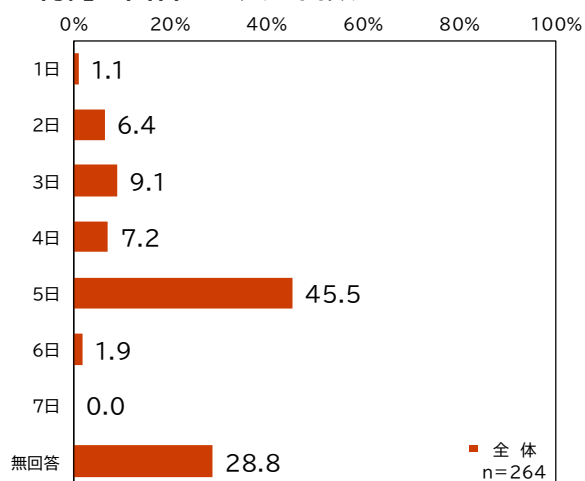
「児童館」と回答した人の日数



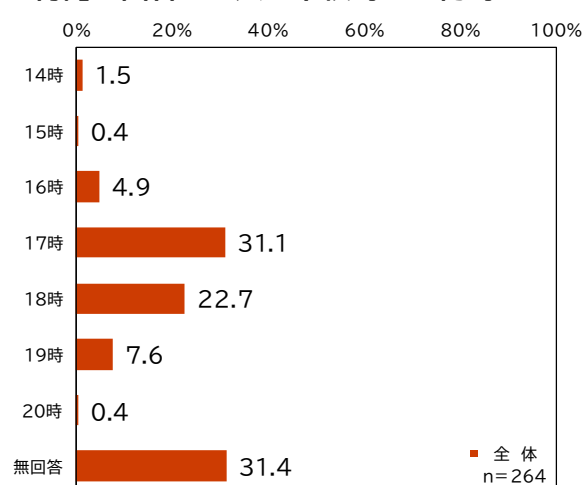
「放課後子ども教室」と回答した人の日数



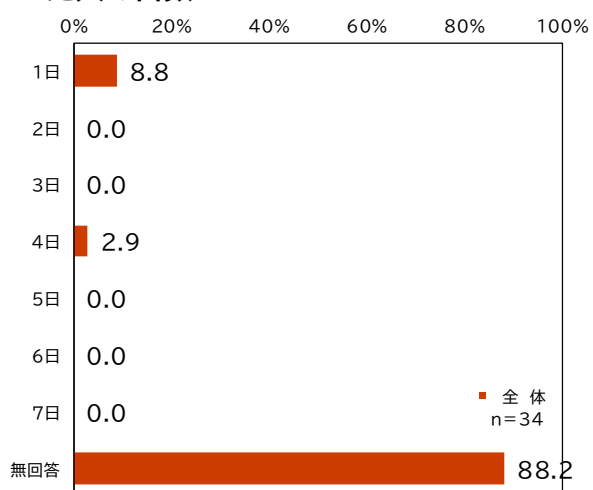
「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」と回答した人の日数



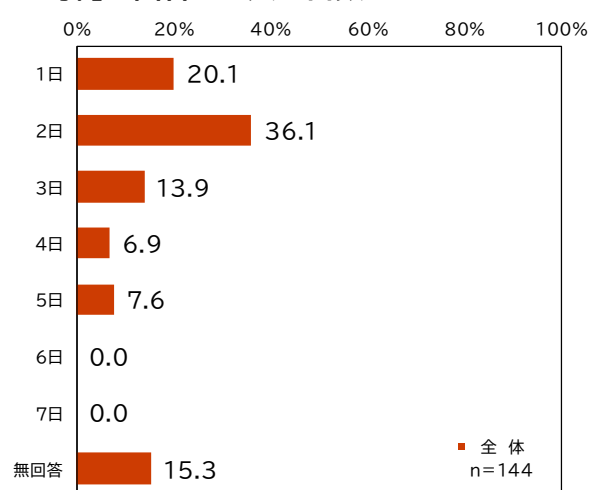
「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」と回答した人の下校時から何時まで



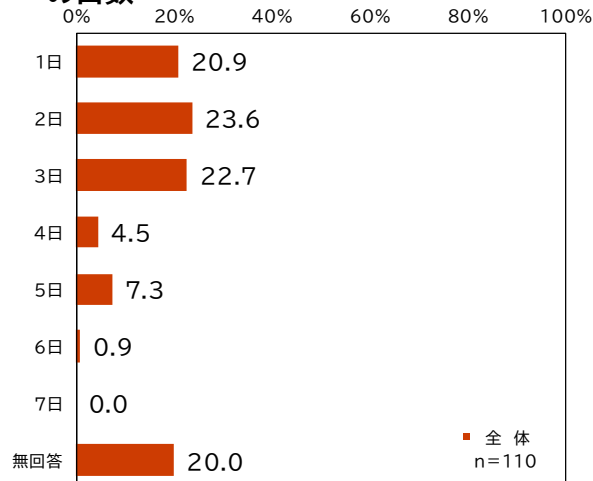
「ファミリー・サポート・センター」と回答した人の日数



「社会体育(野球チーム・サッカーチーム等)」と回答した人の日数



「その他(公民館、公園等)」と回答した人の日数

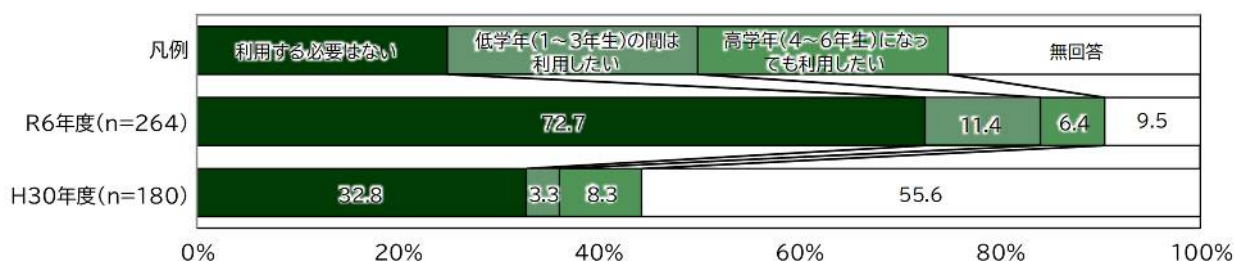


問11で「6. 放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」に○をつけた方にうかがいます。

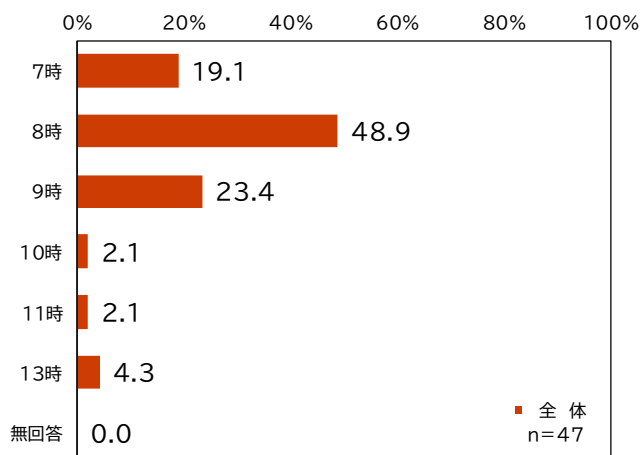
問12 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)の利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。(①②それぞれ○は1つ)
また利用したい時間帯を、()内に(例:09時～18時のように)24時間制でご記入ください。

①土曜日

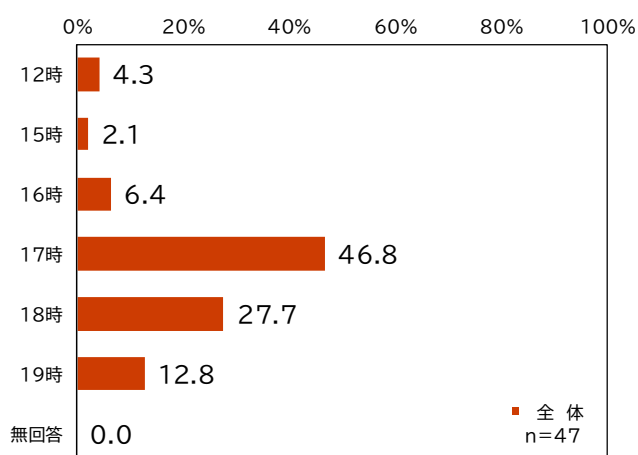
土曜日の放課後児童クラブの利用希望をみると、「利用する必要はない」が72.7%で最も高く、次いで「低学年(1～3年生)の間は利用したい」の11.4%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」の6.4%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用する必要はない」は39.9ポイントも増加し、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」は8.1ポイント増加している。放課後児童クラブを利用したい時間帯で利用希望開始時間をみると、「8時」の48.9%が最も高く、次いで「9時」の23.4%、「7時」の19.1%となっている。同じく終了時間をみると、「17時」の46.8%が最も高く、次いで「18時」の27.7%、「19時」の12.8%となっている。



「放課後児童クラブ」の開始希望時間

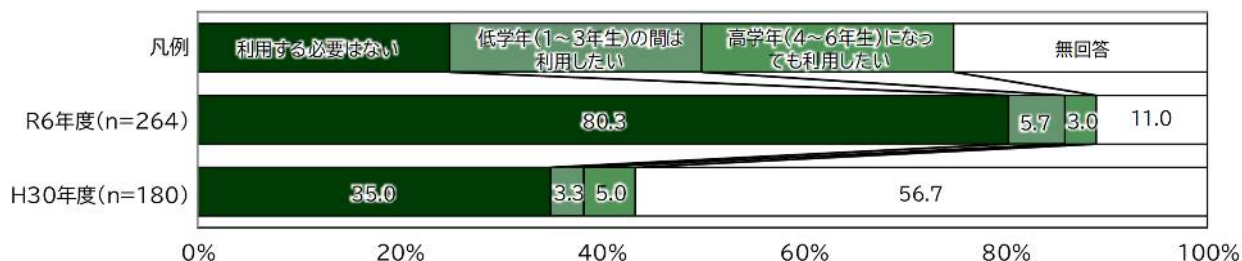


「放課後児童クラブ」の終了希望時間

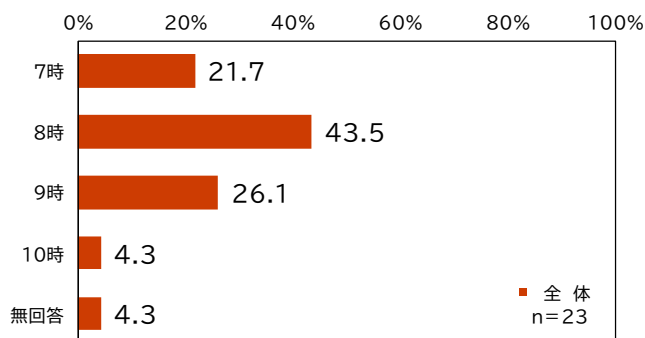


②日曜日・祝日

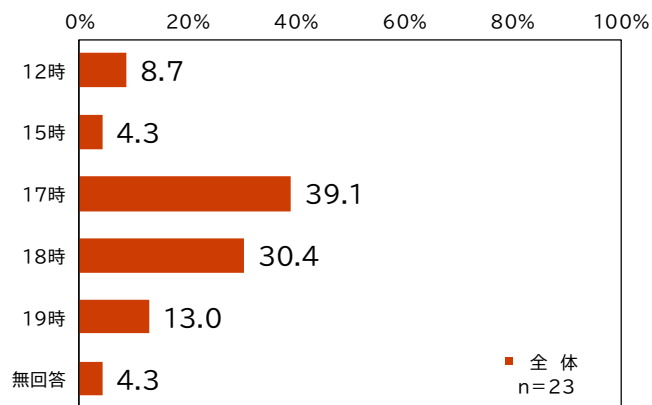
日曜日・祝日の放課後児童クラブの利用希望をみると、「利用する必要はない」が80.3%で最も高く、次いで「低学年(1～3年生)の間は利用したい」の5.7%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」の3.0%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用する必要はない」は45.3ポイントも増加している。放課後児童クラブを利用したい時間帯で利用希望開始時間をみると、「8時」が43.5%で最も高く、次いで「9時」の26.1%、「7時」の21.7%となっている。同じく終了時間をみると、「17時」の39.1%が最も高く、次いで「18時」の30.4%、「19時」の13.0%となっている。



「放課後児童クラブ」の開始希望時間



「放課後児童クラブ」の終了希望時間

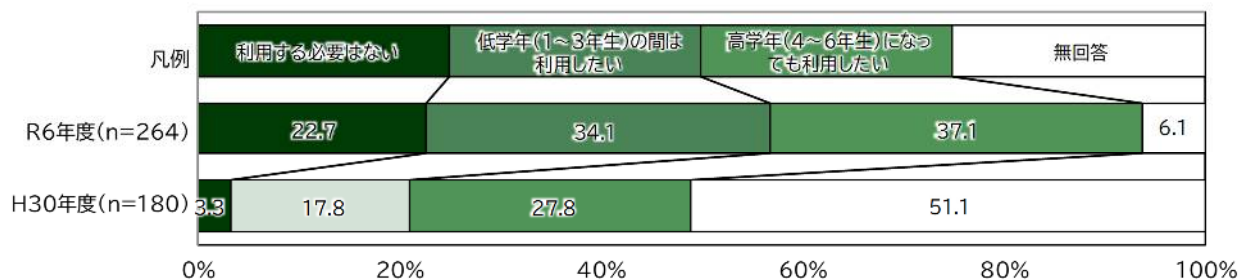


問13 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休み等の長期の休暇期間中の放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)の利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。(〇は1つ)

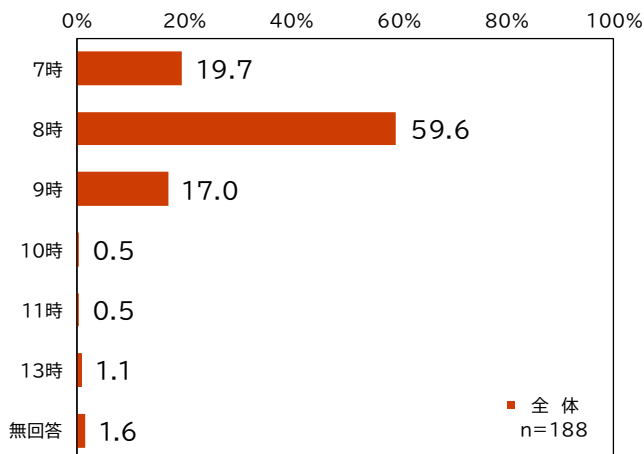
また利用したい時間帯を、()内に(例:09時～18時のように)24時間制でご記入ください。

長期の休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望をみると、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が37.1%で最も高く、次いで「低学年(1～3年生)の間は利用したい」の34.1%、「利用する必要はない」の22.7%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用する必要はない」が19.4ポイント、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が16.3ポイント、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が9.3ポイントそれぞれ増加している。

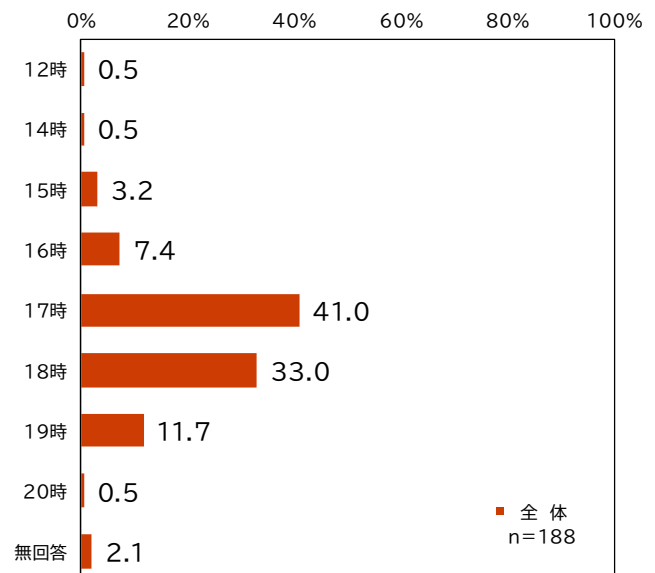
放課後児童クラブを利用したい時間帯で利用希望開始時間をみると、「8時」が59.6%で最も高く、次いで「7時」の19.7%、「9時」の17.0%となっている。同じく終了時間をみると、「17時」の41.0%が最も高く、次いで「18時」の33.0%、「19時」の11.7%となっている。



「放課後児童クラブ」の開始希望時間



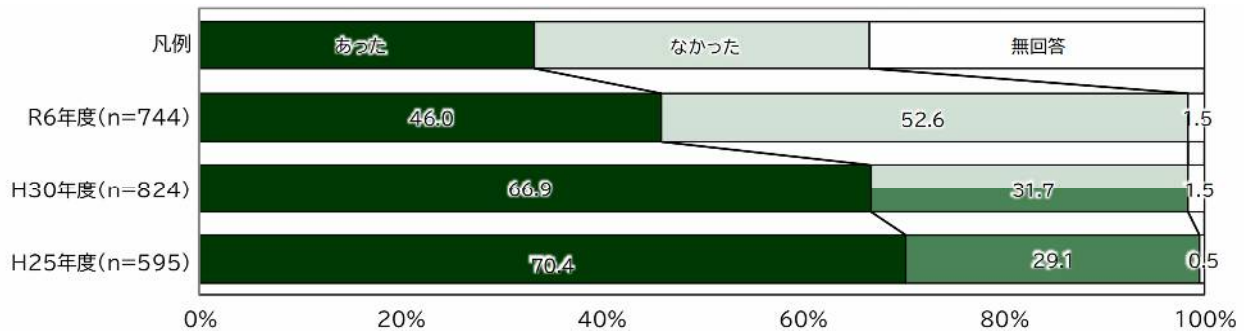
「放課後児童クラブ」の終了希望時間



6. 病気の際の対応について

問14-1 この1年間に、宛名のお子さんが病気やけがで通常の事業が利用できなかったことはありますか。(○は1つ)

こどもの病気やけがで事業が利用できなかったかを聞いたところ、「あった」が46.0%、「なかった」が52.6%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「あった」が20.9ポイント減少している。

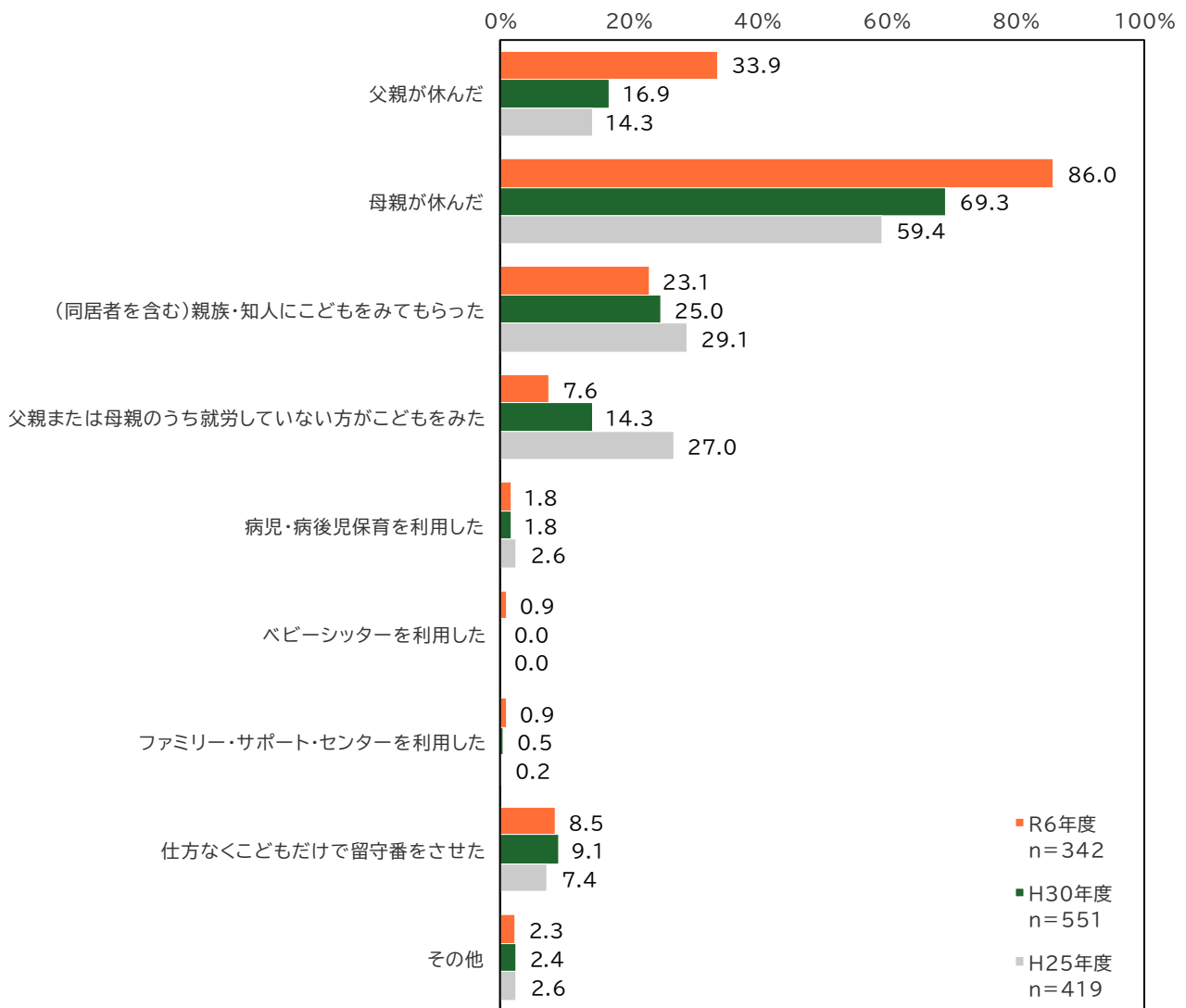


問14-1 で「1. あった」に○をつけた方にうかがいます。

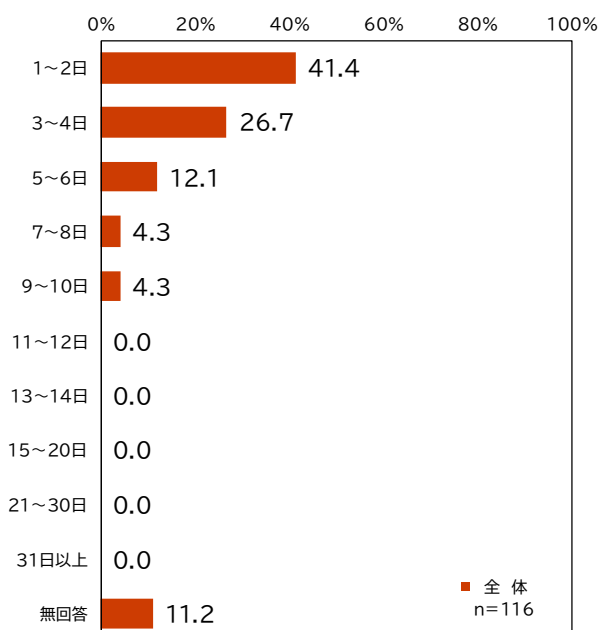
問14-2 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法としてあてはまるものすべてに○をつけ、それぞれの日数も()内に数字でご記入ください。(半日程度の対応の場合も1日とカウントしてください。)

こどもが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合のこの1年間に行った対処方法をみると、「母親が休んだ」が86.0%で最も高く、次いで「父親が休んだ」の33.9%、「(同居者を含む)親族・知人にこどもをみてもらった」の23.1%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「父親が休んだ」は17ポイント、「母親が休んだ」は16.7ポイント増加し、「父親または母親のうち就労していない方がこどもをみた」は6.7ポイント減少している。

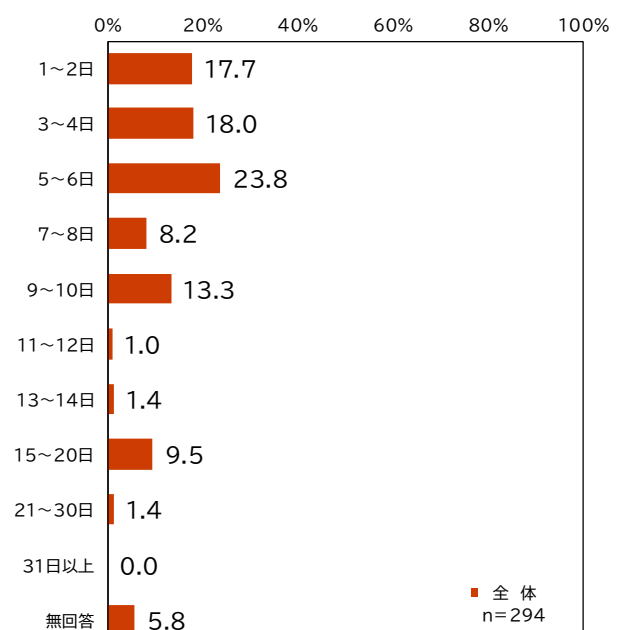
主な対処法別の最も多い日数をみると、「母親が休んだ」では「5～6日」、「父親が休んだ」、「親族・知人にこどもをみてもらった」、「父親または母親のうち就労していない方がこどもをみた」、「病児・病後児保育を利用した」、「仕方なくこどもだけで留守番をさせた」、「その他」ではいずれも「1～2日」が最も高くなっている。



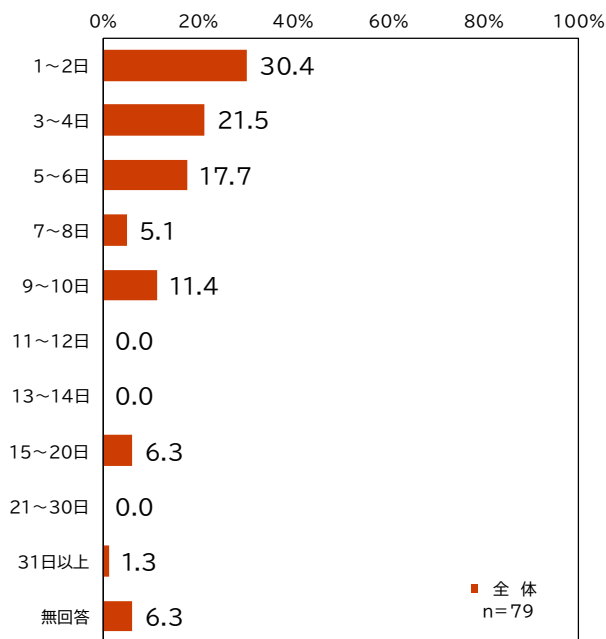
「父親が休んだ」と回答した人の日数



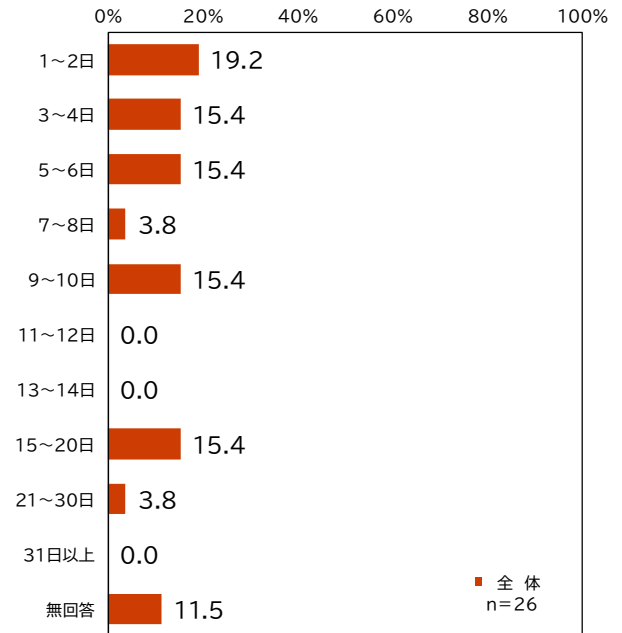
「母親が休んだ」と回答した人の日数



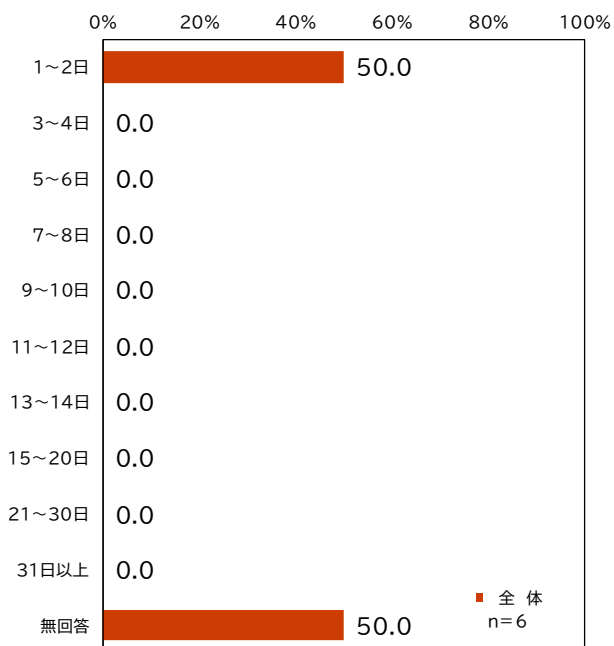
Ⅰ「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」と回答した人の日数



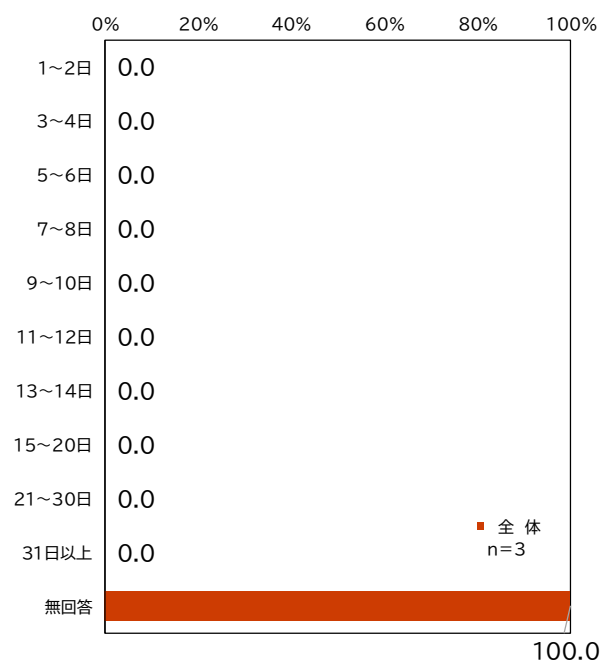
Ⅱ「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」と回答した人の日数



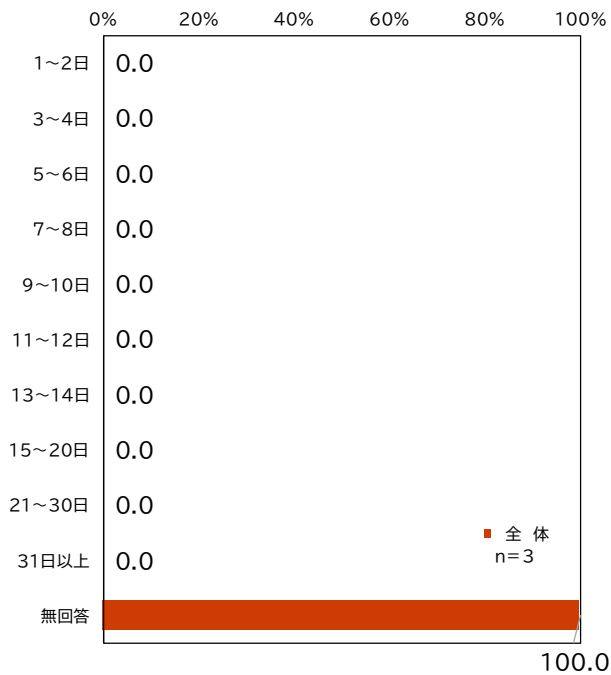
Ⅲ「病児・病後児保育を利用した」と回答した人の日数



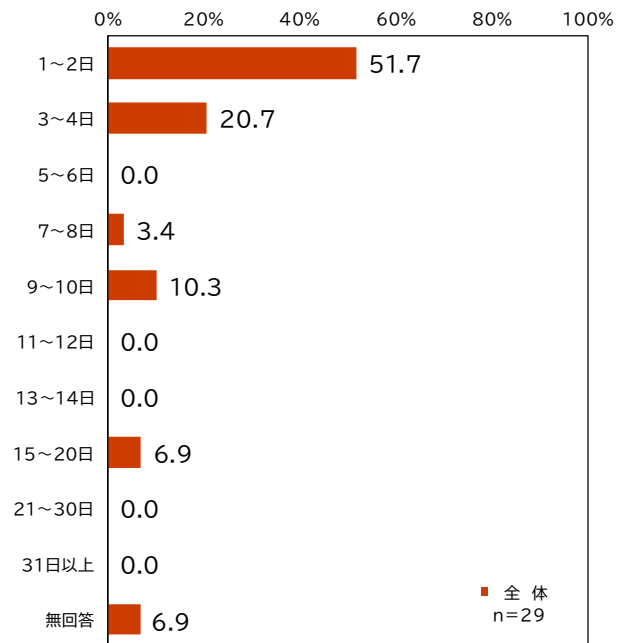
Ⅳ「ベビーシッターを利用した」と回答した人の日数



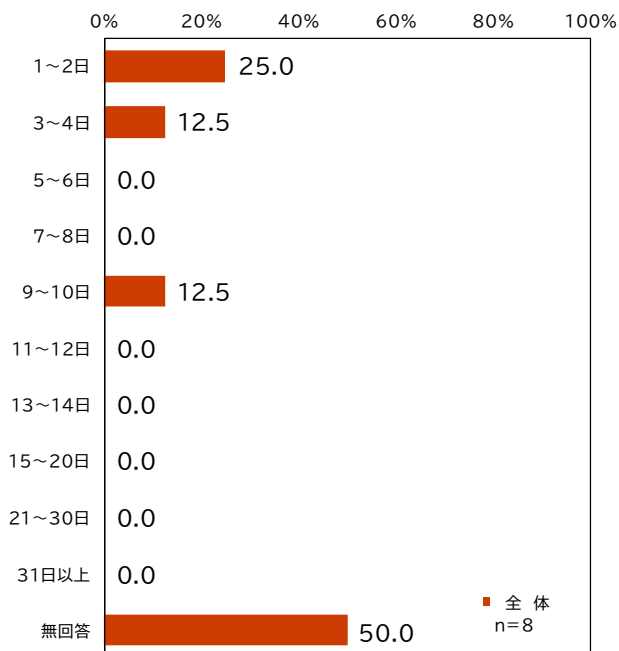
「ファミリー・サポート・センターを利用した」と回答した人の日数



「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」と回答した人の日数



「その他」と回答した人の日数



【その他】

- ・父が在宅勤務しながら子どもを見た
- ・職場に連れていった
- ・母親が早退や中抜けをした

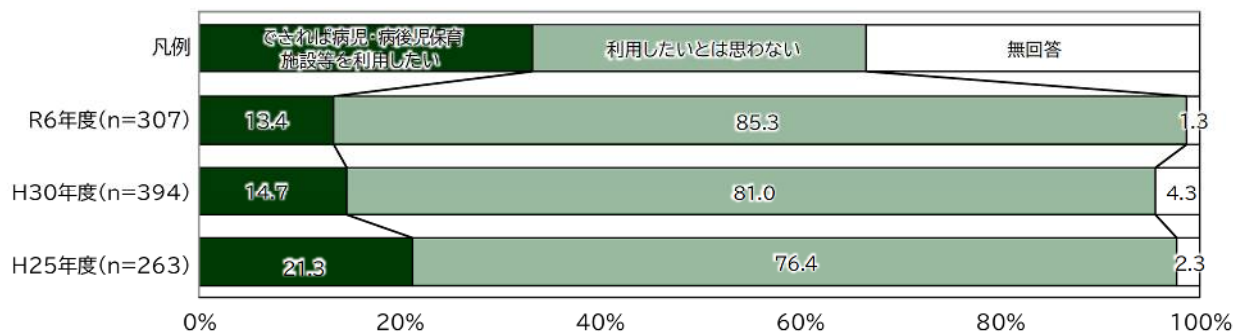
問14-2 で「1. 父親が休んだ」または「2. 母親が休んだ」のいずれかに○をつけた方にうかがいます。

問14-3 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。(○は1つ)

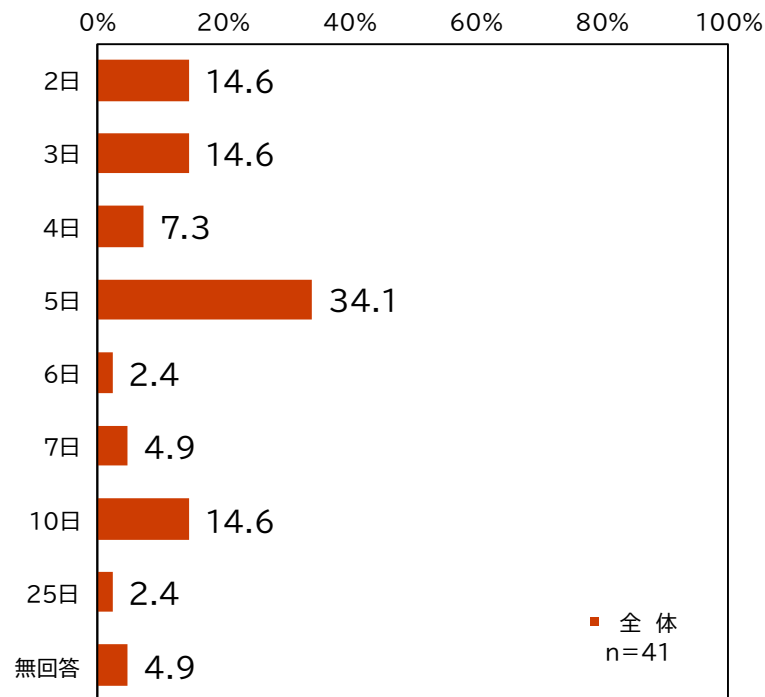
また、日数についても()内に数字でご記入ください。なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用者負担が発生し、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

こどもの病気やけがで休んだ経験を持つ父親または母親(307人)に病児・病後児保育施設の利用意向を聞いたところ、「利用したいとは思わない」が85.3%で、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は13.4%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用したいとは思わない」は4.3ポイント増加している。

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の利用希望日数をみると、「5日」が34.1%で最も高く、次いで「2日」、「3日」、「10日」の14.6%となっている。



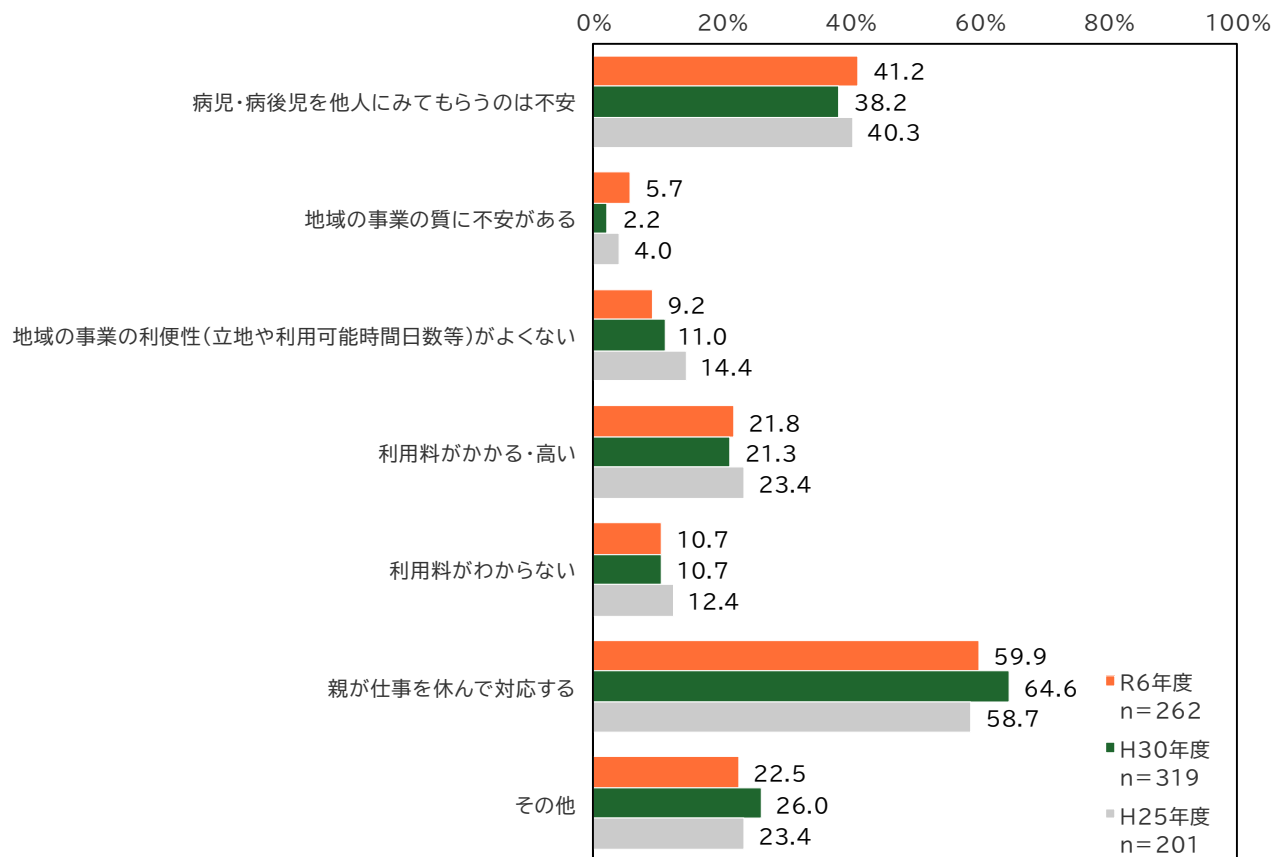
「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した人の日数



問14-3 で「2. 利用したいとは思わない」に○をつけた方にうかがいます。

問14-4 そう思われる理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

病児・病後児保育施設等を「利用したいとは思わない」と回答した人(262人)にそう思う理由を聞いたところ、「親が仕事を休んで対応する」が59.9%で最も高く、次いで「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安」の41.2%、「利用料がかかる・高い」の21.8%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「地域の事業の質に不安がある」は3.5ポイント増加し、「親が仕事を休んで対応する」は4.7ポイント減少している。

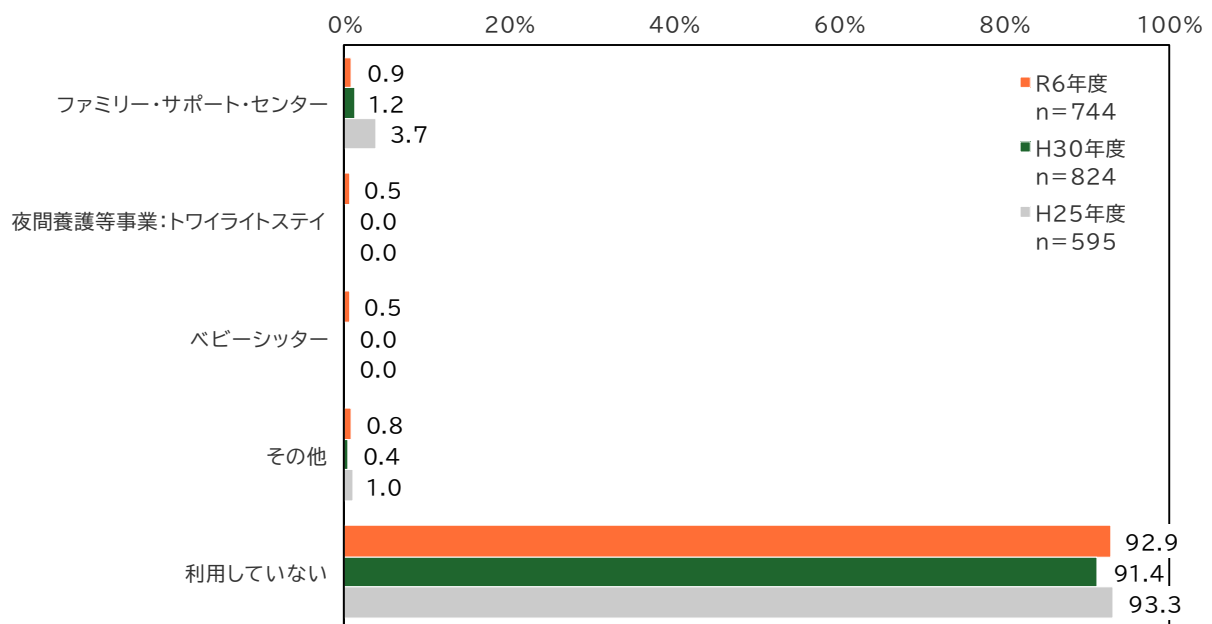


7. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

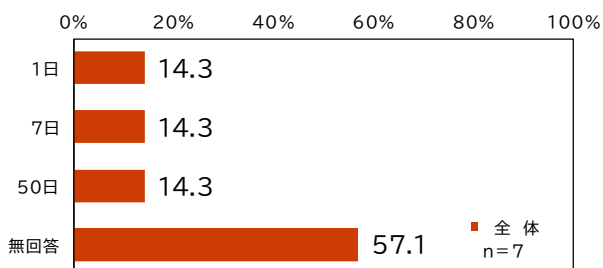
問15-1 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期(宿泊を伴わない)に利用している事業はありますか。ある場合は、あてはまるものすべてに○をつけ、1年間の利用日数(おおよそ)も()内に数字でご記入ください。

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期(宿泊を伴わない)に利用している事業については、「利用していない」が最も高く92.9%を占めている。平成30年度調査の結果とほぼ同じ割合分布となっているが、「夜間養護等事業:トワイライトステイ」、「ベビーシッター」が0.5ポイント増加している。

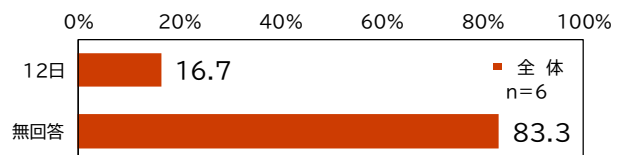
主な事業別に最も多い日数をみると、「ファミリー・サポート・センター」では「1日」、「7日」、「50日」、「その他」では「12日」となっている。「夜間養護等事業:トワイライトステイ」、「ベビーシッター」は回答なし。



Ⅰ 「ファミリー・サポート・センター」と回答した人の日数



Ⅱ 「その他」と回答した人の日数

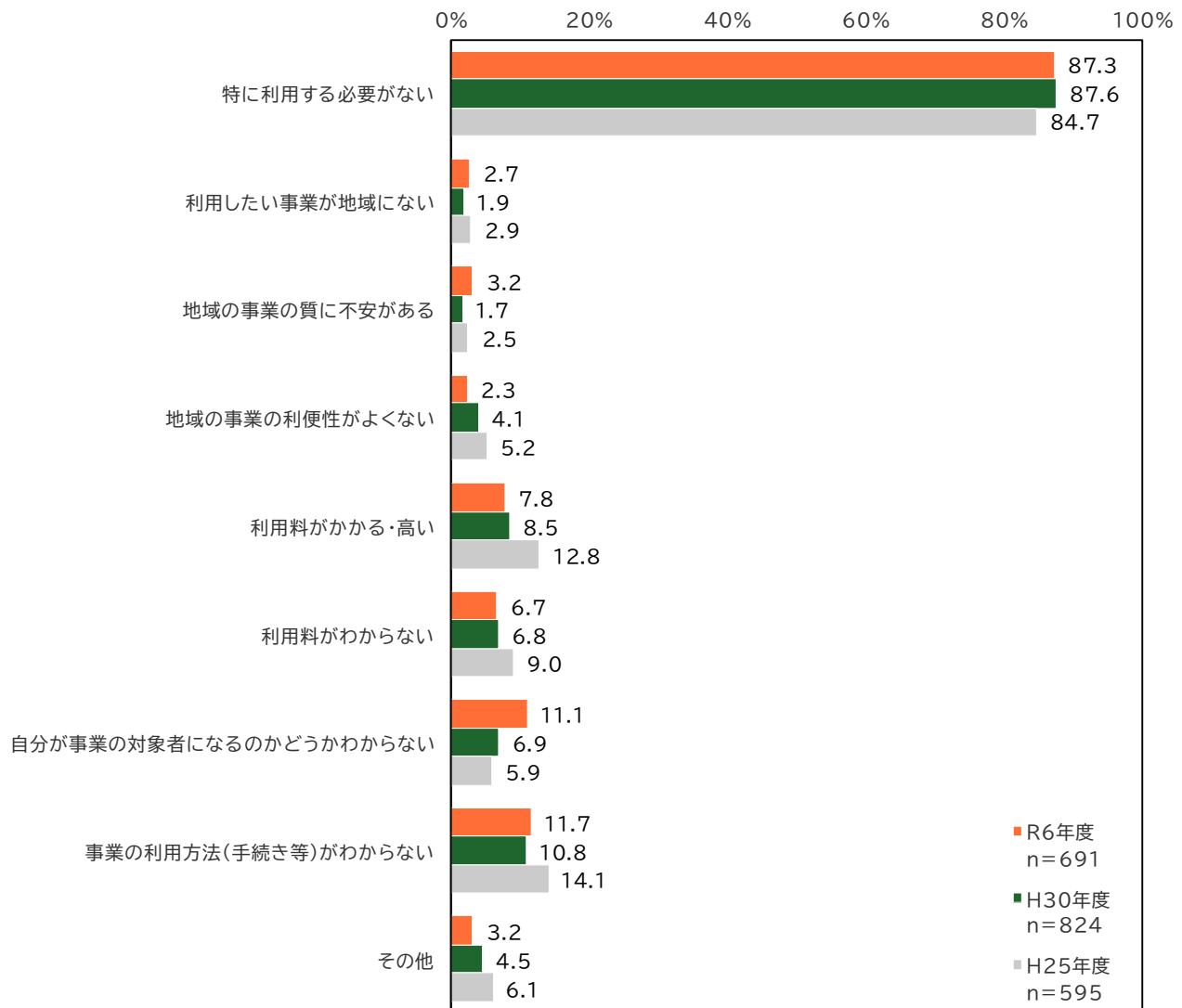


【その他】
・放課後デイサービス

問15-1で「5. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

問15-2 現在利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

不定期に利用している事業を「利用していない」と回答した人(691人)に現在利用していない理由を聞いたところ、「特に利用する必要がない」が最も高く87.3%を占めている。次いで「事業の利用方法(手続き等)がわからない」の11.7%、「自分が事業の対象者になるのかどうかわからない」の11.1%、「利用料がかかる・高い」の7.8%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、大きな変化は認められない。



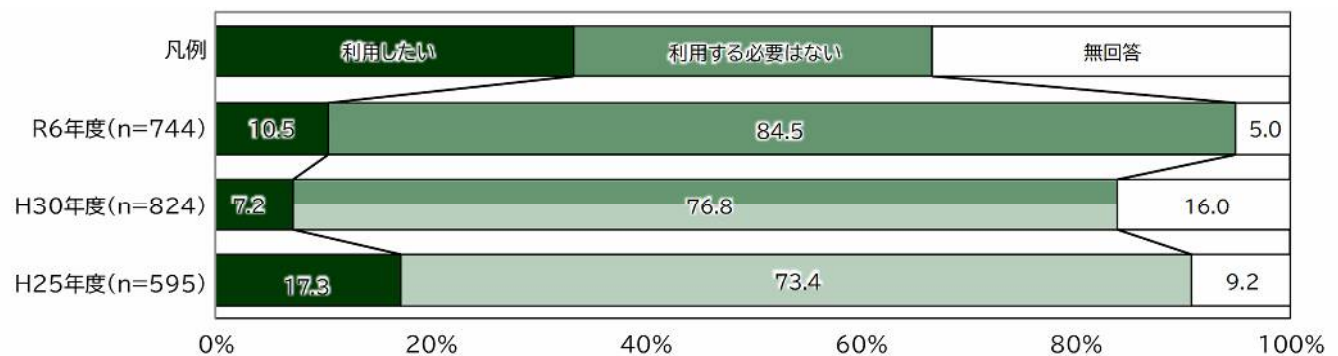
問16-1 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。また、「利用したい」の場合は、その目的としてあてはまるものすべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください。(利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を()内に数字でご記入ください。)

なお、事業の利用にあたっては、一定の利用者負担が発生します。

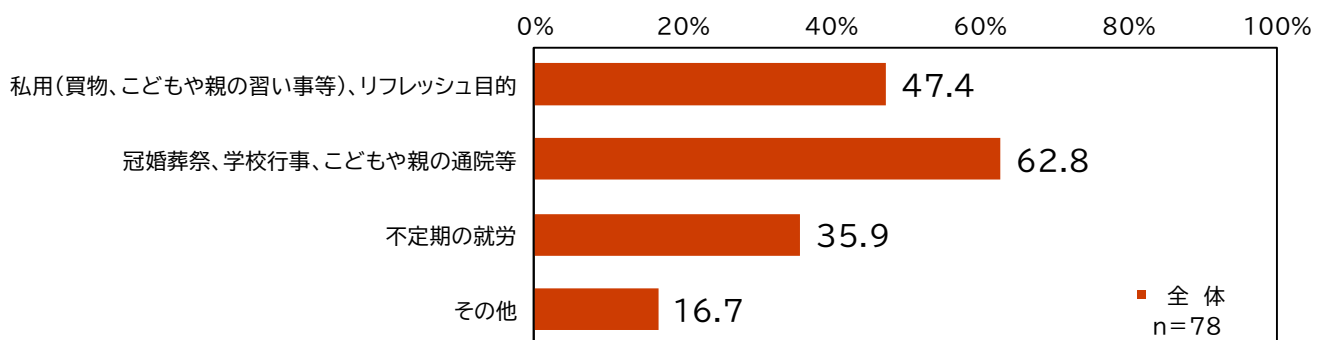
私用、親の通院、不定期の就労等の目的での事業の利用意向をみると、「利用する必要はない」が84.5%で、「利用したい」は10.5%となっている。平成30年度調査の結果と比較すると、「利用する必要はない」は7.7ポイント増加している。

「利用したい」と回答した人の目的をみると、「冠婚葬祭、学校行事、こども(きょうだいを含む)や親の通院等」が62.8%で最も高く、次いで「私用(買物、こども(きょうだいを含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」の47.4%となっている。

利用目的別に最も高い利用希望日数をみると、「私用(買物、こども(きょうだいを含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」、「冠婚葬祭、学校行事、こども(きょうだいを含む)や親の通院等」、「その他」では「5～6日」、「不定期の就労」では「9～10日」が最も高くなっている。



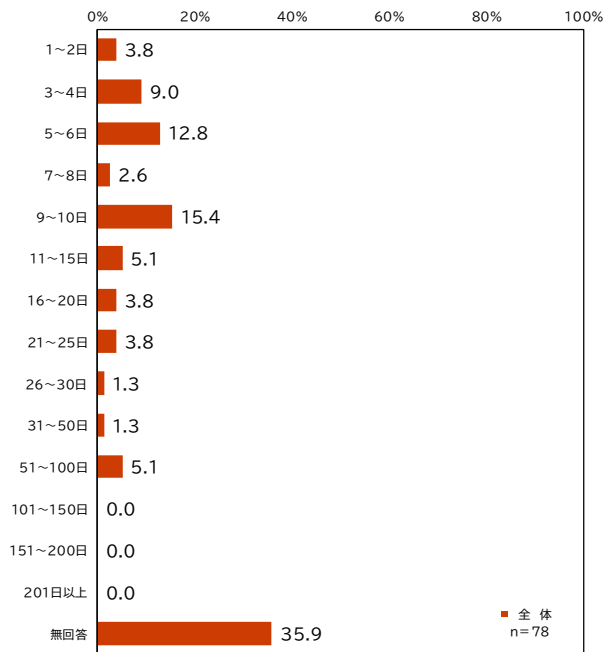
Ⅰ 「利用したい」と回答した人の目的



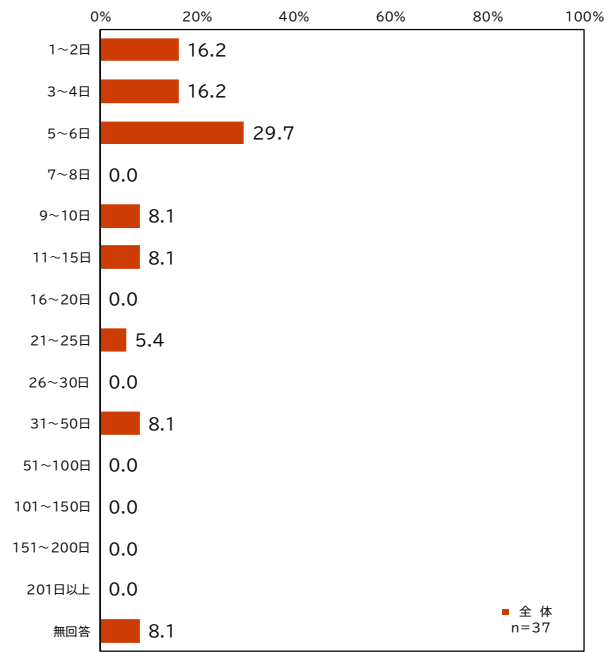
【その他】

- ・緊急な兄弟児の入院時
- ・身内の介護の手伝い など

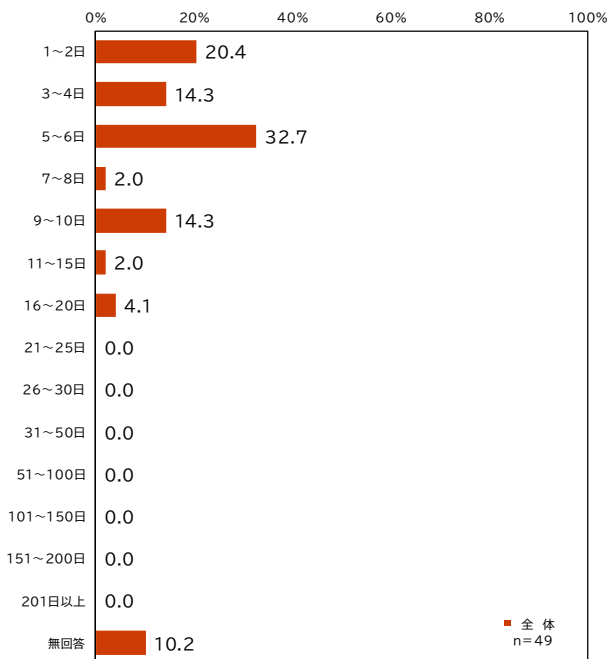
「利用したい」希望日数の合計



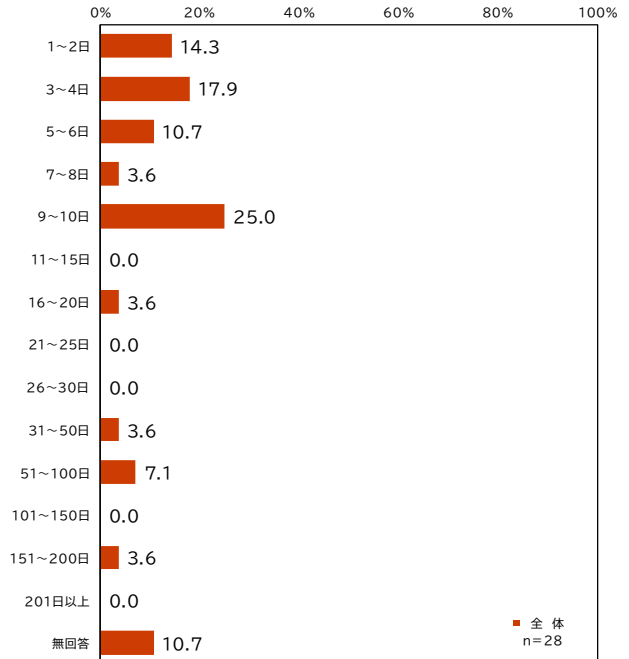
「私用(買物、こども(きょうだいを含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」の日数



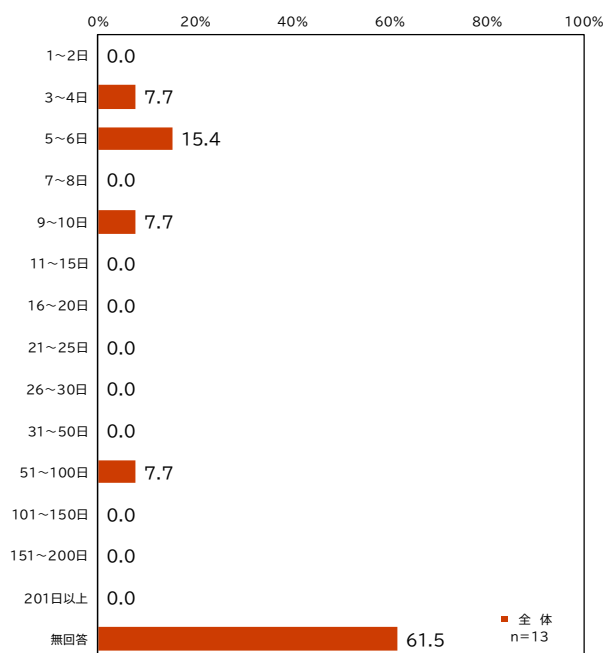
「冠婚葬祭、学校行事、こども(きょうだいを含む)や親の通院等」の日数



「不定期の就労」の日数



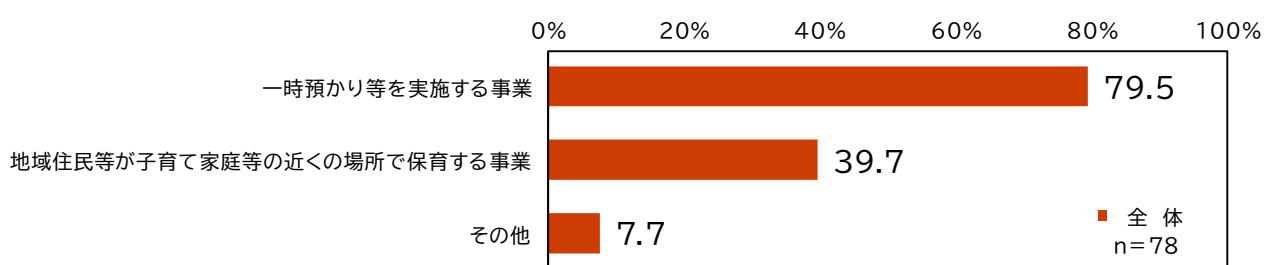
【「その他」の日数



問16-1 で「1. 利用したい」に○をつけた方にうかがいます。

問16-2 問16-1の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

私用、親の通院、不定期の就労等の目的でのこどもを預ける事業等に対して望む事業形態をみると、「一時預かり等を実施する事業」が79.5%で最も高く、次いで「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」の39.7%となっている



問17 宛名のお子さんについて、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族(きょうだい含む)の育児疲れや育児不安、病気等)により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

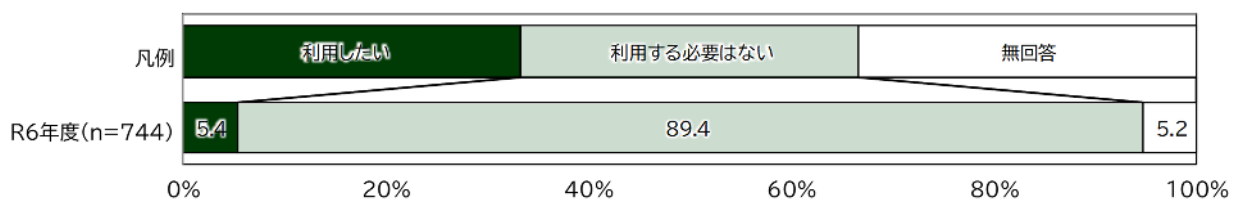
短期生活援助事業(ショートステイ)(児童養護施設等で一定期間、こどもを預かる事業)の利用希望の有無についてあてはまるものすべてに○をつけ、必要な泊数をご記入ください。(利用したい泊数の合計と、目的別の内訳の泊数を()内に数字でご記入ください。)

なお、事業の利用にあたっては、一定の利用者負担が発生します。

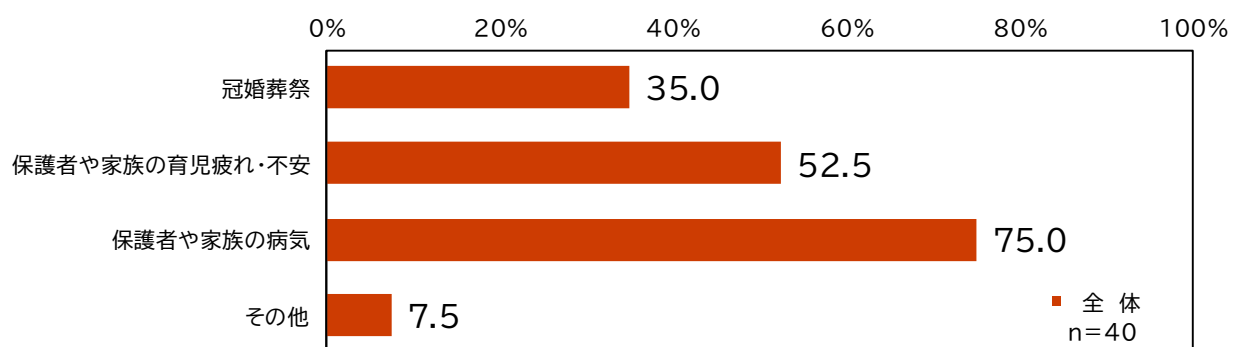
保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族(きょうだい含む)の育児疲れや育児不安、病気等)により、泊りがけで、短期生活援助事業(ショートステイ)(児童養護施設等で一定期間、こどもを預かる事業)の利用希望をみると、「利用する必要はない」が89.4%で、「利用したい」が5.4%となっている。

「利用したい」と回答した人の目的をみると、「保護者や家族の病気」が75.0%で最も高く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」の52.5%、「冠婚葬祭」の35.0%となっている。

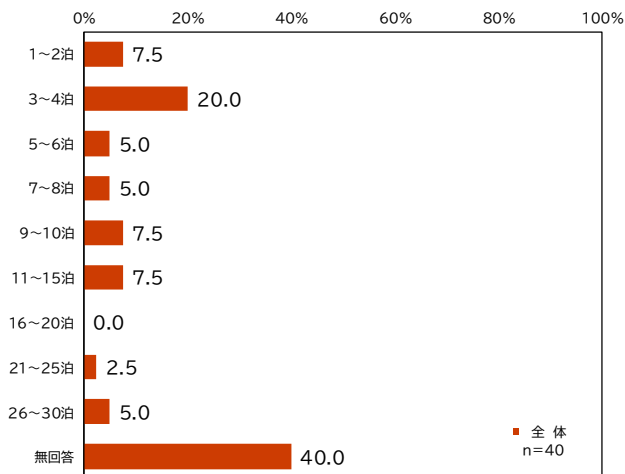
利用目的別に最も高い利用希望日数をみると、いずれも「1～2泊」が最も高くなっている。



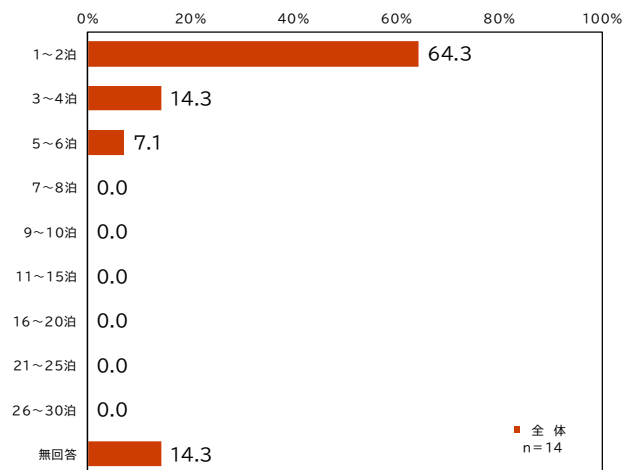
「利用したい」と回答した人の目的



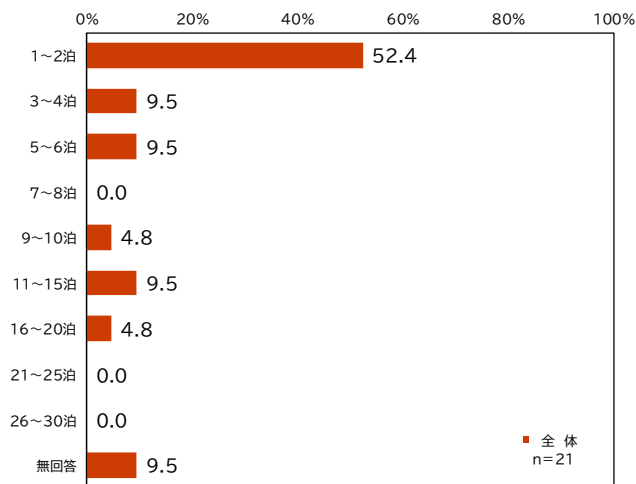
「利用したい」希望日数の合計



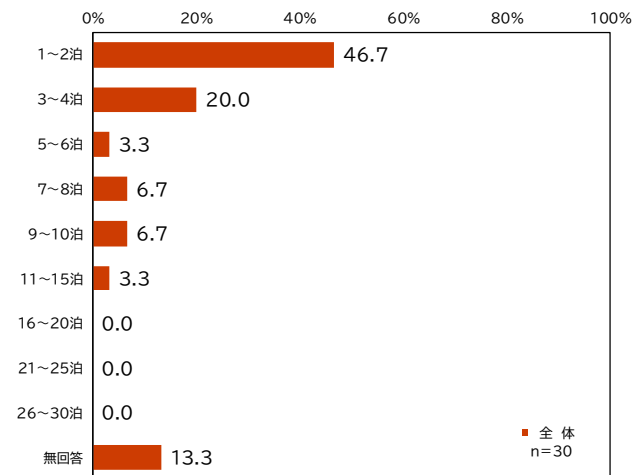
「冠婚葬祭」の日数



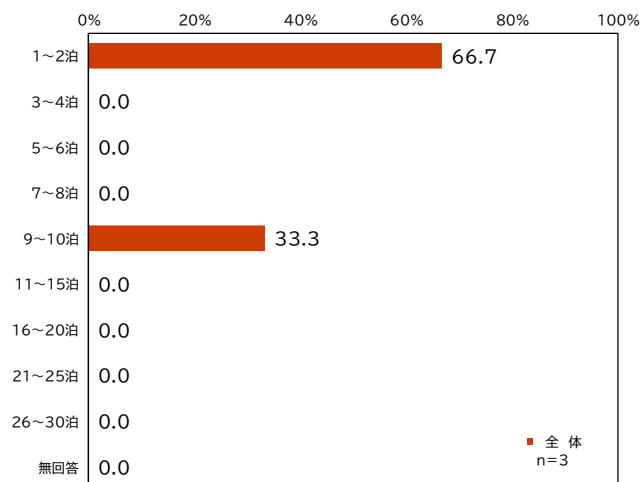
「保護者や家族の育児疲れ・不安」の日数



「保護者や家族の病気」の日数



「その他」の日数



【その他】

- ・子ども自身のリフレッシュのため
- ・大人のリフレッシュのため

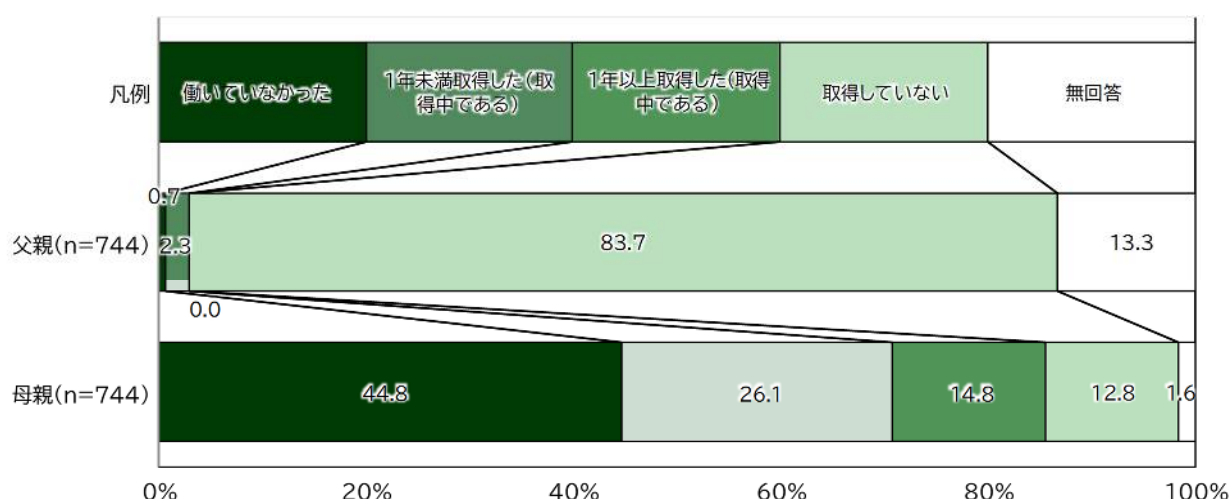
8. 育児休業や短時間勤務制度等職場の 両立支援制度について

問 18-1 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。(それぞれ〇は1つ)また、取得していない方はその理由をお答えください。

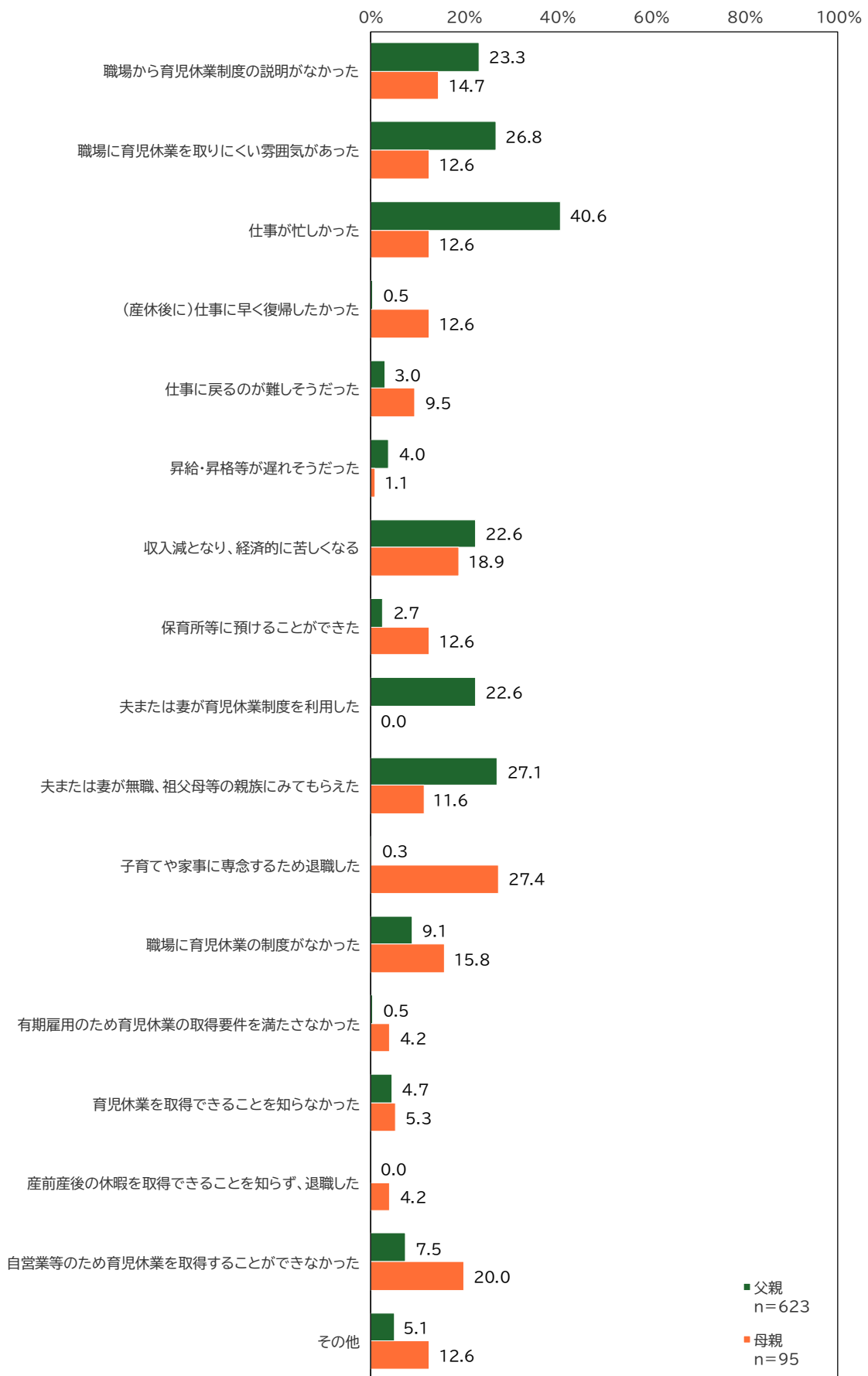
保護者の育児休業の取得状況をみると、父親では「取得していない」が最も高く83.7%を占め、次いで「1年未満取得した(取得中である)」の2.3%、「働いていなかった」の0.7%となっている。一方、母親では「働いていなかった」が44.8%で最も高く、次いで「1年未満取得した(取得中である)」の26.1%、「1年以上取得した(取得中である)」の14.8%となっており、「取得していない」は12.8%となっている。

取得していない理由(複数回答)をみると、父親は「仕事が忙しかった」が40.6%で最も高く、次いで「夫または妻が無職、祖父母等の親族にみてもらえた」の27.1%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」の26.8%、「職場から育児休業制度の説明がなかった」の23.3%となっている。

一方、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が27.4%で最も高く、次いで「自営業等のため育児休業を取得することができなかった」の20.0%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」の18.9%、「職場に育児休業の制度がなかった」の15.8%となっている。



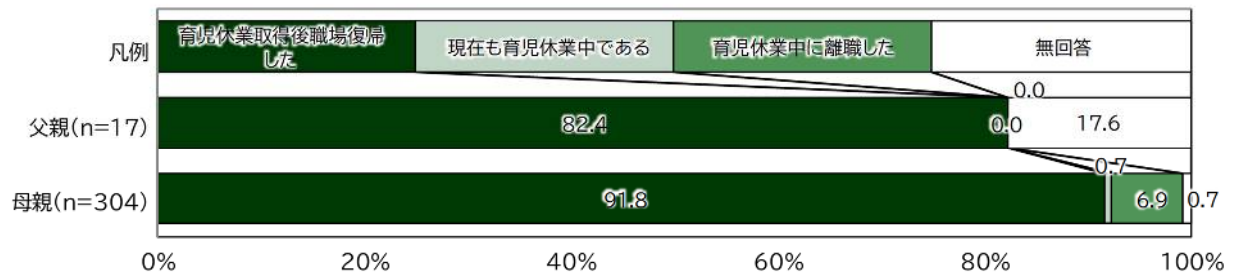
Ⅰ 育児休業を取得していない理由



問 18-1 で「2. 1年未満取得した(取得中である)」「3. 1年以上取得した(取得中である)」に○をつけた方にうかがいます。

問 18-2 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。(○は1つ)

育児休業取得後の職場への復帰状況をみると、父親では「育児休業取得後職場に復帰した」が最も高く82.4%を占めている。一方、母親でも「育児休業取得後職場に復帰した」が最も高く91.8%を占めている。次いで「育児休業中に離職した」の6.9%となっている。

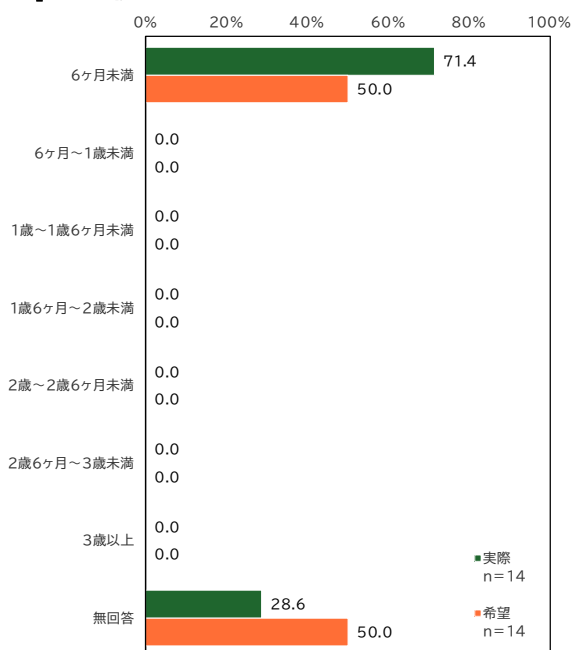


問 18-2で「1. 育児休業取得後職場復帰した」に○をつけた方にうかがいます。

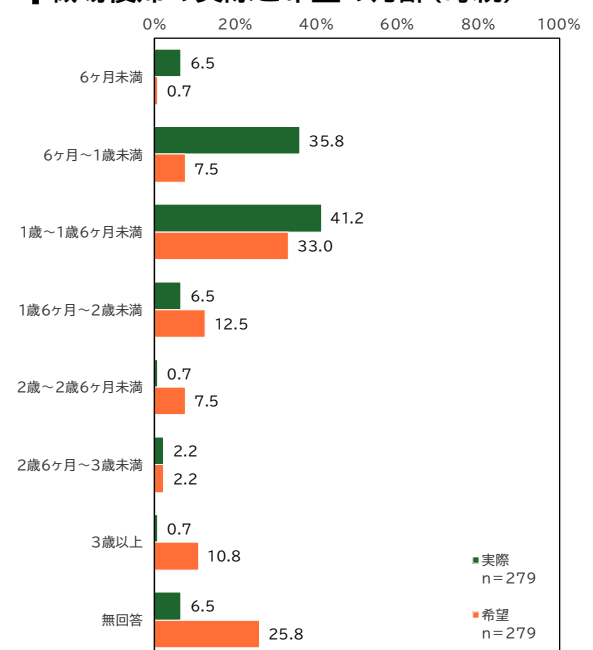
問 18-3 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。()内に数字でご記入ください。

育児休業取得後の職場復帰の実際と希望をみると、父親では、実際の復帰が「6ヶ月未満」が71.4%で最も高くなっており、希望でも「6ヶ月未満」が50.0%で最も高くなっている。一方、母親では、実際の復帰が「1歳～1歳6ヶ月未満」が41.2%で最も高く、希望でも「1歳～1歳6ヶ月未満」が33.0%で最も高くなっている。

■ 職場復帰の実際と希望の月齢(父親)



■ 職場復帰の実際と希望の月齢(母親)

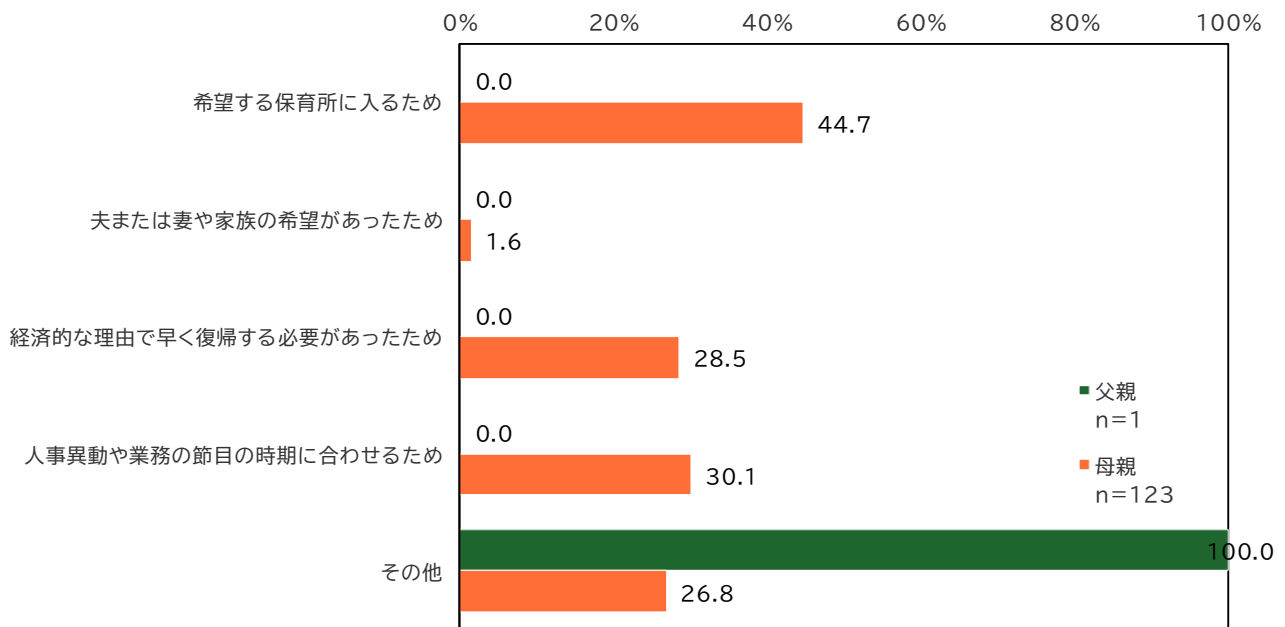


問 18-3 で実際の復帰と希望が異なる方にうかがいます。

問 18-4 希望の時期に職場復帰しなかった理由についてうかがいます。

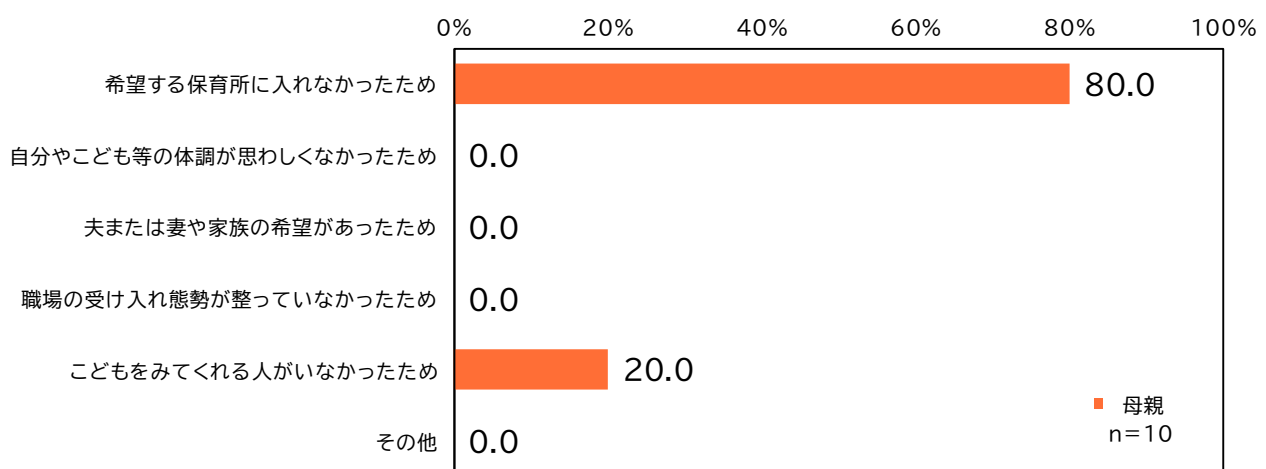
(1)「希望」より早く復帰した方 (あてはまるものすべてに○)

「希望」よりも早く復帰した理由をみると、母親(123人)は「希望する保育所に入るため」が44.7%で最も高く、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」の30.1%、「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」の28.5%となっている。父親(1人)は「その他」となっている。



(2)「希望」より遅く復帰した方 (あてはまるものすべてに○)

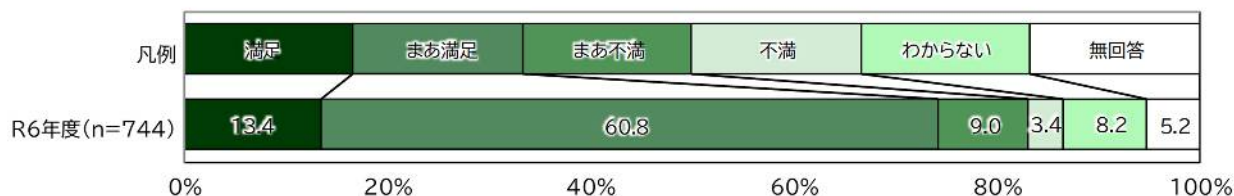
「希望」よりも遅く復帰した理由をみると、母親(10人)は「希望する保育所に入れなかったため」が80.0%で最も高く、次いで「こどもをみてくれる人がいなかったため」の20.0%となっている。父親は該当者なし。



9. 合志市の子育て全般に関することについて

問19 合志市の子育ての環境や支援への満足度をお答えください。(〇は1つ)

合志市の子育ての環境や支援への満足度をみると、「まあ満足」が60.8%で最も高く、次いで「満足」の13.4%、「まあ不満」の9.0%、「わからない」の8.2%となっている。

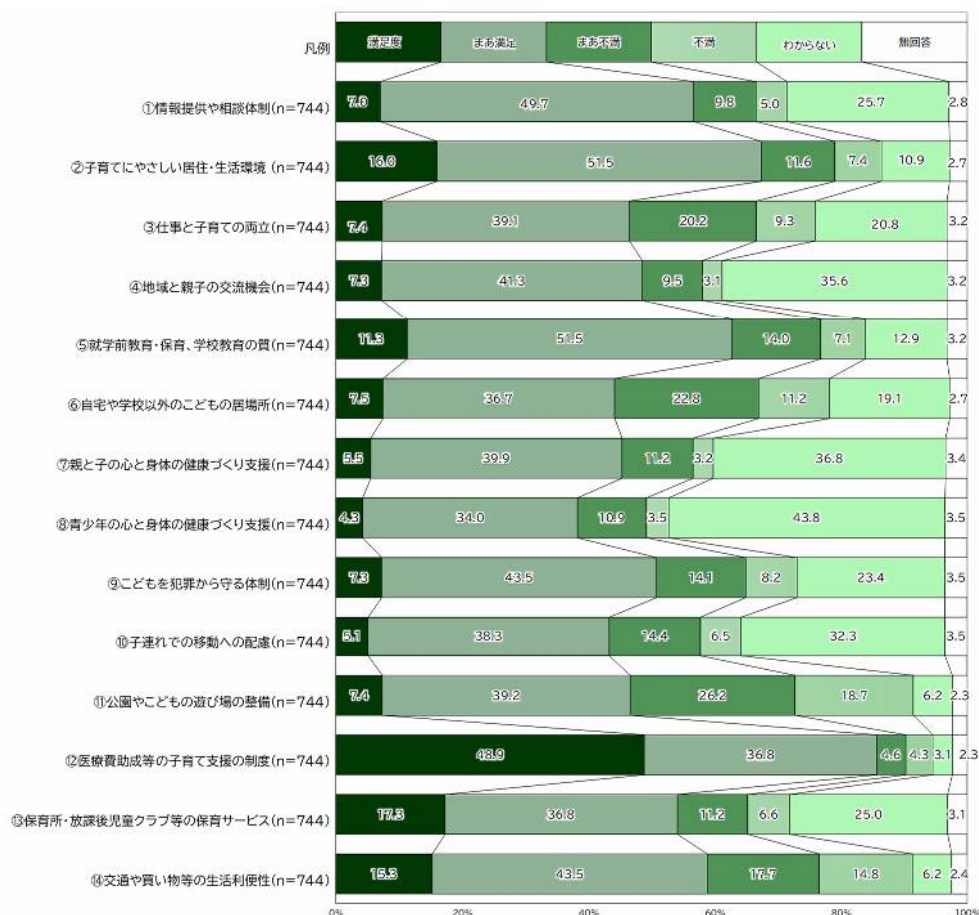


問20 合志市の以下の子育て支援や環境について、子育てをする上で、あなたは満足していますか。また、重要だと思う項目はどれですか。(満足度と重要度の①～⑭それぞれ〇は1つ)

●満足度

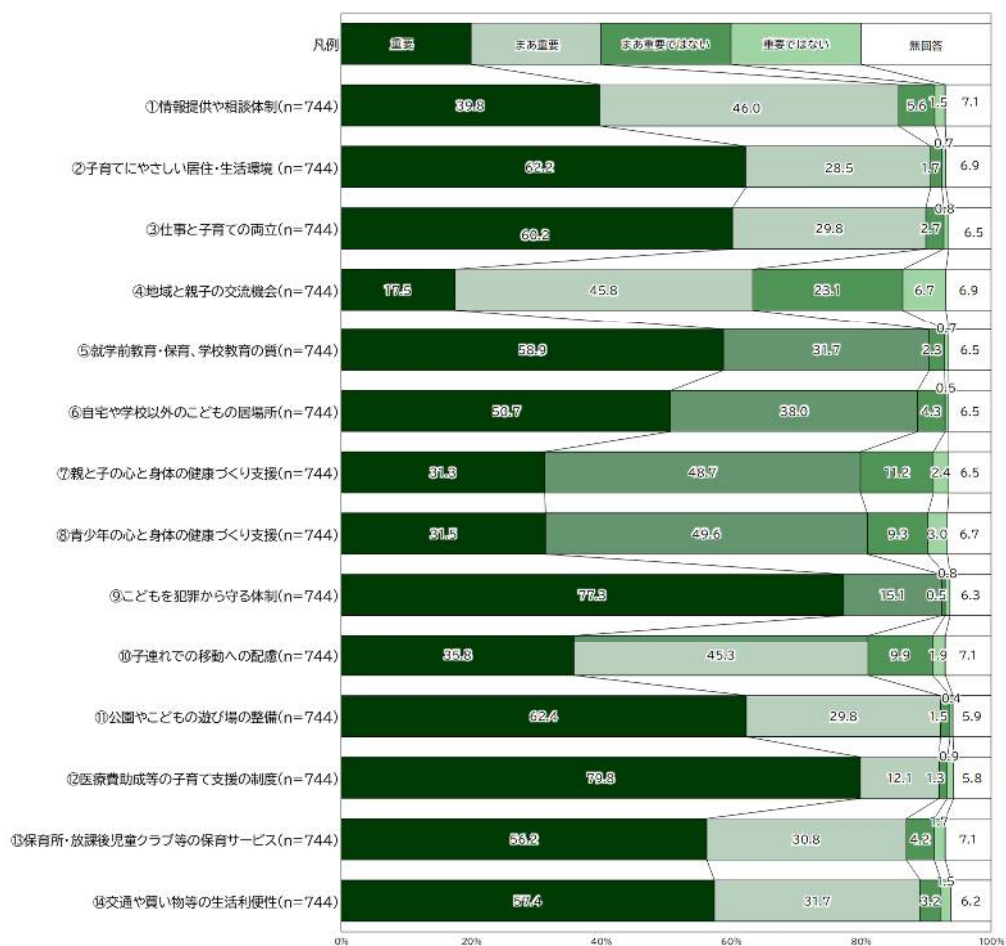
合志市の子育て支援や環境についての満足度をみると、「満足」、「まあ満足」を合わせた割合が最も高いのは、「⑫医療費助成等の子育て支援の制度」の85.7%で、次いで「②子育てにやさしい居住・生活環境」の67.5%、「⑤就学前教育・保育、学校教育の質」の62.8%となっている。

一方、「不満」、「まあ不満」を合わせた割合が最も高いのは、「⑪公園やこどもの遊び場の整備」の44.9%で、次いで「⑥自宅や学校以外のこどもの居場所」の34.0%、「⑭交通や買い物等の生活利便性」の32.5%となっている。



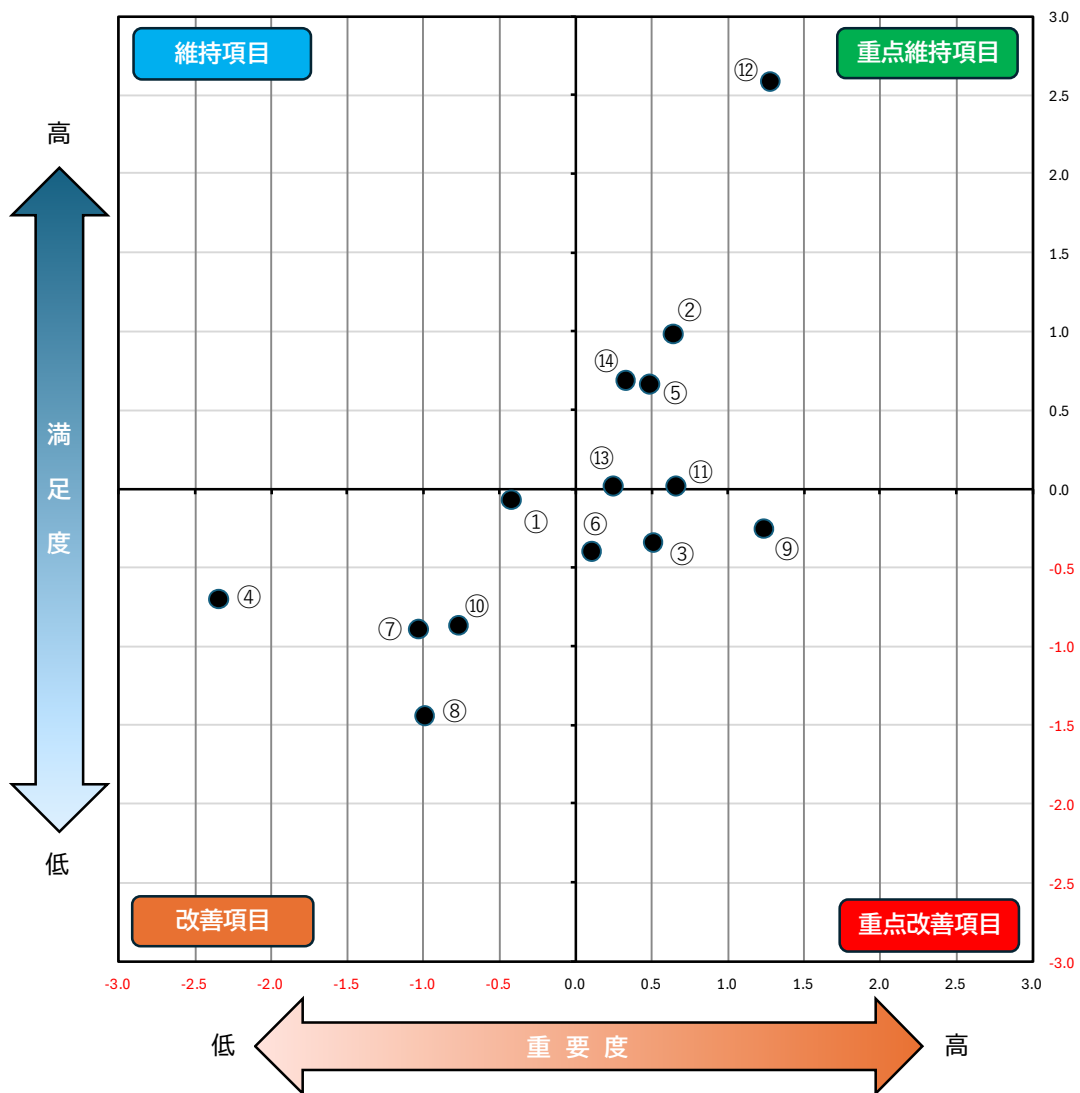
●重要度

合志市の子育て支援や環境についての重要度をみると、「重要」、「まあ重要」を合わせた割合が最も高いのは、「⑨こどもを犯罪から守る体制」の92.4%で、次いで「⑪公園やこどもの遊び場の整備」が92.2%、「⑫医療費助成等の子育て支援の制度」が91.9%となっている。



重点改善項目(重要度が高いが、満足度が低い)としては、「③仕事と子育ての両立」、「⑥自宅や学校以外のこどもの居場所」、「⑨こどもを犯罪から守る体制」が挙げられる。

合志市の子育て支援や環境についての満足度及び重要度の相関図【小学生保護者】



項 目	平均値		Zスコア		象 限
	重要度	満足度	重要度	満足度	
①情報提供や相談体制	3.336	2.660	-0.415	-0.074	改善項目
②子育てにやさしい居住・生活環境	3.635	3.251	0.649	0.982	重点維持項目
③仕事と子育ての両立	3.598	2.511	0.516	-0.339	重点改善項目
④地域と親子の交流機会	2.795	2.310	-2.338	-0.699	改善項目
⑤就学前教育・保育、学校教育の質	3.591	3.074	0.491	0.665	重点維持項目
⑥自宅や学校以外のこどもの居場所	3.484	2.479	0.113	-0.396	重点改善項目
⑦親と子の心と身体健康づくり支援	3.164	2.202	-1.027	-0.892	改善項目
⑧青少年の心と身体健康づくり支援	3.174	1.894	-0.989	-1.440	改善項目
⑨こどもを犯罪から守る体制	3.802	2.558	1.243	-0.255	重点改善項目
⑩子連れでの移動への配慮	3.237	2.217	-0.765	-0.864	改善項目
⑪公園やこどもの遊び場の整備	3.639	2.713	0.662	0.020	重点維持項目
⑫医療費助成等の子育て支援の制度	3.813	4.149	1.282	2.584	重点維持項目
⑬保育所・放課後児童クラブ等の保育サービス	3.522	2.713	0.249	0.021	重点維持項目
⑭交通や買い物等の生活利便性	3.546	3.085	0.332	0.686	重点維持項目

※数値は各項目の重要度、満足度それぞれの平均値を平均0、分散1となるように正規化

【維持項目】 満足度こそ高いものの、重要度は低い項目

【改善項目】 満足度と重要度ともに低い項目

【重点維持項目】 重要度も満足度も高い項目

【重点改善項目】 重要度が高いにも関わらず市民から満足されていない項目

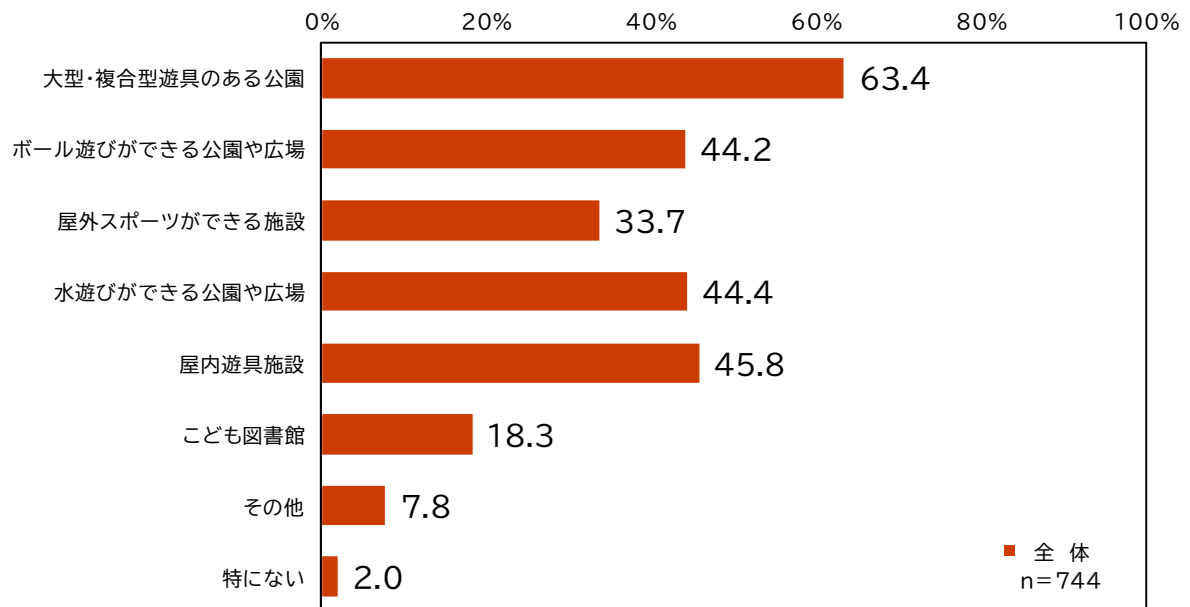
問21 こどもが健やかに生まれ育つ環境づくりをすすめていく上で、合志市としてはどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は5つまで)

合志市として必要なことをみると、「子育ての経済的負担の軽減」が61.6%で最も高く、次いで「仕事と子育てが両立できる雇用環境づくりや就労支援」が46.8%、「安全・安心な生活環境づくりの推進」が35.5%となっている。



問22 合志市内にあったら利用したいと思う施設はありますか。(〇は3つまで)

合志市内にあったら利用したい施設をみると、「大型・複合型遊具のある公園」が63.4%で最も高く、次いで「屋内遊具施設」の45.8%、「水遊びができる公園や広場」の44.4%、「ボール遊びができる公園や広場」の44.2%となっている。

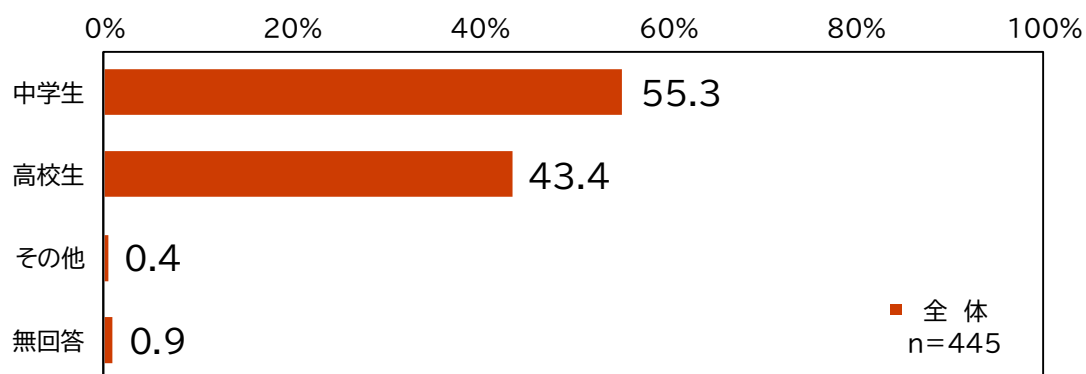


第 4 章 調査結果【中学生・高校生世代】

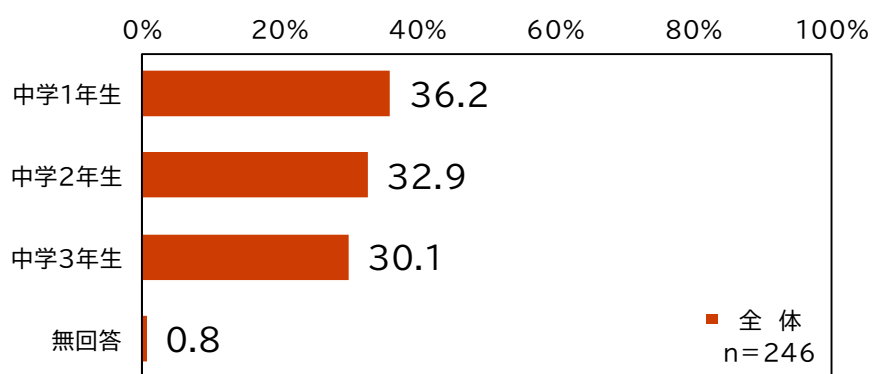
1. 回答者について

問1 あなたは次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

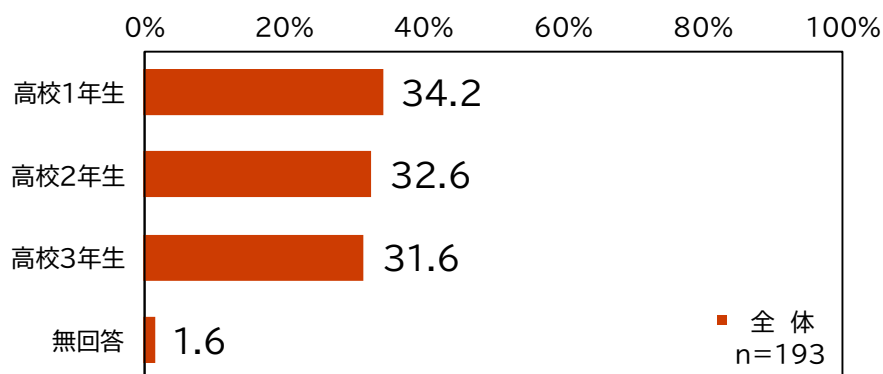
また学年も記入してください。



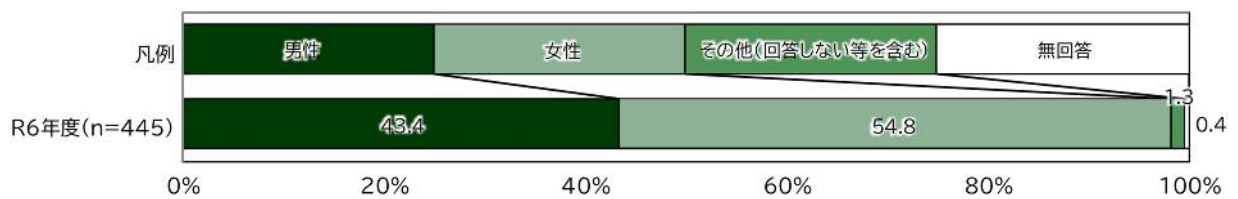
●学年【中学生】



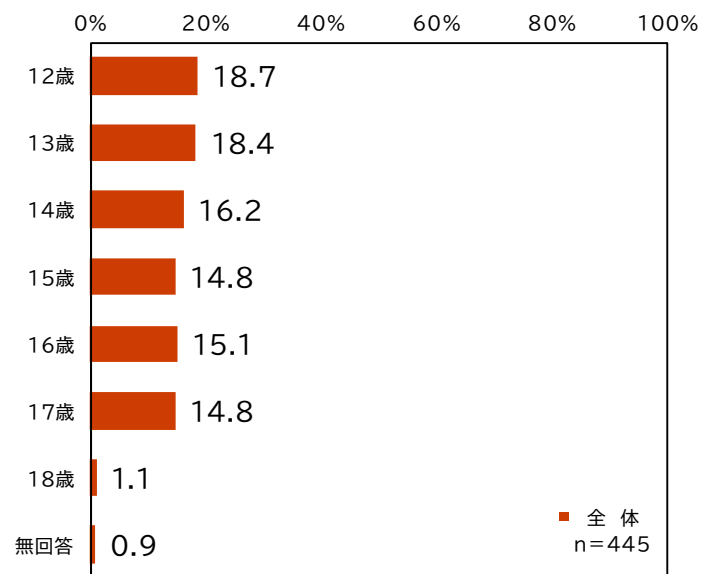
●学年【高校生】



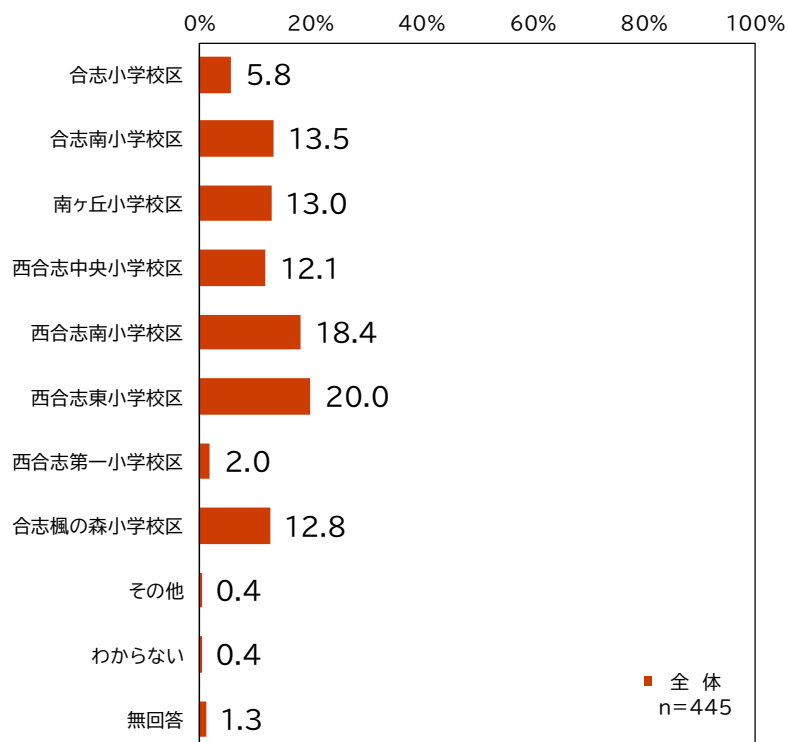
問2 あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。(○は1つ)



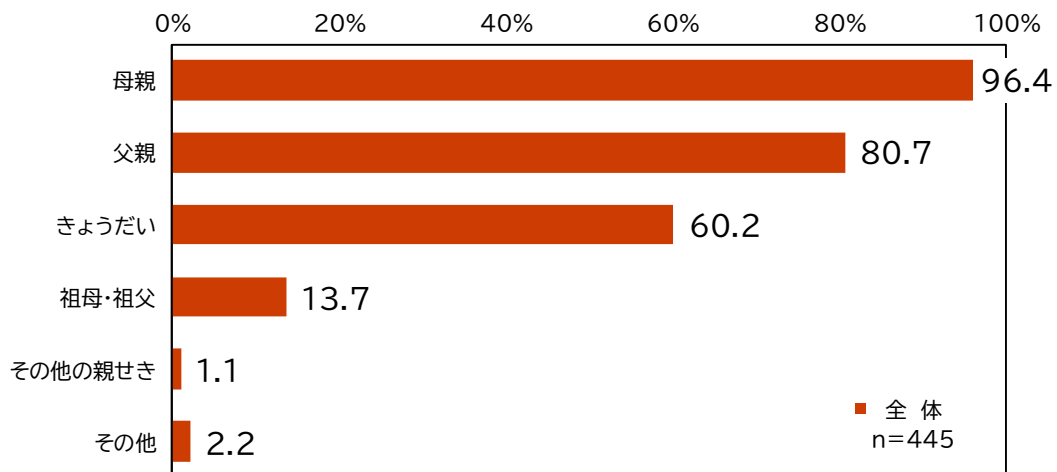
問3 あなたの年齢をお答えください。



問4 お住まいの小学校区はどこですか。(○は1つ)

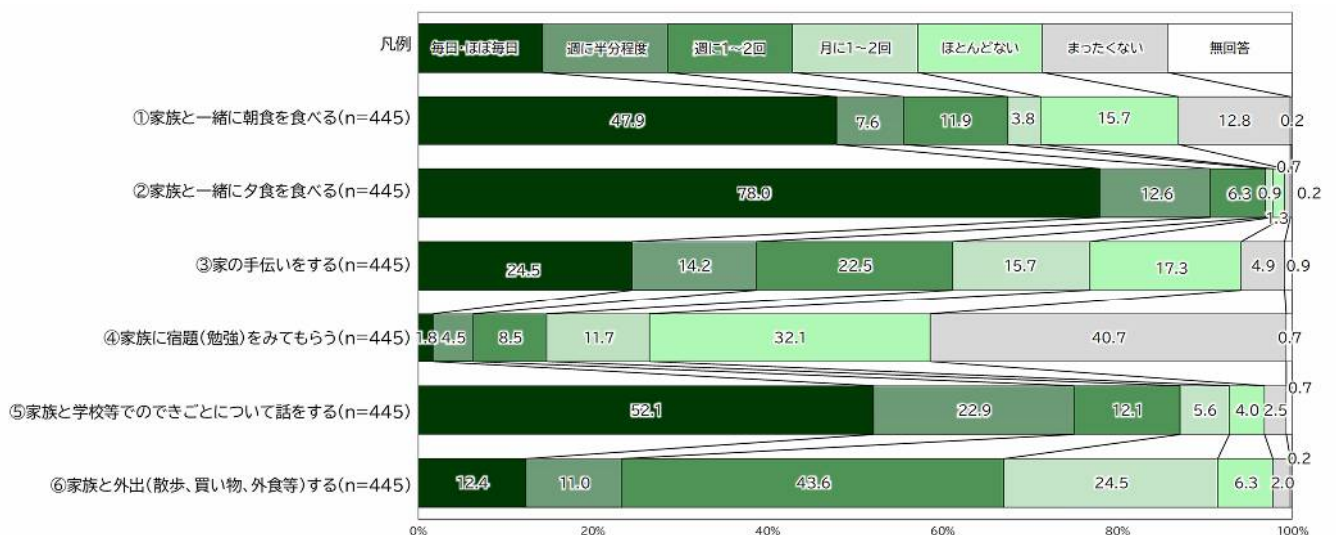


問5 現在、あなたと一緒に暮らしている家族の方をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



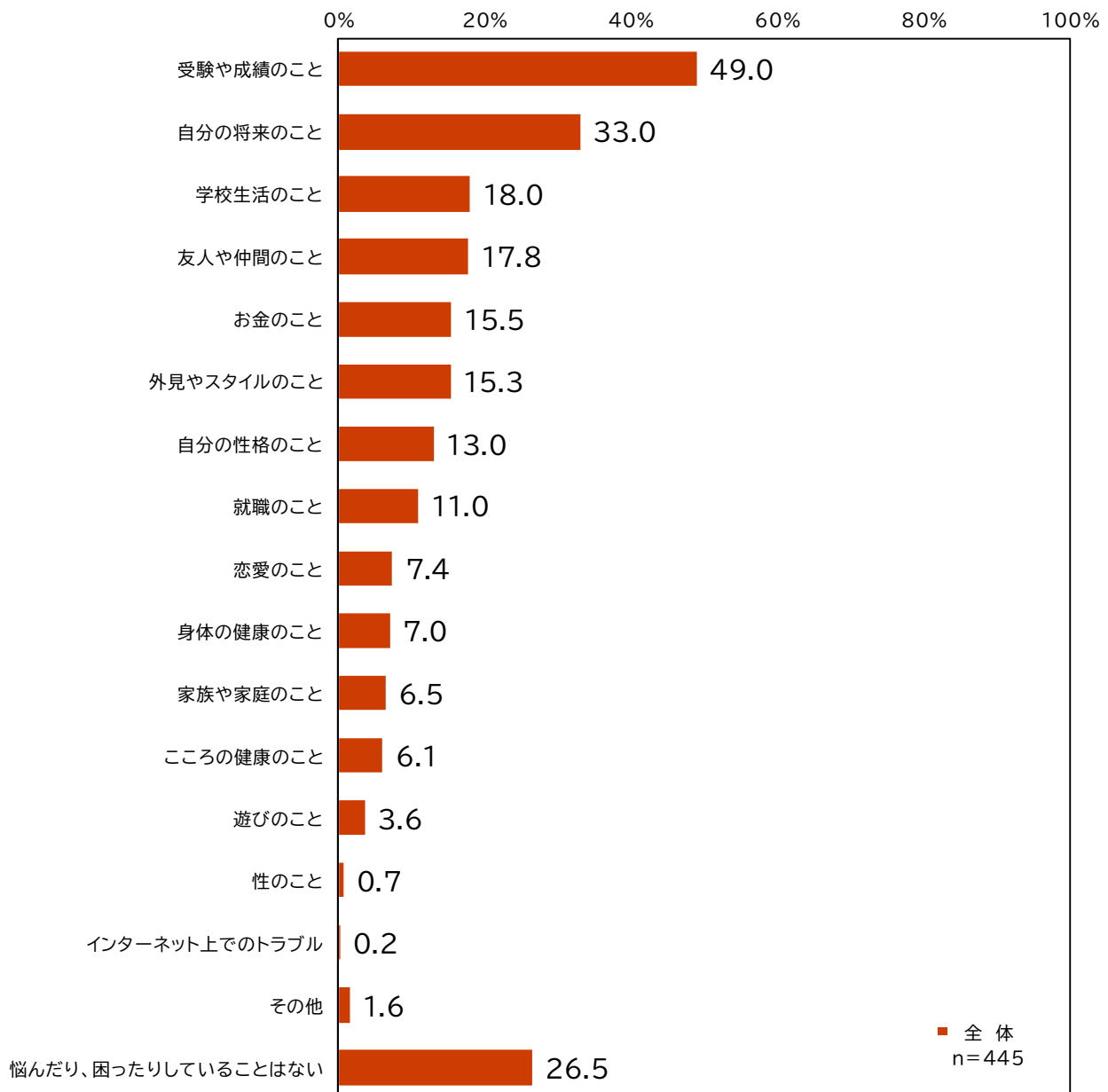
問6 あなたは、次の①～⑥のようなことを家庭でしていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

家庭でしていることの頻度をみると、「毎日・ほぼ毎日」の割合が最も高いのは、「②家族と一緒に夕食を食べる」の78.0%で、次いで「⑤家族と学校等でのできごとについて話をする」の52.1%、「①家族と一緒に朝食を食べる」の47.9%となっている。一方、「まったくない」の割合が最も高いのは、「④家族に宿題(勉強)をみてもらう」の40.7%で、次いで「①家族と一緒に朝食を食べる」の12.8%、「③家の手伝いをする」の4.9%となっている。



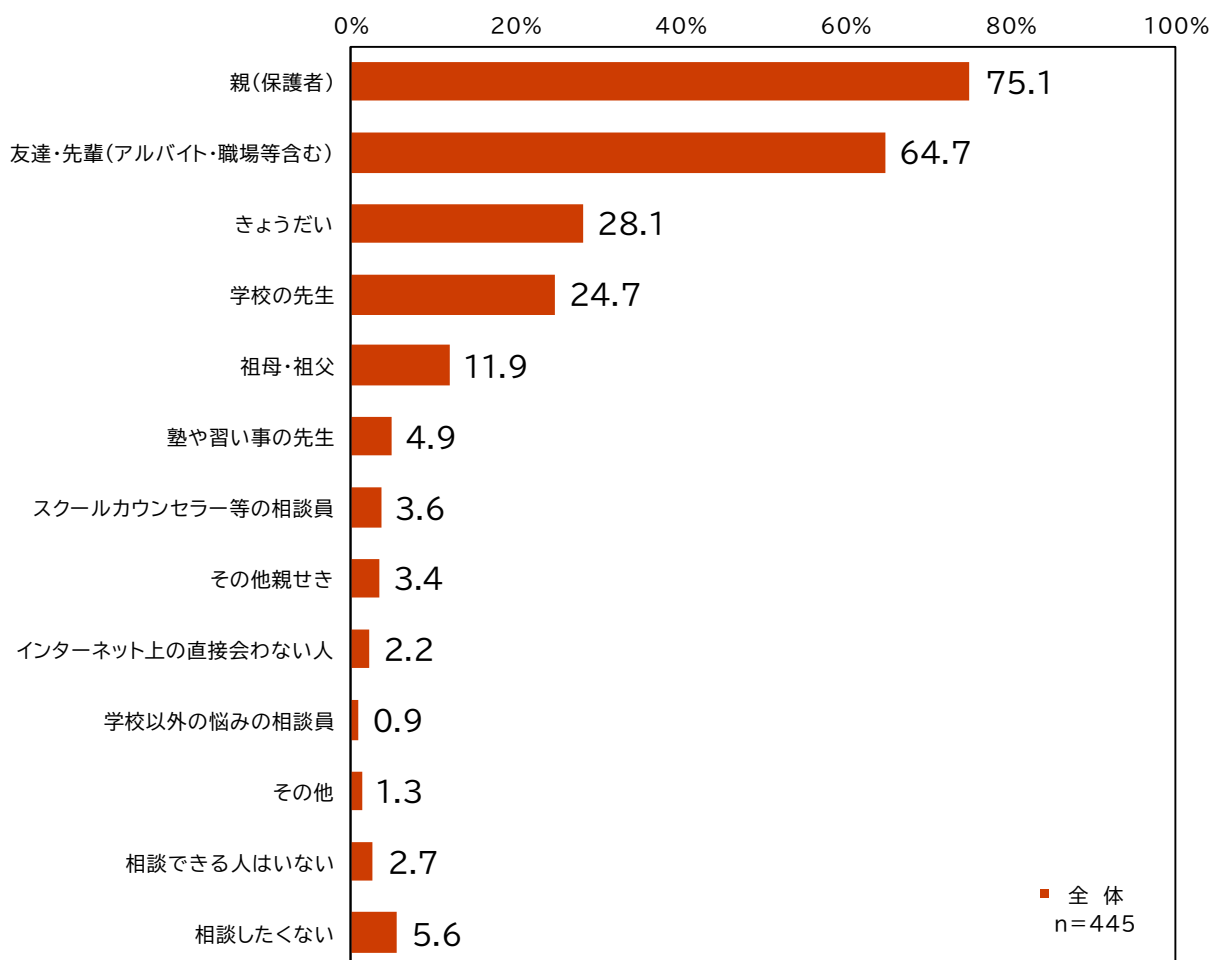
問7 あなたは、今どのようなことで悩んだり、困ったりしていますか。(あてはまるものすべてに○)

悩みや困りごとをみると、「受験や成績のこと」が49.0%で最も高く、次いで「自分の将来のこと」の33.0%、「悩んだり、困ったりしていることはない」の26.5%、「学校生活のこと」の18.0%、「友人や仲間のこと」の17.8%となっている。



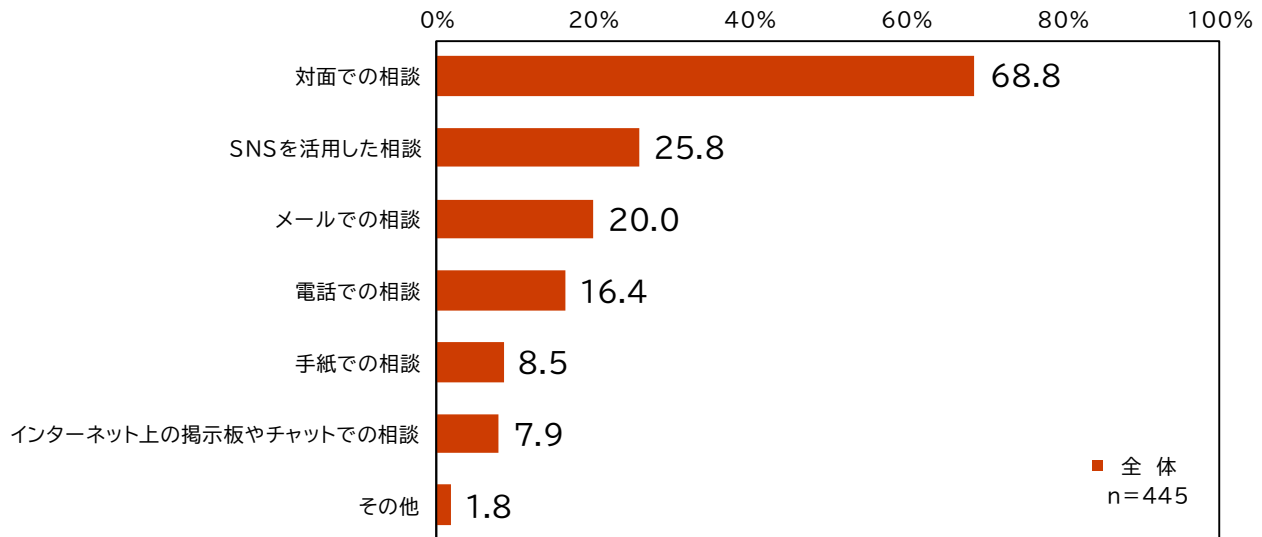
問8 あなたは、悩みを相談できる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

悩みを相談できる人を聞いたところ、「親(保護者)」が75.1%で最も高く、次いで「友達・先輩(アルバイト・職場等含む)」の64.7%、「きょうだい」の28.1%、「学校の先生」の24.7%となっている。



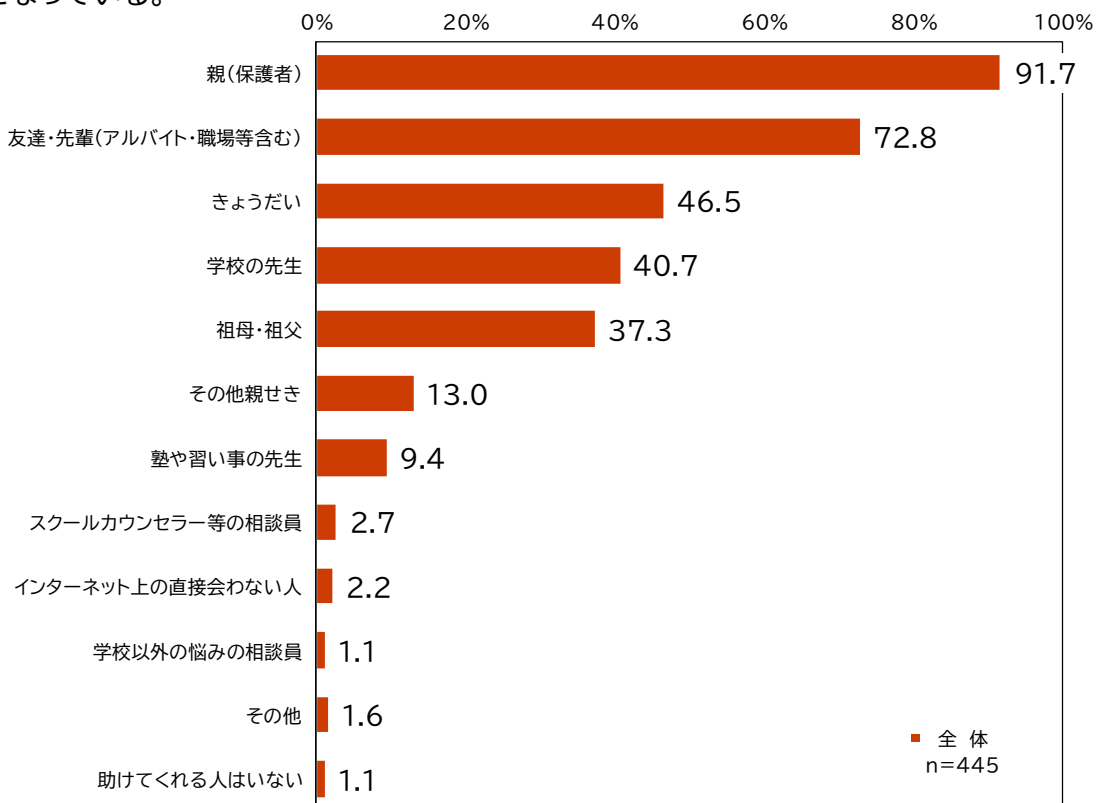
問9 あなたはどのような方法であれば相談しやすいですか。(あてはまるものすべてに○)

相談しやすい方法をみると、「対面での相談」が68.8%で最も高く、次いで「SNSを活用した相談」の25.8%、「メールでの相談」の20.0%、「電話での相談」の16.4%となっている。



問10 あなたは、困っているときに助けてくれる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

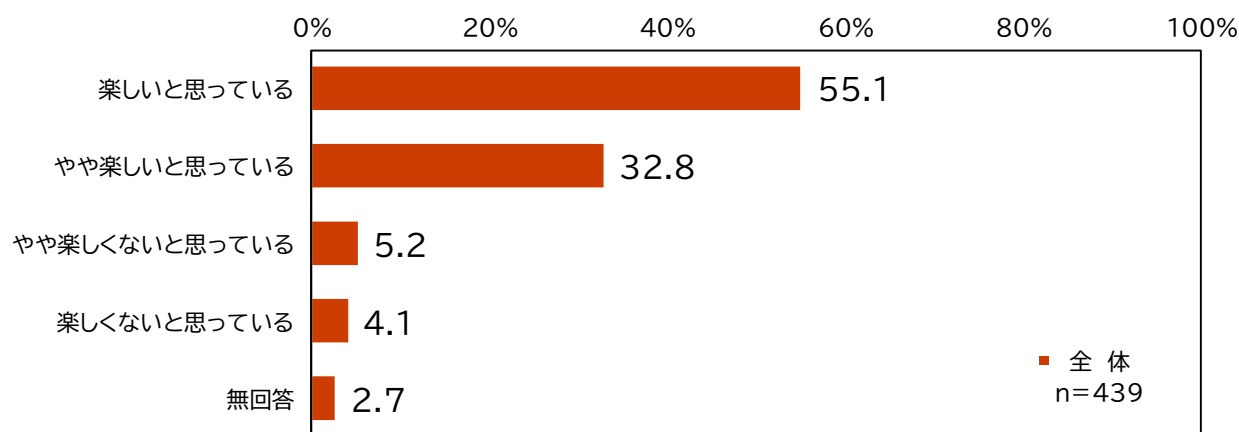
困っているときに助けてくれる人はいるかを聞いたところ、「親(保護者)」が91.7%で最も高く、次いで「友達・先輩(アルバイト・職場等含む)」の72.8%、「きょうだい」の46.5%、「学校の先生」の40.7%となっている。



2. 学校生活や友人関係について

問11 あなたは、学校生活を楽しいと思っていますか。(○は1つ)

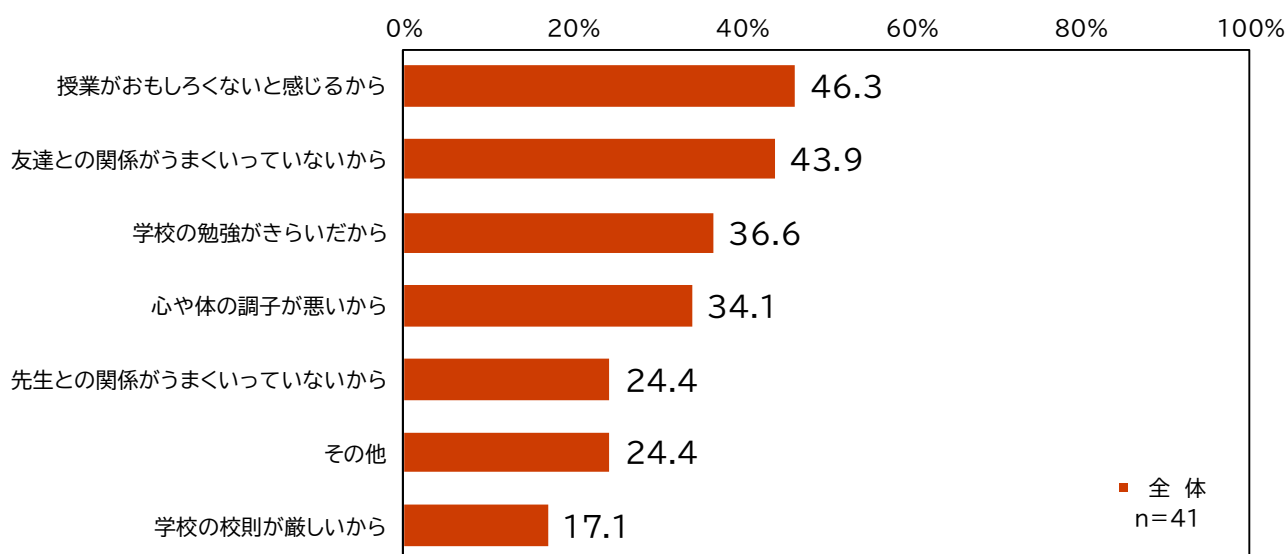
中学生と高校生(439人)に学校生活が楽しいかを聞いたところ、「楽しいと思っている」55.1%で最も高く、次いで「やや楽しいと思っている」の32.8%となっている。「やや楽しくないと思っている」は5.2%、「楽しくないと思っている」は4.1%と、「楽しい」、「やや楽しい」と比べて、低い割合となっている。



問11で「3. やや楽しくないと思っている」または「4. 楽しくないと思っている」に○をつけた方にうかがいます。

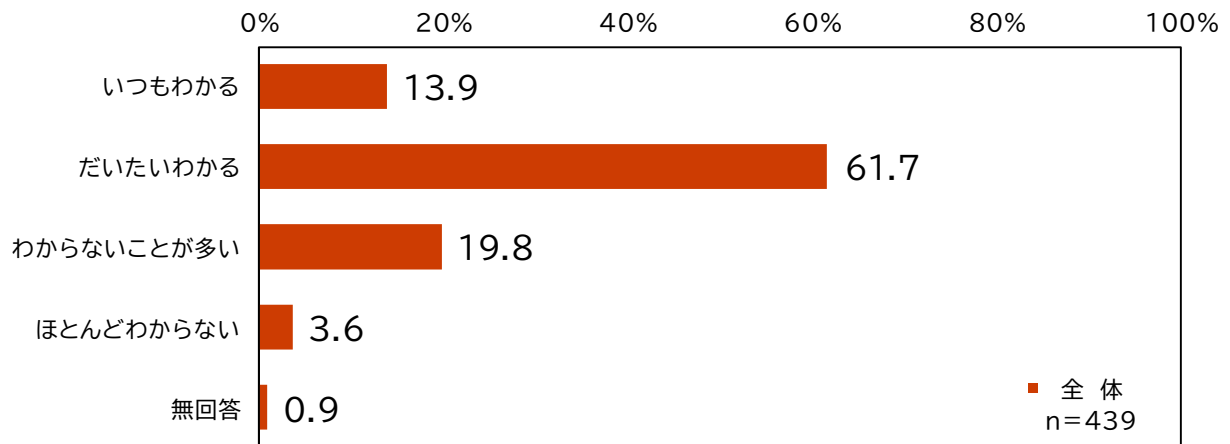
問11-1 あなたが学校生活を楽しくないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

学校生活が「やや楽しくない」、「楽しくない」を選択した人(41人)に、その理由を聞いたところ、「授業がおもしろくないと感じるから」が46.3%で最も高く、次いで「友達との関係がうまくいっていないから」の43.9%、「学校の勉強がきらいだから」の36.6%、「心や体の調子が悪いから」の34.1%となっている。



問12 あなたは、学校の授業でわからないことがありますか。(〇は1つ)

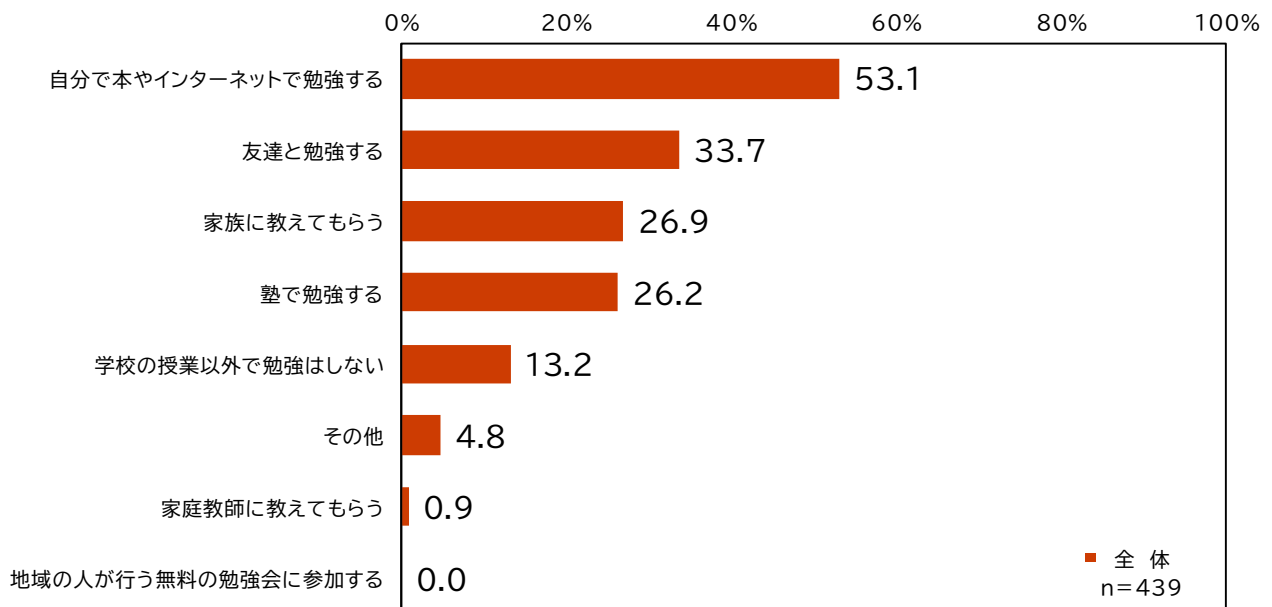
学校の授業でわからないことがあるかを聞いたところ、「だいたいわかる」が61.7%で最も高く、次いで「わからないことが多い」の19.8%となっている。



問13 あなたは、普段学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。(あてはまるものすべてに〇)

※勉強には学校の宿題も含みます。

普段学校の授業以外でどのように勉強をしているかを聞いたところ、「自分で本やインターネットで勉強する」が53.1%で最も高く、次いで「友達と勉強する」の33.7%、「家族に教えてもらう」の26.9%、「塾で勉強する」の26.2%となっている。

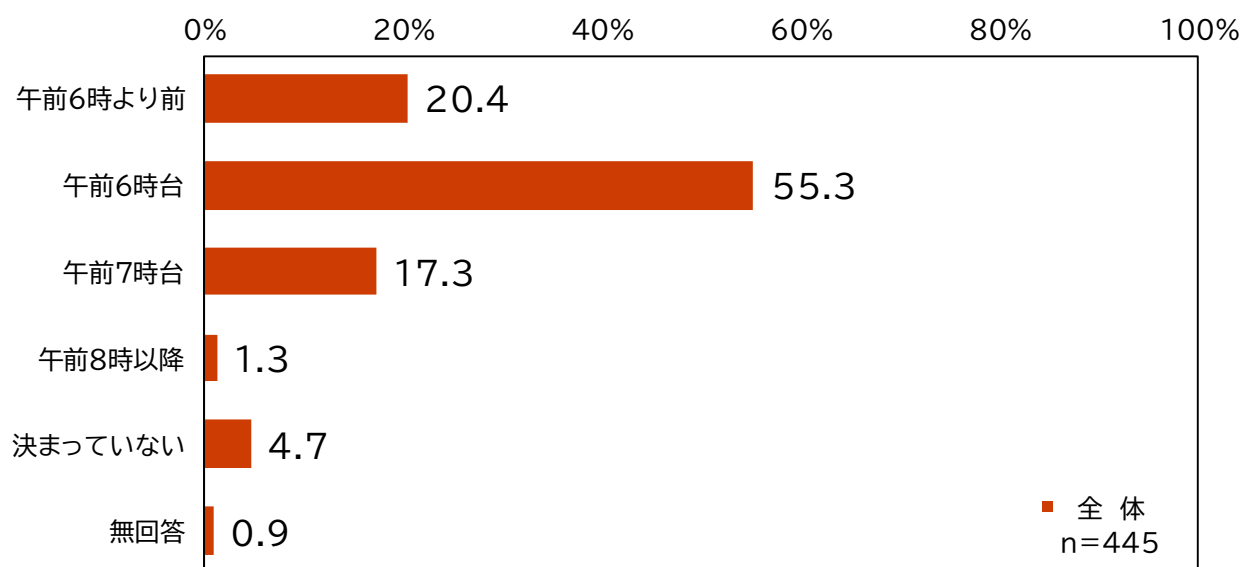


3. 日常生活について

問14 あなたは平日、だいたい朝何時ごろに起きて、夜何時ごろに寝ますか。

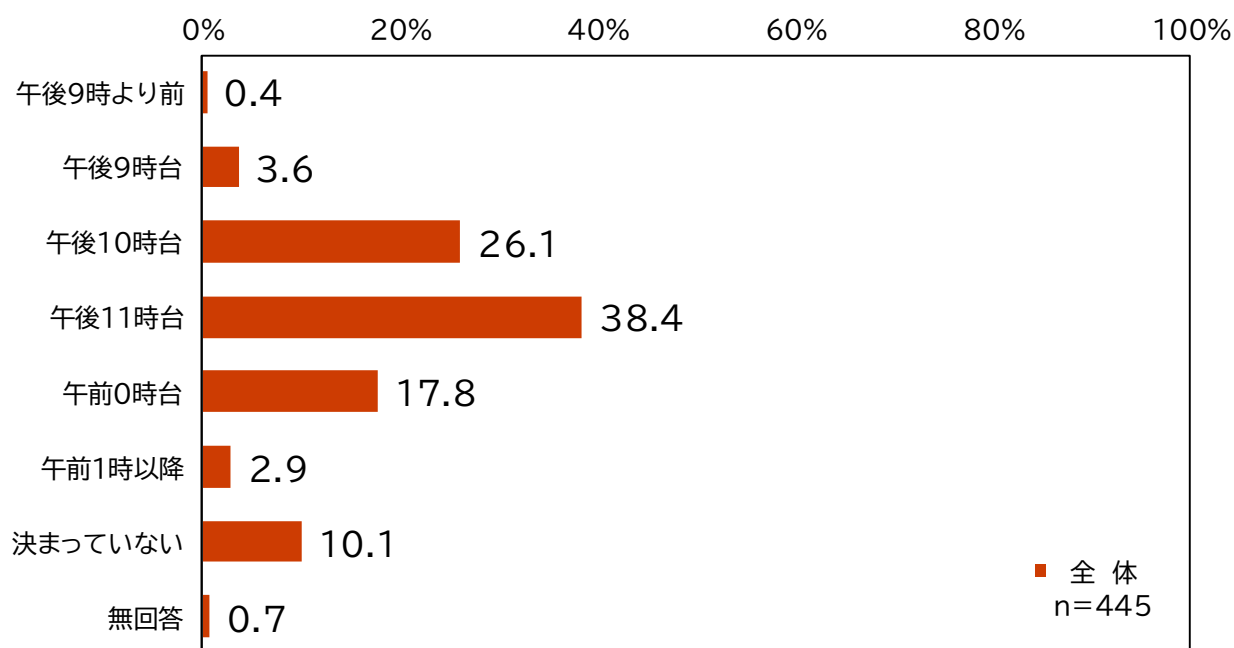
① 起きる時間(○は1つ)

平日の起きる時間をみると、「午前6時台」が55.3%で最も高く、次いで「午前6時より前」の20.4%、「午前7時台」の17.3%となっている。



② 寝る時間(○は1つ)

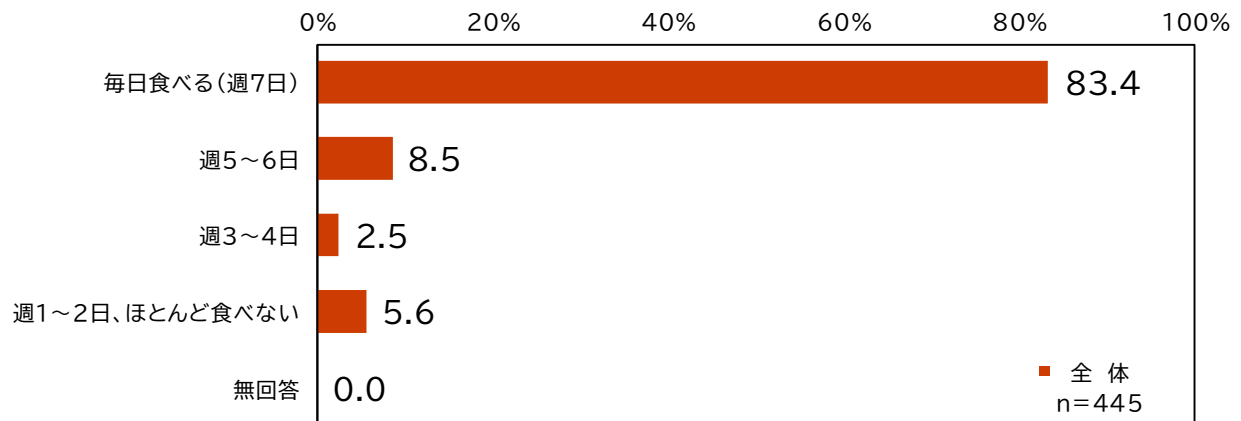
平日の寝る時間をみると、「午後11時台」が38.4%で最も高く、次いで「午後10時台」の26.1%、「午前0時台」の17.8%、「決まっていない」の10.1%となっている。



問15 あなたの週の食事の状況について教えてください。

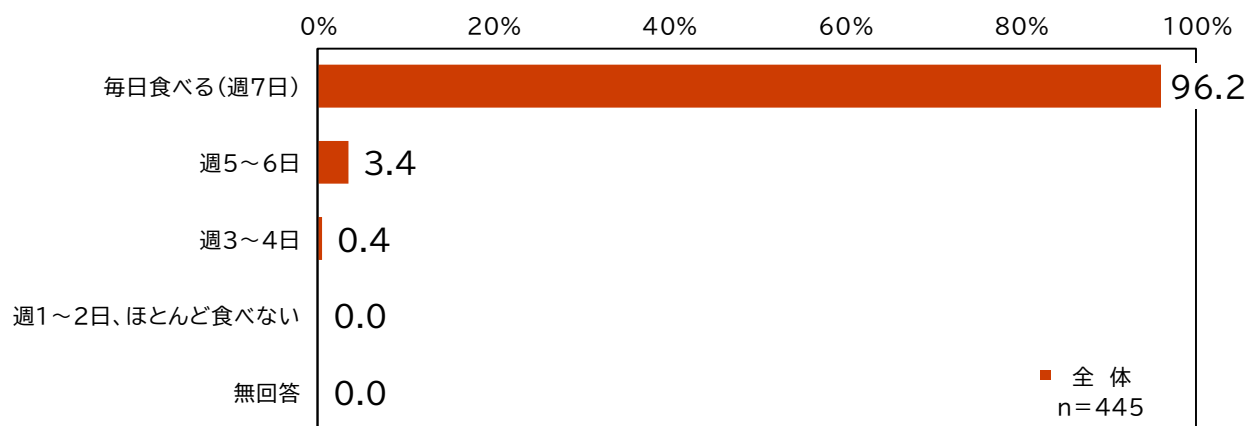
① 朝ごはんについて(○は1つ)

週の朝ごはんの状況を見ると、「毎日食べる(週7日)」が最も高く、83.4%を占めている。次いで「週5～6日」の8.5%、「週1～2日、ほとんど食べない」の5.6%となっている。



② タごはんについて(○は1つ)

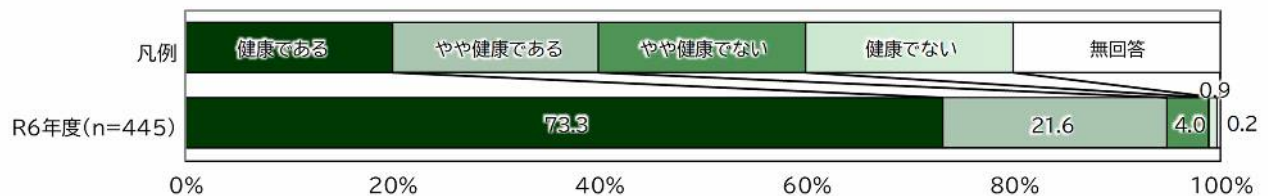
週のタごはんの状況を見ると、「毎日食べる(週7日)」が最も高く、96.2%を占めている。次いで「週5～6日」の3.4%、「週3～4日」の0.4%となっている。



問16 あなたの健康状態について教えてください。

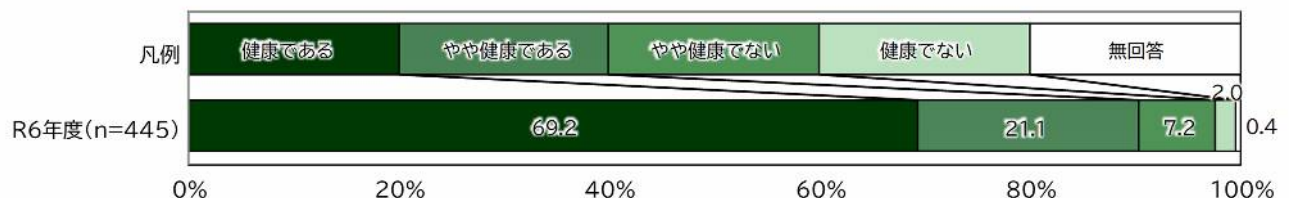
①「身体」の健康について(○は1つ)

「身体」の健康状態をみると、「健康である」が73.3%で最も高く、次いで「やや健康である」の21.6%、「やや健康でない」の4.0%となっている。



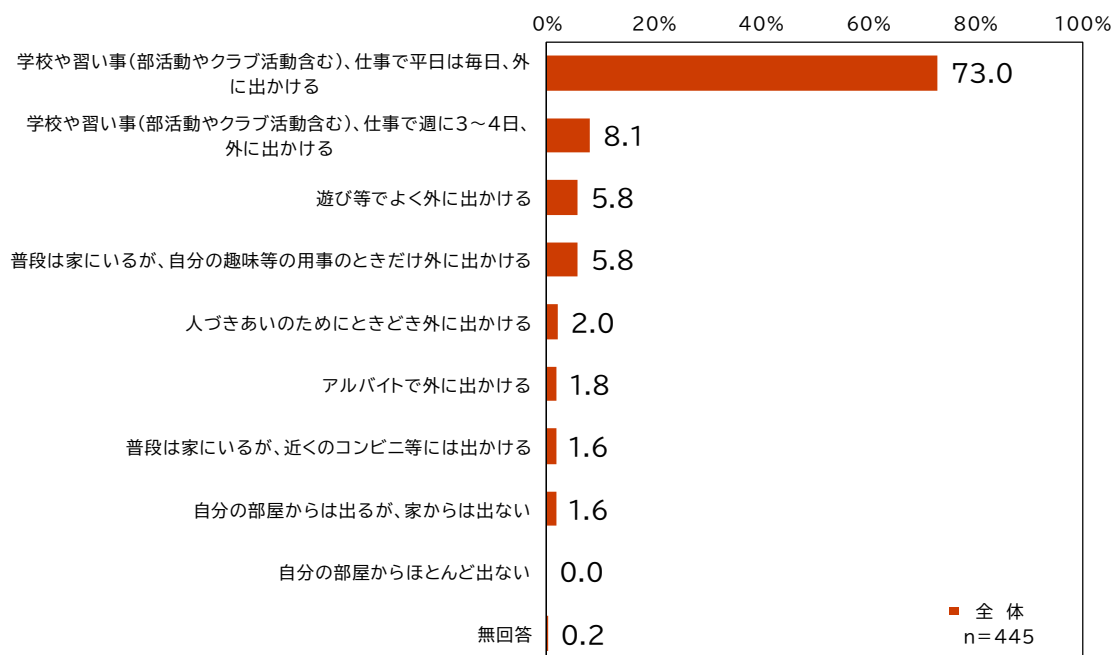
②「こころ」の健康について(○は1つ)

「こころ」の健康状態をみると、「健康である」が69.2%で最も高く、次いで「やや健康である」の21.1%、「やや健康でない」の7.2%となっている。



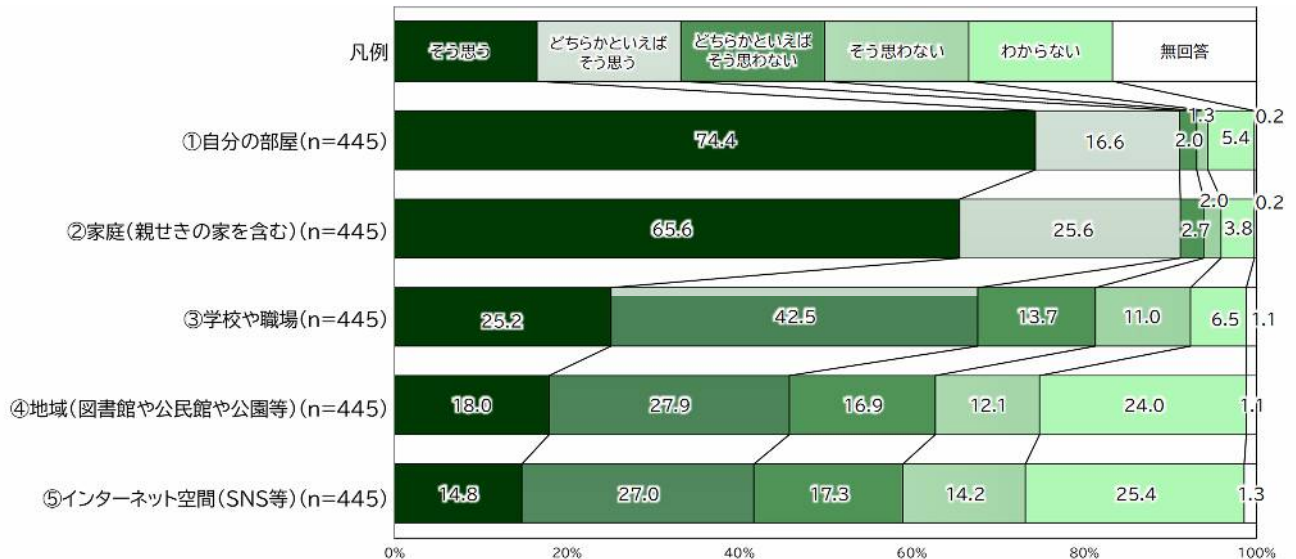
問17 あなたは普段どのくらい外に出かけますか。最も近いものをお選びください。(○は1つ)

普段の外出状況をみると、「学校や習い事(部活動やクラブ活動含む)、仕事で平日は毎日、外に出かける」が最も高く、73.0%を占めている。次いで「学校や習い事(部活動やクラブ活動含む)、仕事で週に3～4日、外に出かける」の8.1%、「遊び等でよく外に出かける」の5.8%、「普段は家にいるが、自分の趣味等の用事のときだけ外に出かける」の5.8%となっている。



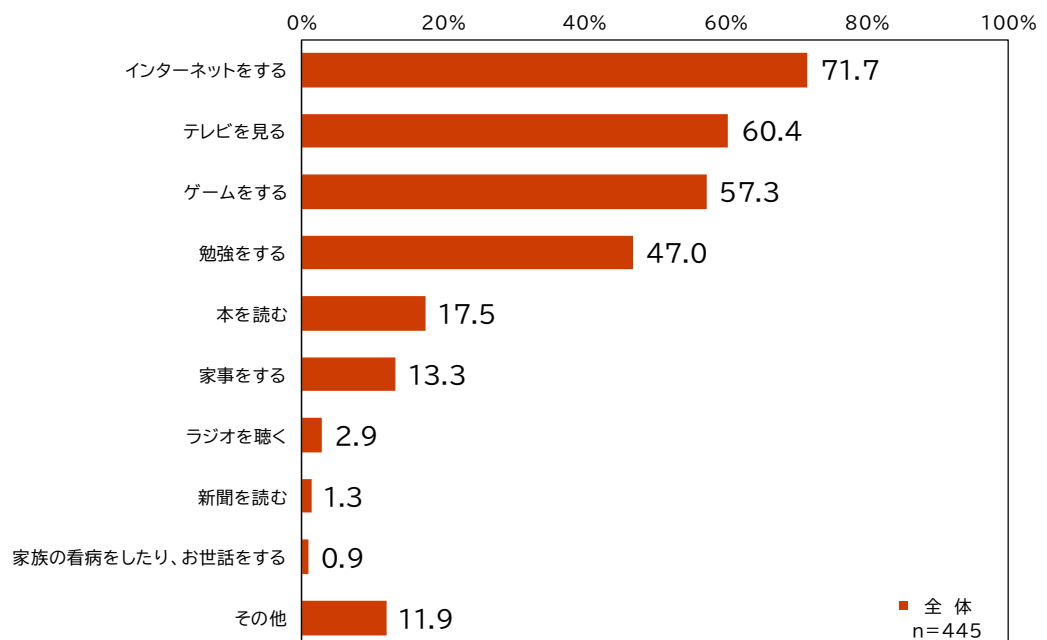
問18 あなたは、次の①～⑤が今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)になっていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

回答者にとって居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)になっているかを聞いたところ、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは、「②家庭(親せきの家を含む)」の91.2%で、次いで「①自分の部屋」の91.0%、「③学校や職場」の67.7%となっている。



問20 あなたは、普段家にいるときは、どんなことによく時間を使っていますか。(あてはまるものすべてに〇)

家にいるときの過ごし方をみると、「インターネットをする」が71.7%で最も高く、次いで「テレビを見る」の60.4%、「ゲームをする」の57.3%、「勉強をする」の47.0%となっている。

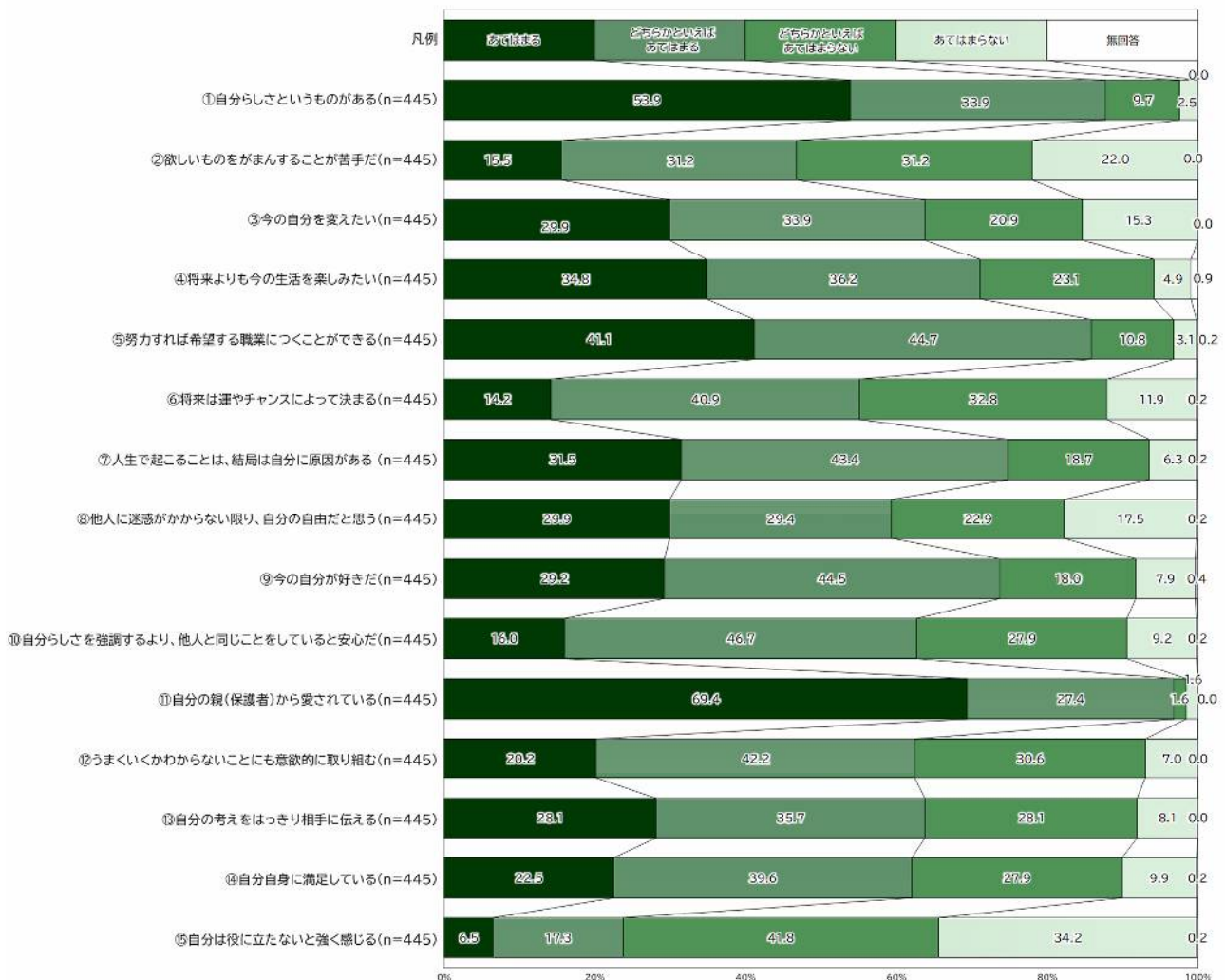


4. 自己認識や将来について

問21 あなたは、次の①～⑮について次のことがどのくらいあてはまりますか。(〇はそれぞれ1つつ)

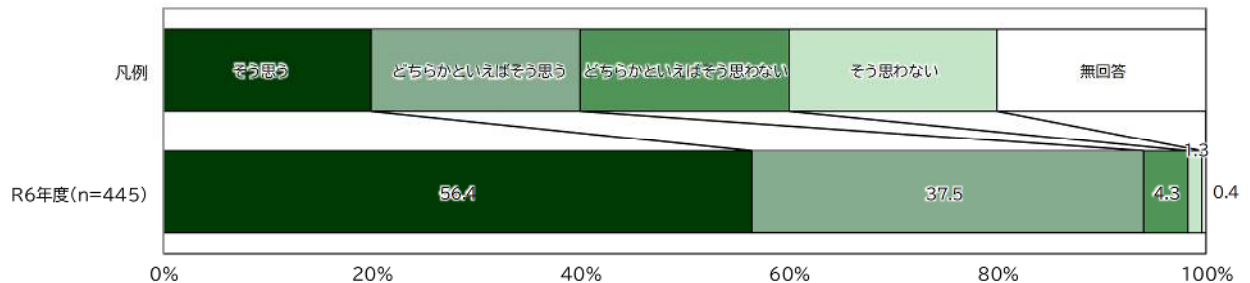
自分について項目別にあてはまるかどうかをみると、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合が最も高いのは、「⑪自分の親(保護者)から愛されている」の96.8%で、次いで「①自分らしさというものがある」の87.8%、「⑤努力すれば希望する職業につくことができる」の85.8%、「⑦人生で起こることは、結局は自分に原因がある」の74.9%、「⑨今の自分が好きだ」の73.7%となっている。

一方、「あてはまらない」、「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた割合が最も高いのは、「⑮自分は役に立たないと強く感じる」の76.0%で、次いで「②欲しいものをがまんすることが苦手だ」の53.2%、「⑥将来は運やチャンスによって決まる」の44.7%、「⑧他人に迷惑がかからない限り、自分の自由だと思う」の40.4%となっている。



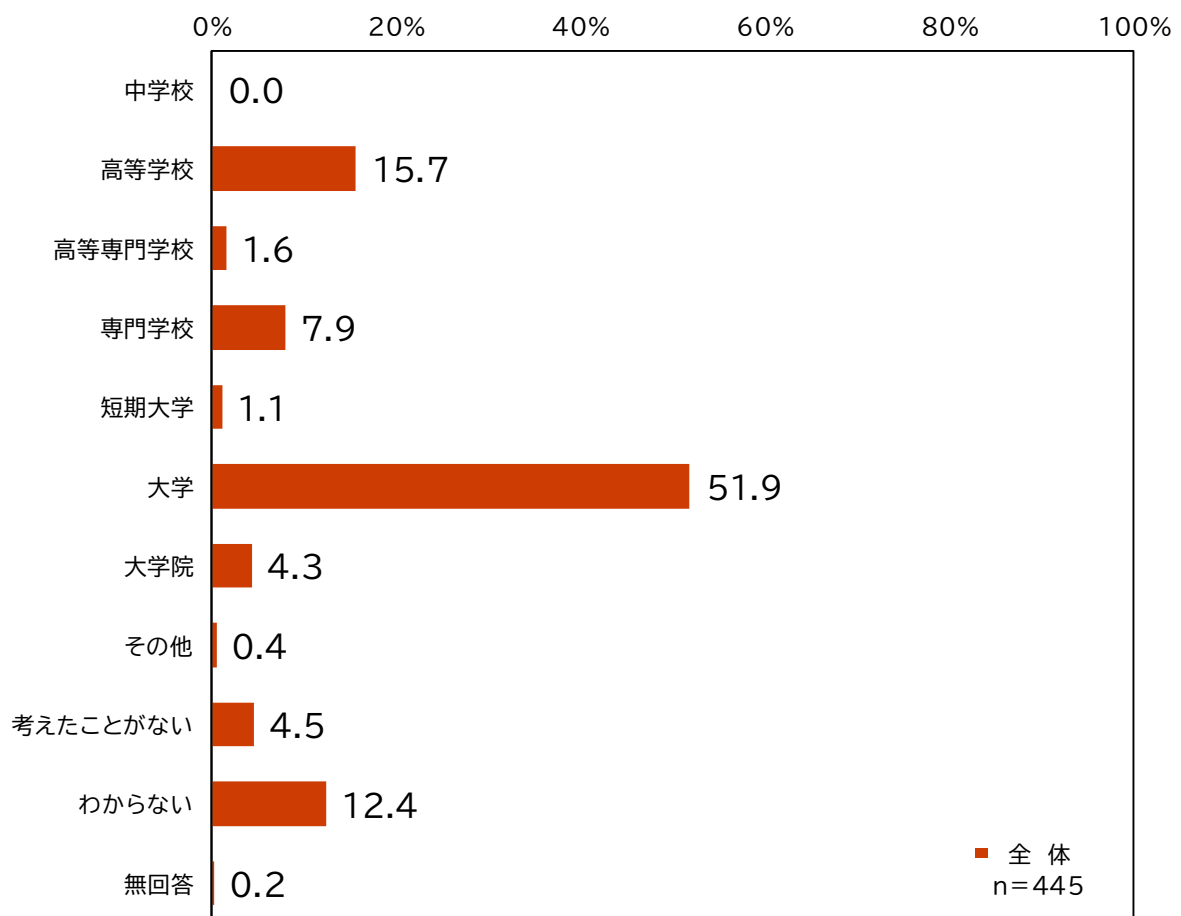
問22 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(○は1つ)

今自分が幸せだと思うかを聞いたところ、「そう思う」が56.4%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」の37.5%、「どちらかといえばそう思わない」の4.3%、「そう思わない」の1.3%となっている。



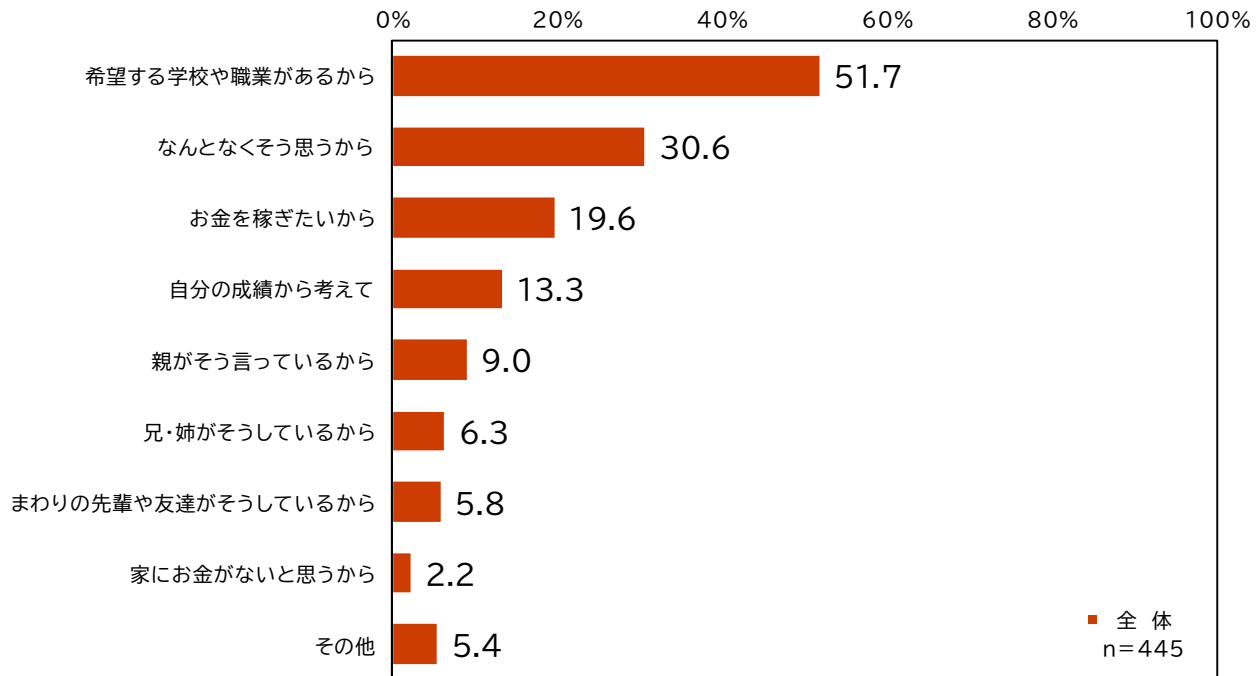
問23 あなたは将来、どの段階まで進学したいですか。(○は1つ)

将来どの段階まで進学したいかを聞いたところ、「大学」が51.9%で最も高く、次いで「高等学校」の15.7%、「わからない」の12.4%、「専門学校」の7.9%となっている。



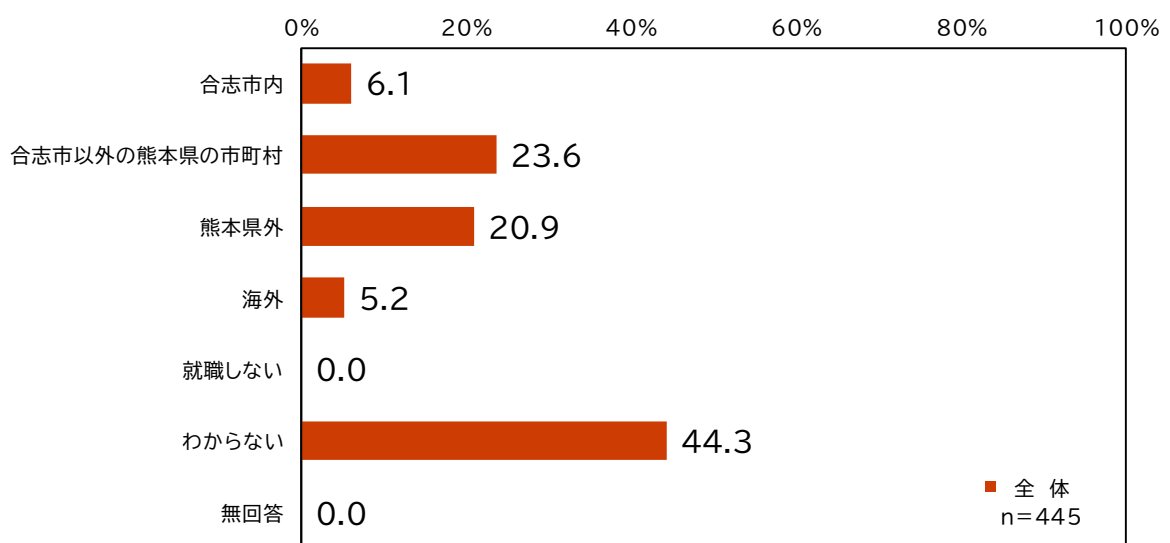
問24 問23で選んだ進路について、その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

選んだ進路についての理由をみると、「希望する学校や職業があるから」が51.7%で最も高く、次いで「なんとなくそう思うから」の30.6%、「お金を稼ぎたいから」の19.6%、「自分の成績から考えて」の13.3%となっている。



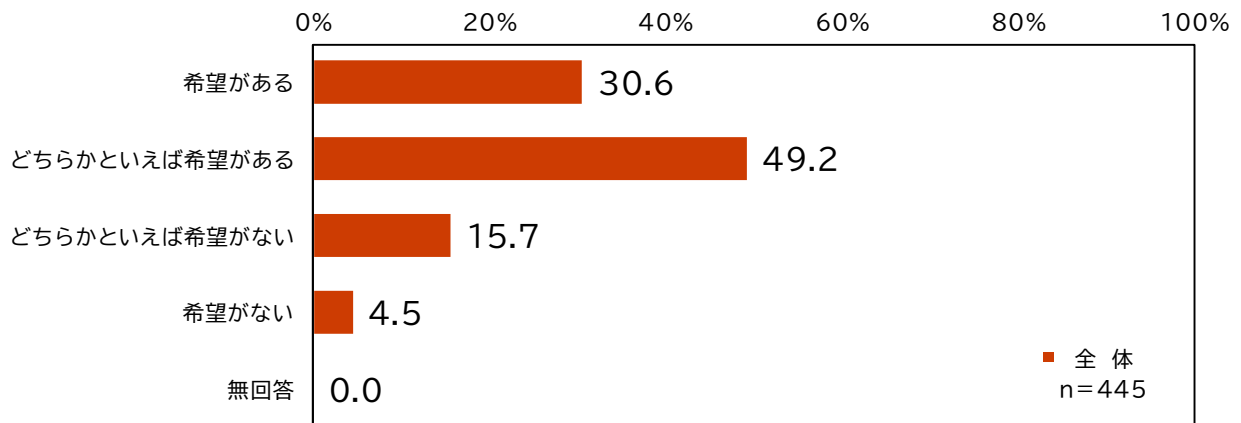
問25 あなたはどの地域で就職したいと思いますか。(○は1つ)

就職したい地域をみると、「わからない」が44.3%で最も高く、次いで「合志市以外の熊本県の市町村」の23.6%、「熊本県外」の20.9%、「合志市内」の6.1%となっている。



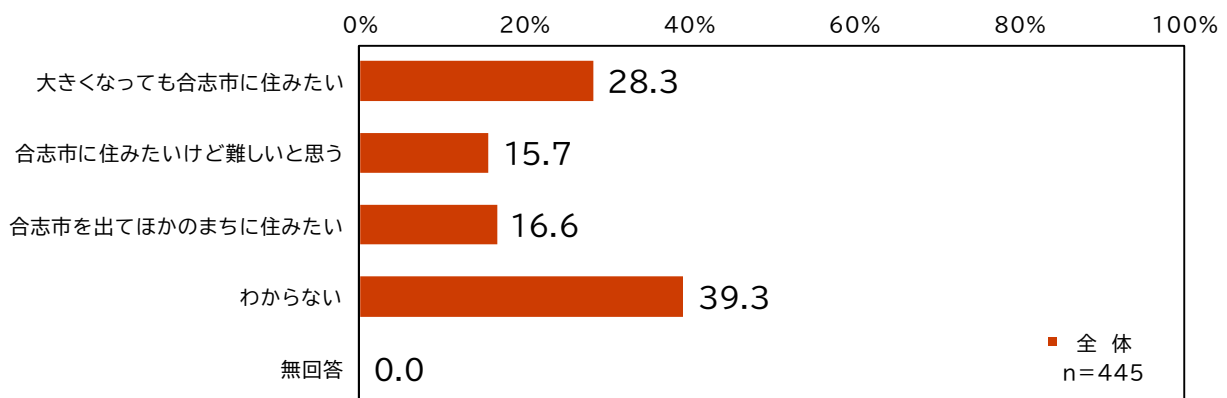
問26 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(〇は1つ)

自分の将来に明るい希望を持っているかを聞いたところ、「どちらかといえば希望がある」が49.2%で最も高く、次いで「希望がある」の30.6%、「どちらかといえば希望がない」の15.7%となっている。



問27 あなたは大きくなってからも合志市に住みたいと思いますか。(〇は1つ)

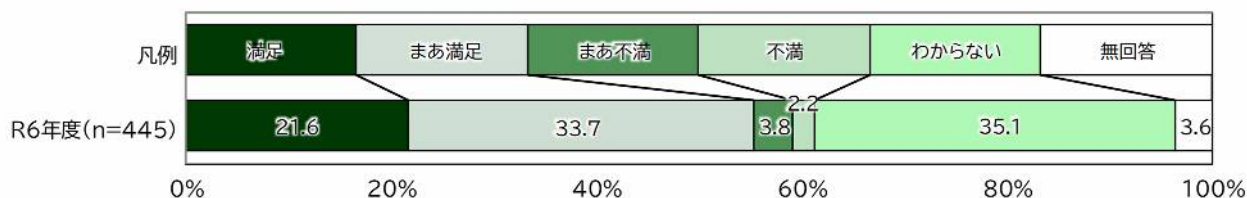
大きくなってからも合志市に住みたいかを聞いたところ、「わからない」が39.3%で最も高く、次いで「大きくなってからも合志市に住みたい」の28.3%、「合志市を出てほかのまちに住みたい」の16.6%、「合志市に住みたいけど難しいと思う」の15.7%となっている。



5. 合志市について

問28 あなたは合志市が行う子どもや若者に関する取り組みに満足していますか。(〇は1つ)

合志市が行う子どもや若者に関する取り組みの満足度をみると、「わからない」が35.1%で最も高く、次いで「まあ満足」の33.7%、「満足」の21.6%となっている。

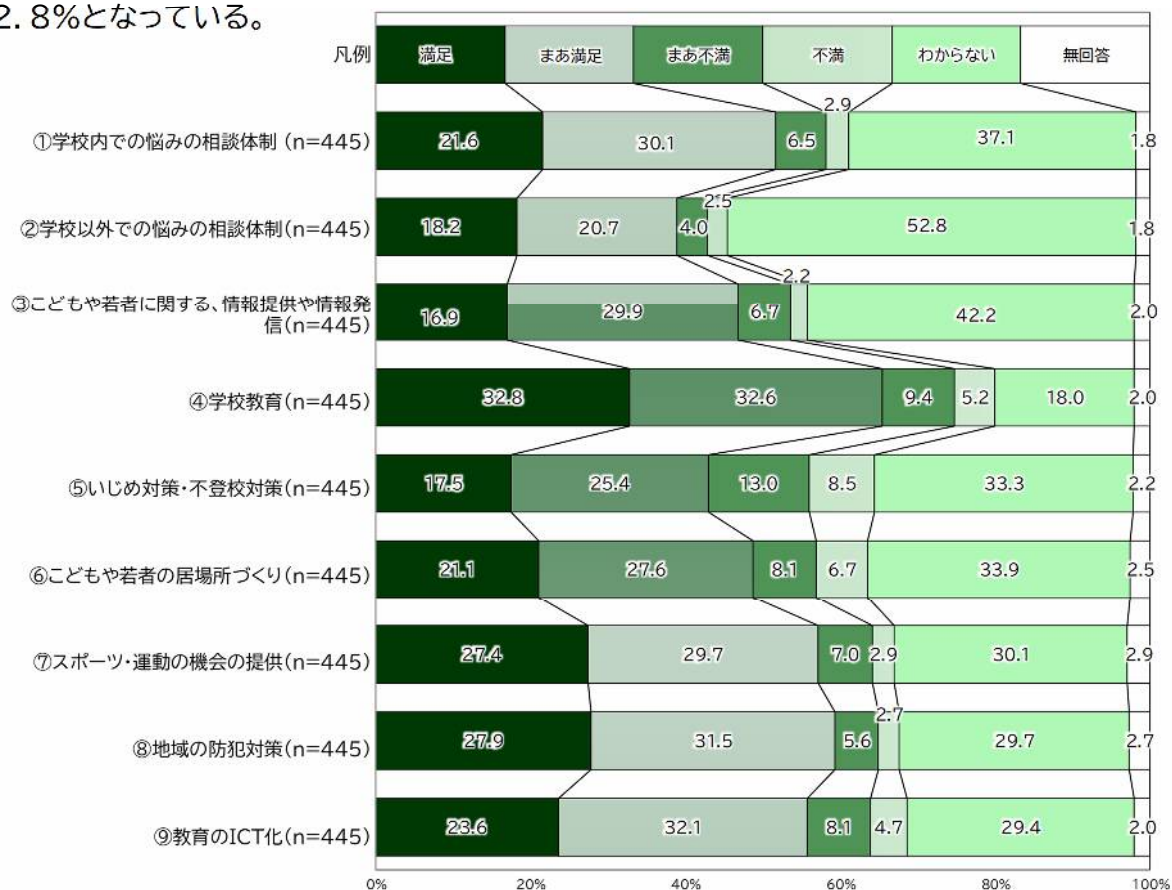


問29 あなたは、次の①～⑨の合志市の取り組みについて満足していますか。また、重要だと思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

●満足度

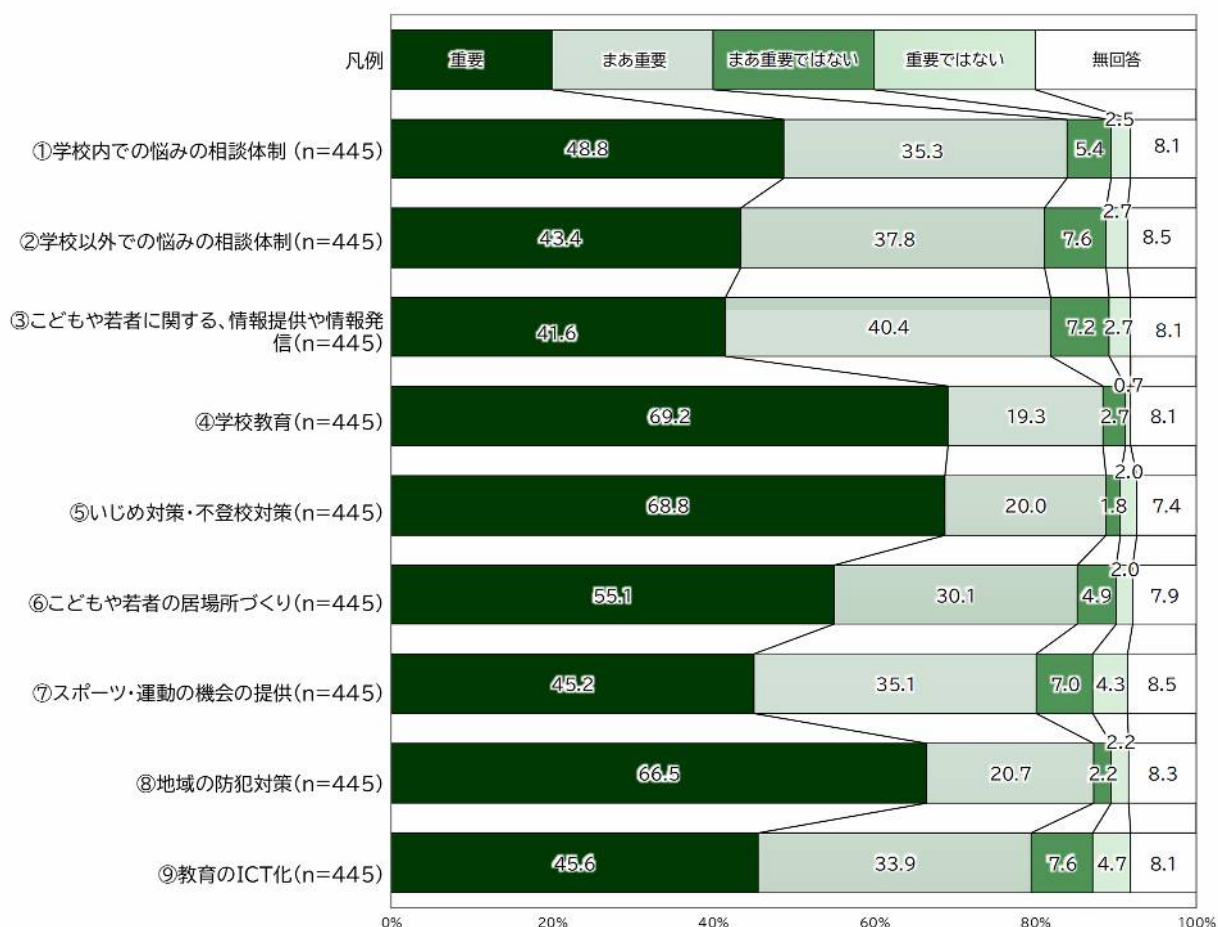
合志市の取り組みについての満足度をみると、「満足」、「まあ満足」を合わせた割合が最も高いのは、「④学校教育」の65.4%で、次いで「⑧地域の防犯対策」の59.4%、「⑦スポーツ・運動の機会の提供」の57.1%となっている。

一方、「不満」、「まあ不満」を合わせた割合が最も高いのは、「⑤いじめ対策・不登校対策」の21.5%で、次いで「⑥子どもや若者の居場所づくり」の14.8%、「④学校教育」の14.6%、「⑨教育のICT化」の12.8%となっている。



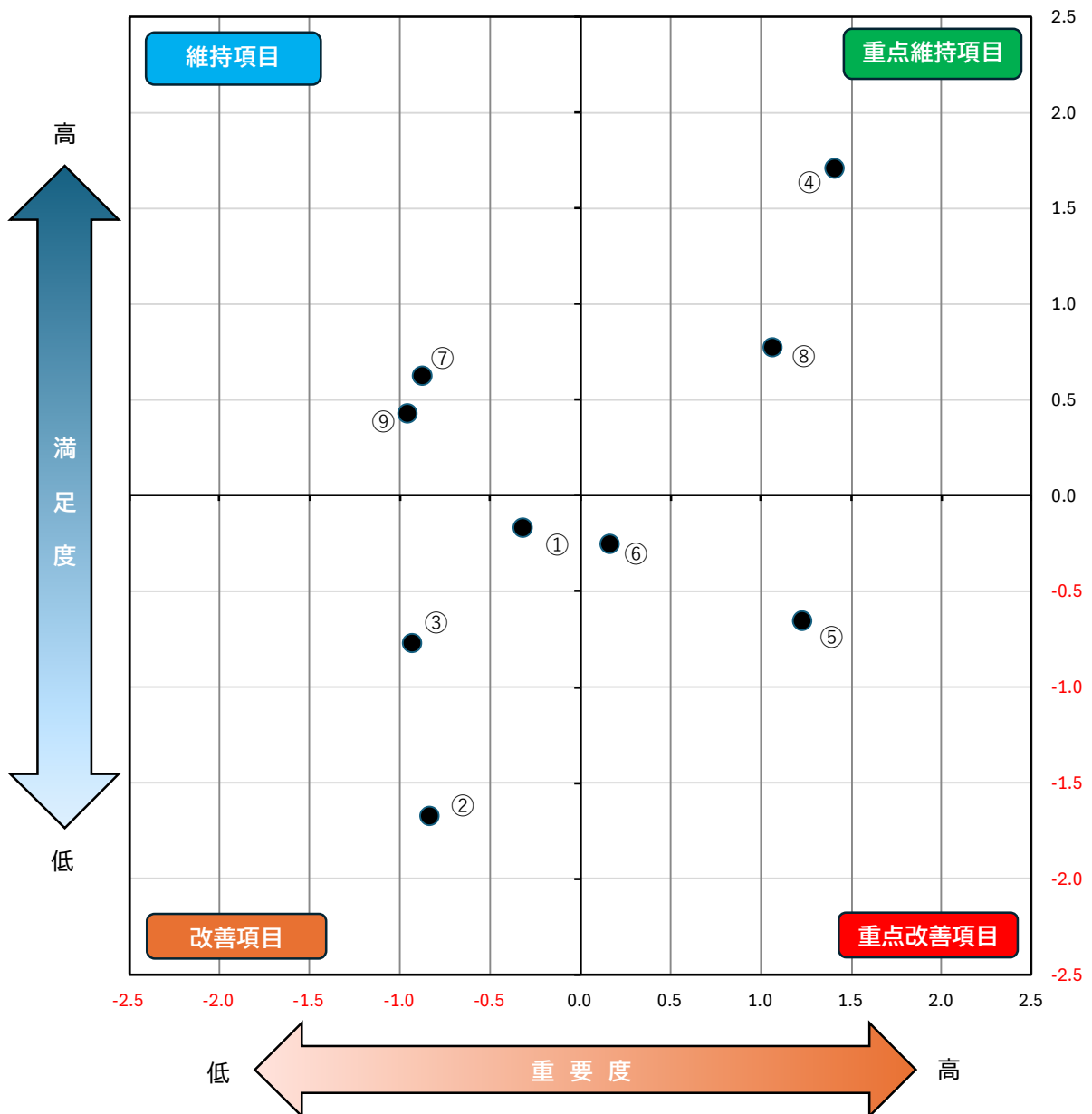
●重要度

合志市の取り組みについての重要度をみると、「重要」、「まあ重要」を合わせた割合が最も高いのは、「⑤いじめ対策・不登校対策」の88.8%で、次いで「④学校教育」の88.5%、「⑧地域の防犯対策」の87.2%となっている。



重点改善項目(重要度が高いが、満足度が低い)としては、「⑤いじめ対策・不登校対策」、「⑥子どもや若者の居場所づくり」が挙げられる。

合志市の取り組みについての満足度及び重要度の相関図【中学生・高校生世代】



項 目	平均値		Zスコア		象 限
	重要度	満足度	重要度	満足度	
①学校内での悩みの相談体制	3.4181	2.4874	-0.315	-0.168	改善項目
②学校以外での悩みの相談体制	3.3317	1.8764	-0.827	-1.672	改善項目
③こどもや若者に関する、情報提供や情報発信	3.3154	2.2408	-0.924	-0.775	改善項目
④学校教育	3.709	3.25	1.411	1.709	重点維持項目
⑤いじめ対策・不登校対策	3.6796	2.2897	1.236	-0.655	重点改善項目
⑥こどもや若者の居場所づくり	3.5	2.4516	0.171	-0.256	重点改善項目
⑦スポーツ・運動の機会の提供	3.3243	2.8079	-0.871	0.621	維持項目
⑧地域の防犯対策	3.652	2.8684	1.072	0.770	重点維持項目
⑨教育のICT化	3.3105	2.7294	-0.953	0.427	維持項目

※数値は各項目の重要度、満足度それぞれの平均値を平均0、分散1となるように正規化

【維持項目】 満足度こそ高いものの、重要度は低い項目

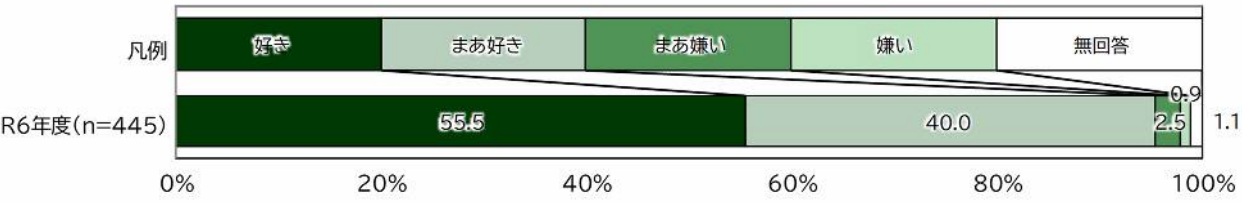
【改善項目】 満足度と重要度ともに低い項目

【重点維持項目】 重要度も満足度も高い項目

【重点改善項目】 重要度が高いにもかかわらず市民から満足されていない項目

問30 あなたは、合志市が好きですか。(○は1つ)

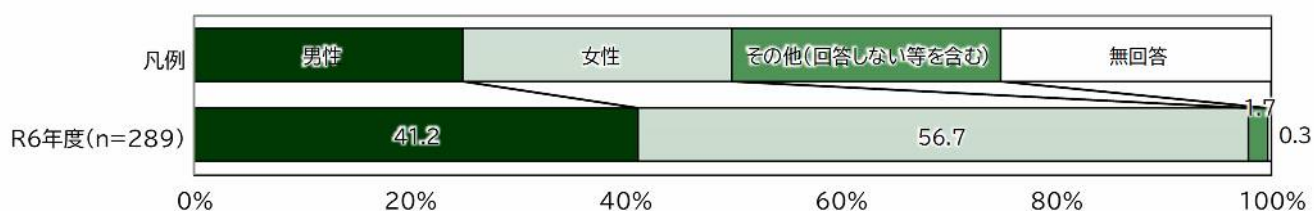
合志市が好きかを聞いたところ、「好き」が55.5%で最も高く、次いで「まあ好き」の40.0%となっている。



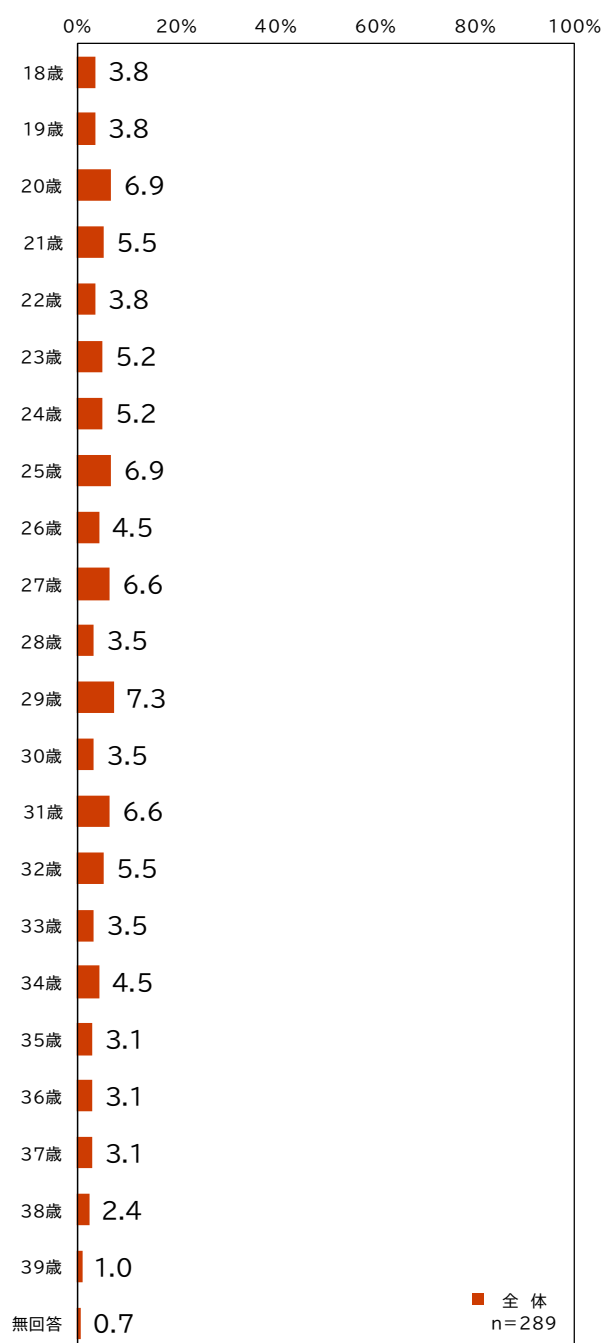
第 5 章 調査結果【若者世代】

1. 回答者について

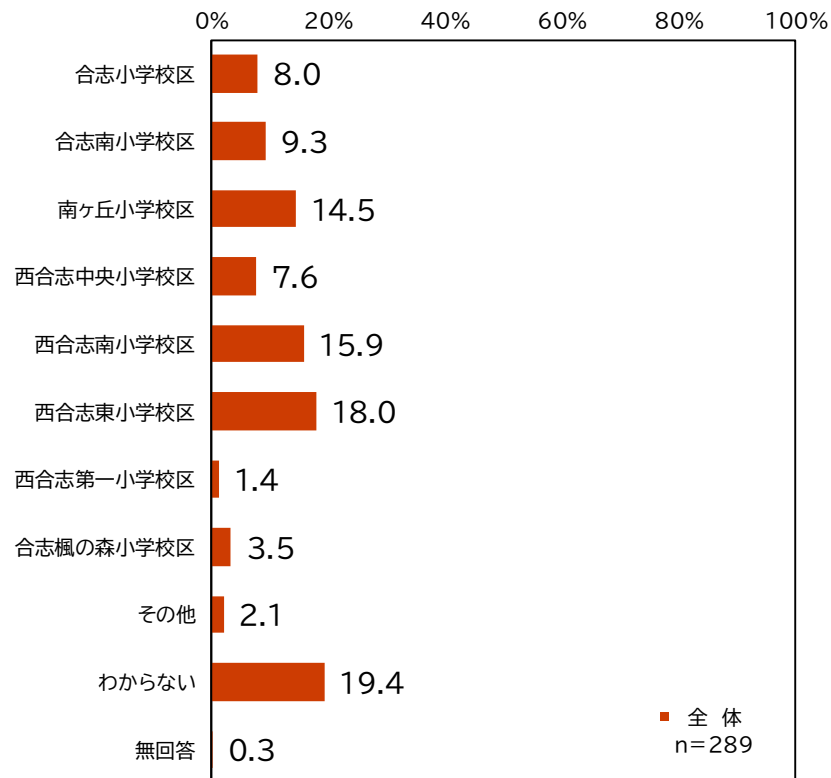
問1 あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。(○は1つ)



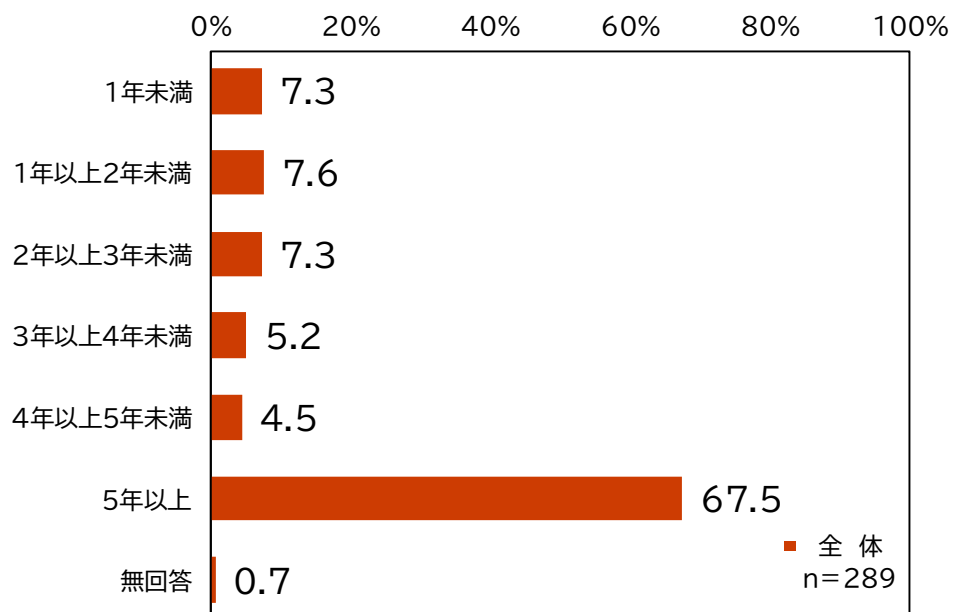
問2 あなたの年齢をお答えください。



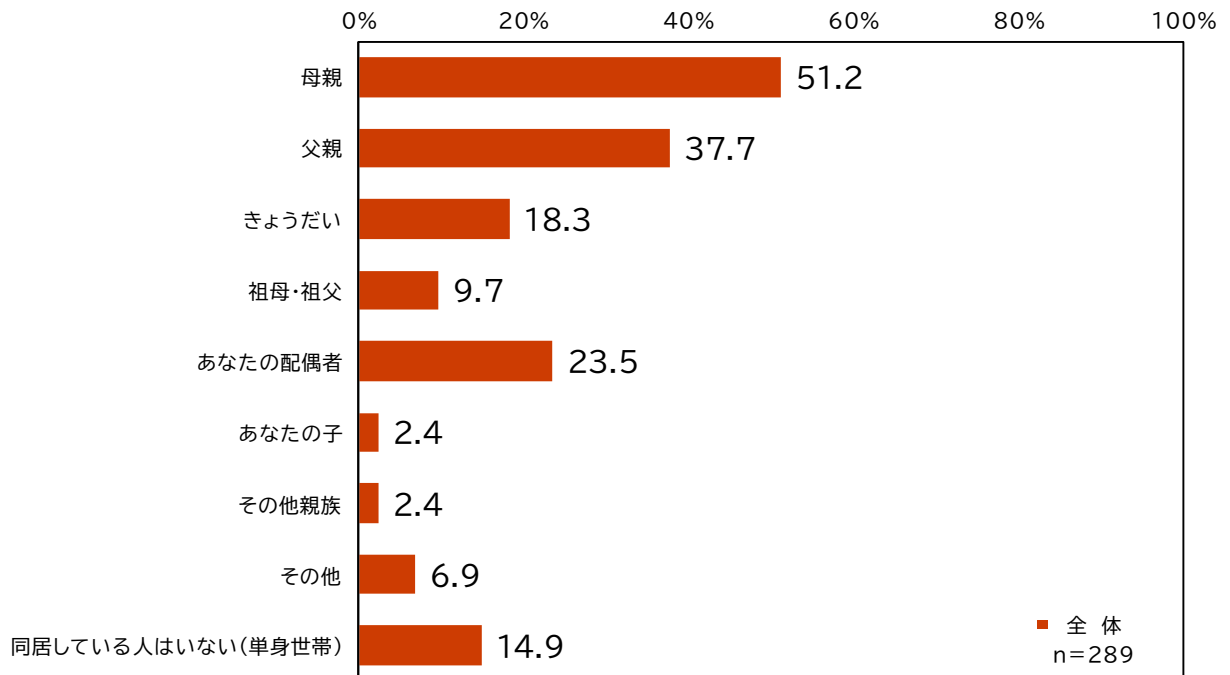
問3 お住まいの小学校校区はどこですか。(○は1つ)



問4 あなたは、合志市におよそ何年住んでいますか。(○は1つ)※通算してお答えください。

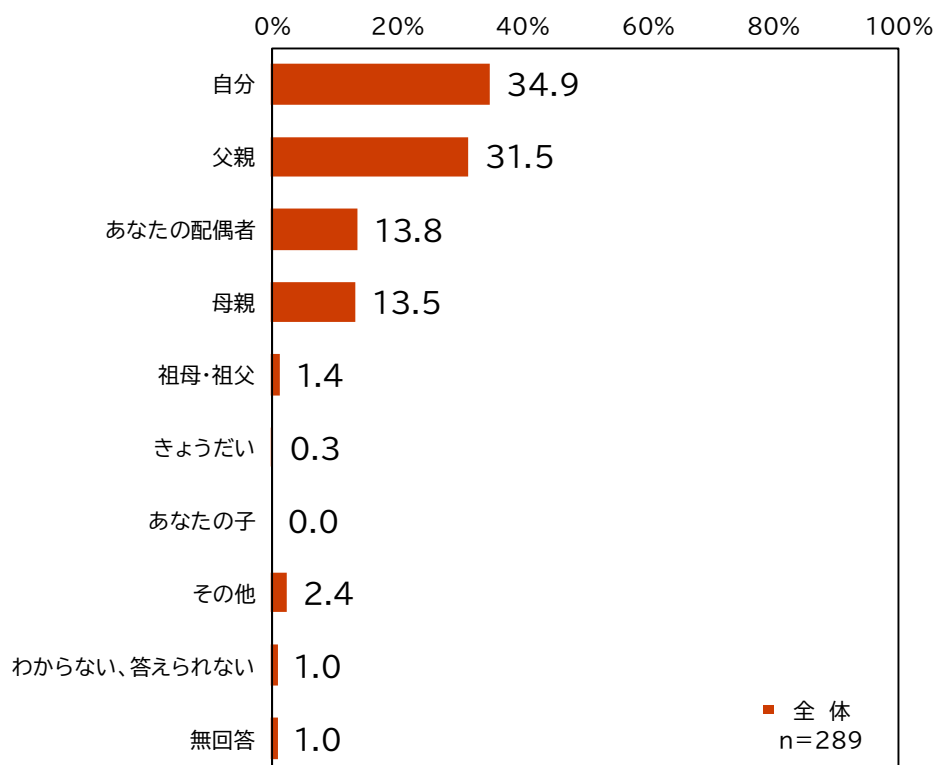


問5 現在、あなたと一緒に暮らしている家族の方をお答えください。(あてはまるものすべてに○)



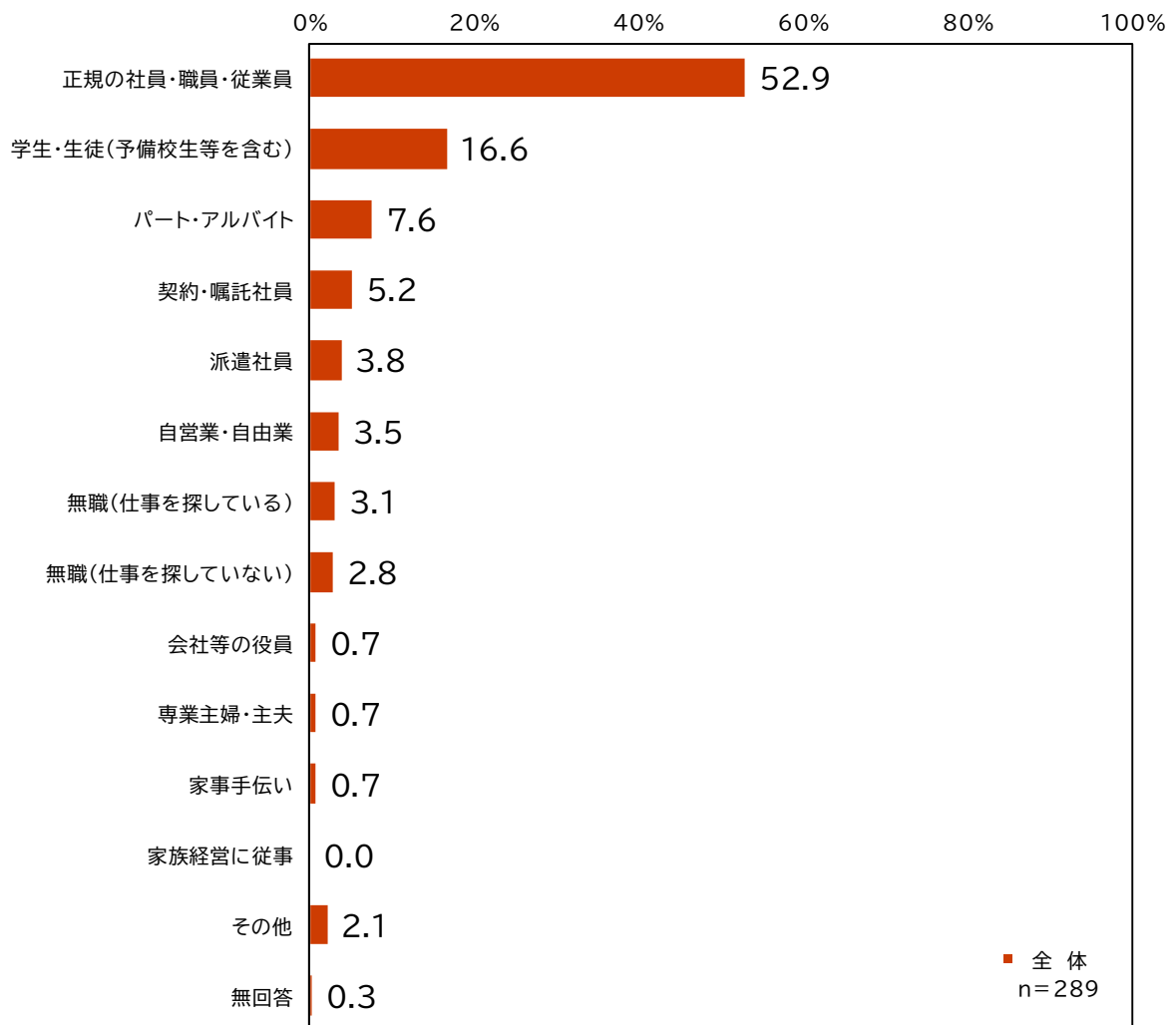
問6 あなたの家の生計について、生計を支えている方は主にどなたですか。また、仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれている人をお答えください。(○は1つ)

家の生計を支えている人をみると、「自分」が34.9%で最も高く、次いで「父親」の31.5%、「配偶者」の13.8%、「母親」の13.5%となっている。



問7 あなたの現在の主なお仕事をお答えください。(〇は1つ)

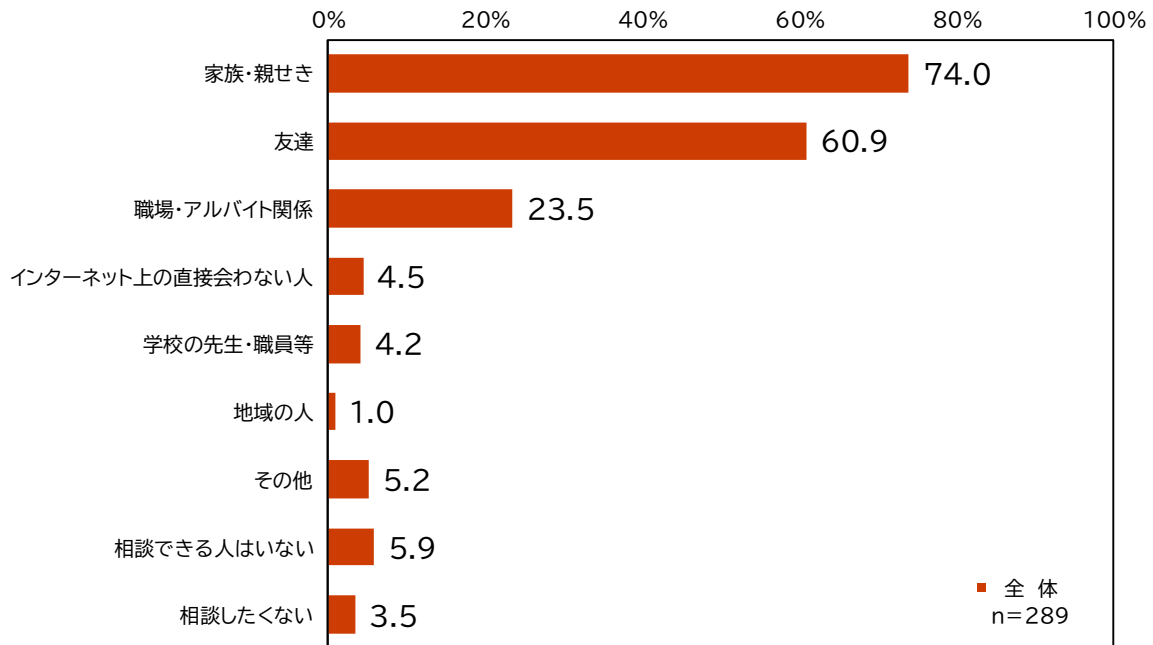
現在の仕事をみると、「正規の社員・職員・従業員」が52.9%で最も高く、次いで「学生・生徒(予備校生等を含む)」の16.6%、「パート・アルバイト」の7.6%となっている。



2. 生活について

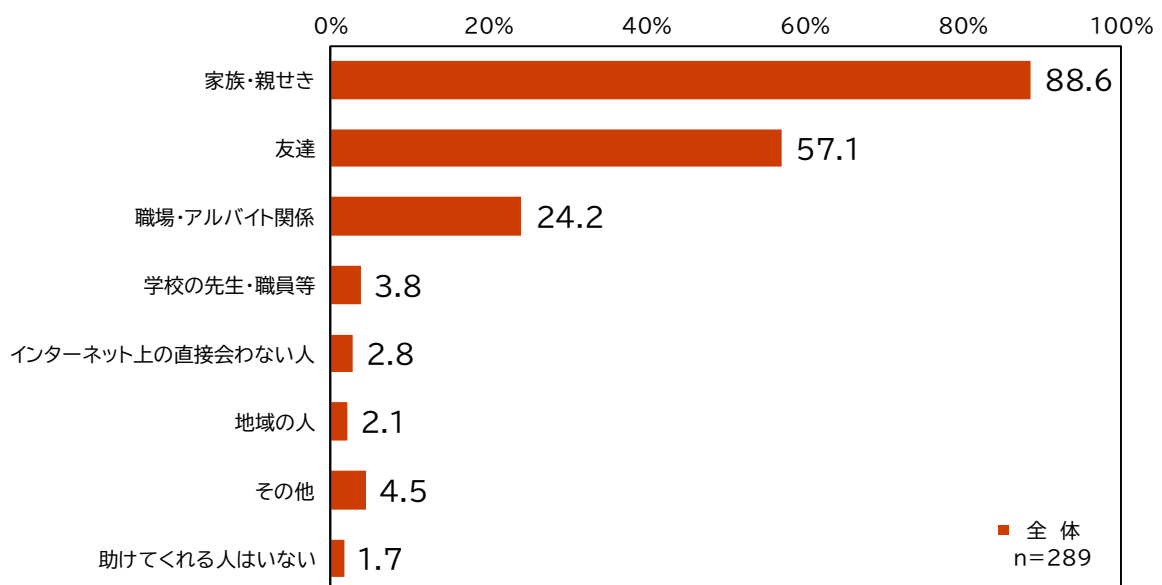
問8 あなたは、気軽に悩みを相談できる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

気軽に悩みを相談できる人を聞いたところ、「家族・親せき」が74.0%で最も高く、次いで「友達」の60.9%、「職場・アルバイト関係」の23.5%となっている。



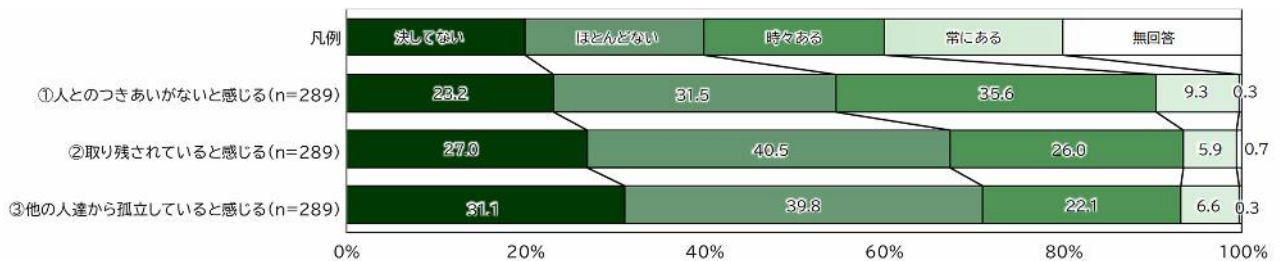
問9 あなたは、困っているときに助けてくれる人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

困っているときに助けてくれる人を聞いたところ、「家族・親せき」が88.6%で最も高く、次いで「友達」の57.1%、「職場・アルバイト関係」の24.2%となっている。



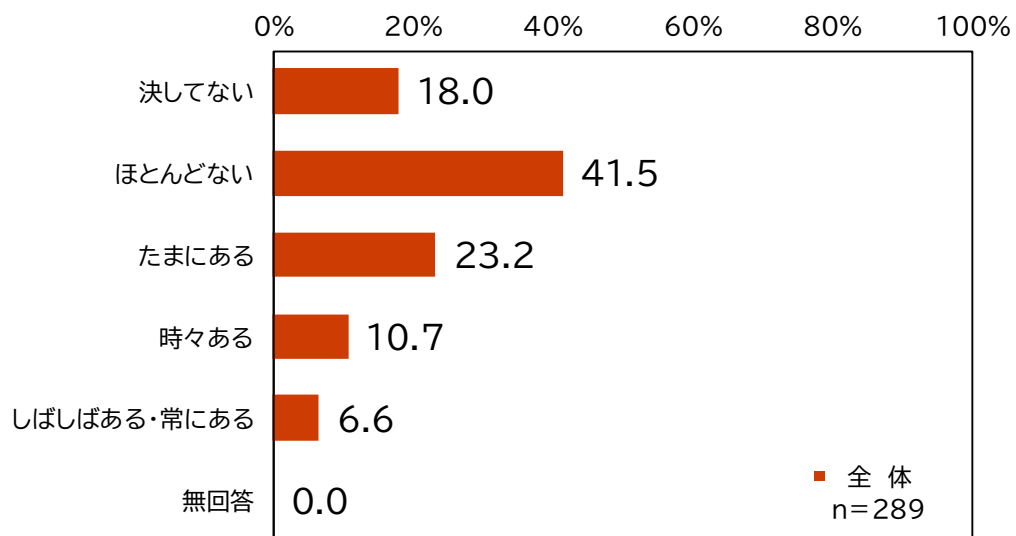
問10 以下の①～③の項目について、あなたはどれくらいの頻度で感じていますか。(それぞれ○は1つずつ)

各項目についてどれくらいの頻度で感じているかを聞いたところ、「常にある」、「時々ある」を合わせた割合が最も高いのは、「①人とのつきあいが無いと感じる」の44.9%で、次いで「②取り残されていると感じる」の31.9%、「③他の人達から孤立していると感じる」の28.7%となっている。



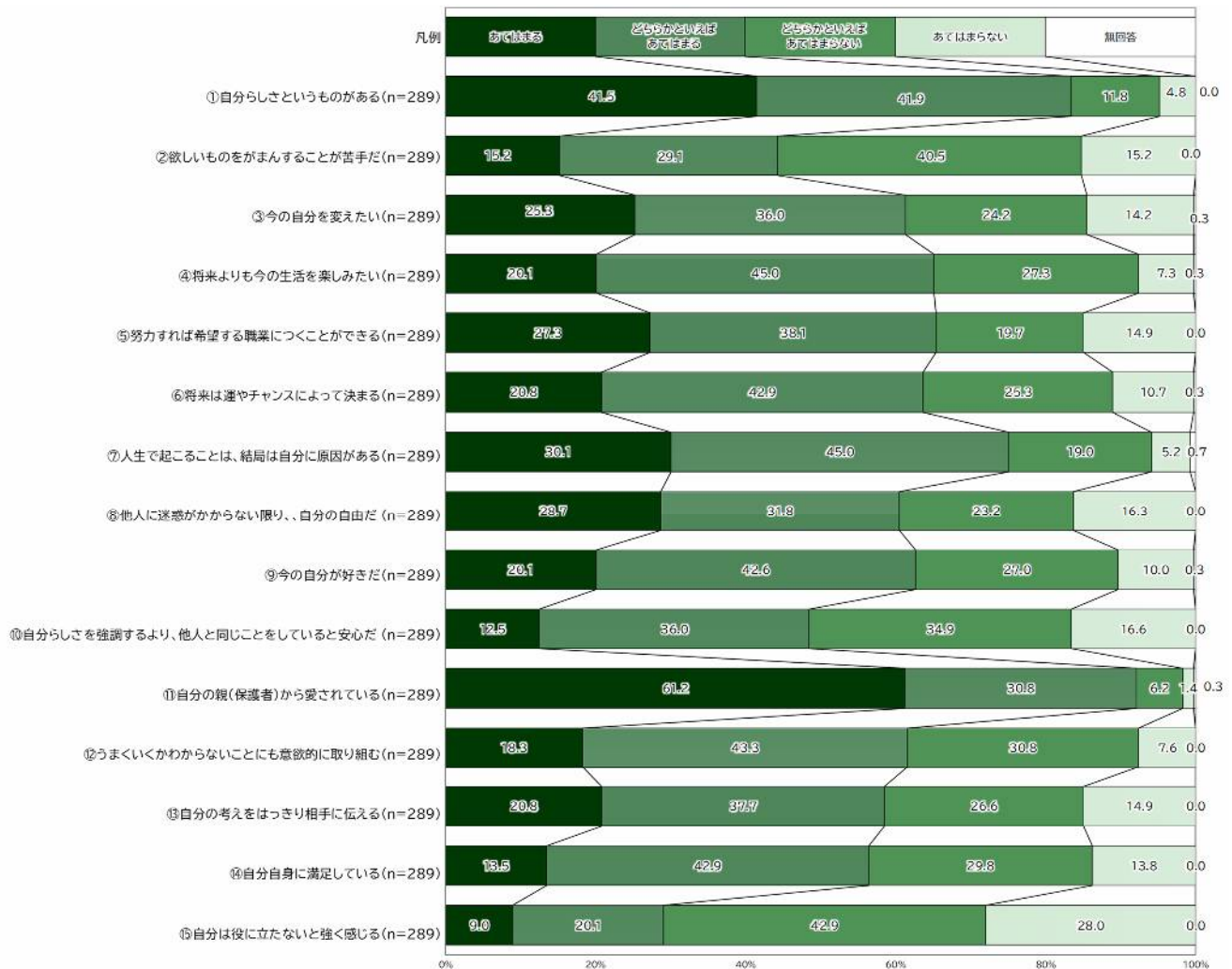
問11 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(○は1つ)

孤独を感じることがあるかを聞いたところ、「ほとんどない」が41.5%で最も高く、次いで「たまにある」の23.2%、「決してない」の18.0%となっている。



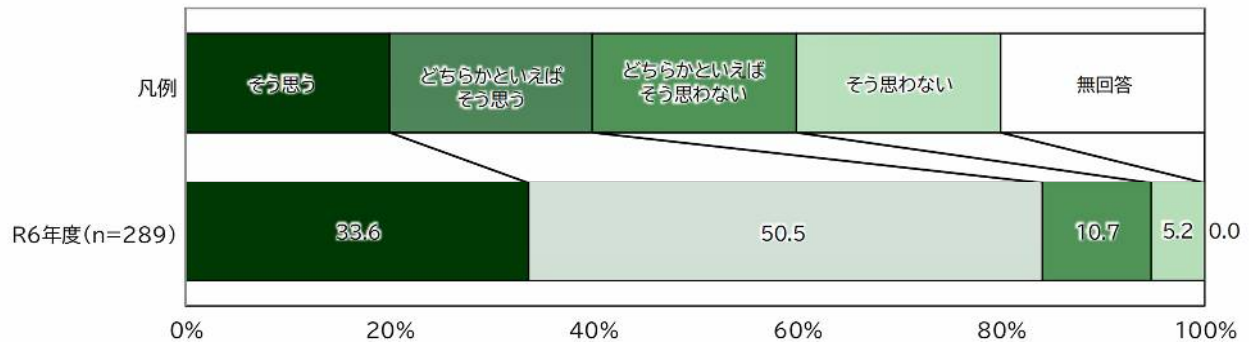
問12 あなたは、次の①～⑮について次のことがどのくらいあてはまりますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

各項目についてどのくらいあてはまるかを聞いたところ、「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合が最も高いのは、「⑪自分の親(保護者)から愛されている」の92.0%で、次いで「①自分らしさというものがある」の83.4%、「⑦人生で起こることは、結局は自分に原因がある」の75.1%、「⑤努力すれば希望する職業につくことができる」の65.4%、「④将来よりも今の生活を楽しまたい」の65.1%となっている。



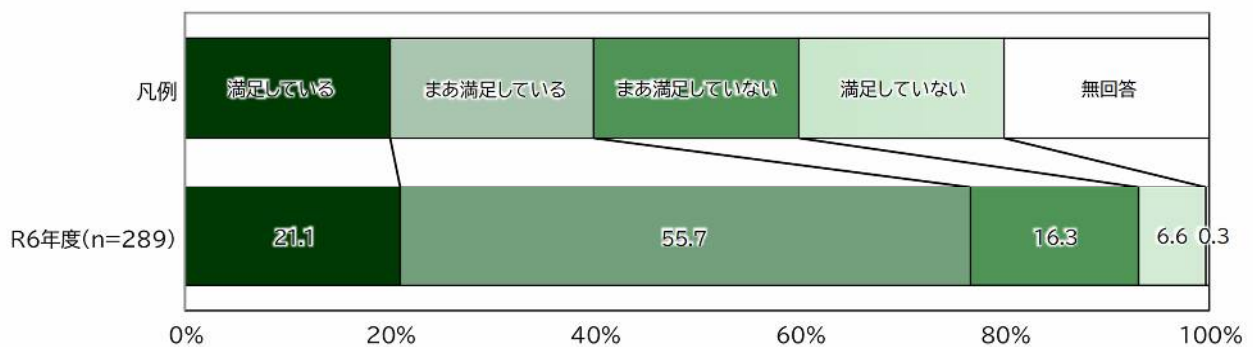
問13 あなたは、今、自分が幸せだと思いますか。あなたの実感をお答えください。(○は1つ)

今幸せかを聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」が50.5%で最も高く、次いで「そう思う」の33.6%、「どちらかといえばそう思わない」の10.7%となっている。



問14 全体として、あなたは最近の生活にどのくらい満足していますか。(○は1つ)

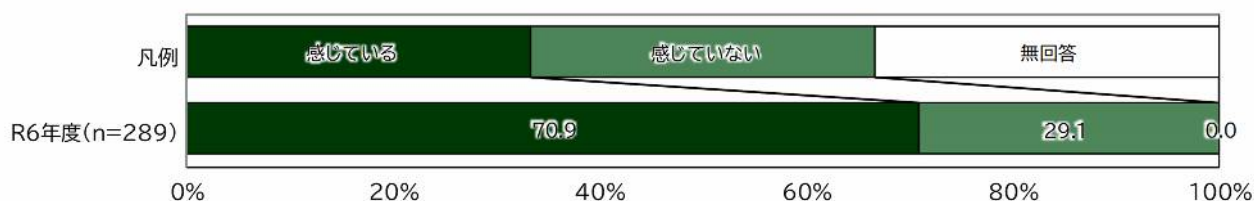
最近の生活の満足度をみると、「まあ満足している」が55.7%で最も高く、次いで「満足している」の21.1%、「まあ満足していない」の16.3%となっている。



3. 将来について

問16 あなたは、将来に不安を感じていますか。(○は1つ)

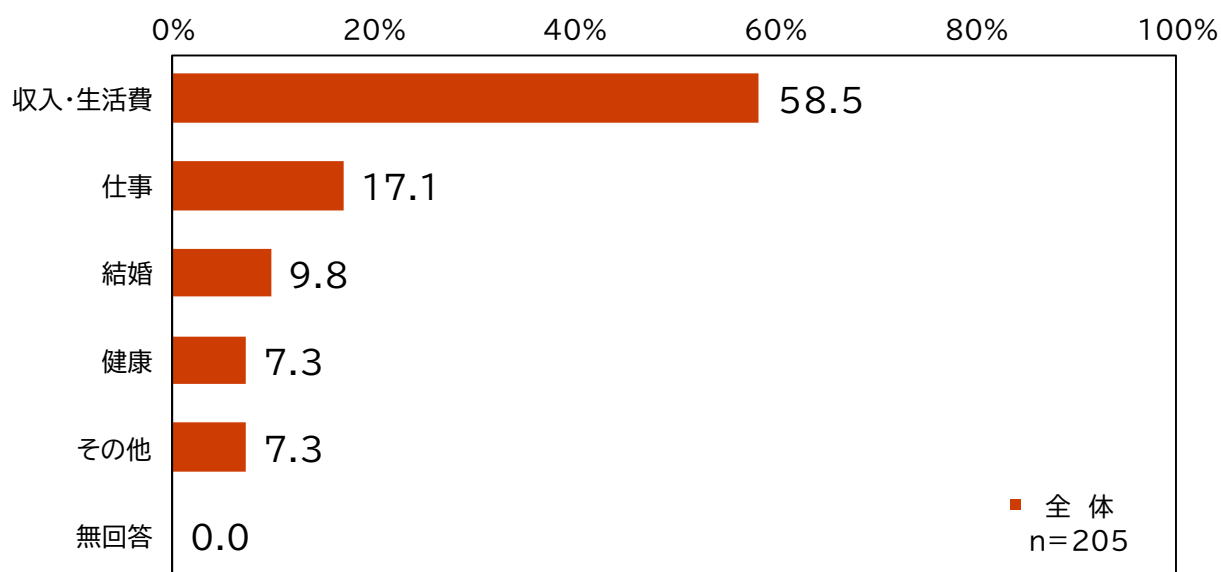
将来に不安を感じているかを聞いたところ、「感じている」が70.9%で、「感じていない」は29.1%となっている。



問16 で「1. 感じている」に○をつけた方にうかがいます。

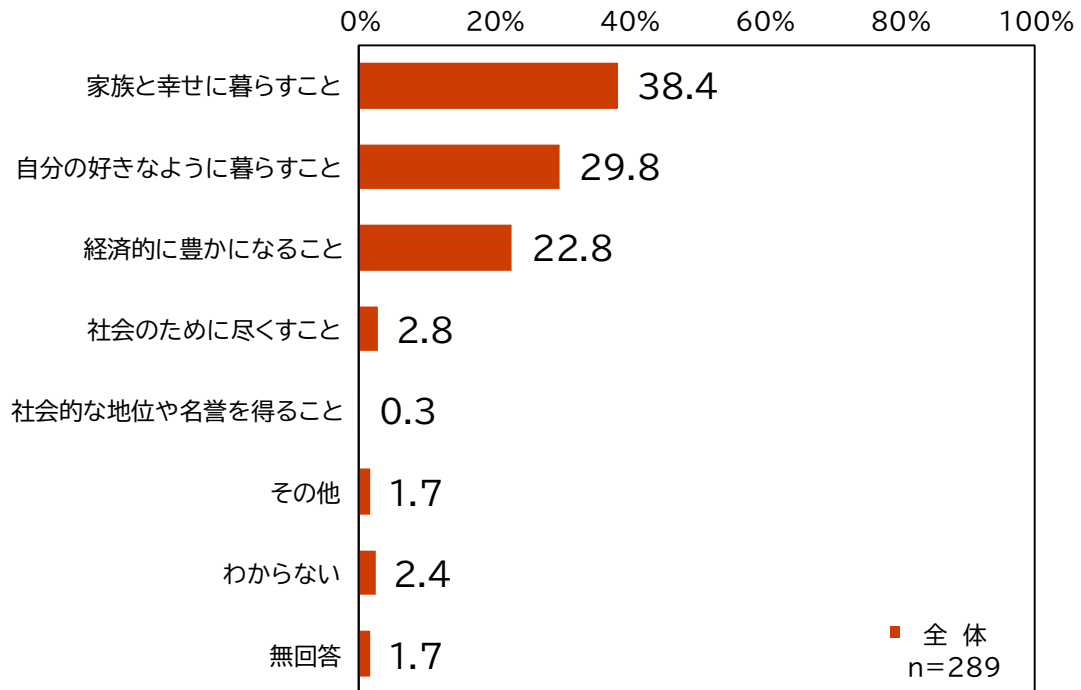
問16-1 将来への不安の主な理由は何ですか。(○は1つ)

将来に不安を感じている人(205人)にその理由を聞いたところ、「収入・生活費」が58.5%で最も高く、次いで「仕事」の17.1%、「結婚」の9.8%となっている。



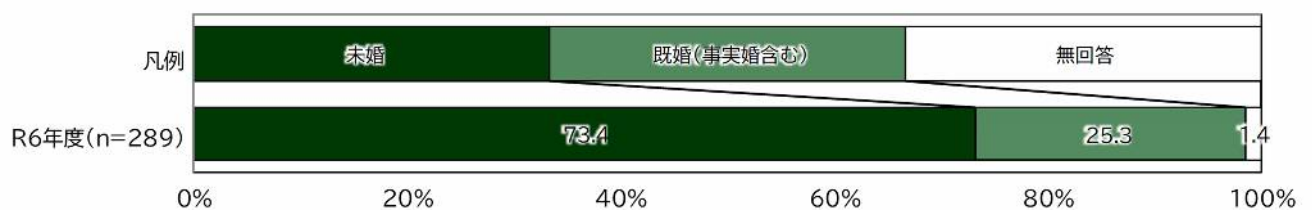
問 17 あなたの理想とする生き方について、次の中であなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。(○は1つ)

理想とする生き方について自分の考えに最も近いものを聞いたところ、「家族と幸せに暮らすこと」が38.4%で最も高く、次いで「自分の好きなように暮らすこと」の29.8%、「経済的に豊かになること」の22.8%となっている。



問 18 あなたは、結婚されていますか。(○は1つ)

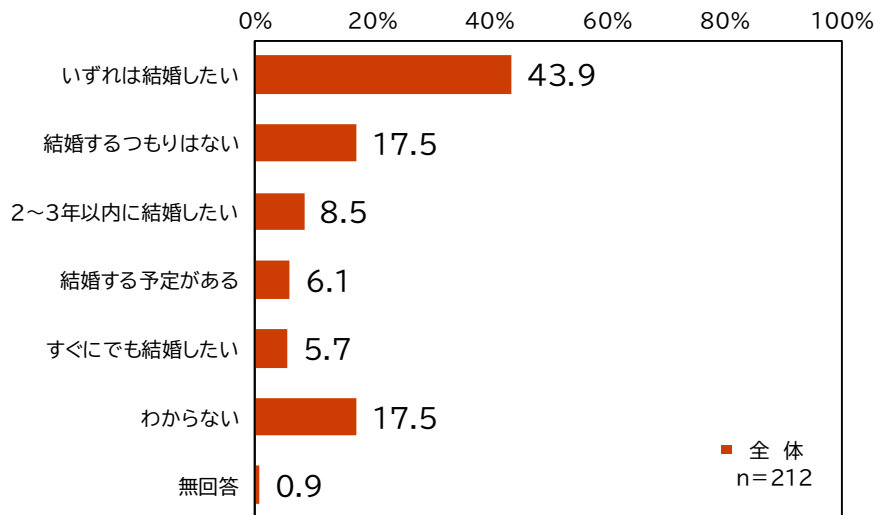
結婚の有無をみると、「未婚」は73.4%で、「既婚(事実婚含む)」は25.3%となっている。



問 18 で「1. 未婚」に○をつけた方にうかがいます。

問 18-1 結婚について、あなたのお気持ちに最も近いものをお答えください。(○は1つ)

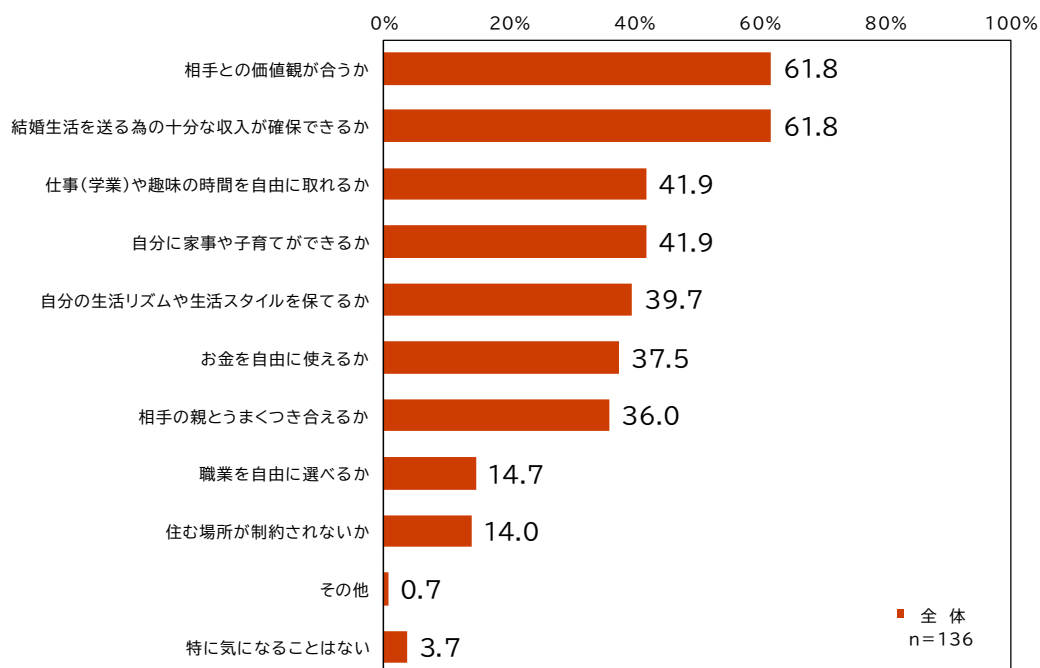
未婚の人(212人)に結婚についての気持ちを聞いたところ、「いずれは結婚したい」が43.9%で最も高く、次いで「結婚するつもりはない」、「わからない」の17.5%、「2～3年以内に結婚したい」の8.5%となっている。



問 18-1 で「1」～「4」に○をつけた方にうかがいます。

問 18-2 あなたが結婚を考えたとき、どのようなことが気になりますか。(あてはまるものすべてに○)

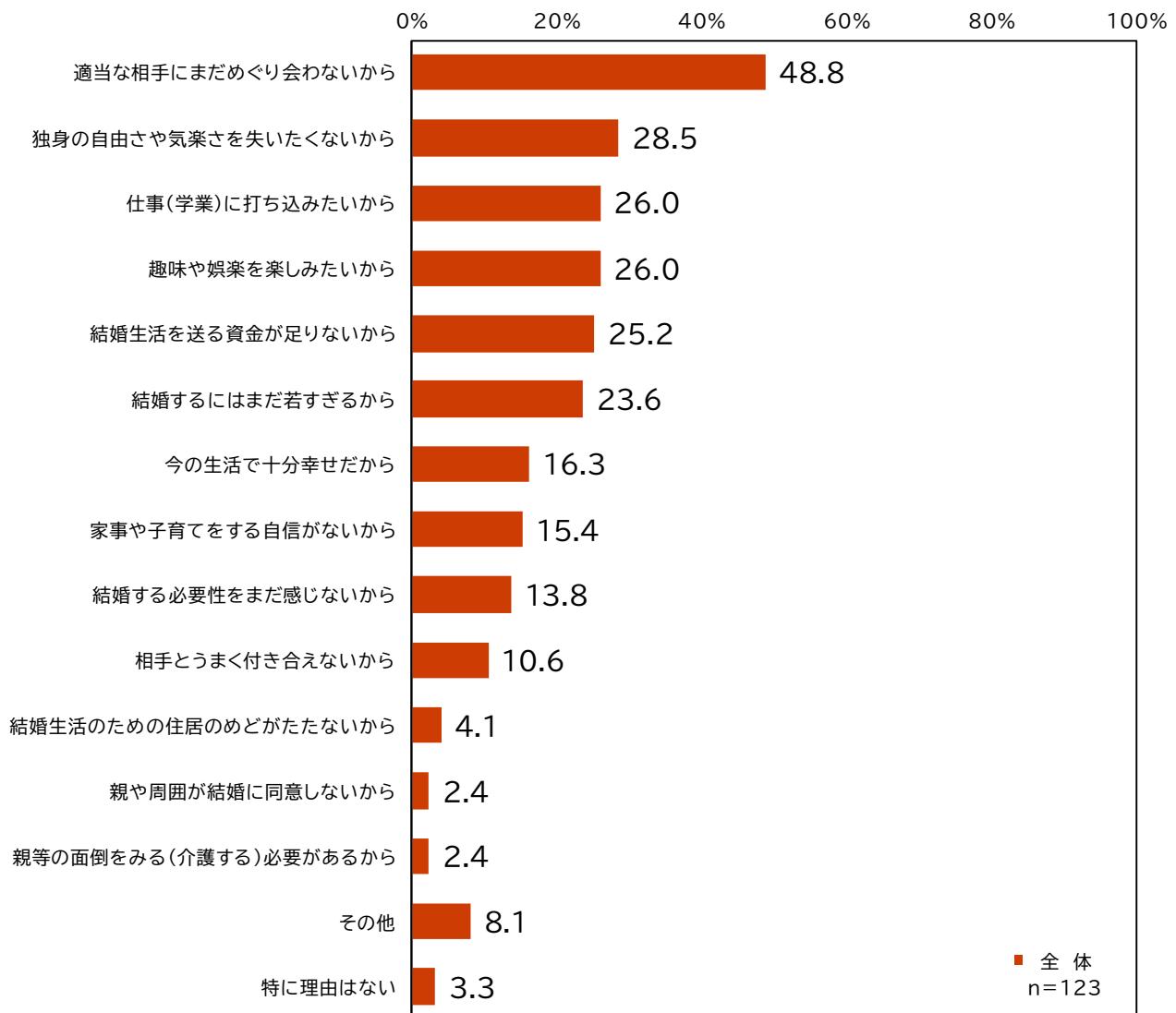
結婚する・したい人(136人)に気になることを聞いたところ、「相手との価値観が合うか」、「結婚生活を送る為の十分な収入が確保できるか」が61.8%で最も高く、次いで「仕事(学業)や趣味の時間を自由に取れるか」、「自分に家事や子育てができるか」の41.9%、「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」の39.7%となっている。



問 18-1 で「2」～「4」に○をつけた方にうかがいます。

問 18-3 あなたが現在独身でいる理由を次の中から選ぶとするとどれですか。(あてはまるものすべてに○)

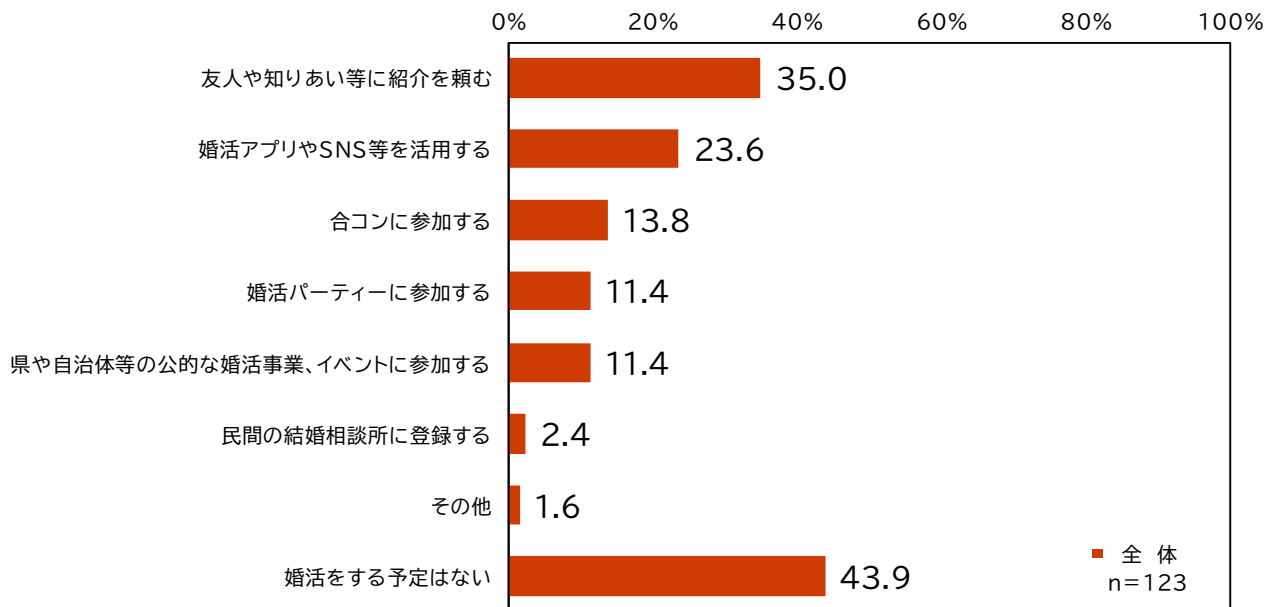
結婚したい人(123人)に現在独身でいる理由を聞いたところ、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が48.8%で最も高く、次いで「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」の28.5%、「仕事(学業)に打ち込みたいから」、「趣味や娯楽を楽しみたいから」の26.0%、「結婚生活を送る資金が足りないから」の25.2%、「結婚するにはまだ若すぎるから」の23.6%となっている。



問 18-1 で「2」～「4」に○をつけた方にうかがいます。

問 18-4 あなたは、今後、婚活としてどのようなことを行いたいですか。(あてはまるものすべてに○)

結婚したい人(123人)にどのような婚活をしたいか聞いたところ、「友人や知りあい等に紹介を頼む」が35.0%で最も高く、次いで「婚活アプリやSNS等を活用する」の23.6%、「合コンに参加する」の13.8%となっている。

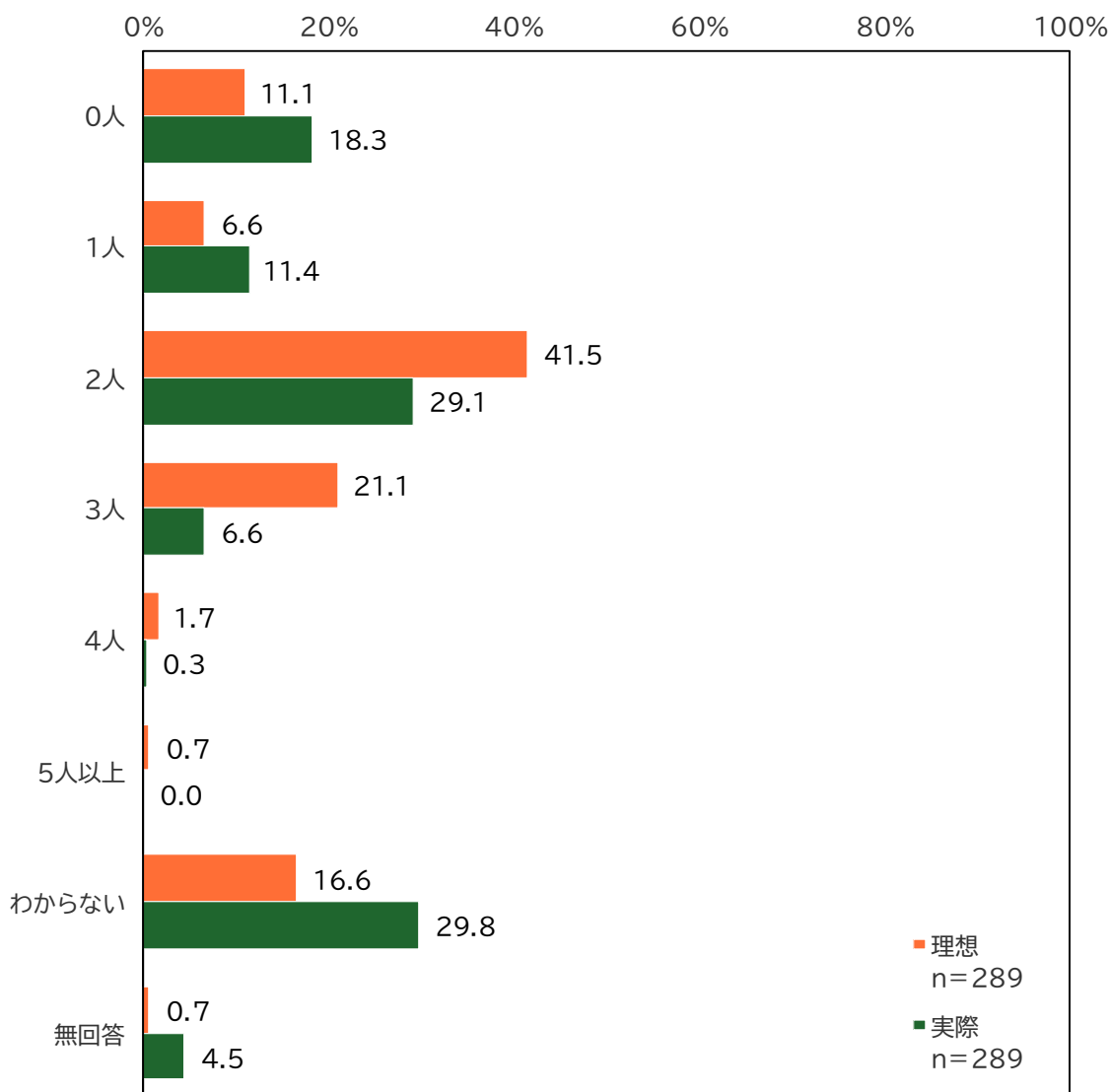


すべての方にうかがいます。

問19 あなたにとって「①理想とすることどもの人数」と「②実際に持つつもりのことどもの人数」は何人ですか。(①・②それぞれについて〇は1つずつ)

※お子さんがおられる方は②実際に持つつもり的人数に現在のお子さんの数も含めて人数をお選びください。

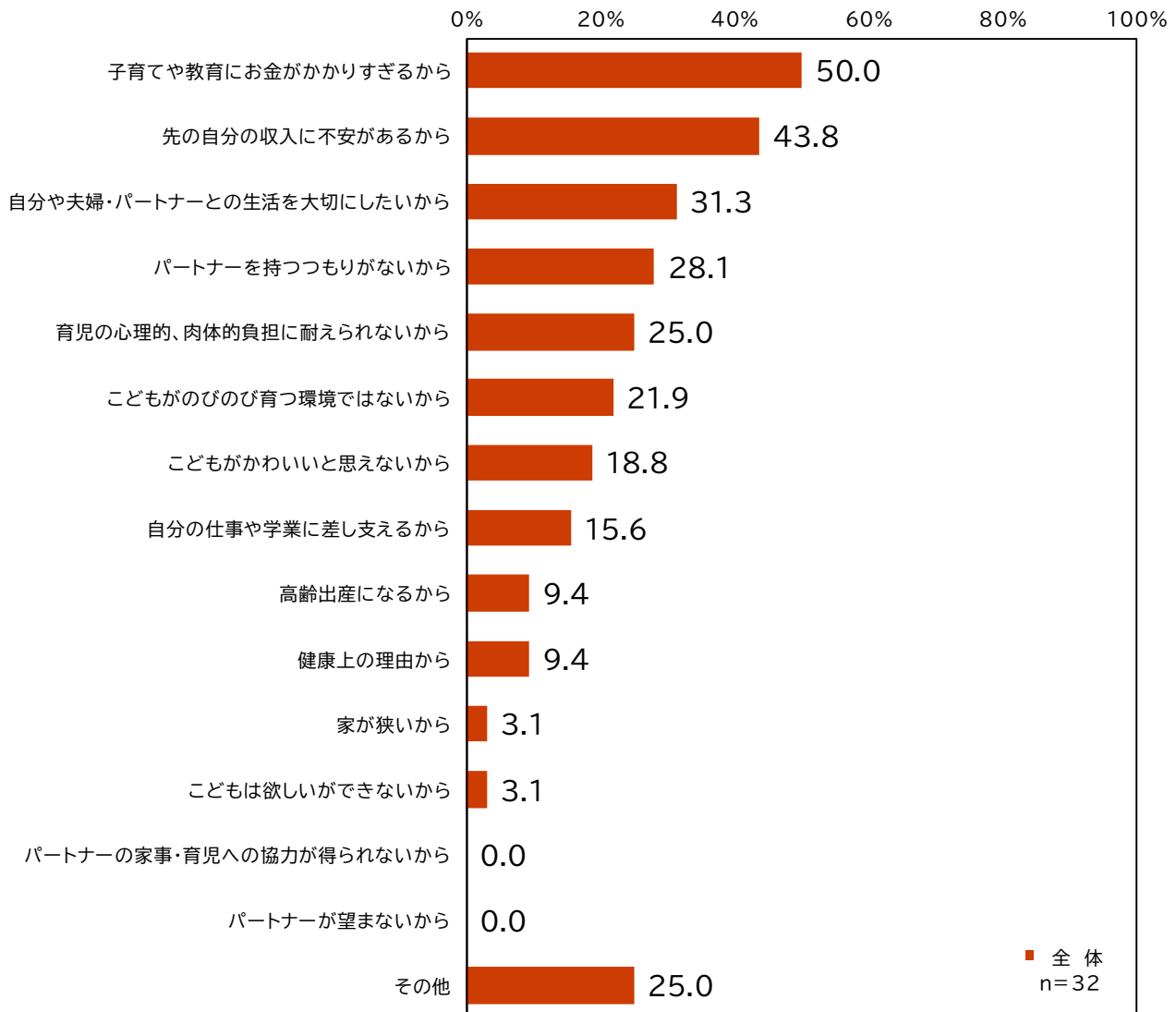
理想とすることどもの人数と実際に持つつもりのことどもの人数をみると、理想のことどもの人数は「2人」が最も高く、実際のことどもの人数も29.1%と高くなっている。



問 19 の①で「1.0人」に○をつけた方にうかがいます。

問 19-1 あなたにとって、こどもを持つつもりがないのはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに○)

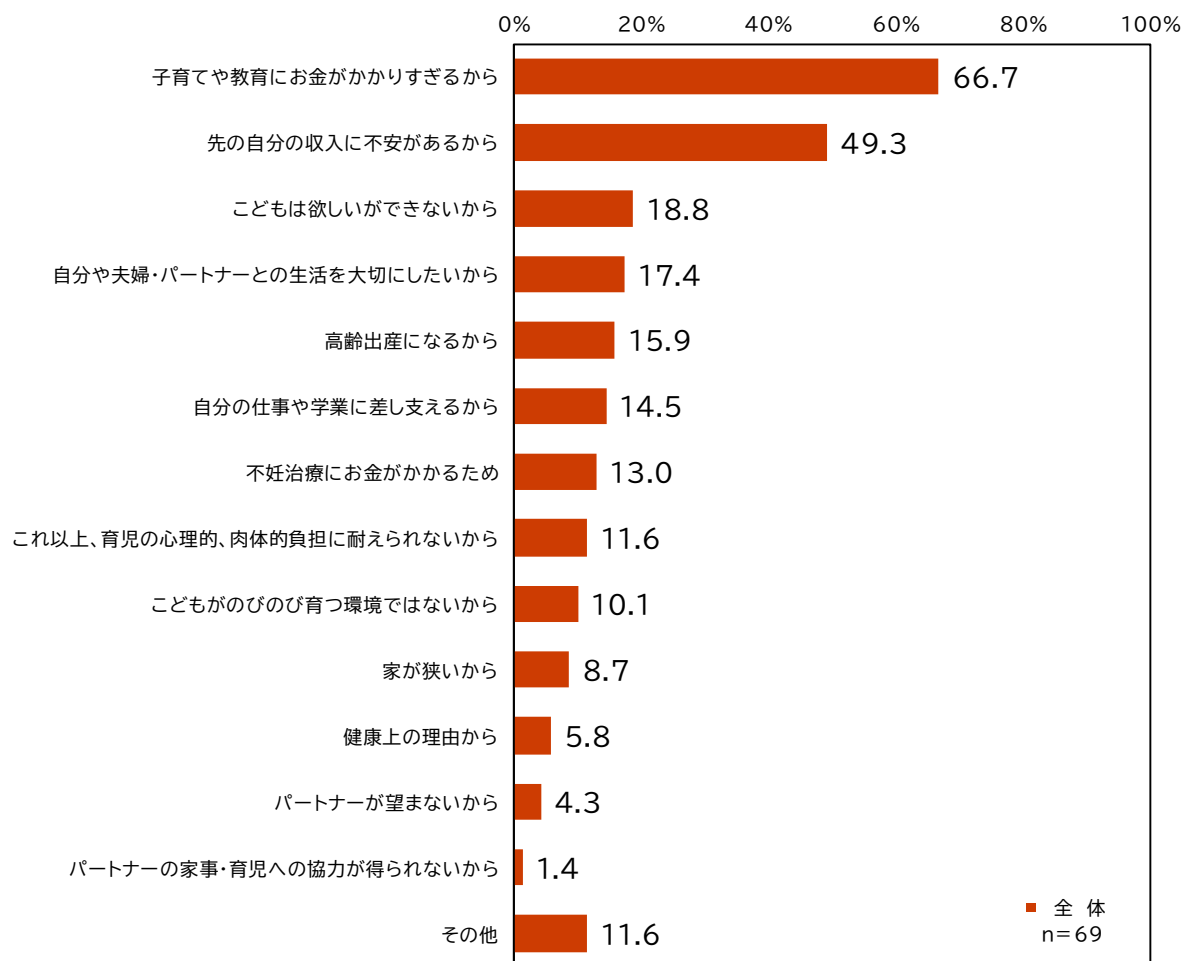
理想とするこどもの人数が「0人」と回答した人(32人)に持つつもりがない理由を聞いたところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が50.0%で最も高く、次いで「先の自分の収入に不安があるから」の43.8%、「自分や夫婦・パートナーとの生活を大切にしたいから」の31.3%、「パートナーを持つつもりがないから」の28.1%となっている。



問 19 で①理想とすることどもの数より②実際に持つつもりのことども数が少ない人にお聞きします。
(例えば、①理想とすることども数が3人、②実際に持つつもりのことども数が2人等)。

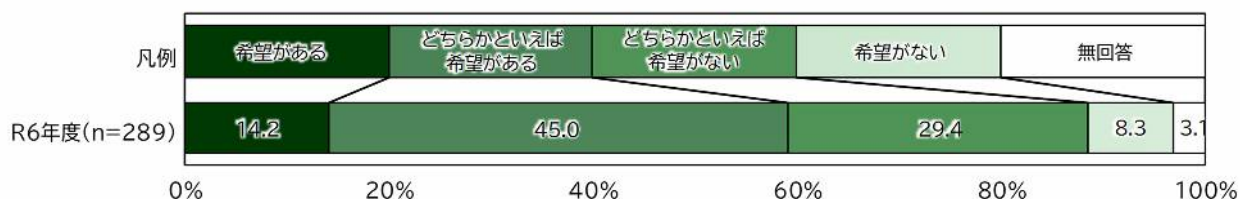
問 19-2 あなたにとって、理想としていることどもの数より、実際に持つつもりのことどもの数が少ない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

理想とすることどもの数より実際に持つつもりのことどもの数が少ない人(69人)にその理由を聞いたところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が66.7%で最も高く、次いで「先の自分の収入に不安があるから」の49.3%、「こどもは欲しいができないから」の18.8%、「自分や夫婦・パートナーとの生活を大切にしたいから」の17.4%となっている。



問20 あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか。(○は1つ)

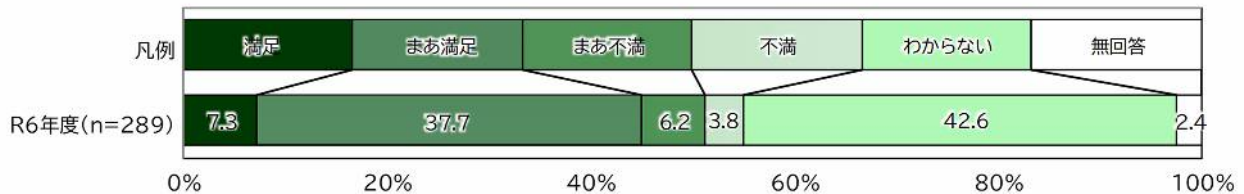
自分の将来について明るい希望をもっているかを聞いたところ、「どちらかといえば希望がある」が45.0%で最も高く、次いで「どちらかといえば希望がない」の29.4%、「希望がある」の14.2%、「希望がない」の8.3%となっている。



4. 合志市について

問21 あなたは合志市が行うこともや若者に関する取り組みに満足していますか。(〇は1つ)

合志市が行うこともや若者に関する取り組みの満足度をみると、「わからない」が42.6%で最も高く、次いで「まあ満足」の37.7%、「満足」の7.3%、「まあ不満」の6.2%となっている。

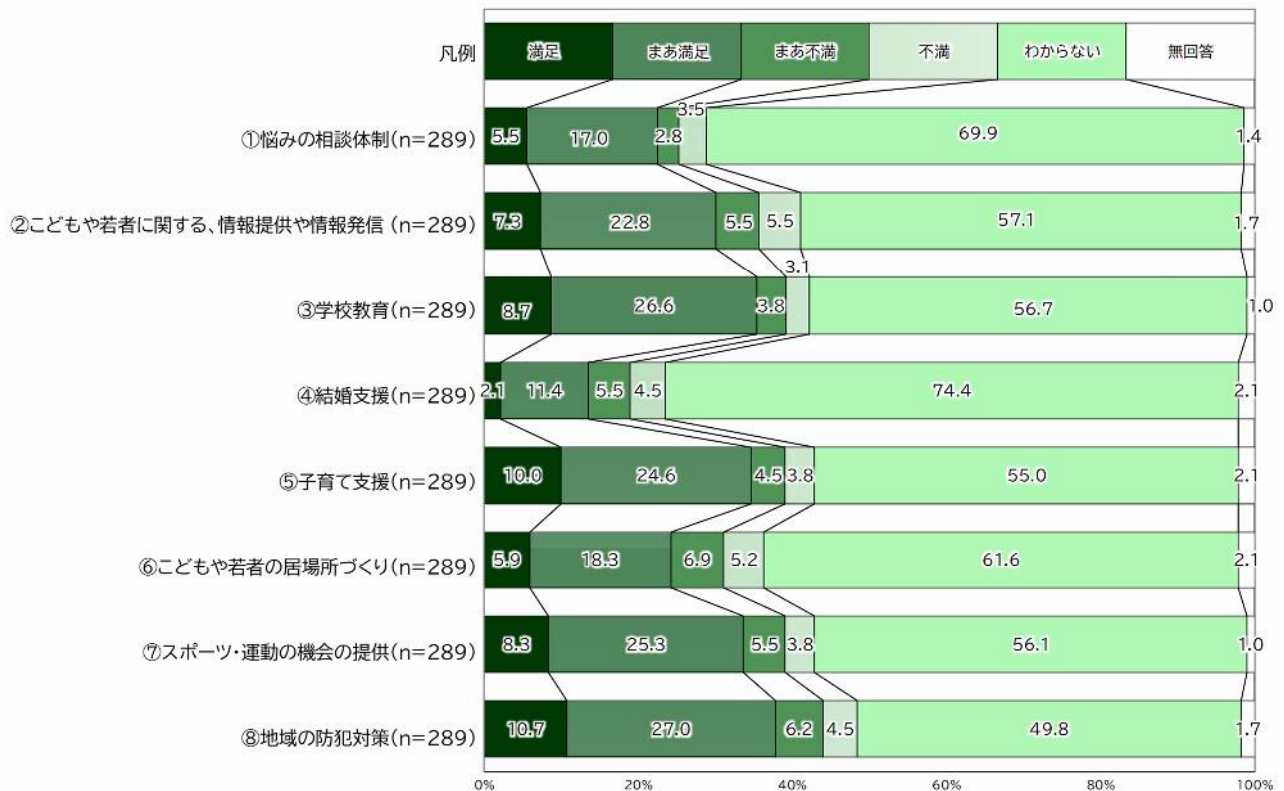


問22 あなたは、次の①～⑧の合志市の取り組みについて満足していますか。また、重要だと思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

●満足度

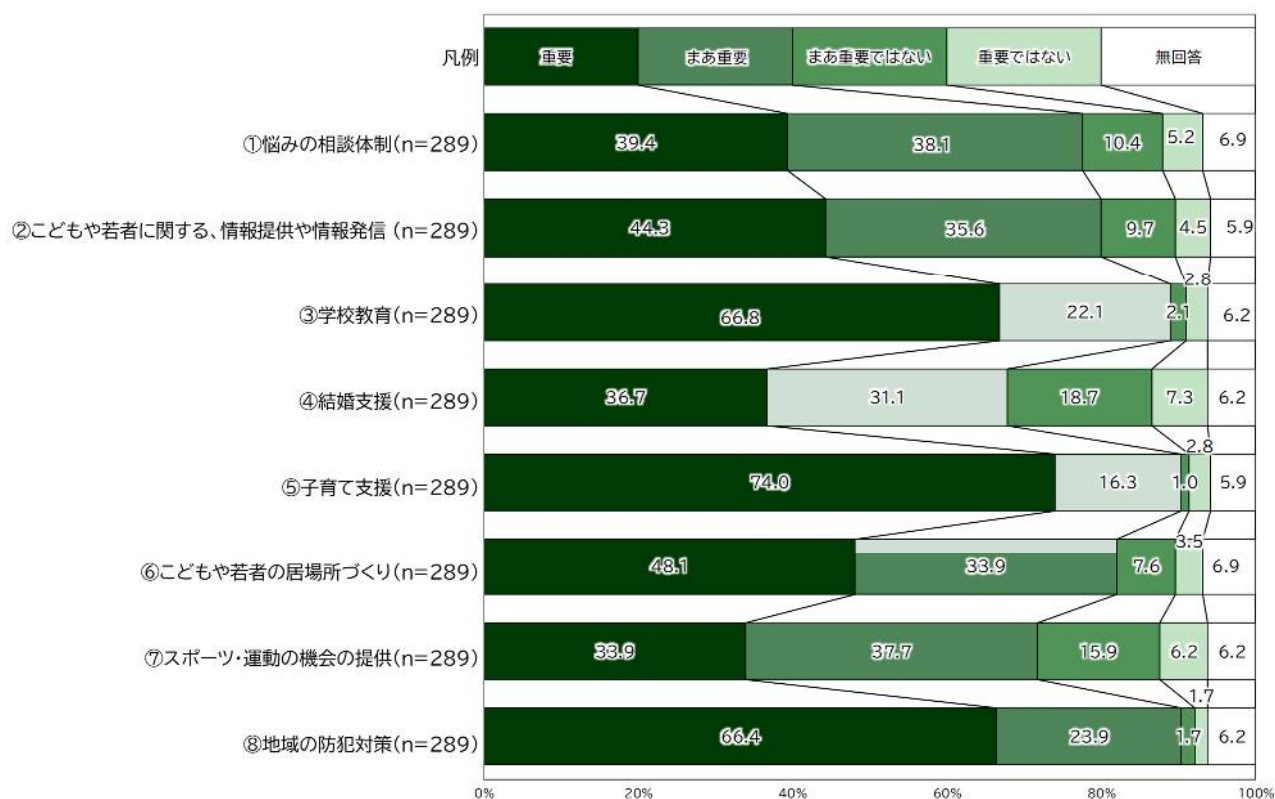
合志市の取り組みについての満足度をみると、「満足」、「まあ満足」を合わせた割合が最も高いのは、「⑧地域の防犯対策」の37.7%で、次いで「③学校教育」の35.3%、「⑤子育て支援」の34.6%、「⑦スポーツ・運動の機会の提供」の33.6%となっている。

一方、「不満」、「まあ不満」を合わせた割合が最も高いのは、「⑥子どもや若者の居場所づくり」の12.1%で、次いで「②子どもや若者に関する、情報提供や情報発信」の11.0%、「⑧地域の防犯対策」の10.7%、「④結婚支援」の10.0%となっている。

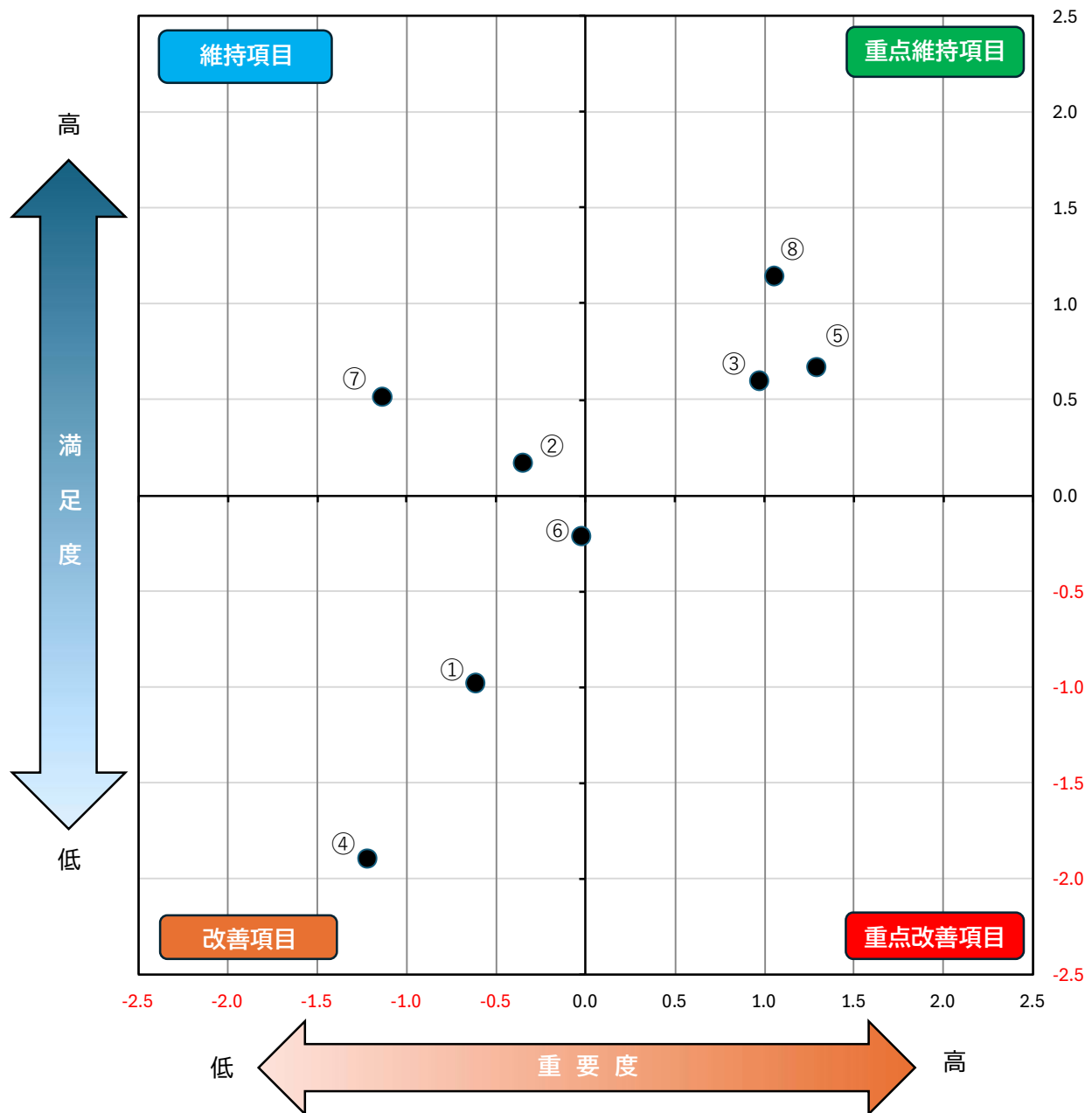


●重要度

合志市の取り組みについての重要度をみると、「重要」、「まあ重要」を合わせた割合が最も高いのは、「⑤子育て支援」、「⑧地域の防犯対策」の90.3%で、次いで「③学校教育」の88.9%、「⑥子どもや若者の居場所づくり」の82.0%となっている。



合志市の取り組みについての満足度及び重要度の相関図【若者世代】



項 目	平均値		Zスコア		象 限
	重要度	満足度	重要度	満足度	
①悩みの相談体制	3.2007	1.0596	-0.611	-0.978	改善項目
②こどもや若者に関する、情報提供や情報発信	3.2721	1.4683	-0.348	0.167	維持項目
③学校教育	3.631	1.6224	0.976	0.599	重点維持項目
④結婚支援	3.0369	0.7314	-1.215	-1.897	改善項目
⑤子育て支援	3.7169	1.6466	1.293	0.667	重点維持項目
⑥こどもや若者の居場所づくり	3.3606	1.3333	-0.021	-0.211	改善項目
⑦スポーツ・運動の機会の提供	3.059	1.5909	-1.133	0.510	維持項目
⑧地域の防犯対策	3.6531	1.8169	1.058	1.144	重点維持項目

※数値は各項目の重要度、満足度それぞれの平均値を平均0、分散1となるように正規化

【維持項目】 満足度こそ高いものの、重要度は低い項目

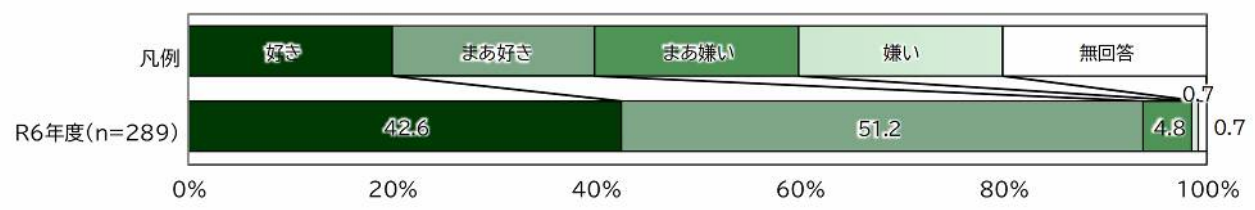
【改善項目】 満足度と重要度ともに低い項目

【重点維持項目】 重要度も満足度も高い項目

【重点改善項目】 重要度が高いにもかかわらず市民から満足されていない項目

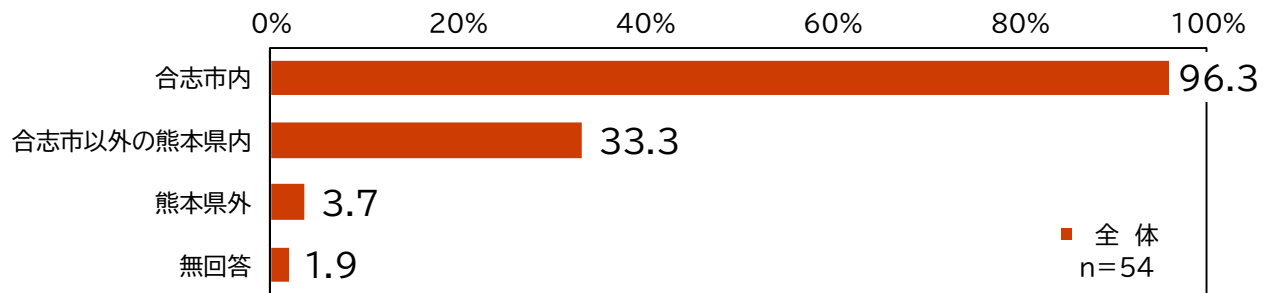
問23 あなたは、合志市が好きですか。(○は1つ)

合志市が好きかを聞いたところ、「まあ好き」が51.2%で最も高く、次いで「好き」が42.6%となっている。

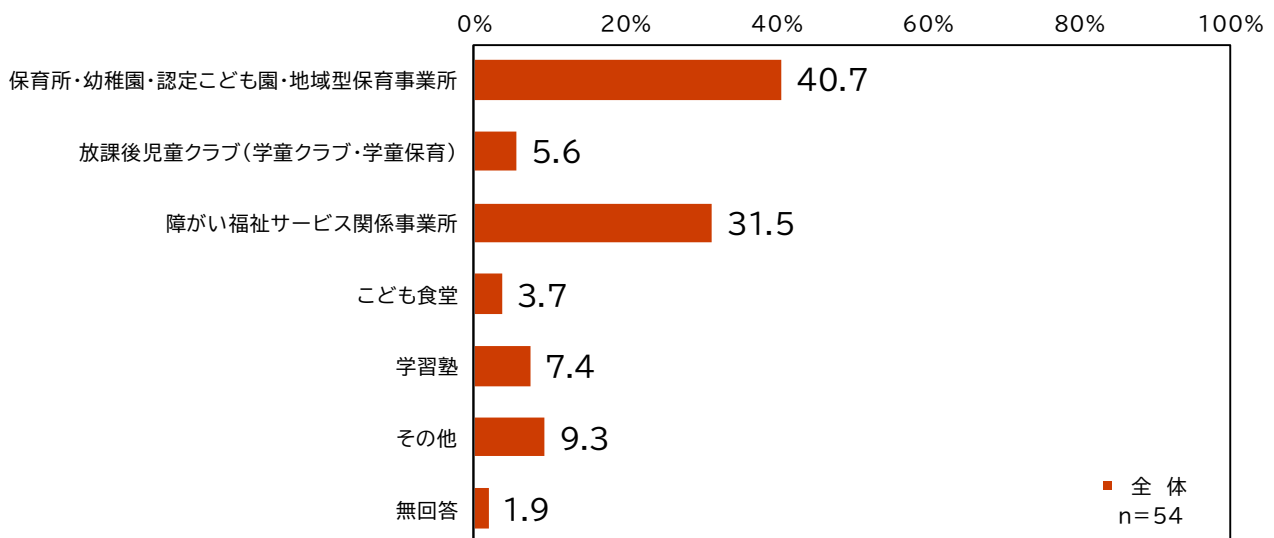


第 6 章 調査結果【関係事業者・団体】

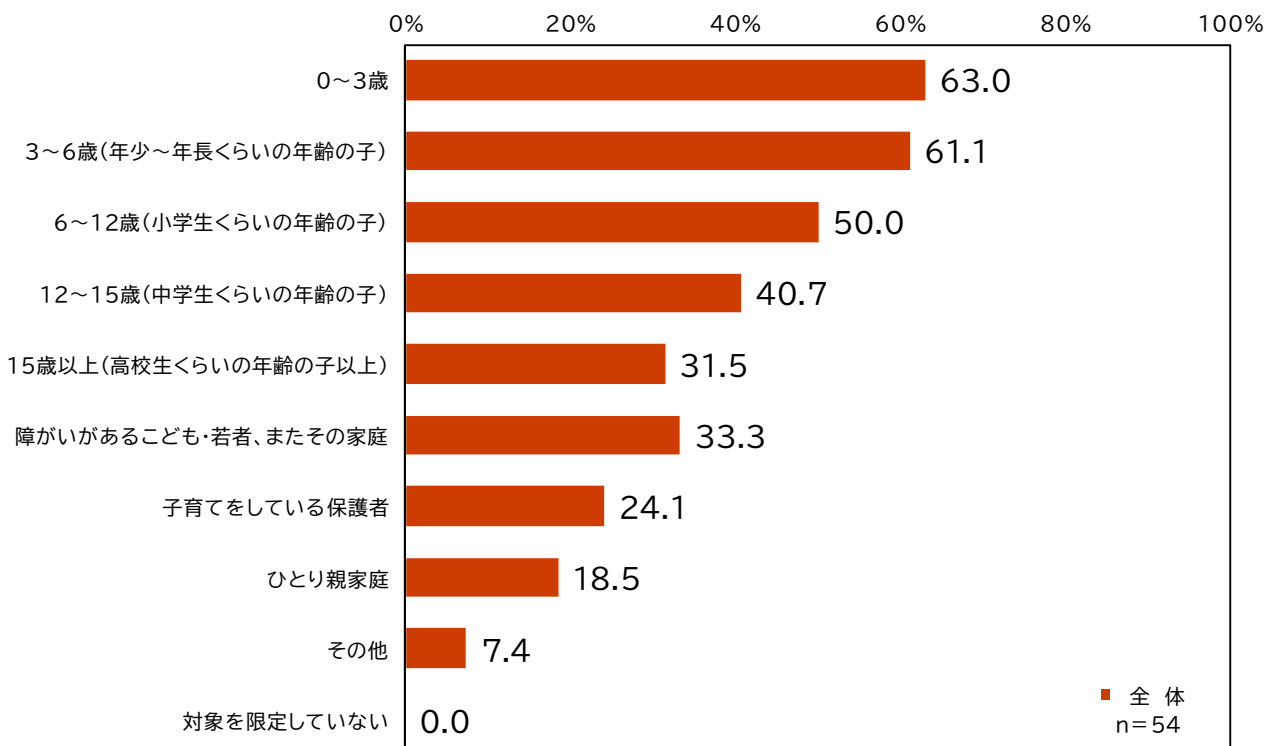
問1 活動エリア(○はいくつでも)



問2 貴事業所・貴団体はどれがあてはまりますか。(主なもの1つに○)



問3 貴事業所・貴団体の対象者を教えてください。(○はいくつでも)



問4 貴事業所・貴団体が感じている「子育てや子ども、若者に対する支援」について、合志市が抱える課題は何だと思いますか。〇〇のサービスが不足している、〇〇があればよい・・・など、感じていることをご自由にお書きください。

●「保育所・幼稚園・認定こども園・地域型保育事業所」

No	合志市が抱える課題
1	認可外保育園という事で認可の人との処遇の差を感じる。
2	保護者から病児、病後児保育の施設についての問い合わせや相談はあります(利用がなかなかできない、予約が必要などで利用できなかったなど)。
3	保育士不足が当面の課題。企業誘致や住宅地が多くなっている合志市。必然的に人口が多くなっていると思うので、合志市内の保育園に勤務するなら何らかの特典等があったらいいと思います。
4	認定による兄弟入所ができない点。1号の兄弟の0～2才児クラスへの入所ができないシステムにおいて、これまでも保護者が困る事があった(1号であっても就労している親が多い事も視野に入れて欲しいという要望が多い)。
5	・保育士を目指す若者に対する支援(合志市独自の魅力として)、奨学金への援助や準備金等。・子育て世代親の学びスペースや機会の提供(子育て能力の低下が著しい)。
6	ひとり親家庭で小さい子供を複数育てているご家庭の母親に「何が大変ですか？」と聞いたことがあります。返事は「家事特に洗濯です。」とのことでした。週1回でも「家事代行」の援助があれば良いのにと感じたことがあります。
7	合生地区はこれまで住宅が建たない地区でしたが、最近は家が建つようになり、ショッピングモールもできたので、若い親さんの流入が増えているように思います。ショッピングモールができると雇用も増えるので、住宅、雇用のある産業が増えていくとよいと思います。
8	①育児休暇中の保育園中途入所が難しい。②求職活動中、仕事が決まっても子どもの預け先(保育園)が決まらず、なかなか仕事を開始できない。③住宅密集地にある保育園に入りたい場合、希望者が多くなかなか入れないので、そのような場所にはもっと保育園を増やしてほしい。④保育園等に行っていない。家で子どもをみている人(専業主婦等)が一時的に子どもを預けたい場合の預け先が少ない(気軽に預けられない)。
9	合志市総合計画第3次基本構想の第1期基本計画(R6年～R13年)をみると、H18年2月合併時の53000人の人口がR6,5月で65000人となり、R11年には、70000人を超える見込となっている。現在合志市の認可園(23園)の利用定員は2310名でR5年度から変わっていない。R5,4月定員充足率は94.4%(2182名の入所数)、9月には2299名で99.5%、10月には(半年後)2322名で100.5%となり、R6,3月の年度末には2368人となり、102.5%となっている。定員割の園が5園あるものの、利用定員は充足している。今後人口が増える中、子育て支援希望世帯のニーズを満たすためには、利用定員充足率を、年度の早い時期、いかに100%にもってゆくか、又100%以上にしてゆくか、更にR6年度をみると、利用定員2310名に対し4月2160名(93.5%)、6月2211(95.7%)、7月2237人(96.8%)と少しずつ改善されているが、保留児が5月74名、6月87名と増加しつつある。
10	子どものあそび場(公園)が少ない。小中学生が遊べる広場がない(少ない)。
11	人員不足によるサービスが不足している。
12	子ども子育て、若者に対する基本的支援制度は整っていると思います。ただ、各行政区単位での子ども、若者交流が民間(自治会)主導の子ども会など中心になっており、自治会加入率も下がって来ているので、そこからもれているご家庭の子どもたち、若者についても、ご近所同士での子ども・子育ての見守りや繋がり強化、そして若者交流を行政主導の事業なども導入していただき、地域で子ども、若者を見守り、支える体制を強化していただきたいと思います。
13	・医療的ケア児の受入れについて、問い合わせ等がたまにあるが、園での受け入れが職員の配置等厳しい現実があり、最近は療育支援を受ける子どもも多くなり、ケアが必要とされる中、保育士不足が重なり、保育業務についても、余裕がなく、医療的ケア児の受け入れについては、特化できる様な職員の確保であったり、施設を設けたりする必要性があるのではないかと。

14	0～3歳の保育施設なので、子どもの疾病での欠席がある。だが、就労の為に十分に回復しないうちに登園してしまう子どもも多い(小児科からの許可証はあるが)結果、施設全体での感染症をの広がりが見られたり職員が感染することもある。互いの働く環境を維持するために、体調の回復まで、「家庭で養生する」「病後児保育利用する」などの親の意識づけが大事だと思う。
15	～こども・若者・子育て当事者のライフステージに応じた切れ目のない対応や支援の視点から～ ①『幼保小中連携協議会』という素晴らしい取り組みが以前から続いています。当年度の一担当者が参加するだけという施設(学校)もあります。育ちや学びに関して協議し、その場で建設的な意思決定できる構成にする必要があるのではないのでしょうか。 ②特別支援、保護者支援に関することと同じく、既に構成されている組織を見直し、現状に沿ったものにする必要があるのではないのでしょうか。 ～子育て当事者への支援として～ ③仕事と子育ての両立を目指す保護者にとって、園や学校生活以外の学びや経験の場を創り出すことは容易ではなく、基本的に延長保育や学童保育を利用する選択肢しかありません。仕事との両立をすることで、こどもにとって豊かな経験ができる機会が削がれてしまっている家庭もあるように思います。
16	人口増に伴って、新旧住民の子どもを介した交流機会が無く、コミュニティが形成されない。
17	地区ごとの保育所利用ニーズに偏りがあります。当園では7月1日時点で未だに定員が充足しません。一方で、合志市全体では86人の保留者が入園をまわっていると聞いています。地区ごとの保育所利用ニーズの偏りを減らすことが必要だと考えます。
18	1.遊具のある公園が増えたらよいと思います。2.親子が気軽に参加出来る子育てイベントなどを増やすとともに、その周知の仕方を分かりやすくしてもらえたらよいと思います。
19	●若者が県外または合志市外から転居する際に賃貸住宅が少ない。 ●合志市は戸建てはどんどん増えているが、賃貸住宅が少ないため、入れ替えが少ないように感じる。一時的に園児数が増えても、時間の経過とともに減少していくことが予測され、不安を感じている。
20	●合志市は戸建てはどんどん増えているが、賃貸住宅が少ないため、入れ替えが少ないように感じる。一時的に園児数が増えても、時間の経過とともに減少していくことが予測され、不安を感じている。

●「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」

No	合志市が抱える課題
1	保護者の方から子どものアレルギー、持病等に関する投薬の依頼があります。口頭だけの薬等の預りや、万が一使用が必要になった場合、管理も含め責任や不安があります(エピペン、熱性けいれん等による発熱の際の坐薬等、食後の薬等)。
2	各公共施設が分散しているため、様々な世代の市民が交流できる場所があると良い。

●「障がい福祉サービス関係事業所」

No	合志市が抱える課題
1	・保育施設の数が十分ではない。・子育て中の親への支援が不足している。・若者の就業支援が不足している。・小中学校の特別支援教育のさらなる充実。・地域社会全体で子育てを支える仕組みが不十分である。
2	多機能型で児発から放課後等デイから生活介護をしているが、定員もあるため高校卒業後の受け入れが難しい。重心児を受け入れてくれる生活介護が増えればよいなと思ってます。
3	・保育園等の人員不足。・障がいのある子どもたちの通える保育園が少ない。・仕事をしたい母も預ける場所がないことから仕事を断念せざるを得ないことがある。
4	・保育所等訪問支援における小学校の受け入れについて。・療育に通う児童が学童で過ごす場合の対応について。
5	一つは、児童家庭における事案に対応する機関(容易に介入できる機関)がいまこそ必要ではない

	かと考えます。保護者様は、家庭に入られる事＝問題と捉え、保護者様より家庭介入を敬遠されるケースが多いと思います。虐待のありなしを問わず、児童家庭支援センター、里親支援センター、基幹相談支援センター、ショートステイ事業、トワイライトステイ事業を設立し、こども部、健康福祉部と一体となって保護者様の精神的負担を軽減する、お子さんの発育環境を整備する役割を担うべきだと考えます。予算を捻出する必要性を感じます。二つは、全国的に増加する不登校事案に対応する機関がいまこそ必要ではないかと考えます。これだけ不登校が認知されたいま、不登校になった子は、今どうしているのでしょうか。将来どうなっていくのでしょうか。登校できない子においても、健全な教育を学ぶ機会を安定的に供給できるシステムづくりが必要と考えます。一つにあげた機関、あるいはそれに関連付随する機関があってもよいのではないのでしょうか。予算を捻出する必要性を感じます。三つは、学力の低下・向上に対応する機関が必要ではないかと考えます。社会で働いていくうえで、学力は一定程度求められるのではないのでしょうか。お買い物をするにも、悪徳商法に引っかからないためにも、犯罪に手を染めてしまわないためにも必要と言えるのではないのでしょうか。私の教え子に上は、中学2年生が3人、下は小学1年生が2人おりますが、この子らの将来はどうなるのでしょうか。高校受験はどうなるのでしょうか。通える高校はあるのでしょうか。受け入れてもらえる高校はあるのでしょうか。私の学生時代、250点中150点-180点はとれと言われました。今、250点中15点(平均3点/50点)、30点(平均6点/50点)、50点(平均10点/50点)、75点(平均15点/50点)の児童を受け入れてくれる高校はどの程度あるのでしょうか。「ありのままでいいんだよ」「大丈夫」「何とかなる」と育てられている風潮が社会にある今、高校受験で「テストの点数取れなくてもいいよ」「点数は関係ないから」と言ってもらえるのでしょうか。進学先を選択できる保証はあるのでしょうか。大人になって「ありのままでいいんだよ、できることをすればいいんだよ、きついならやすめばいいんだよ」と、どのくらい企業が、どのぐらいの人数、雇用していただけるのでしょうか。就業場所を選択できるのでしょうか。就業は保証されるのでしょうか。仮に一般就労が難しい場合、就労継続支援A型事業所で4時間(短時間)ではなく、7～8時間(長時間)の勤務で最賃以上の時給を何名程度まで保証できるのでしょうか。保証されない場合において、生活の質(衣食住)を維持したい、豊かな生活を送りたい方々は多いでしょうから、障害手帳(障害年金)を申請する、生活保護を申請する方が、療育の通所受給者証を発行するかのよう大きく増加するのではないのでしょうか。2025年問題、2035年問題(超高齢社会)が迫っている今、果たしていまの児童が大人になる5年、10年後、福祉的な就労において予算が組めるのでしょうか。運動や遊びを学ぶ居場所も絶対的に必要だと思いますが、(学びの段階に応じて)基本的な教育課程を学べる環境づくりが急務であると私は考えます。予算を捻出する必要性を感じます。一～三にあげたことは、先々の合志市の発展に繋がる先行投資となるのではないのでしょうか。障害福祉計画、こども計画の策定委員に幅広く民間の人材を登用することも必要となっていくものと考えます。
6	保護者から相談を受けるのは、対象学校の朝の受け入れについての件です。両親共働き世帯をフォローするサービスが必要です。利用料よりも使いやすいサービスを希望されています(多少の負担は仕方ないという考え)。
7	室内で子供が遊べる場所があれば、活動で使いたいです(暑い日とか雨天時に)。
8	・不登校児支援 ・教員不足(普通学級、支援学級ともに) ・支援を要する幼児(保護者含む)に対する理解や配慮のできる保育園等
9	療育事業所の不足。 問い合わせやご利用希望があっても、受け入れを断らないといけない現状。 別事業所もいっぱいと言われ...と、悩まれる方もいる。
10	子供達が遊べる公共の施設がもっとあれば良いと思う。
11	・障害のある子どもの保護者・ご家族の一時的な休息のための場の不足 ・こどもの日中一時支援 ・こどものショートステイサービス
12	当事業所は、発達に遅れのある幼児や児童を対象とした相談支援業務を行っていますが、対象となる児童だけが問題を抱えているだけではなく、親そのものが問題を抱えている場合が少なからずあります。 しかし、そのような場合に対する支援体制が弱い、若しくは無いように感じています。

	加えて、私が住んでいる合志市●●の自宅周辺には高校生の頃から自宅に引き籠もっている30代前後の若者が数世帯あります。今は60歳から70歳位の親と居住していますが、あと20年位経ったらどうなるのか、テレビで報道される社会問題が近所で顕在化している事に危惧しています。
13	助成金が少ない。
14	学校等の繋がりがあれば、もっと子どもさんに対しての質が上がり、役割分担ができるのでは無いかと思います。

●「こども食堂」

No	合志市が抱える課題
1	合志市からの支援物資や助成金がありませんので活動ができません。
2	活動の場所を市民センターなどを使うが、自治会並みの利用料金になると助かる。支援活動には物資と資金が必要。少しでも良いので支援があると大きな力となる。

●「学習塾」

No	合志市が抱える課題
1	習い事に対する関心を高めるために条件付き(母子、父子対象等)でもいいので補助があればよいかと思います。
2	私は以前福岡市に住んでいたが、福岡市は3人以上の子どもがいる家庭に「多子世帯応援券」を配っていた。合志は多子世帯が多いので参考になると思う。資源のない日本にとって子どもは国の重要な財産なのだから、教育費の支援などもっと行うべき。
3	合志市の小中学校が、より安心して学べる場所にすることが課題であると思います。 具体的には ①授業時間における、一部の生徒による勝手な発言や行動を抑制し、規律ある授業時間になるよう努めること。 ②他人に対していやがらせをするような生徒への指導やケアに加えて、被害を受ける生徒を守る活動を強化すること。
4	①世帯間の格差が拡大している。 所得、教育への意識、学力 ②就学支援金制度により、郡部の公立よりも市内の私立という志向が高まっている。 ③西合志エリアから豊肥線への公共交通機関が不足している。通学目的。大津高校、東海、熊高、熊商などへの通学が大変。 ④シングル世帯への支援 ⑤国際交流拠点 ⑥高校や大学との連携

●「その他」

No	合志市が抱える課題
1	本館(児童館)は合志市の中心部から離れている(4~5km以上)ため、小学生が自分で来館するのが難しい。地域に住む数人に限られる。利用者(特に小学生、中学生)の少なさにも影響していると思われる。
2	泉ヶ丘児童館の現状ですが、利用が多いときは、安全のため人数制限をしている。近隣に、天候を気にせず遊べる場所があれば…と思う。子どもさんが楽しみに来られたのに、入館をお断りすることはできるだけさけない。
3	熊本市北部(旧植木町)・合志には国立大学等に進学可能な高等学校がない。旧植木町は玉名高校に、合志市は熊本北や済々黌、熊本高等専門など熊本市内に学校に頼っています。TSMCの進出により海外の高度な技術を持った人々の移住先も高い進学が望める地区を求めている。また、合志市に住む子供たちが高い技能を持つには、それにふさわしい身近な環境が必要です。今後合志市が発展していくには、海外留学をも視野に入れた進学校の整備が大切です。

4	具体的な子育ての方法の発信と支援など子育て不安や困り感を具体的に解消する方法を地域の方は求めている印象があります。
5	熊本市と合志市の福祉的サービスを比較して子育て支援については合志市が力を入れていると感じるが、不登校児童に関して熊本市は利用できるが、合志市では登校していないと福祉サービスの利用が出来ない状況が出ている。熊本県で統一をして欲しい。また、保育所等訪問についても熊本市と合志市では、学校へ訪問出来る回数が異なり訪問出来る回数を統一してほしい。

問5 問4でご記入いただいた課題について、解決するために必要なことは何だと思いますか。ご自由にお書きください。

●「保育所・幼稚園・認定こども園・地域型保育事業所」

No	課題について解決するために必要なこと
1	園の運営をするにあたり、市からの補助があれば安定した運営ができると思う。園舎の建て替えや修理費などの補助もあれば園生活を送る子どもたちがもっと安全に生活、活動ができると思う。保育園職員の処遇が改善すると働きやすく、意欲も上がる。そのためには市からの補助が必要。病院の職員確保そして地域(市)への貢献につながる。
2	回答なし
3	保育士不足。合志市独自の緩和策が欲しい(保育士配置基準等)。
4	1号認定児を「保育に欠けない児童」と定義している点を、現状(誰でも就労)を把握し(新2号認定をうけることができる保護者等)、保育の必要性の判断視点を見直す事が必要と考える。新2号制度をうけている人は考慮してもいいのではないかと考える。
5	・子育て世代親の意見交換の場を増やしてほしい。・スマートフォンなど電子機器類が子どもの脳に与える影響等を知らない親が多いので学ぶ機会を作してほしい。
6	地域のボランティアの方とか、ファミリーサポート等を活用できませんか。
7	土地の有効活用や、竹迫地区、野々島地区の公共交通手段の開発があると、もっと若い人が増えるように思います。
8	熊本市が9月から実施予定の「子ども誰でも通園制度」を合志市でも実施できたら、一時保育の預け先が少ない(上記④)問題の解決の糸口になるのではないのでしょうか(2026年度からは全国で導入されるようですが)。
9	合志市の課題として、①「利用定員率の100%越えの達成をいかにスピード化するか」②「保留児をいかに減らしてゆくか、が問われている」その解決方法は、今迄通り、難しく、単純なものではないが、地道に取り組む以外にない。(事業所にとって)①選ばれる保育園になる為に、どうしたらよいか、職員(特に保育士)の確保、処遇アップ、福利厚生充実、勤務時間等就業規則適用の明確化。②保護者会や地域との交流深化と信頼の■成。③職員のスキルアップ。(行政による支援)①事業所に対する給付金や各種制度的加算の徹底化。②人財確保の為、高い紹介手数料(年収の30%)に対する市から助成制度の創設。③■■■以上の人財確保支援等の■■■等々。
10	人口増加に伴い、渋滞問題もあり、土地活用については大変なご苦労もあると思います。しかし、少子化により子どもたちのために住宅1戸分でもいいので、公園をもっと増やしてほしい。
11	合志市の市役所をはじめ、小中学校や保育園等の職員を合志市独自で基準以上に配置することにより、福祉や教育などこれまで以上に丁寧に対応できるようになると思います。
12	行政と自治会が連携しての、各自治会での子どもたちの状況把握や居住若者の状況把握、交流会の開催など、公民館活用での子どもたちの寄り合い場の開催を増やすなど、交流の場をどんどん設ける。
13	・職員の配置基準の見直し・看護師・保育士の職員の確保など。 ・保護者支援の重要性(保護者が何を求めて、健常児との交流を求めているのか)
14	保育施設でもお願いはするが、乳児健診時に保健士さんなどから話して頂き理解を促したり、病後児の受け入れ先を増やすことが必要だと思う。

15	①既に構成されている組織を生かすことで負担なく、計画につなげることができるはずですが。ブラッシュアップを行い協議会の在り方を現状課題(国の方針)に沿ったものにすることで、より具体的な協議ができる場となればいいのではないのでしょうか。 ②特別支援や児童発達支援には、全ての関係機関の連携が欠かせませんが、各部署や管轄という弊害で、こども(家庭)に対しての支援に関する情報や手立てが途切れてしまうことも経験しました。すでにある組織構成を生かし、教育機関で必要な連携協議と福祉を含めた連携協議の一元化を目指すことはできないのでしょうか。 ③メディアでも取り上げられていましたが、こども専用乗り合いタクシーなどの活用を行政が支援することで、習い事や家庭への送迎を確保し、こども達の豊かな体験や学びの場が選択できる機会を増やせる。保護者にとっては支援を受けながら、安心して仕事ができる。ということにつながるのではないのでしょうか。
16	保育所、幼稚園だけでなく小学校区単位での交流機会を設ける。
17	例えば、現在受け皿が不足している須屋地区から、定員に余裕のある保育所への送迎を実施する子ども送迎センター等事業(国 1/2 市町村 1/2)は実施できませんでしょうか？保護者にとって近くの園が利便性が高いのは理解できますが、入園できてこそその話だと思います。合志市で定員を満たしていない園が存在する状況を解消することが、待機児童や保留児童の削減に対して即効性があり、優先して行うべき事項ではないかと考えます。
18	1.予算など 2.広報活動など(sns の活用)
19	合志市内に賃貸住宅を増やしてほしい
20	まずは、役場職員一人一人の熱量が不足しているように感じるので、その部分の真剣さが伝わるような話し合いを期待します。現状は予算ありきというスタンスが伝わりすぎています。

●「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」

No	課題について解決するために必要なこと
1	他県、他市では公式ホームページで服用依頼書等の書類をダウンロードできるようになっています。合志市でも学童関連のダウンロードできる書類の項目の中に、同じように取り入れて頂けないでしょうか。保護者が依頼書と薬等をセットにして学童に預けるシステムになれば、支援員も安心です。
2	総合運動公園(スポーツ会場・公園等)や公共施設(図書館・児童館)、商業施設(温泉・物産館)等の施設を集約し、様々な世代が交流できる場所をつくる。

●「障がい福祉サービス関係事業所」

No	課題について解決するために必要なこと
1	・保育所等の増加→保育士の待遇改善等。・育児相談、親子教室、子育てサロン、ペアレントトレーニングなど親が安心できる場(支援サービス)を増やす。・ICT教育の推進～特別支援の充実。・地域のボランティア活動や交流イベントを通じて、子育て家庭が地域とつながりやすいコミュニティの活性化が必要。
2	現在合志市では事業所の制限がかかっているため増やせないで、新しい事業所もできない。生活介護のみの運営は単価が安い部分もあり、児発や放課後等デイと組み合わせた生活介護の枠が増えれば受け入れ先ができるのでは？と思います。
3	・保育士、児童指導員の充実、保育補助。・園としての障がいの理解。
4	・研修等を通じた小学校と療育の双方からの歩み寄りでしょうか。・学童の先生方にも研修に参加していただくのもよいと思います。
5	問4であげた3つの議題においては、市管轄でのプロジェクトチームの創設、または民間への委託が必要と考えます。ニーズを調査し、社会資源を開発するための財源確保(予算編成)が必要と捉えます。議題への募集や期待があれば、前向きに検討します。
6	福祉・教育双方で考える必要があると思いますが、事業所側の課題は人員不足です。日中一時支援での対応もひとつの策ではあると思いますが、課題は人員の確保が難しいことです。

7	年齢別に利用できる、遊べる公共施設があるとよい。
8	・放課後等デイサービスにおける不登校児利用推進 ・支援員拡充、放デイスタッフ(午前中などは子どもがいない)による現場補助支援 ・園に対し、支援を要する幼児に対する不適切なかかわりを伝え、保育現場の声を拾って園の困り感が減るような対策を検討する
9	療育事業所の新規立ち上げ許可 受給者証の交付の制限
10	アンケートをとったりして何が必要かを知る。
11	・県への登録をしてあるにもかかわらず「稼働していない」「受け入れられない」と言われることが多い。 ・療育とは違い、負担上限月額が決まっていないことが問題。放課後等デイサービスに預かりの対応を求める保護者が多いのは、実際利用できる機関が少ないため。土日祝日、長期休みに家族への負担が大きくなることで、身体的精神的にストレスがたまるケースが多く、虐待にもつながる恐れがあると思う。日中一時支援事業は、地域生活支援事業に位置づくサービスであるため、市での取り組みを期待します。
12	1,「要保護児童対策地域協議会」を有効的に活用する 2,アウトリーチ的手法の導入 3, 民生児童委員、地域のボランティア、社会福祉協議会などと連携
13	回答なし
14	連携会議などあれば嬉しいです。

●「こども食堂」

No	課題について解決するために必要なこと
1	合志市からの支援物資や助成金が必要です。
2	今、栄市民センターで火・木学習サポートをしている。一回一回の利用料は僅かだが、チリも積もれば大きくなる。半額や免除になると、その分食糧支援や学用品支援に回せる。資金がふんだんにあるわけではない。

●「学習塾」

No	課題について解決するために必要なこと
1	合志市から広報などで案内してもらえれば。
2	習い事費用の助成。
3	「解決」という文言がございますが、「問題点」ではなく、「課題」について書かせていただきます。 ①, ②ともかなりの技術と労力が要求されます。保護者対応も含めてかなりストレスのかかる役割になりますので、各小中学校内部での一致団結に加えて、合志市と学校の協力体制も必要であると思います。
4	シングル家庭などへの教育バウチャー制度 通学時間帯のレターバス増便(西合志一光の森など)

●「その他」

No	課題について解決するために必要なこと
1	市のレターバスが運行すれば来ることができる(先日車で連れて来られた保護者が言っておられた)。
2	人口が増えている地区に、児童館のような施設があればと思う(多くの方が公平に利用できるように)。
3	その解決には熊本電鉄の路線の発展が必要です。まずは、合志市からTSMC、本田技研、東京エレ

	クトロン、美咲野、大津駅まで延伸は不可欠です。車なしでも定時通勤可能な圏内で拡張することです。また、JR田原駅から農業公園、御代志をつなぐ路線も必要です。これにより熊本市北部・荒尾玉名地区と1時間圏内になり、雇用や移住、定住が可能になります。今は家族が鉄道がないために引っ越したり、進学を考えて、熊本市内に高校を決めたりしています。高速道路は県外・県内の物流には貢献しますが、毎日の通勤・通学には寄与しません。
4	ペアレントトレーニングなどを推奨し教えていくことが重要と考えています。
5	熊本市から合志市へ転居した人達が以前受けることができたサービスを受けることができない状況になるが、1番困るため、県内の市町村で話し合って欲しい。特殊なケースについては市町村で成功している取り組みの共有ができればと思う。

問6 貴事業所・貴団体が活動を行う上でどのような課題がありますか。感じていることを、ご自由にお書きください。

●「保育所・幼稚園・認定こども園・地域型保育事業所」

No	活動を行う上での課題
1	設置は病院だが運営が外部なので、5年毎に委託先の入札がある。その度に運営するところが決まるので職員も保護者も不安。職員の処遇が変わる。
2	子育て世代の方々が働きやすい、子育てしやすい環境になっている中、保育所で働く職員もまた同じく働く親としての環境を整えてあげたいと常に思っています。親が休みでも保育所に預ける、土曜日にしても同じく、仕事が早く終わっても、迎えは遅いなどで仕事をしている職員の負担は減りません。保育に欠ける保護者の利用という点は理解しつつ、お互いに協力していく必要があると思います。
3	園外保育に行く場合、合志市のバスを使用できればいいと思います(近隣に行く場合)。ゴミ収集の補助。
4	地域の人たちと交流する機会が持てる様なイベントを行ったりするアイディアの提案等が欲しい。
5	保育士配置を柔軟に行ない、保育士負担を少なくする事。離職は少ないが、フリーの職員を配置する事で安心して、研修参加も積極的にとりくめ、質の向上を更に高めていくことができると考える。
6	・国が示す6時間×20日勤務の職員を常勤1として数える事と、実際の開所時間(11時間もしくは12時間)との差は具体的にどう職員配置を行うか示してもらいたい。待機児童解消だけに目が行き保育士の負担増になっている。週40時間勤務の職員ですら、開所時間をカバーできない。・親の就業時間と子どもを預ける時間がかけ離れていても制度上預けっ放しになっても問題ないことが問題。3～4時間/日の就労や昼に終業でも18時直前に常時迎えに来る保護者が増え、対応する職員配置がひっ迫している。
7	「第一希望の保育園に入れなかった。どんな人が入れるのですか。」とよく耳にします。ほとんどの方が、いくつもの保育園に園見学に行き、「入りたい・ここで自分の子どもを保育してほしい。」と思い第1希望としているのだと思います。保育園によって特色が異なりますから。ポイントは重要だとは思いますが、第2希望・第3希望の方が第1希望よりポイントが高いからと入所してくるのは平等と言えるのでしょうか。希望の保育園へ入ると不満もなくなり市への苦情電話も減ると思います。また、昔から合志市に居住しており税金も納めている方々が入所を希望していても、転居でポイントの高い方が入所することもあると思いますが、改善はできないのでしょうか。
8	保育士不足の為、ハローワークで求人しても採用できず、紹介会社を使わざるを得ない状況にあります。その費用がとても高く、捻出するのが大変です。保育士雇用の為の支援、またはその費用を出した時の補助などあれば大変助かります。
9	利用者の減少
10	現在保育所として、その使命(ご両親の就労保障とお子さんの方の基本的生活習慣の確立と、徳・体・知の三育併進教育の充実)を果たしてゆく為に必要な人材(財)確保が一番課題であります。更に、確保した後、その定着度を高めること。売り手市場(どの業界も)となっている現代、社会では、

	事業者側の創意工夫がとても求められていると認識してます。
11	園としては特別に困っていることはありませんが、ある保護者が近所の方から通報されました。子どもがよく泣いているということで。(虐待の疑い?)子どもは泣きます。時には激しく泣きます。特にアパートに住んでいる方はとても気の毒に思います。本当に虐待の場合はその通報が助かることもありますが、そうでなく伸び伸びと子育てをしている家庭にとっては、周りを気にしなくてはならない、子育てしにくい社会になっているのが、本当に辛いだろうなと思います。
12	運営費が安いので正規職員を2人雇用できない。
13	毎年の入園園児数に変動が大きく、経営的基盤の脆弱性が問題です。家庭的な保育の実践にて、地域の子育て支援も行っていますが、これからの継続性に職員も含めて不安を感じております。
14	・当園は看護師1名の配置があり、在園児の園児対応だけでも、毎日何もない日はなく、配置も主任・看護師が必ずシフトで配置を行っているが、受け入れとなれば、医療的ケアが出来る看護師増と器具等の設置が必要である。 ・在園児への保育活動への影響をなくしながらの受け入れが可能か？
15	現在、「要対協」の園児が増えており、細やかな保護者の対応が求められている。また、発育の遅れ、発達障害(疑いも含め)の子どもも多くなり、保育者の負担が増えている。
16	人口増に伴う保育需要の高まりに反し、保育士不足による受け入れ制限をせざるを得ない。
17	保育士は最低基準以上の配置が絶対に必要であり、例年、4人程度を加配し雇用し続けています。しかし、委託費は最低基準で計算されるため、定員を満たさない月が続くと園の経営に大きな影響が出ます。この状況が数年続くと、定員に見合う保育士の人件費を用意できなくなります。(保育士が不足しているため、定員まで受け入れられない状況が発生します。)当園は年度途中で何とか定員を満たしていますが、いつそのような状況になってもおかしくはありません。
18	1.施設同士の情報共有 2.新入園児の事前情報の不足 3.卒園後(3歳以上時への進級)の受け入れ体制の壁
19	●保育士不足 ●虐待など課題がある家庭の増加 ●障害がある子どもの受け入れ先の少なさ
20	当保育園ではこどもの受け入れやこどもの育ちを保証することが目的の施設なので、受け入れできる体制づくり(保育士確保等)、こどもの発育・発達を保証できる環境づくり(保育の質の向上)の2点が重要な課題となります。学校でも同じような事が課題としてあるように、福祉職もやりがい搾取のような業務環境となっている制度設計があり、その部分について各保育園では日々業務改善に悩んでいます。

●「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」

No	活動を行う上での課題
1	子ども達の郊外活動を行う場合、移動手段として公共交通機関を利用しています。近年料金の値上がりや、金額が高額になってきている為、活動を断念せざるを得ない場合が出てきました(貸し切りバス利用、複数台利用等)。
2	非常勤職員は所得制限があるため、勤務調整をせざるを得ないこと。
3	①学童を利用する児童に対して保育スペースが狭く、工作や遊び等の活動の人数を制限して実施することがある。(放課後児童健全育成事業) ②長期休暇のみ働いてくれる職員の確保に苦慮している。現状としては、学生や高校生に声をかけ、長期休暇の人員として随時採用を行っているが、保育の専門性及び質の担保が難しい状態である。なお、放課後児童支援員の配置についても同様である。(長期休暇児童預かり事業)

●「障がい福祉サービス関係事業所」

No	活動を行う上での課題
1	教育者、保育士等、様々な職種の方が従事している自施設ですが、子どもたちが何を身につけて通所しているかを理解し、療育とは何かをしっかりとわかっている児童指導員を増やしていきたい。
2	・高校卒業後の受け入れをどうするか？利用者家族からは、継続して利用したいとの声が上がっているが難しい。・長期休暇時の人員不足。
3	・保育所等訪問支援における小学校の受け入れについて。・療育に通う児童が学童で過ごす場合の対応について。
4	1日5-10名の児童の療育に携わり、日々喜びを感じていますが、日々の運営を疎かにしないよう努めていることで、結果的には、社会全体で抱える課題に向き合う時間を確保できないという問題は、この5～6年、生じています。保護者様の期待と意向があっこそ始めた療育事業をやめることができませんが、合志市で総合的なニーズに対応できる機関(事業)を設立して幅広く社会貢献できるのであれば、この事業(児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能型事業所)を後進に譲っても構わないと思っています。考えている機関(事業)は定款に記載しているとおりです。
5	福祉・教育双方で考える必要があると思いますが、事業所側の課題は人員不足です。日中一時支援での対応もひとつの策ではあると思いますが、課題は人員の確保が難しいことです。
6	暑い日とか、雨天時に利用できる施設があるとよい。
7	スタッフの件費をベースアップさせていくのに対し、通所支援事業は定員制であることから、事業拡大させないとベースアップを保障できない。しかし、事業所の飽和状態にあることから総量規制で近辺での事業拡大はしにくい。遠方に事業拡大という方法もあるが、それだと当法人で重要視している理念や方法をキープできず、結果として不十分な療育サービスしか提供できなくなるのではないかという不安がある。
8	事業所自体の療育に関する質の向上 学校、保育園などとの、支援の統一化
9	子供達が安心して生きて行ける地域にすること。
10	職員不足。親子療育スタッフは誰でもできるわけではないと思うので、自事業所の特色を知っている人、気持ちがある人への求人をかけたいが、どうしたらよいものか・・・
11	当社のような零細企業は相談支援業務の報酬だけで幅活動することは難しい。
12	体育館など借りる際に直接予約が必要なところ。
13	ご家庭との個別対応の難しさや、緊急を要する事案の解決策など難しく思ってます。

●「こども食堂」

No	活動を行う上での課題
1	合志市からの支援物資や助成金が必要です。
2	現在、気候変動や物価上昇で food pantry 用の食材の提供が激減している。会の資金で買い足して配っているが、資金の問題が大きい。

●「学習塾」

No	活動を行う上での課題
1	家庭環境等で経済的理由で習い事に通えない生徒たちをどうにかして応援してあげたいと思いますが、なかなか周知してもらえない。
2	私どもの事業所における課題の1つとして、通いやすさを高めることが挙げられます。
3	交通渋滞、歩道の狭さ バイクなどの騒音

●「その他」

No	活動を行う上での課題
1	・館内の電球、蛍光灯が古い上に数本切れておりとても暗い。幼児児童生徒が遊んだり本を読んだりする環境としてはよいことではない。・児童館の場所がわかりやすい所がない。市内の方でも迷ったと言われることがある。
2	児童館フェスティバルへの参加人数が多く、安全で充実した運営ができているのか不安である。
3	私どもが行っている事業は基本的に認可保育園、認定こども園と同じですが、委託運営の事業所ではないので、基本的に利用者の支払う利用料で運営しています。運営の経費がこの5年間で4割近く値上がりしているものがあります。特に人件費が高くなりました。事業の性質上すべて機械化したり、省力化したりできません。開業して12年目になりますが、修繕したり、交換したりするべき教具や道具がありますが、大変高価になりました。そうした経費も今後増えていきます。
4	子どもたちの体験活動のため、公営、民間含め施設利用を行います。利用料で断念するケースも多いため、助成を預けると嬉しいです。

問7 問6でご記入いただいた課題について、解決するために必要なことは何だと思えますか。ご自由にお書きください。

●「保育所・幼稚園・認定こども園・地域型保育事業所」

No	課題について解決するために必要なこと
1	病院も予算(委託金)によって左右されるので、市からの補助があると助かり、保育園の運営が安定し、保育所職員も安心して働き続けられる。
2	保育園から保護者に伝えると、お互いに気まづくなったりします。苦情として、保護者から市の方にも連絡があったりすると思いますが、保育園の状況も理解していただき、できれば保育園を利用するにあたり、保育に欠ける保育を必要とする項目をはっきり示していただけたらと思います。保護者や家庭からの要望や意見にはしっかり寄り添っていきますが、子育てしやすい環境に甘えた自分勝手な要望については今後も市としても毅然とした対応をお願いしたいです。
3	オムツの補助はあるのでありがたいです。事業所としてのゴミ収集の補助があると助かります。
4	小さい子ども達や老人の方たちが自由に集える場所の提供やメリット等のお知らせをする。
5	学生実習やおしごとフェア等を通して、保育士の魅力を発信する事。熊本市や県で実施されている就職ガイダンス等、合志でも行っていくと各園をより知って働きたいにつながるのではないかと。発信の場の設定。
6	・3才以上保育料無償でなく、全年齢児基本料一律負担にして、0～2才児の(ただでさえ保育料が高い)負担とバランスを取る。3才以上無償化したことで、「タダで預けなければ損」というような親の意識になっている(例えば全年齢基本1万円として非課税世帯やシングル等の免除等に変わらず継続する等)。国へ動いてもらうべき課題も多い。・保育所としての役割をうまく説明しつつ、子育ての基本は各ご家庭であると伝える事を避けてはいけない。・入所審査の際、保護者に必要な保育所利用時間等も検討する項目も必要。その子に必要な保育時間等(ヨーロッパのような)も検討すべきと思う。
7	第1希望にポイントを付与するのはいかがでしょうか。ポイント付与は、市がその気になれば出来ないことはないと思います。
8	保育士採用の為に市や県が何らかの助成をしてもらうとありがたいです。
9	・立地の問題。住宅地より離れた場所にあるので少し不便を感じる利用者もいるのでは？ ・SNS等のインターネットを利用した利用者への周知(若い世代の利用者はスマホ等でSNSを(LINE 等)活用して子育てに関する情報を得ているので)。公式LINEの開設など。
10	■はありません。養成校やハローワークに求人票を出しておりますが全く反応はありません。仕方なく人材紹介会社に頼らざるを得ません。園児数に対する配置基準数より以上に雇用し、余裕ある(休みも充分にとれる)体制を築きたいと思っています。いずれにしても、職場環境の改善化は

	事業者の日常的課題であります。
11	通報するまえにもっとコミュニケーションが取れ、顔見知りになる機会が生まれるような、地域の交流があると良いと思う。 子育て中の親がもっと地域の中に溶け込みやすいような世代間交流が持てるようなコミュニティが出来ると良いと思います。
12	運営費や各種加算の見直し
13	地域型保育事業の地域子育て支援への重要性を行政も再認識していただき、恒久的な合志市の子育て支援・保育の一環化を構築していただき地域型保育所の最低限の経営維持の施策を考えていただければと思います。
14	医療的ケアが出来る看護師・保育士の増と器具等の設置については補助金等の確保が必要になるのでは。
15	共にこの地域で育っていくために、健診等での早期発見から療育等への繋ぎの周知。保育施設への支援。
16	若年層向けの保育士の魅力を周知するだけでなく、給与水準を上げることも必要。
17	加配保育士を配置していることを正当に評価し、予備保育士確保促進事業を拡大し(1回きり、1人のみという部分を変更し)支給をお願いいたします。(現在の予備保育士確保促進事業や障がい児補助金等のようにあてにできないものではなく、安定した補助を求めています。)保育士を安定して雇用できなければ、定員まで受け入れることができず、定員の増減の議論はまったく意味を持たないと考えます。定員を割り込む状況にもかかわらず、受け入れるための保育士を雇い続けていることに対して評価していただき保留児童の対策としていただきたいと思います。
18	1.共有できるプラットフォームなど 2.市への申込書の共有など 3.保護者様の希望園する園へ進級出来るシステム作りなど
19	回答なし。
20	配置基準の抜本的な改善。処遇改善。障害児に対する配置支援。

●「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」

No	課題について解決するために必要なこと
1	活動を行う上で一部、保護者負担をお願いする場合がありますが、親子レクリエーションで家族で参加型の活動では、保護者の方の負担も多く参加を見送られる場合もあるのではと懸念しています。
2	人員を増やす、しかし1日保育となる月(夏休み、冬休みなどの長期休み)のみの勤務が可能な人材の確保がむずかしい。
3	①予算やハード面等の問題がなければ、保育室の増改築工事を行うことで1クラブの利用定員40名に対して安心安全な生活及び遊びの場が提供できる。 ②・学校の非常勤教諭に周知するための活動及び連携 ・放課後児童支援員の登録・管理システムをつくり、合志市及び近隣自治体に住んでいる退職済みの放課後児童支援員に対して長期休暇のみの求人を公開し、声掛けを実施する。なお、登録・管理システムの運用は自治体が行い、各クラブに対して適宜、放課後児童支援員を紹介する。

●「障がい福祉サービス関係事業所」

No	課題について解決するために必要なこと
1	回答なし
2	高校卒業後の行き先とのつながりや交流の場があれば不安なく送り出すこともできる。・求人を出しているがなかなか集まらない。
3	研修等を通じた小学校と療育の双方からの歩み寄りでしょうか。学童の先生方にも研修に参加していただくのもよいと思います。
4	合志市への意向調査及び委託事業請負の申請に踏み切れるかどうか、誰が踏み切るべきか、希望

	はあるか、期待はあるか、総合的に検討して判断する必要があると考えます。
5	人材確保や発掘、育成…短い時間や退職した人材でも安心して働ける職場環境の確保が必要と思います。
6	屋内施設があれば活用したい。
7	総量規制に関しては全国的な傾向としても仕方ないことであるとする。一方で自治体には、療育や保護者支援のサービスを真の意味で取り組んでいる事業所をしっかりと評価し、拡大させるよう取り組んでもらいたい。
8	研修などをしっかり行っていく 相談員さんとの連携を行い、積極的に支援会議などを行っていく
9	もっと障害や特性に関する知識を広めていきたい。
10	口コミで応募する？ 分からないから困っている
11	1, 関係する法令・省令・条例の整備 2, 報酬の取り決め 3, 社会への周知
12	電話やネットでの予約を可能にしてほしい。
13	行政さん、学校さんとの連携。

●「こども食堂」

No	課題について解決するために必要なこと
1	合志市からの支援物資や助成金が必要です。
2	助成金や寄付金で賄っているが、少しでも長期に渡る資金援助があると、活動の目処が立つ。

●「学習塾」

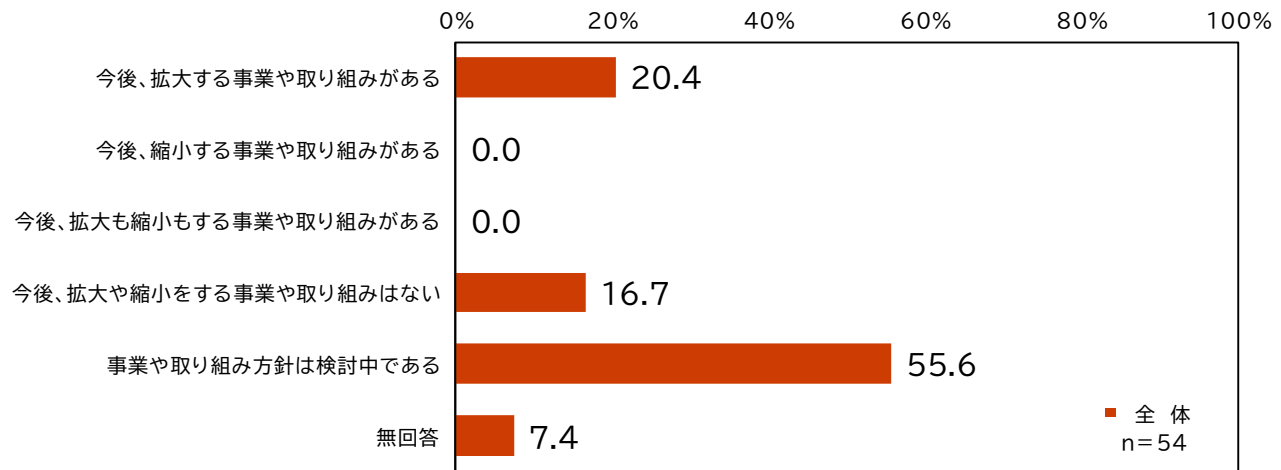
No	課題について解決するために必要なこと
1	合志市に可能な限りのご協力をたまわりたいです。
2	上記課題への取り組みとしては、自分たちスタッフの成長と努力にかかっている部分が多くを占めておりますが、そうではない部分で1つ挙げさせていただきます。現状、通塾手段については、保護者様の自家用車での送迎に頼る部分が8割を占めております。●●●にはレターバスも通っていただいておりますが、現在のルートでは利用できない方が非常に多いというのが現状です。運営上の採算が合うルートの拡充により、私共のお客様にとって、通い方の選択肢が広がることになればありがたいです。
3	防犯カメラの設置など

●「その他」

No	課題について解決するために必要なこと
1	LED電球に交換する。・道の曲がる所に看板を設置する。
2	参加人数に対して、運営側の人員が少ないと思うので、人員を増やしたい。また、フェスティバル自体を見直して、規模を縮小するか。
3	認可外保育所は利用料金を上げることは大変難しい。また。経費と抑えるのも現状では限界です。市からの人件費の助成や運営費の助成などを行ってもらえると大変助かります。
4	障がい福祉の事を広く知っていただき、割引等の検討をしていただければ幸いです。

問8-1 貴事業所・貴団体の今後の事業や取り組み方針を教えてください。(〇は1つ)

今後の事業や取り組み方針をみると、「事業や取り組み方針は検討中である」が55.6%で最も高く、次いで「今後、拡大する事業や取り組みがある」の20.4%、「今後、拡大や縮小をする事業や取り組みはない」の16.7%となっている。



問 8-1 で「1」または「3」に〇をつけた方にうかがいます。

問 8-2 どのような事業や取り組みを拡大する予定ですか。具体的にご記入ください。

●「保育所・幼稚園・認定こども園・地域型保育事業所」

子育て支援センター及職員保■交流■をもつ、保育室の立ち上げ(日程は未定)を考えています。
コロナ感染症が5類へ移行してから、始めた地域との交流「響け歌声」があります。地域の高齢者を園に招いて、園児と一緒に歌を歌う「歌声広場」です。
去年は6～7回実施しました。午前中の40分間ほど。
子ども達も高齢の方と交流できるいい機会にしたいと思っています。
今年度も引き続き行いますが、保育士にゆとりのある今年度は自主事業として地域におられる親子(未就園)が園に遊びに来れる機会、以前実施していた事業ですが、これを再開したいと思っています。
ニーズがあれば、学童保育や療育施設の運営も行いたい。

●「放課後児童クラブ(学童クラブ・学童保育)」

合志市に新しい施設(保育園・放課後児童クラブ・フリースクール等)の開園・開所が必要になる場合、合志市の子育て支援に貢献できるよう、当法人として何かしら力になりたいと考えている。
--

●「障がい福祉サービス関係事業所」

高校(支援学校含む)卒業後、自立支援のための施設の■■■を考えている。総量規制の問題があり、進展していない。
家庭支援、不登校支援、学習支援に係る事項、生涯学習等、力を入れたいものは多いです。合志市を始めとして、関係者への相談、承認が必要となるため、予定と申し上げてよいものかは疑問が残りますが、現段階では、問4であげたような事業(機関)に関与したいと考えています。
放課後等デイサービス、保育所等訪問支援

●「こども食堂」

子ども食堂と学習支援

●「学習塾」

教室を増やす。
民間学童、通信制高校(サポート校)、フリースクール。

●「その他」

現在本園では、発達支援の必要な児童や医療的なケアの必要な児童と一般の児童との完全インクルーシブ保育をしています。今後もこの方針を継続して、小学校と連携を従来よりも図りやすくしていきたい。また、保護者が小学校入学に向けて、子どもの進路選択へのケアを充実していきたい。
地域の子育て支援や母子支援などをイメージしています。